

468c
27 1 28

D. I.

地質調査所報告第144号

事業報告

(自昭和22年度)
(至昭和24年度)

地質調査所

昭和26年12月

鑛石課

地質調査所報告

所長 三土知芳

事業報告

自昭和22年度
至昭和24年度



緒 言

昭和 21 年度より 24 年度に至る本所の事業を総括展望する時、それが今次大戦とその終結による社会経済状態の変動のため極めて大きな影響を蒙つたことが明らかに示される。すなわち終戦を機として本所事業に判然と一時期を劃することができるからである。戦時中は軍需産業としての地下資源開発の急迫した要望に応じて開発に直結する調査探鉱に事業の重点がおかれ、しかも多くの所員は国外の資源開発調査に従事しており、他方図幅調査の如き基礎的な調査はいきおい、見送られざるを得なかつた。

反転して終戦直後の昭和 21 年になると、社会状態の混沌、産業界の虚脱的不振、各鉱山の戦時中の可能限界を越えた乱掘等の諸原因が重り合つて、資源開発活動も停止に近い状態におかれた。本所もまたこのような情勢に左右されると共に戦災による諸設備、機械、図書、資料の亡失逸散のため調査活動は遅々として進まざる有様であつた。しかしながら国土の有効利用、地下資源の開発はわが国戦後の経済自立にとつての絶対要請であり、一方産業も復興の端緒につくと共に、地質調査の進捗は戦前にも増して各方面から要望されるに至つた。その間進駐軍総司令部天然資源局よりの勧告はこの地質調査の重要性を認識せしめるのに大いに力があつた。昭和 21 年度における石油開発促進審議会、22 年度における炭田開発審議会、24 年度における新鉱床開発審議会の発足は地質調査作業を地下資源開発の基礎として活用せしめようとする新しい意図とみるべきである。

本所としていち早く活潑に動き始めたのは諸産業の基礎原料たる石炭の増産を目的とする炭田地質調査であり、次いでまた輸出産業としての希望を担つた陶磁器の生産に寄与すべき窯業原料鉱物調査、および食糧増産を目途とする肥料原料用鉱物調査ならびに開拓地水理地質調査、輸入防遏を主眼とする油田、ガス田調査等であつた。

その間、設備機械の補修、整備、資料の再蒐集は不満足ながらも漸次行われくると共に、本所の調査事業も次第に均整のとれた本格的なものとなり、図幅地質調査の如き基礎的なもの、災害地のまたは災害予防のための地質調査の如き国土保存を目指すもの、さらにまた調査の技術の向上に欠くべからざる諸種の研究活動にも多くの勢力が注がれるようになった。一方炭田地質調査も、粘結炭の調査は別として、生産に直結した短期計画的調査から、長期的乃至は恒性的な調査に移りつつあり、また重工業の復活の見通しと共に製鉄原料、特に窯業原料においては耐火物原料に重点を指向しつつある。さらにまた鉱業の再興に伴い、各種金属鉱床の調査活動も漸次盛になつてきた。

戦時中基礎的調査を研究の欠如、外国知識からの遮断等による調査技術の進歩の停滞があつたことは否めないが、漸次可能になつてきた外国文献との接触、海外への技術者派遣、戦争中占領地にあつて欧米技術を修得した技術者の帰還等による外国技術の導入、それに刺激された基礎的な調査研究の実施は技術の向上を急速化せしめつつある。昭和 22 年度における物理探鉱機械（地震計、重力計各 1 式）の輸入はこの分野の技術向上に極めて有効であつた。

なお主な機構の変遷を挙げるならば、現川崎市久木町に本部をおくと間もなく昭和 21 年 6 月 28 日従來の 6 部 1 課制を廃して 3 部 9 課制となしたが、昭和 23 年 8 月 1 日工業技術庁設置法施行されるや、戦時中に改称した地下資源調査所を地質調査所の旧名に復し、ほかの 12 試験研究機関と共に工業技術庁の所管となつた。昭和 24 年 4 月 1 日北海道庁工業試験場の地下資源関係部門を地質調査所札幌出張所に合併して北海道支所を置いた。昭和 24 年 5 月 25 日工業技術庁組織規定によつて地質調査所に地質部、鉱床部、燃料部、物理探鉱部、測図課、分析試験課、試錐課、総務課、北海道支所、仙台、大阪、福岡各出張所をそれぞれ設置した。さらに昭和 24 年 9 月 15 日には工業技

循庁組織規定改正により地質調査所に地質部，鉍床部，燃料部，物理探鉍部，技術部，地質相談所，資料標本課，庶務課，企画課，北海道，仙台，大阪，福岡の各支所を設置した。

終りに臨み本事業報告は昭和22年乃至24年度を一冊にまとめたため，かつまた終戦後遠からぬ時期においては未だ戦後の混乱の余波のあつたため等で統一を欠き極めて不体裁のものとなつたことに対して諒恕を乞う次第である。

地質調査所長 三 土 知 芳

所長商工技官理学博士山根新次氏は昭和22年9月18日願により退官せられた。氏は明治43年7月農商務技手として本所に奉し、同45年農商務技師に任ぜられ、大正4年に地形係長となり、この間盛岡図幅をはじめ各種の地質調査事業を担当し、大正6年臨時産業調査局開設に伴い同局附の本官となり、本所を兼務し、3年間に亘り主として中華民国・北滿・西伯利亞の各地の地質調査に参画した。大正11年臨時産業調査局廃止と共に、本所専任として本所相要の職にあり、部下の指導に當つた。大正14年願により本所技師を辞任し、同15年より京都帝国大学理学部講師となり、さらに昭和4年には九州帝国大学工学部教授に任ぜられ、爾來約10年間応用地質学講座を担当した。この間、昭和8年中には欧米各国へ出張し、各種の斬新な科学技術の導入に努めた。昭和10年7月金原信泰氏所長辞任後再び本所に所長として迎えられ、事業全般を総轄し、爾來12年の長きに亘つて、内外の地下資源開発調査に所員を指揮督励し、有史以來のわが国の最大の膨脹時代に即応し、劃策努力の限りを盡した。昭和20年終戦となるや、海外派遣の所員の收容焼失官庁舎の再建、調査事業の復興に全精魂を傾注し、漸くその曙光の現われたのを機に退官せられた。その後いくばくもなく島根大学学長に推され、爾來郷党の青年子女の教育に當らされている。なお在職中、学術研究会議会員、科学審議会委員、科学振興調査会委員、日本学術振興会委員、資源科学研究所参与、日本地質学会会長、東京地学協会理事、東北産業科学研究所顧問等として活躍し、本所事業のみならず、我国学術・産業の發展に貢献する処甚だ多く、その功績は靡然として不滅の光輝を放つている。



前所長 理学博士 山根新次氏



前所長 理学博士 山根新次氏

目 次

昭和22年度

I 官制及び機構	1
II 事業	2
III 人事・会計	22

昭和23年度

I 官制及び機構	29
II 事業	29
III 人事・会計	44

昭和24年度

I 官制及び機構	51
II 事業	52
III 人事・会計	68

地質部成果年次報告

事業概要	77
I) 昭和22年度	77
II) 昭和23年度	78
III) 昭和24年度	81

鑛床部成果年次報告

事業概要	85
(1) 緒言	85
(2) 金属鉱床調査事業	85
(3) 非金属鉱床調査事業	86
金属鉱床調査研究一覽	90
1. 昭和22年度(20件)	90
2. 昭和23年度(19件)	94
3. 昭和24年度(19件)	97
非金属鉱床調査研究一覽	101
昭和22年度	101
昭和23年度	104
昭和24年度	108

燃料部成果年次報告

事業概要	110
(i) 油田調査の概要	110
(ii) 天然ガスの調査の概要	111
(iii) 炭田調査の概要	111
燃料資源調査一覽(昭和23,24年度)	112
石炭・亜炭(23年度)	112
石炭・亜炭(24年度)	121

石油・天然ガス(23年度).....	127
石油・天然ガス(24年度).....	130
物理探鉱部成果年次報告	
事業概要.....	133
昭和21年度物理探鉱調査概要.....	138
昭和22年度物理探鉱調査概要.....	138
昭和23年度物理探鉱調査概要.....	141
昭和24年度物理探鉱調査概要.....	144

地質調査所事業報告

昭和22年～24年

昭和22年度

I 官制および機構

(1) 地下資源調査所官制 (昭和23年3月31日現在)

第1條 地下資源調査所は、商工大臣の所管に属し地下資源の調査およびそのほか地質の調査に関する事務をつかさどる

地下資源調査所は前項の規定にさまたげがない限り一般の依頼に応じ地下資源の調査およびそのほか地質の調査をなすことができる

第2條 地下資源調査所に次の職員を置く

所 長 1 名

商工技官専任 51 名 2 級官 この内1級職の職員を2名置くことができる

商工事務官専任 1 名 2 級官

商工技官または
専任 62 名 3 級官

商 工 事 務 官

所長は1級職または2級職の職員をこれにあてる

第3條 所長は商工大臣の指導監督を受けて所掌事務を処理せねばならない

第4條 商工大臣は必要ありと認めるときはその地に出張所を置き本所の所掌事務の一部を行わしめることができる

(2) 機 構

戦災復興ならびに産業の再建に緊要な地下資源および地質の調査の要請に応ずる態勢のため従来六部一課制であつた機構を整備して、昭和21年6月28日から三部三課および四出張所制に改められたが本年度は引き続きこの機構で事業の運営に当つている。

その機構は次の通りである

第一部 地質調査に類する事務を掌る

第一課 図幅作成を目的とする地質調査事務

第二課 図幅作成を目的とする地質調査以外の地質調査事務

第二部 地下資源調査に関する事務を掌る

第一課 燃料以外の地下資源調査事務

第二課 燃料に関する地下資源の調査事務

第三部 物理探査および試錐に関する事務を掌る

第一課 物理探査に関する事務

第二課 試錐に関する事務

総務課 次にかゝげた事務を掌る

一、官印の保管に関すること

二、所員の進退身分に関すること

三、所内取締に関すること

四、文書の接受発送および保管に関すること

五、出張所に関すること

六、予算および決算ならびに会計に関すること

- 七、 国有財産および物品に関すること
- 八、 調査資料、報告書および標本に関すること
- 九、 調査用器機の整備補修および研究用試料の調製に関すること
- 十、 ほかの部課の主掌に属しないこと

測図課 測量および製図に関する事務を掌る

分析試験課 分析および利用試験に関する事務を掌る

出張所 その所在地方における地質および地下資源の応急調査ならびに地方官庁との連絡に関する事務を掌る

以上

II 事業

(1) 地質調査

i) 図幅調査

調査研究項目	担当者	調査地	進捗状況	備考
秋葉山図幅	齋藤 技官	愛知県南設楽郡、八名郡下 静岡県引佐郡下	図幅の1/5野外調査完了 継続中	
脇町図幅	平山 技官	香川県大川郡、木田郡、香川郡 徳島県阿波郡、板野郡下	野外調査完了 内業継続中	
長野図幅	小林 技官	長野県長野市、更級郡、下高井郡	内業継続中	
生野図幅	東郷 技官	兵庫県神崎郡、宍粟郡下	図幅の1/5野外調査完了 継続中	
沼津図幅	沢村 技官	静岡県駿東郡、富士郡下	野外調査完了 内業継続中	
鬼首図幅	梅沢 技官	宮城県玉造郡	継続中	
熱海図幅	久野 嘱託	静岡県田方郡、熱海、宇佐美	野外調査完了 内業継続中	

(以上第一部)

ii) その他の地質調査

調査研究項目	担当者	調査地	進捗状況	備考
玻璃質岩石の研究	河野 技官	佐賀県有田地方、熊本県阿蘇地方 長野県和田峠	化学分析、検鏡完了 継続中	
玻璃質岩石中の斑晶 硬石膏の研究	河野 技官	大分県東国東郡姫島	完了 地質報第126号	
大分県別府地熱調査	近藤 技官	大分県別府市白瀧温泉地区	完了	一部科学試験研究費
箱根山の地熱研究	近藤 技官	神奈川県箱根大涌谷小涌谷	予察調査完了 精査完了	
箱根地熱調査	小池 技官	神奈川県箱根大涌谷湯ノ花沢	完了	
恐山地熱調査	小池 技官	青森県下北郡恐山	完了	
草津白根地熱調査	小池 技官	群馬県吾妻郡白根山	完了	
志賀高原地熱調査	小池 技官	長野県下高井郡志賀高原	完了	
沼尻山、鬼首地熱調査	中村(久) 技官	福島県沼尻山、宮城県鬼首村	完了	
大分県別府地熱調査	中村(久) 技官	大分県別府市南立石	完了	
高原、那須地熱調査	広川 技官	栃木県高原山、郡須山	完了	
西富士農耕地帯水理 調査	近藤 技官	静岡県西富士	完了	
新潟県、西頸城柵口 地帯	小出 技官	新潟県西頸城郡柵口	完了 地質速第9号	
新潟県東頸城地帯	小出 技官	新潟県東頸城郡下	完了 地質速第36号	受託
抗火石(軽石)調査	河野 技官	静岡県伊豆天城火山	継続中	

調査研究項目	担当者	調査地	進捗状況	備考
大谷石調査	中村(久)技官	栃木県河内郡大谷	完了 地質速第43号	
大谷石調査	広川技官、安藤嘱託、河田嘱託	栃木県河内郡大谷	完了	
花崗岩變成岩調査	小出技官、河田嘱託	岡山県御津郡、鳥取県八頭郡下	継続中	
視石の調査研究	河田 託 嘱	山口県豊浦郡下	継続中	
セメント代用土の調査研究	近藤 技 官	神奈川県熱海市	概査完了 実験室完備せざる為延期	
セメント代用土の調査研究	広 川 技 官	神奈川県下	継続中	
セメント代用土の調査研究	大塚 嘱 託	神奈川県下	継続中	
耐火粘土の調査研究	平 山 技 官	福島県石城郡、双葉郡地方	完了	受 託
阿蘇山爆裂調査	沢 村 技 官	熊本県阿蘇山	完了	

(以上第一部)

調査研究項目	担当者	調査地	進捗状況	備考
鳴子、新庄間第三紀層対比研究	早 川 技 官	山形県最上郡舟形村長沢附近	継続中	

(以上 仙台出張所)

調査研究項目	担当者	調査地	進捗状況	備考
大山西麓地帯の地下水調査	福井技官、矢崎嘱託、尾崎技官、竹内嘱託	鳥取県西伯郡溝口町、大山村、八束村	完了	
大山北麓地帯の地下水調査	清 島 嘱 託、尾崎 嘱 託	鳥取県西伯郡溝口町、大山村	完了	
奈良県五條町温泉調査	原 口 嘱 託、尾崎 技 官	奈良県宇智郡五條町	完了	
奈良県吉野郡川上村温泉調査	原 口 嘱 託、尾崎 技 官	奈良県吉野郡川上村	完了	
十津川河水統制事業地質調査	原 口 嘱 託、尾崎技官、矢崎嘱託	奈良県吉野郡天川村	完了	

(以上 大阪出張所)

(2) 鉱 床 調 査

種 別	調査研究項目	担当者	調査地	方法	進捗状況	備考
銅 鉱	大揚鉱山調査	齋藤技官	青森県下北郡川内町	概査	完了	受託
鉄明礬石	吾妻火山東北部の褐鉄鉱に伴う鉄明礬石及び黄土について	広川技官	福島県信夫郡 山形県置賜郡	概査	完了	
鉄明礬石	群馬鉄山の鉄明礬石について	齋藤技官	群馬県吾妻郡六合村	概査	完了	第二部徳藏技官同行

(以上 第一部)

種 別	調査研究項目	担当者	調査地	方法	進捗状況	備考
金 鉱	尾白川鉱山金鉱調査	堀 技官 佐藤嘱託	山梨県南巨摩郡尾白川鉱山	精査	完了	受託

種 別	調 査 研 究 項 目	担 当 者	調 査 地	方 法	進 捗 状 況	備 考
金 鋳	坂上村の金鋳調査	高島技官 徳藏技官	群馬県吾妻郡坂上村	精査	完了	受託
銅 鋳	大湯鋳山銅鋳床	片山技官 徳藏技官	新潟県北魚沼郡大湯鋳山	精査	完了	受託
銅 鋳	花輪鋳山黒鋳床調査	科野嘱託	秋田県花輪鋳山	概査	完了	
銅 鋳	大倉鋳山銅鋳床調査	片山技官 富田 雇	新潟県南魚沼郡大倉鋳山	精査	完了	受託
鉛、亜鉛	広尾鋳山鋳床調査	伊藤技官	北海道後志国広尾鋳山	概査	完了	
鉛、亜鉛	対州鋳山鉛、亜鉛鋳床調査	伊藤技官 岡 技 官	長崎県対州鋳山	精査	完了	
鉄、亜鉛	秩父鋳山鉄鋳床調査	高島技官	埼玉県秩父郡秩父鋳山	精査	完了	
鉄 鋳	明方鋳山鉄鋳床調査	高島技官	岐阜県郡上郡明方村	概査	完了	
鉄 鋳	赤坂鋳山鉄鋳床調査	高島技官	岐阜県不破郡赤坂鋳山	概査	完了	
鉄 鋳	土肥鋳山鉄鋳床調査	堀 技 官 横 井 雇	静岡県田方郡土肥鋳山	精査	図面完了 継続中	
鉄 鋳	和賀仙人鋳山鉄鋳床調査	高島技官	岩手県和賀仙人鋳山	精査	完了	
鉄 鋳	高ノ倉、上岡鋳山鉄鋳床調査	高島技官	福島県高ノ倉上岡鋳山	精査	完了	
硫化鋳	花岡鋳山鋳床調査	科野嘱託	秋田県花岡鋳山	精査	完了	
硫化鉄鋳	上北鋳山硫化鉄鋳床調査	科野嘱託	青森県上北鋳山	精査	完了	
水銀鋳	置戸鋳山水銀鋳床調査	堀 技 官	北海道北見国常呂郡置戸村	概査	完了 地質速第34号	
水銀鋳	イトムカ鋳山水銀鋳床調査	堀 技 官	北海道北見国常呂郡イトムカ鋳山	概査	完了 地質速第35号	
砒 素	尾平鋳山の砒素調査	佐藤嘱託	大分県尾平鋳山	精査	完了	
砒 素	松尾、笹ヶ谷鋳山砒素調査	佐藤嘱託	宮崎県児湯郡松尾鋳山 島根県鹿足郡笹ヶ谷鋳山	概査	完了	
鉄明礬石	諏訪鋳山鉄明礬石鋳床調査	片山技官 富田 雇	長野県諏訪郡諏訪鋳山	概査	完了 地質速第21号	科学試験 研究費
鉄明礬石	知床半島地方の鉄明礬石調査	片山技官	北海道北見国知床半島	概査	完了 地質速第32号	
鉄明礬石	小瀧鋳山鉄明礬石調査	飯山技官 種 村 雇	秋田県由利郡小瀧鋳山	概査	完了	
鉄明礬石	鉄明礬石よりカリ肥料を製造する中間試験	片山技官 下村嘱託	長野県諏訪郡諏訪鋳山	精査	完了 第40号	
鉄明礬石	十勝地方の鉄明礬石鋳床調査	片山技官 富田 雇	北海道十勝岳地方	精査	完了 第39号	
鉄明礬石	水俣鋳山の鉄明礬石鋳床調査	飯山技官 種 村 雇	福島県水俣鋳山	概査	完了	
黒 鉛	天風鋳山鋳床調査	佐藤嘱託	岩手県天風鋳山	概査	完了 地質速第38号	
黒 鉛	厚保村地区の黒鉛鋳床の概査	安齋技官	山口県美郷郡東厚保村	概査	完了	
黒 鉛	御津郡金川村地方の黒鉛鋳床調査	安齋技官	岡山県御津郡金川村	概査	完了	
白珪石	戸沢村、芦沢村地方の白珪石鋳床調査	安齋技官	福島県安達郡戸沢村 田村郡芦沢村	概査	完了	受託
白珪石 長石	白岩赤沼附近の白珪石、長石鋳床調査	安齋技官	福島県白岩赤沼	精査	完了	受託
陶 石	袖川村陶石鋳床調査	大島技官	岐阜県吉城郡袖川村	概査	完了 地質速第46号	受託
陶 石	服部陶石鋳床調査	上野技官	石川県美能郡服部陶石	概査	完了	受託
陶 石	対州白土および陶石鋳床調査	岩生技官 海老原嘱託	長崎県対州蔵原	精査	完了	受託
橄欖石	宮川鋳山橄欖石調査	肥田技官	長野県諏訪郡宮川村	概査	完了	

種 別	調 査 研 究 項 目	担 当 者	調 査 地	方 法	進 捗 状 況	備 考
白 土	南置賜郡地方の白土鉍床調査	大島技官	山形県南置賜郡地方	概査	完了	
カオリン	奥津カオリン鉍床調査	上野技官	岡山県若田郡上齋原村	概査	完了	受託
カオリン	神目鉍山「カオリン」鉍床調査	上野技官 徳藏技官	岡山県久米郡神目村	精査	完了	
蛙目粘土	愛知県西加茂郡地方蛙目粘土調査	大江嘱託	愛知県愛知郡、西加茂郡下	精査	完了	受託
緑色凝灰岩 斜長石英粗面岩	日光地方の斜長石英粗面岩調査	岩生技官 肥田技官	栃木県日光地方	精査	完了	
カリ石英粗面岩	瀧谷附近のカリ石英粗面岩鉍床調査	岩生技官 海老原嘱託	福島県大沼郡瀧谷	精査	完了 地質速第44号	受託
燐 鉍	諏訪鉍山の燐鉍調査	菊池嘱託	長野県諏訪郡諏訪鉍山	概査	完了	科学試験 研究費
燐 鉍	鳥島の燐鉍および火山調査	高島技官 吉村技官 徳藏技官	東京都八丈島鳥島	精査	完了	
滑 石	白瀧、下川両鉍山滑石鉍床調査	坪谷技官 種村履	高知県白瀧、下川鉍山	概査	完了 地質速第41号	受託
滑 石	豊受鉍山滑石鉍床調査	坪谷技官 種村履	愛媛県豊受鉍山	概査	完了 地質速第41号	受託
滑 石	皆部鉍山、能池鉍山、別子鉍山の滑石調査	坪谷技官 富田履	岡山県上房郡皆部村 高知県土佐郡能池鉍山 愛媛県別子鉍山	概査	完了	
石 膏	與内畑、石ヶ森、朝日鉍山の石膏鉍床調査	木村技官 富田履	福島県與内畑、石ヶ森、朝日鉍山	精査	完了	受託
石 膏	能登若山鉍山石膏鉍床調査	木村技官	石川県珠洲郡能登若山鉍山	精査	完了	受託

(以上 第二部)

種 別	調 査 研 究 項 目	担 当 者	調 査 地	方 法	進 捗 状 況	備 考
金・銀・銅 鉛・亜鉛・ 硫化鉄	北海道伊達鉍山調査	石橋嘱託	北海道有珠郡伊達町	概査	完了	
銅 鉍	北海道新下川鉍山調査	佐藤(源) 事務官 常世嘱託	北海道上川郡下川村字バンケ	概査	完了	
満 俺	北海道上ノ国鉍山調査	小泉技官 常世嘱託	北海道槍山郡上ノ国村	概査	完了	
満 俺	北海道今井石崎鉍山調査	小泉技官 常世嘱託	北海道槍山郡上ノ国村	概査	完了	
優 百 石 クローム	北海道糠平鉍山調査	舟橋嘱託	北海道沙流郡平取村	概査	完了	
石 膏	北海道国富鉍山石膏調査	原田技官 小関技官	北海道岩内郡小沢村字シマツケナイ	概査	完了	

(以上 札幌出張所)

種 別	調 査 研 究 項 目	担 当 者	調 査 地	方 法	進 捗 状 況	備 考
銅 鉍	黒鉍調査	石井嘱託 早川技官	秋田県花岡小坂鉍山	概査	完了	
銅 鉍	黒鉍調査	石井嘱託 齋藤技官	岩手県和賀郡下 秋田県平鹿郡下 (横畠線沿線)	概査	継続中	
銅・鉛・ 亜鉛	鉍床調査	早川技官	福島県南会津郡下	概査	完了	受託

(以上 仙台出張所)

種 別	調 査 研 究 項 目	担 当 者	調 査 地	方 法	進 捗 状 況	備 考
銅・鉄	福重鉦山調査	浜野技官 尾崎技官 武市履	山口県美禰郡於福村	精査	完了	
銅・鉄	福重鉦山調査	浜野技官 尾崎技官 岩堀川履 武市履 二日市履	山口県美禰郡於福村・大嶺町	精査	完了	
黄銅鉦 鉄鉦	妙法鉦山鉦床調査	浜野技官 甲藤技官 九里技官 二日市履 尾崎技官	和歌山県東牟婁郡亀川村	精査	完了	
滑石	中井村滑石鉦床調査	浜野技官	岡山県上房郡中井村	概査	完了	

(以上 大阪出張所)

種 別	調 査 研 究 項 目	担 当 者	調 査 地	方 法	進 捗 状 況	備 考
金・鉦	鉦床調査	和田技官 木下履	鹿児島県指宿郡喜入村	概査	完了	開発の指 導および 促進(以 下同じ)
金 鉦	鉦床調査	和田技官 木下履	鹿児島県哈良郡山野村	概査	完了	
金 鉦	鉦床調査	和田技官 木下履	鹿児島県川辺郡知覧町	概査	完了	
金 鉦 珪 酸 鉦	鉦床調査	和田技官 木下履	大分県速見郡立石町	概査	完了	
銅 鉦	鉦床調査	橋本技官 井上履 浜地技官 向井技官	福岡県山川郡方城村	精査	完了	
硫化鉦	鉦床調査	和田技官 木下履	宮崎県西臼杵郡椎葉村	概査	完了	
鉄明礬石	鉦床調査	和田技官 浜地技官	熊本県阿蘇郡内牧町	概査	完了	
鉄明礬石	鉦床調査	和田技官	宮崎県西諸郡眞幸村	概査	完了	
珪 石	鉦床調査	浜地技官	福島県糸島郡小台土村	概査	完了	
陶 土	鉦床調査	和田技官	長崎県下県郡巖原町	概査	完了	
陶 土	鉦床調査	浜地技官	長崎県下県郡巖原町	概査	完了	
カオリン	鉦床調査	和田技官	鹿児島県指宿郡栗野町	概査	完了	
ハロイト	鉦床調査	和田技官	熊本県球磨郡一勝地村	概査	完了	
燐 鉦	鉦床調査	和田技官	鹿児島県川辺郡草垣島村	概査	完了	
長 石	鉦床調査	浜地技官 原田技官	宮崎県西臼杵郡日影村	概査	完了	
石 綿	鉦床調査	和田技官	熊本県八代郡河俣村	概査	完了	
滑 石	鉦床調査	浜地技官 原田技官	福岡県鞍手郡桂川村	概査	完了	
滑 石	鉦床調査	浜地技官 井上履	熊本県鹿本郡山鹿町	概査	完了	
耐火粘土	鉦床調査	浜地技官 木下履	長崎県北松浦郡調川村	概査	完了	
耐火粘土	鉦床調査	浜地技官 木下履	長崎県北松浦郡調川村	概査	完了	
デコ肥料	鉦床調査	和田技官	鹿児島県哈良郡吉松町	概査	完了	

(以上 福岡出張所)

種 別	調 査 研 究 項 目	担 当 者	調 査 地	方 法	進 渉 状 況	備 考
鉛 重 陶 珪 石 石	鉛床調査	千藤技官	岐阜県吉城郡神岡鉱山	概査	完了	
	鉛床調査	千藤技官	岐阜県吉城郡船津町阿曾布村	概査	完了	
	鉛床調査	千藤技官	愛知県南設楽郡鳳來寺町, 岡崎市附近	概査	完了	

(以上 名古屋駐在官)

(3) 燃 料 調 査

i) 炭 田 関 係

種 別	調 査 研 究 項 目	担 当 者	調 査 地	方 法	進 渉 状 況	備 考	
石	炭	長野炭田調査	小林技官 磯見囑託	長野県東筑摩郡、更級郡 北安曇郡下	準精査	完了 地炭速第22号	
石	炭	北松炭田調査	太田囑託	長崎県佐世保地区	概査	完了	松本班参加
石	炭	北松炭田調査	太田囑託	長崎県九十九島地区	準精査	完了	松本班参加
石	炭	東松浦炭田調査	太田囑託	佐賀県東松浦西部地区	概査	完了	松本班参加
石	炭	西彼杵炭田調査	太田囑託	長崎県西彼杵郡松島地区	精査	完了	松本班参加
石	炭	西彼杵炭田調査	太田囑託	長崎県西彼杵郡焼島地区	精査	完了	松本班参加
石	炭	最上炭田調査	竹原技官 今井囑託	山形県北村上郡尾花沢地区	準精査	完了	
重	炭	高崎重炭田調査	中村(頼) 技 官	群馬県高崎市、碓氷郡	準精査	完了	渡辺班参加
重	炭	外丸重炭田調査	中村(頼) 技 官	新潟県中魚沼郡外丸村	準精査	完了	渡辺班参加
重	炭	相馬重炭田調査	大和技官	福島県相馬郡	準精査	完了	大脇班参加
重	炭	北海道道南地方調査	大和技官	北海道	準精査	完了	朝日班参加

(以上 第一部)

種 別	調 査 研 究 項 目	担 当 者	調 査 地	方 法	進 渉 状 況	備 考	
石	炭	天北炭田曲淵地区調査	小岩井班	北海道宗谷郡稚内町	精査	完了	
石	炭	天北炭田鬼志別地区調査	山口 班	北海道宗谷郡猿拂村	精査	完了	
石	炭	天北炭田小石地区調査	山口 班	北海道宗谷郡猿拂村	精査	完了	
石	炭	天北炭田浅茅野地区調査	小 出 班	北海道宗谷郡猿拂村	精査	完了	
石	炭	天北炭田間寒別北部地区調査	小 出 班	北海道宗谷郡猿拂村	精査	完了	
石	炭	天北炭田日曹地区調査	高 橋 班	北海道天塩郡豊富村	準精査	完了	
石	炭	中川炭田紋徳内 恩根内地区調査	尾 崎 班	北海道中川郡美深町	精査	完了	
石	炭	中川炭田安平志内川上流地区 調査	井 島 班	北海道中川郡	概査	完了	
石	炭	留萌炭田住吉地区調査	稻井(豊) 班	北海道留萌郡小平薬村	精査	完了	
石	炭	石狩炭田高根地区調査	三 田 班	北海道空知郡声別町	精査	完了	
石	炭	石狩炭田油谷地区調査	三 田 班	北海道空知郡声別町	精査	完了	
石	炭	石狩炭田新登川地区調査	須 貝 班	北海道勇拂郡隠別村	精査	完了	

種 別	調 査 研 究 項 目	担 当 者	調 査 地	方 法	進 渉 状 況	備 考
石 炭	道南炭田太平山太櫛、久遠新櫛内地区調査	朝 日 班	北海道、西島牧、久遠太櫛、櫛山郡	準精査	完了	
石 炭	広島県八次地区調査	植 田 班	広島県双三郡十日市	概査	完了	
石 炭	西松浦炭田	松 本 班	佐賀県西松浦郡	概査	完了	
石 炭	北松炭田佐笹浦地区調査	松 本 班	長崎県佐世保市	概査	完了	
石 炭	西彼杵炭田、九十九島、香焼島、松島地区	松 本 班	長崎県北松浦郡	概査	完了	
石 炭	北松炭田北松浦地区	塩 田 班	長崎県北松浦郡	概査	完了	
亜 炭	兵庫県湊谷炭田調査	東 中 班	兵庫県	準精査	完了	
亜 炭	広島県本郷地区調査	植 田 班	広島県沼隈郡本郷村	準精査	完了	
亜 炭	岡山県高根香山地区調査	植 田 班	岡山県勝田郡植田村、豊国村	準精査	完了	
亜 炭	岡山県月田地区調査	植 田 班	岡山県眞庭郡勝山町	概査	完了	
亜 炭	山口県地福地区調査	植 田 班	山口県阿武郡地福村	準精査	完了	

(以上 第二部)

種 別	調 査 研 究 項 目	担 当 者	調 査 地	方 法	進 渉 状 況	備 考
石 炭	北海道日曹天塩炭鉦地質調査	高橋囀託	北海道天塩郡幌延村	準精査	完了	
石 炭	北海道茅沼炭鉦地質調査	齋藤(林)囀託	北海道古宇郡泊村茅沼	準精査	完了	
亜 炭	北海道十勝亜炭田地質調査	目上囀託	北海道帯広市附近	準精査	完了	
亜 炭	北海道雨龍炭田地質調査	目上囀託	北海道雨龍郡幌加内村政和	準精査	完了	

(以上 札幌出張所)

種 別	調 査 研 究 項 目	担 当 者	調 査 地	方 法	進 渉 状 況	備 考
亜 炭	亜炭調査	舟 山 班	山形県最上郡鮭川、大蔵村	精査	完了	

(以上 仙台出張所)

種 別	調 査 研 究 項 目	担 当 者	調 査 地	方 法	進 渉 状 況	備 考
石 炭	福井県大山昭和炭鉦調査	原 口 班	福井県大野郡石徹白村下穴馬村	精査	完了	
石 炭	福井県越前炭田久沢地区調査	清 島 班	福井県大野郡上穴馬村	準精査	完了	
石 炭	和歌山県熊野炭田調査	別 所 班	和歌山県東牟婁郡九重村三津村	精査	完了	
石 炭	岡山県成羽炭田調査	河合技官 福吉囀託	岡山県川上村、日里村、手莊村、大賀村	精査	完了	
石 炭	岡山県山陽炭鉦調査	河合技官	岡山県川上郡成羽町	概査	完了	
石 炭	京都府舞鶴炭田調査	中 林 班	京都府加佐郡志染村	概査	完了	
石 炭	鳥取県神戸村石炭産地調査	加藤囀託	鳥取県気高郡神戸村	概査	完了	
石炭亜炭	福井県炭田丹生地区査察調査	稻井(信)班	福井県丹生郡国見村 今立郡上池田村	概査	完了	
石炭骸石	福井県福井炭鉦調査	浜 野 班	福井県大野郡五箇村	精査	完了	

種 別	調 査 研 究 項 目	担 当 者	調 査 地	方 法	進 渉 状 況	備 考
亜 炭	奈良県大東炭鉦概査	別所技官 竹内 履	奈良県奈良市	概査	完了	
亜 炭	奈良県三笠炭鉦概査	別所技官 竹内 履	奈良県奈良市	概査	完了	
亜 炭	大阪府清溪炭鉦調査	別所技官 福井技官 竹内 履	大阪府三島郡清溪村	概査	完了	
亜 炭	奈良県宇陀室生炭鉦調査	別所技官	奈良県宇陀郡室生村、曾爾村	概査	完了	
亜 炭	奈良県下亜炭吉野炭鉦調査	河合技官 尾崎技官 武市 履	奈良県吉野郡大阿太村下市町	準精査	完了	
亜 炭	滋賀県犬上地区亜炭現況調査	河合技官	滋賀県犬上郡多賀町 勝田郡吉野村	概査	完了	
亜 炭	日本原亜炭炭鉦概査	河合技官	岡山県古吉野村 英田郡橋原村	概査	完了	
亜 炭	奈良県中の川炭鉦調査	原口嘱託 尾崎技官	奈良県添上郡東里村	概査	完了	
亜 炭	淡路島広田炭田	原口嘱託 尾崎技官 福井技官 竹内 履	兵庫県三原郡広田村	精査	完了	
亜 炭	淡路津井炭鉦、倭文炭鉦視察	原口嘱託	兵庫県三原郡倭文村、津井村	概査	完了	
亜 炭	道場炭鉦調査	浜野技官	兵庫県有馬郡道場村	概査	完了	
亜 炭	滋賀県蒲生信楽地区炭田調査	稻井(信)班	滋賀県蒲生郡、甲賀郡	概査	完了	
亜 炭	奈良県三本松炭鉦調査	福井技官	奈良県宇陀郡三本松村	概査	完了	
亜 炭	奈良県三笠炭鉦調査	甲藤技官 塚脇嘱託 竹内 履	奈良県奈良市	概査	完了	
亜 炭	和泉炭田都介野地区	清島 班	奈良県山辺郡都介野村	準精査	完了	
亜 炭	東海炭鉦調査	加藤嘱託	三重県阿山郡鞍田村河合村	概査	完了	
亜 炭	大山北麓下中山村、逢坂村、 亜炭鉦区調査	加藤嘱託	鳥取県西伯郡、上中山、 逢坂、光徳、多知村	概査	完了	
亜 炭	鳥取県三徳山炭鉦調査	加藤嘱託	鳥取県東伯郡三徳村	概査	完了	
亜 炭	島根県君ヶ谷板津地区	加藤 班	島根県邑智郡君ヶ谷村	準精査	完了	
亜 炭	島根県大原助沢地区	加藤 班	島根県日野郡米沢村	準精査	完了	
亜 炭	島根県尖道、報国小野地区	加藤 班	島根県美濃郡小野村	準精査	完了	
亜 炭 質炭 褐炭	松江炭田調査	加藤嘱託	島根県松江市、川津、八 束郡、法吉村	概査	完了	

(以上 大阪出張所)

種 別	調 査 研 究 項 目	担 当 者	調 査 地	方 法	進 渉 状 況	備 考
石 炭	小倉炭田調査	村越 班	福岡県小倉市	精査	完了	
石 炭	小倉炭田調査	村越 班	山口県下関市	精査	完了	
石 炭	唐津炭田調査	松下嘱託	佐賀県西松浦北波多村	概査	完了	
石 炭	矢上炭田調査	波多江嘱託 山本嘱託	長崎県西彼杵郡時津、古 賀、他6ヵ村	概査	完了	
石 炭	天草南部炭田調査	高井嘱託 原田 履	熊本県天草郡魚貫村他	概査	完了	

種 別	調 査 研 究 項 目	担 当 者	調 査 地	方 法	進 渉 状 況	備 考
石 炭	天草南部炭田調査	高井囀託岡田履	熊本県天草郡牛深町	概査	完了	
石 炭	佐賀炭田調査	高井囀託岡田履	佐賀県東松浦郡巖木町	概査	完了	

(以上 福岡出張所)

種 別	調 査 研 究 項 目	担 当 者	調 査 地	方 法	進 渉 状 況	備 考
亜 炭	試銚地選定調査	千藤技官	愛知県西加茂郡挙母町	概査	完了	
亜 炭	炭田予備調査	千藤技官	岐阜県惠那郡苗木町落合村、大野郡高山市附近	概査	完了	
亜 炭	炭田予備調査	千藤技官	岐阜県可児郡御嵩町土岐郡瑞浪町	概査	完了	
亜 炭	炭田予備調査	千藤技官	岐阜県可児郡春里村土岐郡瑞浪町	概査	完了	
亜 炭	炭田予備調査	千藤技官	岐阜県惠那郡苗木町、落合村	概査	完了	
亜 炭	炭田開発中間調査	千藤技官	富山県立川村、舟崎村、氷見郡八尾町附近	概査	完了	
亜 炭	炭田開発中間調査	千藤技官	石川県羽咋郡鉦打村、熊野村、鳳至郡穴水町、輪島町	概査	完了	

(以上 名古屋駐在官)

ii) 油 田 関 係

種 別	調 査 研 究 項 目	担 当 者	調 査 地	方 法	進 渉 状 況	備 考
石 油	天塩油田調査	井島技官品田囀託	北海道天塩国アピラシベ	概査	完了	
石 油	富山油田調査	小野技官	富山県八尾町附近	概査	完了	
石 油	富山油田調査	伊田技官	富山市西南方	概査	完了	
石 油	富山油田調査	金原技官	富山県氷見郡太田村附近	精査	完了	
石 油	千葉県下油微地調査	池辺技官	千葉県保田町附近	概査	完了	
石 油	群馬県下油微地調査	石和田技官	群馬県磯部町附近	概査	完了	
天然ガス	川崎ガス田調査	藤原技官篠山	神奈川県川崎市	地化学	完了	
天然ガス	南九州油微地調査	伊田技官篠山	鹿児島県敷根町、加久藤町宮崎市附近	概査	完了	
天然ガス	新潟ガス田調査	井島技官	新潟市附近	概査	完了	
応 用 古 生 物	富山油田調査	大山技官	富山県八尾町附近	概査	完了	

以上の外、次の内業を行つた。

1. 国内含油地帯の総合地質図の作製

従來の資料を綜合して下記の区域に分ち、20万分の1地質原図を作製した。

青森、秋田、山形、新潟、長野、富山、宮崎

2. 地化学探鉱用微量ガス分析器の改良研究

従来土壤中または地中の空気中に含まれる微量ガスを測定して、地化学探鉱を行っていたものを、今回の地下水中に溶解している気体（CO₂、CH₄等）を減圧分離によつて、定量分析を行えるよう器械の改造を研究して成果を収めた。本器を使用して従来ガス探鉱法には限られた範囲にのみ適用されていたものが、出水地においても探鉱可能となり、天然ガス資源の開発に一層有力な貢献をするようになったものである。（以上第二部）

(4) 物理探鉱

種別	調査研究項目	担当者	調査地	進捗状況	備考
金 鉱	日向鉱山電気探鉱調査	佐藤技官, 金子(純)技官, 齋藤嘱託, 細野履	岩手県気仙郡盛町	完了	
銅 鉱	妙法鉱山電気探鉱調査	丸里技官, 二日市履	和歌山県東牟婁郡色川村	完了	新鉱床を 発見した
銅・鉄	福重鉱山電気探鉱調査	岩崎技官 二日市履, 堀川履	山口県美禰郡於福村	完了	新鉱床を 発見した
金・重石・鉛	太子鉱山電気探鉱調査	佐藤技官, 金子(純)技官, 齋藤嘱託, 細野履	岩手県気仙郡矢作村	完了	
黒 鉛	天風鉱山電気探鉱調査	佐藤技官, 金子(純)技官, 齋藤嘱託, 細野履	岩手県気仙郡世田米町	完了	
黒 鉛	竹原鉱山電気探鉱調査	佐藤技官, 金子(純)技官, 齋藤嘱託, 細野履	岩手県気仙郡世田米町	完了	
黒 鉱	土畑鉱山電気探鉱調査	室住技官, 金井技官 本間嘱託, 杉山履	岩手県和賀郡	完了	
黒 鉱	国富鉱山電気探鉱調査	飯田技官, 加來技官 岡田嘱託, 堀川履	北海道後志国岩内郡	継続中	
黒 鉱	相内鉱山電気探鉱調査	飯田技官, 金井技官 本間嘱託, 杉山履	秋田県鹿角郡	完了	顕著な負 中心を得 た
黒 鉱	鉛山鉱山電気探鉱調査	室住技官, 金井技官 本間嘱託, 杉山履	秋田県鹿角郡	完了	
黒 鉱	与内畑鉱山電気探鉱調査	飯田技官, 金井技官 本間嘱託, 杉山履	福島県耶麻郡熱塩村	完了	
黒 鉱	花岡鉱山電気および地震探鉱調査	佐藤技官, 金子(純)技官, 齋藤嘱託, 細野履	秋田県北秋田郡花岡町	完了	受託
無煙炭	松尾寺炭田電気探鉱調査	九里技官, 中林嘱託 金井履, 二日市履	京都府舞鶴市吉坂	完了	
石 炭	三池炭田地震探鉱調査	早川技官, 白土技官 立石技官, 森技官, 小尾技官, 市川技官, 小川履	福岡県大牟田市海上	完了	受託
石 炭	小倉炭田地震探鉱調査	金子(徹)嘱託, 村岡嘱託, 広沢技官, 小尾技官, 古谷履	福岡県小倉市海上	完了	
石 炭	宇部炭田地震探鉱調査	飯田技官, 白土技官 市川技官, 小川履, 鈴木履	山口県宇部市海上	継続中	断層帯の 潜在を確 認した
亜 炭	美土里亜炭田電気探鉱調査	岩崎技官, 室住技官 本間嘱託, 杉山履	群馬県多野郡美土里村	完了	
亜 炭	拳母炭田電気探鉱調査	金子技官, 齋藤嘱託 細野履	愛知県西加茂郡拳母町	完了	
石 油	仁賀保油田地震探鉱調査	飯田技官, 栗原技官 蟻川技官, 小島技官 氏家履, 田中履, 鈴木履	秋田県由利郡象潟町	継続中	受託
石 油	蒲原油田重力探鉱調査	村上技官, 杉山技官 片寄嘱託, 柴野技官 岩崎技官, 松元技官	新潟県中・西蒲原郡	継続中	受託

種 別	調 査 研 究 項 目	担 当 者	調 査 地	進 渉 状 況	備 考
石 油	船越町油田重力探鉱調査	村上技官, 杉山技官 片寄嘱託, 柴野技官 岩崎技官, 松元技官	秋田県南秋田郡船越町	完了	
天然ガス	焼津ガス地化学探鉱調査	下河原嘱託, 金井技官 陶山嘱託	静岡県志太郡焼津町	完了	
地下水	川内地区電気探鉱調査	佐藤技官, 金子(純)技官 齋藤嘱託, 細野雇	宮城県仙台市川内	完了	受託
	地震波速の時間的变化	早川技官		継続中	
	地震探鉱に関する研究	早川技官, 立石技官		継続中	
	地震探鉱器の改良に関する研究	飯田技官, 早川技官 白土技官, 森技官, 蟻 川技官, 栗原技官, 金子 (徹)嘱託		続継中	
	地震探鉱計算図表の研究	飯田技官, 金子(徹)嘱託 村岡嘱託, 古谷雇		継続中	
	地震探鉱結果解析法の研究	飯田技官		一部完了	
	坑井内物理探鉱法の研究	佐藤技官, 金子(純) 技官 金井技官, 陶山嘱託		継続中	
	三極法の研究	佐藤技官, 齋藤嘱託		一部完了	
	地下水中溶存ガス分析による探鉱法	藤原技官 下河原嘱託		一部完了	
	油田物理探鉱に関する総合的研究	飯田技官, 杉山技官 村上技官		継続中	
	炭田物理探鉱に関する総合的研究	飯田技官		継続中	

(以上 第三部)

(5) 試 錐

種 別	調 査 研 究 項 目	担当者	調 査 地	進 渉 状 況	備 考
石 膏 鉍	会津朝日鉍山石膏鉍床 探査	虎岩嘱託 山崎雇	福島県北会津村大戸村	完了 161.8m, 3孔	廻転式
鉄明礬石	草津鉍山鉄明礬石鉍床 鉍量調査	野口嘱託	群馬県吾妻郡六合村	完了 720.5m, 38孔	第二部肥料原料調査に 伴う試錐(請負)廻転式
粘 土	村上粘土鉍量調査	柳原嘱託	新潟県岩船郡村上町, 塩野町	完了 96.5m, 1孔	第二部. 窯業原料調査 に伴う試錐. 廻転式
粘 土	瀬戸粘土鉍床賦存鉍量 の査定	小池技官	愛知県東春日郡嶺山村	完了 180.3m, 6孔	第二部. 窯業原料調査 に伴う試錐. 廻転式
地 熱	別府温泉地熱調査	小林雇 山崎雇	大分県別府市南立石	完了 110m, 1孔	第一部. 文部省科学局 との共同研究, 廻転式
地 下 水	西富士地下水調査	小池技官	静岡県富士郡土井平村	50m, 1孔	開拓局の要望により第 一部と共同調査(請負) 廻転式
石 炭	西田川炭田開発調査	猪ノ口嘱託	山形県西田川郡加茂町 油戸	54m, 2孔	廻転式
石 炭	石城炭田開発調査	須田嘱託	福島県石城郡飯野村	中止 255.7m, 1孔	廻転式
石 炭	石城炭田開発調査	須田嘱託	福島県石城郡藤原村	中止 152.5m, 1孔	廻転式
石 炭	石城炭田開発調査	池田嘱託	福島県石城郡渡辺村	中止 124m, 1孔	廻転式
石 炭	大阿仁炭田開発調査	鳥井嘱託	秋田県北秋田郡大阿仁 村	完了 152.3m, 1孔	廻転式

種 別	調 査 研 究 項 目	担 当 者	調 査 地	進 渉 状 況	備 考
石 炭	熊野炭田開発調査	本山嘱託	和歌山県牟婁郡三津ノ村	完了 271m, 1孔	廻転式
石 炭	小倉炭田開発調査	佐藤嘱託	福岡県小倉市砂津	完了 115m, 1孔	廻転式
石 炭	松江炭田開発調査	林田嘱託	島根県八束郡竹谷村	完了 63m, 1孔	廻転式
亜 炭	横山亜炭田開発調査	佐藤嘱託	大阪府泉北郡横山村	完了 86.9m, 2孔	衝撃式
亜 炭	最上炭田開発調査	松井嘱託	山形県最上郡舟形村	完了 70m, 1孔	廻転式
亜 炭	最上炭田開発調査	鳥井嘱託	山形県北村郡尾花沢町	完了 203m, 2孔	廻転式
亜 炭	伊具亜炭田開発調査	高橋嘱託	宮城県伊具郡大内村丸森町	完了 53.9m, 2孔	廻転式
亜 炭	三本木亜炭田開発調査	松田嘱託	宮城県志田郡三本木町	完了 157m, 1孔	廻転式
亜 炭	広淵亜炭田開発調査	松田嘱託	宮城県桃生郡北村	完了 100m, 1孔	廻転式
亜 炭	相馬亜炭田開発調査	池田嘱託	福島県相馬郡上真野村	完了 89m, 1孔	廻転式
亜 炭	高崎亜炭田開発調査	藤倉嘱託	群馬県多野郡八幡村	完了 124.3m, 1孔	廻転式
亜 炭	羽咋亜炭田開発調査	吉原嘱託 藤倉嘱託	石川県羽咋郡, 穴水町 三明町, 熊野村	完了 105.1m, 4孔	廻転式
亜 炭	愛知亜炭田開発調査	田中技官	愛知県東春日郡井手母町	完了 90.3m, 2孔	衝撃式
亜 炭	垂水亜炭田開発調査	本山嘱託	兵庫県神戸市新舞子	完了 46.4m, 1孔	廻転式
亜 炭	員辨亜炭田開発調査	柳原嘱託	三重県員辨郡十社村	完了 59.0m, 1孔	廻転式
石 油	相良油田試掘	篠山技官	静岡県榛原郡菅原村	完了 145m, 1孔	第二部石油地質調査に伴う試掘, 廻転式
炭酸ガス	磯部天然ガス調査	小池技官 山崎履	群馬県碓氷郡磯部町	完了 55.2m, 1孔	廻転式

累計深度 3,891.7m, 80 孔
(以上 第三部)

(6) 測 図

i) 測 量

種 別	測 量 地	担 当 者	進 渉 状 況	備 考
地 熱	大分県別府市	藤本技官	完了	縮尺 1: 2,000 平板測量 経緯儀測量
地 温	新潟県西頸城郡	加々美技官 桑形履	完了	縮尺 1: 2,000 平板測量
鉦 床	岐阜県吉城郡	加々美技官	完了	縮尺 1: 2,000 平板測量
鉦 床	静岡県田方郡	横江履	完了	縮尺 1: 2,000 平板測量
鉦 床	栃木県那須郡	高木嘱託	完了	縮尺 1: 2,000 平板測量
鉦 床	秋田県雄勝郡	加々美技官	完了	縮尺 1: 2,000 平板測量
鉦 床	長崎県下県郡	岡技官	完了	縮尺 1: 2,000 平板測量

種 別	測 量 地	担 当 者	進 涉 状 況	備 考
鉞 床	愛知県愛知郡	小川履	完了	縮尺 1: 2,000 平板測量
鉞 床	愛知県愛知郡	小川履	完了	縮尺 1: 2,000 平板測量
鉞 床	岩手県和賀郡	宮沢抜官	完了	縮尺 1: 2,000 平板測量
鉞 床	福島県耶麻郡	宮沢抜官	完了	縮尺 1: 2,000 平板測量
炭 田	岐阜県土岐郡	岡抜官, 相原履	完了	縮尺 1: 10,000 平板測量
炭 田	北海道雨龍郡	茅山抜官 小野寺抜官	完了	1: 10,000 平板測量
炭 田	北海道苫前郡	磯抜官, 桂島履	完了	1: 10,000 平板測量
炭 田	北海道宗谷郡	小谷野抜官 高木嘱託	完了	1: 5,000 平板測量
炭 田	北海道中川郡	川野嘱託 久保嘱託	完了	1: 5,000 平板測量
炭 田	北海道島牧郡	石橋抜官, 磯山履	完了	1: 10,000 平板測量
炭 田	山形県西田川郡	金子抜官, 桑形履	完了	1: 10,000 平板測量
炭 田	北海道宗谷郡	窪木抜官, 井上履	完了	1: 5,000 平板測量
炭 田	北海道宗谷郡	細井抜官 松田嘱託	完了	1: 10,000 平板測量
炭 田	島根県出雲市	村上嘱託	完了	1: 10,000 平板測量
炭 田	石川県羽咋郡	橋本抜官, 須藤履	完了	1: 10,000 平板測量
炭 田	北海道勇松郡	藤本抜官, 田村履	完了	1: 5,000 平板測量
炭 田	北海道空知郡	清水抜官 立花嘱託	完了	1: 5,000 平板測量
炭 田	山形県北村山郡	高田抜官 浜本抜官	完了	1: 10,000 平板測量
炭 田	山形県最上郡	原田嘱託 石原嘱託	完了	1: 10,000 平板測量
炭 田	群馬県碓氷郡 新潟県中魚沼郡	佐藤嘱託 中原嘱託	完了	1: 10,000 平板測量
炭 田	長野県東筑摩郡	西村嘱託 石原嘱託	完了	1: 10,000 平板測量
炭 田	京都府舞鶴市	土屋嘱託	完了	1: 10,000 平板測量
炭 田	福井県丹生郡	中村嘱託	完了	1: 10,000 平板測量
炭 田	岡山県上川郡	福吉嘱託	完了	1: 10,000 平板測量
炭 田	奈良県山辺郡 福井県大野郡	佐藤嘱託	完了	1: 10,000 平板測量
炭 田	岐阜県惠那郡	長岡嘱託	完了	1: 10,000 平板測量
炭 田	愛知県西加茂郡	秋山嘱託	完了	1: 10,000 平板測量
炭 田	山口県阿武郡	久松嘱託 森履	完了	1: 10,000 平板測量
炭 田	広島県沼隈郡	久松嘱託 森履	完了	1: 10,000 平板測量

種 別	測 量 地	担 当 者	進 渉 状 況	備 考
炭 田	福岡県大牟田市	森技官, 堀本技官 石川雇, 佐々木雇	完了	1: 10,000 経緯儀測量 平板測量 地震探査(海上)・観測線測量, 観測線配置測量
炭 田	福岡県小倉市	森技官, 横江雇 宇野沢雇, 小張雇	完了	1: 10,000 経緯儀測量 平板測量 地震探査(海上)・観測線測量, 観測線配置測量
油 田	富山県永見郡	加々美技官	完了	1: 20,000 平板測量
油 田	千葉県長生郡	加々美技官, 金子 技官, 茅山技官, 小野寺雇, 磯山雇	完了	1: 10,000 平板測量
油 田	千葉県長生郡	磯技官, 小谷野技 官, 岡技官, 村上 囑託, 船倉囑託, 高木囑託	完了	1: 10,000 平板測量
油 田	秋田県由利郡	野口技官, 小泉雇	完了	1: 10,000 経緯儀測量 平板測量 地震探査・観測線測量, 観測線配置測量
油 田	新潟県西蒲原郡	船倉囑託	完了	1: 5,000 平板測量 重力探査

(以上 測図課)

種 別	測 量 地	担 当 者	進 渉 状 況	備 考
炭 田	山形県最上郡鮭川 大蔵村	山屋技官 栗原技官, 市川雇	完了	1: 10,000 平板測量

(以上 仙台出張所)

ii) 製 図

名	担 当 者	進 渉 状 況	備 考
1: 75,000 地質図幅編纂準備作業			
地質図幅目録図	鈴木技官	完了	1: 2,000,000
1: 75,000 地質図幅 1: 50,000 地形図 対照図	高木技官, 小宮雇	完了	1: 1,500,000
1: 100,000 北海道地質図幅目録図	萱間技官	完了	1: 2,000,000
1: 75,000 地質図幅図式規定設定	萱間技官	完了	
1: 75,000 地質図幅図式附図描画	萱間技官	完了	
1: 75,000 地質図幅編纂資料蒐集	萱間技官	完了	
1: 100,000 地質図幅 1: 50,000 地形図 対照図	藤谷雇	完了	1: 1,500,000
鉦 床 図			
各務鉦山, 栗栖鉦山, ニッ屋鉦山, 鉦床図	矢島雇	完了	1: 5,000
井野鉦山鉦床位置図	小宮雇	完了	
金盛鉦山, 干波鉦床鉦量図	漆畑雇	完了	
石川県服部陶石鉦床地質図	萱間技官	完了	1: 800
大分県速見郡立石町馬上鉦山附近地質図	矢島雇	完了	1: 10,000
島上鉦山櫻金道断面図	矢島雇	完了	1: 6,000
串木野鉦山, 荒川鉦山附近関係図	和田雇	完了	1: 50,000

図名	担当者	進捗状況	備考
荒川鉾山馬穴鑿断面図	和田履	完了	1: 6,000
直壁珪長石鉾山附近略図他二図	草深技官	完了	1: 2,000
長崎県下県郡巖原町附近地質鉾床図	江田履	完了	1: 15,000
長崎県須佐村対州鉾山鉾床図	江田履	完了	1: 15,000
山形県茂倉鉾山坑内図および品位図	草深技官	完了	1: 1,200
本邦螢石鉾床分布図	江田履	完了	1: 4,000,000
長野県諏訪鉄山鉾床分布図他関係図	漆畑履	完了	1: 50,000
鉄明礬石鉾の $K_2O\%$ と $SO_3\%$ との関係図	矢島履	完了	
日鉄調川鉾業図	藤谷履	完了	1: 1,000
大揚鉾山鉾床分布見取図	江田履	完了	1: 2,000
油田炭田図			
秋田県白雲川油田地形および地質図	小宮履	完了	1: 20,000
北海道初山別油田地形および地質図	鈴木技官	完了	1: 30,000
蘭領東印度諸島第三紀化石表	萱間技官	完了	
郷津油田油井柱状図 2	鈴木技官	完了	
新潟県郷津油田地形および地質図	鈴木技官	継続中	1: 20,000
新潟県塩沢油田中條油田資料透寫	高木技官, 和田履	完了	1: 10,000
秋田県大河仁炭田炭柱図 53枚	吉田履, 漆畑履	完了	
瀬協炭礦附近	藤谷履		1: 50,000
物理探鉾図			
淮南炭田地質概念図	萱間技官	完了	1: 50,000
小瀧油田地震探鉾測線配置図	萱間技官	完了	1: 25,000
飽海油田地震探鉾測線配置図	鈴木技官	完了	1: 25,000
仙台市西部物理探鉾測線図外グラフ	鈴木技官	完了	
物理探鉾報告書附図 11図	鈴木技官	完了	
その他一般図			
愛知県三河段戸山	小宮履	完了	
静岡県西富士農耕地域地形図	小宮履	完了	1: 100,000
石油地質調査について附図 5	矢島履	完了	
北海道白図	高木技官	完了	
姫島火山地質図	小宮履	完了	
原稿用紙版下	草深技官	完了	
新潟県西頸城郡能生谷村地之り要図 5	小宮履	完了	
九州地方白図	坪井履	完了	1: 500,000
本邦白図	萱間技官	完了	1: 3,000,000

図名	担当者	進捗状況	備考
伊豆宇久須珪石鉱床第1図より第4図	矢島履	完了	
伊豆宇久須珪石地質鉱床図	江田履	完了	1: 3,000,000
鹿児島県川辺郡笠砂村草垣上の島地形図	江田履	完了	1: 3,600
鹿児島県川辺郡下の島地形図	江田履	完了	1: 3,600
石川県服部陶石鉱床推定断面図	藤谷履	完了	1: 1,600
花岡鉱山坑内図外鉱床断面図	和田履	完了	1: 1,000
北濃陶石地帯地質図	漆畑履	完了	1: 50,000
神道陶石脈断面図	漆畑履	完了	1: 500
鮎走陶石脈坑内図	漆畑履	完了	1: 500
北海道置戸鉱山地形および地質鉱床図外 1	江田履	完了	1: 5,000
イトムカ鉱山地質鉱床図他関係図 2	漆畑履	完了	
五島鉱山図	矢島履	完了	
田尾鉱山図	小林履	完了	
大倉大湯鉱山附近交通図	矢島履	完了	1: 200,000
山梨県茂倉鉱山位置図他関係図 2	草深技官	完了	
岩手県気仙郡世田米町附近交通図	和田履	完了	1: 200,000
十勝岳附近鉄明礬石鉱床分布図	藤谷履	完了	1: 200,000
栃木県大谷附近地質概念図	藤谷履	完了	
尾原鉱山附近鉱床分布図他関係図 1	江田履	完了	
福島県瀧谷附近地質略図他関係図 2	小林履	完了	
福島県双葉郡木戸村広野村耐火粘土賦存地質図	和田履	完了	1: 5,000
遠ヶ根鉱山地質鉱床図他関係図 4	鈴木技官	完了	
天生黒鉛坑内外関係図	小林履	完了	
福島県瀧田鉱山地質鉱床図外関係図 3	草深技官	完了	
尾白川砂金鉱山試料図	高木技官	完了	1: 4,000
天沼沢側試掘坑道図他	小宮履	完了	
大倉の粗面岩質石英粗面岩のK ₂ O-Na ₂ O図	小宮履	完了	

(以上 測図課)

図名	担当者	進捗状況	備考
最上亜炭田	山屋技官	完了	

(以上 仙台出張所)

図名	担当者	進捗状況	備考
瀧田鋳山鋳床	向井技官	完了	
小倉炭田鋳床	向井技官, 占部雇	完了	
九十九島鋳床	小林囑託 竹下囑託	完了	

(以上 福岡出張所)

(7) 分 析

i) 分 析

品名	件数	成分数	担当者
石炭	185	1,476	石田, 齋藤各技官, 内田, 川野, 宍戸, 山田, 大森各雇
亜炭	265	1,920	石田技官, 内田, 川野, 宍戸, 山田, 大森各雇
銅, 鉛, 亜鉛	51	177	藤谷技官, 宍戸, 比留川各雇
鉄鋼	62	133	関根, 加藤各技官, 望月, 比留川各雇
鉄明礬石	196	359	竹田, 関根各技官, 金子技官, 望月, 比留川各雇
鋳石	53	155	藤谷技官, 望月, 川野, 宍戸各雇
鋳物	63	171	石田, 竹田, 藤谷, 加藤各技官, 望月雇
岩石	19	45	加藤技官, 山田雇
陶石	18	128	齋藤技官, 山田, 大森各雇
カオリン	16	116	関根技官, 望月, 大森各雇
長石	5	40	関根, 加藤各技官
石膏	38	119	加藤技官, 大森, 比留川各雇
加里原料	13	28	山田雇
天然瓦斯	6	24	齋藤, 加藤各技官
鋳泉	5	52	関根技官, 望月雇
その他試験計	23	45	内田, 宍戸各雇
	1,018	4,988	

(以上 分析試験課)

ii) 試験研究および調査

試験研究, 調査項目	担当者	調査地	進捗状況	備考
亜炭の分析法	石田技官, 内田雇		完結	
鉄明礬石の分析法	竹田, 関根各技官		//	
再生アルミ地金分析法規格	平塚, 竹田各技官		継続	標準調査会
低品位タングステン鋳の分析法	石田, 竹田各技官		完結	

試験研究, 調査項目	担当者	調査地	進捗状況	備考
岩石分析法 鉄明礬石の熱分解 天然瓦斯 鉄明礬石	磯野, 関根各技官 竹田, 金子各技官 齋藤, 加藤各技官 竹田技官。	宮崎県, 鹿児島県 長野県, 栃木県	継続 速報 37号 完結 //	(以上分析試験課)

(8) 資料
i) 刊行物

種別	番号	題名	報告者	備考
地質調査所報告	126	大分県東国東郡姫島玻璃質岩石中の斑晶硬石膏	河野 義礼	
油田地形および地質図	第 45 区 その 1	北海道初山別油田地形および地質図	千谷好之助	
	その 2	秋田県白雪川油田地形および地質図	金原 均二	
地質調査所速報	3	新潟県世音長石調査報告	岩生 周一	
//	4	群馬鉄山鉄明礬石	齋藤 正次	
//	5	本邦の螢石鉱床	岩生 周一	
//	8	岐阜・富山兩県下黒鉛鉱山調査報告	安齋 俊男	6, 7号は21年度 刊行
//	9	静岡県西富士農耕地区水理調査報告	近藤 信興 小池 正忠	
//	10	島根県下鉄鉱調査報告	高島 彰	
//	11	岐阜県吉城郡内鉄鉱調査報告	高島 彰	
//	12	愛知県南設楽郡鳳來寺陶石鉱床調査報告	大島 敬義 上野 三義	
//	13	栃木県河内郡関白鉱山カオリン鉱床調査報告	大島 敬義 上野 三義	
//	14	長崎県下県郡厳原町陶石鉱床予察調査報告	和田 利雄	
//	15	長崎県下県郡佐須村対州鉄山鉛・亜鉛鉱床予察調査報告	和田 利雄	
//	16	福岡県糸島郡治土村山路珪石鉱業所白珪石調査報告	浜地 忠男	
//	17	九州地方含金珪酸鉄山現況調査報告	和田 利雄	
//	18	茨城県眞壁の珪石および長石調査報告	安齋 俊男	
//	19	岩手県岩沢および平野岩沢鉄山石膏鉱床調査報告	木村 正	
//	20	山梨県茂倉鉄山石膏鉱床調査報告	木村 正	
//	21	長野県諏訪鉄山の鉄明礬石鉱床調査報告	片山 信夫	
//	22	長崎県日鉄調川鉄業所耐火粘土調査報告	浜地 忠男 木下 章	
//	24	愛知県栗鉦山アンガン鉄床調査概報	宮本 弘道	23号は速報取止 め
//	25	岐阜県各務鉄山マンガン鉄床調査概報	宮本 弘道	
//	26	岐阜県二ツ屋鉄山マンガン鉄床調査概報	宮本 弘道	
//	27	静岡県守久須珪石調査報告	岩生 周一	

種 別	番 号	題 名	報 告 者	備 考
地質調査所速報	28	宮崎県日向高千穂鋳業所長石調査報告	浜地 忠男	
〃	29	岡山県上房郡中井滑石鋳床調査報告	浜野 一彦	
〃	30	熊本県河俣鋳山石綿鋳床調査報告	和田 利雄	
〃	31	岐阜県北濃陶石鋳床調査報告	上野 三義	
〃	32	北海道知床半島の鉄明礬石鋳床概査報告	片山 信夫	
〃	33	鋳床量および鋳量の定義	2部1課	
〃	34	北海道置戸鋳山水銀鋳床調査報告	堀 純郎	
〃	35	北海道イトムカ鋳山水銀鋳床調査報告	堀 純郎	
〃	37	鉄明礬石の熱分解について	竹田 栄藏 金子 博裕	36号は速報取止め
〃	38	岩手県世田米町附近黒鉛鋳床調査報告	佐藤 恭	
〃	39	北海道十勝岳の鉄明礬石鋳床調査報告	片山 信夫	
〃	40	鉄明礬石からカリ肥料を製造する中間工業試験	片山 信夫	
〃	41	高知県・愛媛県下滑石鋳床概査報告	坪谷 幸六	
〃	42	熊本県阿蘇火山噴火状況速報	沢村孝之助	
〃	43	栃木県大谷附近の地質概査報告	中村 久由	
〃	44	福島県瀧谷加里石英粗面岩調査報告	岩生 周一	
〃	45	島根県尾原陶石鋳床概査報告	岩生 周一	
〃	46	岐阜県吉城郡泷草陶石鋳床調査報告	大島 敬義	
〃	47	福岡県瀧田鋳山銅鋳床調査報告	橋本 克己	
〃	48	生物群から見た八尾層群の堆積環境と地質時代	大山 桂	
〃	49	秋田県大倉の白色粗面岩質石英粗面岩調査報告	岩生 周一	
地質調査所炭田速報	8	愛知県愛知炭田挙母地区調査速報	田中元之進	
〃	10	宮城県伊具炭田丸森地区調査速報	小岩井 隆	9, 13号は21年度刊行
〃	11	京都府舞鶴炭田松尾寺炭礦八田炭礦・相楽炭田高山大河原地区調査速報	中林 一孝	
〃	12	徳島県森山地区調査速報	平山 健	
〃	14	福島県石城炭田上遠野地区地震探鋳調査速報	金子 徹一	
〃	15	三重県北勢炭田亀山地区(その1, 関地域)調査速報	鈴木 好一	
〃	16	福島県石城炭田小名浜北部地区調査速報	須貝 貫二	
〃	17	福島県石城炭田小名浜南部地区調査速報	松井 寛	
〃	18	香川県小豆島炭田大鐺北浦地区調査速報	沢田 秀穂	
〃	19	岐阜県可児炭田春理地区調査速報	小幡 忠宏	
〃	20	福島県石城炭田小名浜北部地区地震探査調査速報	栗原 重利	
〃	21	福岡県小倉炭田海底地震探鋳調査速報	金子 徹一	
〃	22	長野県長野炭田東筑摩更級地区調査速報	小林 勇	

ii) 図書交換・寄贈・購入

本年度内に本邦の官庁、大学、学会等の交換先から図書寄贈を受けたのは 35 カ所で、受入部数は次の通りである。

交換先	箇所	受入図書	報文等
官庁	15	132冊	
大学、学会、図書館等	18	970	
会社	2	2	
計	35	1,102	

交換先以外の官庁学会等から出版物を寄贈されたのは 3 カ所であつた。

	箇所	冊数
官庁	1	1
学会	2	2
計	3	3

購入図書は地図 31 幅、書籍 500 冊、雑誌 375 部で次表の通りである。

	地質図	地形図	書籍	雑誌
地質学、地理学に関するもの	12幅	19幅	322冊	319部
化学およびその応用に関するもの			99	20
物理探鉱に関するもの			41	8
計	12	19	500	375

(9) 標本

i) 昭和 22 年度事業報告

本所の標本は 2 回に涉り戦災等の厄に会い、大半焼失または散逸した。目下本所に保存されているものは約 4,000 個、その大部分は容器、名表を破損または滅失して資料として整理されず、そのまま利用する事が困難な状態にある。

最近集められた標本は、その標本の保存価値に応じて提出標本と参考標本と分けて整理している。昭和 22 年度末においては、未整理標本中、鉱物に関しては約 20% の整理ができ、蒐集品としては提出標本 77 件、292 個、参考標本は 20 件である。

内 訳

提出標本	岩石	18 件	内寄贈 1 件
	鉱物	59 件	内寄贈 8 件
参考標本		20 件	

寄贈標本明細

岩	石	寄贈先	寄贈品	寄贈先
		フィンランド国	重晶石、直閃石、片麻岩	渡辺武男教授
		茨城県日立鉱山	重晶石、直閃石	〃
鉱	物	米国 アイダホ州	燐鉱	宮古製錬所
		〃 フロリダ州	〃	〃
		新潟県 佐渡鉱山	珪石	佐渡鉱山
		イタリア国 ヴェスヴィアス	白榴石	岩生技官
		岩手県 田老鉱山	黄銅鉱	田老鉱山
		滋賀県 五百井鉱山	ダニネモル石	益富寿之助
		兵庫県 赤谷村	桃礫石	〃
		秋田県 小坂鉱山	沈澱銅	小坂鉱山
		大分県 尾平鉱山	電気石	武田化学

III 人事・会計

(1) 人事

昭和22年度における職員の異動は左の通りである。

一、任 命	嘱託員	工藤 広 忠	嘱託員	三田 正 一
所 長 一級 三 土 知 芳 同	同	長 浜 春 夫 同	同	村 田 近 良
商 工 技 官 一級 坪 谷 孝 六 同	同	高 井 冬 二 同	同	沢 田 福 三
同 二級 井 島 信 五 郎 同	同	矢 部 長 克 同	同	浜 本 勝 己
同 二級 広 川 治 同	同	大 山 桂 同	同	松 本 隆 一
同 二級 小 関 幸 治 同	同	永 井 彰 一 郎 同	同	藤 村 豊 春
同 二級 石 田 興 之 助 同	同	木 崎 喜 雄 同	同	本 間 右 京
商 工 事 務 官 二級 佐 藤 東 一 同	同	大 江 二 郎 同	同	福 吉 長 雄
同 三級 小 塚 勝 弘 同	同	常 世 俊 晴 同	同	太 田 良 平
同 三級 曾 根 崎 主 殿 同	同	湊 正 雄 同	同	佐 藤 優 夫
同 三級 北 岡 末 旺 同	同	山 根 新 次 同	同	虎 岩 達 弘
同 三級 正 岡 直 義 同	同	石 橋 正 夫 同	同	伊 集 院 明
同 三級 秩 父 武 志 同	同	舟 橋 三 男 同	同	小 田 範 丸
商 工 技 官 三級 小 池 正 八 同	同	小 林 英 夫 同	同	高 木 芳 和
同 三級 金 子 博 祐 同	同	小 倉 一 雄 同	同	佐 藤 和 茂
同 三級 小 島 肇 志 同	同	石 井 清 彦 同	同	佐 藤 義 三 郎
同 三級 細 井 力 雄 同	同	村 上 宇 吉 同	同	美 濃 和 義 三 郎
同 三級 齋 藤 邦 三 同	同	船 倉 義 彦 同	同	深 沢 邦 武
同 三級 野 口 勝 同	同	磯 見 博 同	同	松 田 栄 藏
同 三級 小 宮 利 夫 同	同	佐 藤 恭 司 同	同	小 林 猪 之 助
同 三級 市 川 金 徳 同	同	村 越 司 同	同	古 川 静 也
同 三級 原 田 種 成 同	同	原 口 九 万 同	同	河 野 迪 治
同 三級 内 藤 貞 夫 同	同	東 中 秀 雄 同	同	一 杉 武 將
同 三級 林 昇 一 郎 同	同	尾 原 信 彦 同	同	久 松 四 郎
同 三級 野 口 保 夫 同	同	小 松 謙 四 郎 同	同	長 岡 東 洋 男
嘱 託 員 下 村 仁 作 同	同	山 田 勇 吉 同	同	須 貝 貫 二 男
同 荻 谷 治 子 同	同	村 岡 誠 博 同	同	中 村 勳 親
同 今 井 功 同	同	高 橋 竹 司 同	同	柳 原 重 元
同 河 田 清 雄 同	同	助 川 尊 順 同	同	德 山 田 隆 基
同 海 老 原 安 太 郎 同	同	藤 井 嘉 四 郎 同	同	山 間 七 郎
同 品 田 芳 二 郎 同	同	西 村 信 義 同	同	岩 野 実 之
同 村 岡 秀 記 同	同	青 柳 栄 一 幸 同	同	清 島 信 国
同 片 寄 邦 之 同	同	立 花 英 一 善 同	同	陶 山 二 郎
同 下 河 原 達 哉 同	同	伊 田 一 徹 同	同	石 原 速 雄
同 齋 藤 友 三 郎 同	同	金 子 寅 一 雄 同	同	竹 下 脇 祐 次
同 岡 田 博 郎 同	同	大 塚 寅 次 一 同	同	塚 脇 中 啓 策
同 本 間 一 郎 同	同	杉 本 房 一 三 同	同	田 中 保 恭 信
同 齋 藤 力 彦 同	同	科 野 辰 夫 同	同	久 保 藤 池
同 高 井 保 明 同	同	川 野 武 夫 同	同	加 菊 池 徹
同 関 口 俊 太 同	同	渡 辺 武 夫 同	同	

嘱託員	稻井信雄	嘱託
同	奥海靖	同
同	清原清人	同
同	清水勇	同
	勤	同
一、転		同
商工技官	鮎谷榮	同
同	片山勝	同
同	吉村泰明	同
同	堀純郎	同
商工事務官	仙台商工局北城俊雄	同
嘱託	経済安定本部朝日昇	同
	官	同
一、兼		同
文部教官	八木次男	同
同	原田準平	同
同	淵田隆門	同
	職	同
一、退		同
所長	山根新次	同
商工技官	大久保秀雄	同
商工事務官	曾根崎主殿	同
商工技官	窪山薫人	同
同	松本重陸夫	同
嘱託	荒木岩井隆二	同
同	小阿部卓次郎	同
同	小近藤繁人	同
同	田上政敏夫	同
同	久保昌近造	同
同	土屋金右衛門	同
同	尾崎金右衛門	同
同	藤倉孝次夫	同
同	塩田中春義	同
同	中根志津夫	同
同	釣逸郎	同
同	渡辺新長	同
同	門田井豊	同
同	稻井房雄	同
同	植田理三郎	同
同	楠美忠広	同
同	小幡松実男	同
同	村坊城俊男	同
同	坊松田龜三	同
同	安藤	同

鈴木好一	嘱託
山木榮一	同
松下久二	同
中沢圭平	同
長谷川茂平	同
富山信榮	同
菅原幸雄	同
西村勇司	同
常世俊春	同
朝日昇	同
山口定一	同
三川一三	同
永井浩一	同
野呂一文	同
金子文三郎	同
秋山頭三郎	同
萩谷治篤	同
太田一孝	同
小林英雄	同
村越江信広	同
波多江信三	同
中川次郎	同
中沢義士	同
高橋敏治	同
中田弘二	同
余高井橋三男	同
舟橋三男	同
小松田正次	同
山根新義	同
石崎正徳	同
西野和藏	同
今谷春七	同
淡木村早苗	同
池田藤博	同
佐藤義明	同
須田正利	同
杉本武志	同
湊島展生	同
中秩池井敏	同
池鳥井敏	同
鳥保田豊	同

嘱託	石川邦夫
同	三国義久
同	齋藤林次
同	杉沢信夫
同	坂倉勝彦
同	笹川豊八
同	高橋保三郎
同	須田工義也
同	吉沢彌一郎
同	本間彰一郎
同	永井英夫
同	小林一雄
同	小倉部長
同	矢部内章
同	中金敏彦
同	中島万治
同	加部進三郎
同	高見重次
同	寺川博藏
同	本山口高
同	野山利三郎
同	田野悌六
同	末野力彦
同	齋藤正村
同	石荒井口勝
同	野井武雄
同	熊沢基清
同	松山野健一
同	浅田崎喜
同	田木上川英
同	吹石野
同	久野

一、死

商工事務官	田辺照雄
商工技官	八坂英一郎

亡	田辺照雄
	八坂英一郎

地下資源調査所職員 (昭和23年3月末日現在)

所 商 工 技 官 第 一 部 第 一 課 長 官	三土知芳	同	宮本弘道	同	立石哲夫
	三土知芳	同	高島彰	同	森喜丸
	三土知芳	同	安齋俊男	同	小尾中徳
	三土知芳	同	肥田昇介	嘱託	市川金三郎
	三土知芳	同	伊藤昌介	同	齋藤友三郎
	三土知芳	同	伊藤昌介	同	村岡秀記
	三土知芳	同	伊藤昌介	同	下河原達哉
	三土知芳	同	伊藤昌介	同	助川竹司
	三土知芳	同	伊藤昌介	同	本間一郎
	三土知芳	同	伊藤昌介	同	金子徹一
第一課長 商工技官	松沢勳	同	兼子勝	同	遠藤六郎
第一課長 商工技官	竹原平一	同	金原均二	同	鐵羅和夫
同	小林勇	同	藤原健一	同	野口勝八
同	梅沢邦臣	同	沢田秀穂	同	小池正博
同	沢村孝之助	同	林昇一郎	同	岡田信彦
同	内藤貞夫	同	松井寛	同	尾原親孝
同	齋藤正次	同	小西泰次郎	同	山田隆基
同	東郷文雄	同	小野暎章	同	渡辺武夫
同	中村顯三	嘱託	石和田靖章	同	虎岩達夫
同	大和榮次郎	同	大江二郎	嘱託	深沢邦武
第二課長 商工技官	近藤信與	同	科野房三	同	遠藤六郎
第二課長 商工技官	河野義礼	同	品田芳二郎	同	佐藤東一
同	平山健	同	大山桂	同	野神万寿雄
同	広川治博	同	佐藤恭	同	北岡末旺
同	小出博忠	同	三土知芳	同	正岡直義
同	小池正由	同	飯田汲事	同	加來一郎
同	中村久夫	同	佐藤光之助	同	安室豊雄
同	長浜春武	同	福永三郎	同	秋本龍雄
同	安藤清雄	同	早川正巳	同	小塚勝弘
同	河田重元	同	岩崎章二	同	秩父武志
同	磯見博功	同	室住正義	同	眞鍋勝郎
同	磯見博功	同	金子純夫	同	松崎美房
第二部長 商工技官	坪谷幸六	同	金子純夫	同	菊地清四郎
第二部長 商工技官	坪谷幸六	同	廣沢経夫	同	美濃和義三郎
第一課長 商工技官	片山信夫	同	柴野二郎	同	大塚寅雄
第一課長 商工技官	岩生周一	同	小尾五明	同	関口俊太
同	木村正義	同	小島整志	同	藤村豊吉
同	大島敬五郎	同	村上義朗	同	
同	井島信五郎	同	九里尙一	嘱託	
同	上野三義	同	白土忠利	同	
同	下村仁作	同	栗原重利	同	
嘱託	下村仁作	同	杉山友紀	同	
	下村仁作	同	蜷川親治	同	

囑託	杉本次一	商工事務官	秩父武志	囑託	福井信雄
同	佐藤和男	大阪出張所 所長 商工技官	別所文吉	同	佐藤信義
分析試験課	平塚隆治	所長 商工技官	浜野一次	同	青柳清達
分析試験課長	竹田栄藏	商工技官	甲藤井三	同	虎岩集院
商工技官	磯野清三	同	福河合正	同	伊集田範明
同	藤谷吉博	同	尾崎次	同	小佐藤和九
同	金子與之助	同		同	原口木秀雄
同	石田一雄	福岡出張所 所長 商工技官	橋本克己	同	東原信彦
同	齋藤節郎	商工技官	和田利雄	同	尾原松
同	関加	同	向井清忠	同	小山田勇吉
測図課	飯山敏春	同	浜地種保	同	須貝貫豊
測図課長	小松直藏	囑託	原田井保	同	藤本間右
商工技官	森守之助	同	工藤広	同	福吉長
同	野口保夫	仙台出張所 所長 文部教官(兼)		同	太田良平
同	藤本辨藏	商工技官	八木次男	同	西村嘉四郎
同	金子源三郎	同	早川裕政	同	中村海親
同	草橋本己代治	同	舟山屋原直	同	奥柳花栄
同	磯橋嘉一郎	同	菅原福	同	立河内一
同	高木重文	同	北村邦清	同	伊岩間藤
同	小宮利夫	囑託	石井清彦	同	佐藤水
同	萱間泰雄	名古屋駐在員		同	清沢邦武
同	堀本健次	商工技官	千藤忠昌	同	深田栄藏
同	加美時寛郎	四国駐在員		同	小林猪之助
同	鈴木俊雨郎	調査員	菊地徹	同	村岡秀記
同	窪木時雨郎	広島駐在員	加藤信	同	塚脇祐啓
同	茅山芳平	調査員		同	田中杉武
同	小谷野長也	炭田開発調査職員	渡辺武夫	同	久保野
同	清水道也	囑託	三田近福	同	細清島
同	宮沢力雄	同	村田福克	同	陶山二
囑託	村上宇義	同	沢本克隆	同	石原下
同	船倉芳丸	同	浜松本隆	同	竹川
同	高野	同	村岡誠	同	古川
同		同	高橋博	同	河野迪
同		同	助川竹	同	山田隆
同		同	藤井尊	同	久松將
札幌出張所 所長 文部教官(兼)	原田準平	同		同	久松將四郎
商工技官	小関幸治	同		同	

(2) 会 計

昭和 22 年度商工省主官経費決算報告

商工省地下資源調査所

款 目	項 節	予 算 額	予 算 決 定 後 増 加 額	流 用 増 減 額 △印は減	予 算 現 額	支 出 済 額	不 用 額	備 考
産 業 経 済 費								
鉱 業 費		24,089,540 00			24,089,540 00	23,571,304 04	518,235 96	
地下資源調査所		9,972,540 00			9,972,540 00	9,713,049 16	259,490 84	
官 吏 給		1,356,900 00			1,356,900 00	1,243,349 51	113,550 49	
1 級 給		36,000 00			36,000 00	27,800 00	8,200 00	
2 級 給		772,800 00			772,800 00	680,498 04	92,301 96	
3 級 給		548,100 00			548,100 00	535,051 47	13,048 53	
給 料		902,640 00			902,640 00	847,346 74	55,293 26	
嘱 託 給		6,600 00		220,430 95	277,030 95	227,030 95	0 —	
雇 員 給		595,080 00			595,080 00	548,786 11	46,293 89	
傭 入 給		300,960 00		△ 220,430 95	80,529 05	71,529 68	8,999 27	
手当および給与金		232,050 00			232,050 00	231,650 00	395 00	
勤務地手当		218,800 00		5,315 00	224,115 00	224,115 00	0 —	
謝金および賞与金		13,250 00		△ 5,315 00	7,935 00	7,540 00	395 00	
賃 金		166,650 00			166,650 00	164,633 75	2,016 25	
人 夫 給		53,310 00		111,323 75	164,633 75	164,633 75	0 —	
工 員 給		113,340 00		△ 111,323 75	2,016 25	0 —	2,016 25	
旅 費		1,696,690 00			1,696,990 00	1,691,609 21	5,380 79	
普 通 旅 費		1,696,990 00			1,696,990 00	1,691,609 21	5,380 79	
消 耗 品 費		1,939,000 00		445,254 22	2,384,254 22	2,384,254 22	0 —	
文 具 費		304,370 00		695,253 21	999,605 21	999,605 21	0 —	
燃 料 費		34,020 00		258,529 64	292,549 64	292,549 64	0 —	
消 耗 器 材 費		1,541,660 00		△ 499,770 35	1,041,889 65	1,041,889 65	0 —	
被 服 費		5,700 00		△ 3,058 00	2,642 00	2,642 00	0 —	
食 糧 費		53,250 00		△ 5,682 28	47,567 82	47,567 72	0 —	
役 務 費		1,663,620 00		△ 174,645 56	1,488,974 44	1,488,974 44	0 —	
印 刷 製 本 費		549,080 00		△ 328,590 55	220,489 45	220,489 45	0 —	
光熱および水料		26,860 00		53,283 47	80,143 47	80,143 47	0 —	
通 信 費		218,410 00		△ 161,167 10	57,242 90	57,242 90	0 —	
運 搬 費		63,250 00		170,466 95	233,716 95	233,716 95	0 —	
修 繕 料		129,170 00		263,858 17	393,028 17	393,028 17	0 —	

款 項 目 節	予 算 額	予 算 決 定 後		流 用	予 算 現 額	支 出 済 額	不 用 額	備 考
		増 加 額	額	増 減 額 △印は減				
廣 告 料	13,250 00			△ 12,145 00	1,105 00	1,105 00	0 —	
借料および損料	13,250 00			7,290 00	20,540 00	20,540 00	0 —	
筆 耕 料	39,750 00			△ 15,657 00	24,093 00	24,093 00	0 —	
購 訳 料	10,600 00			△ 9,700 00	900 00	900 00	0 —	
請 負 費	600,000 00			△ 142,284 50	457,715 50	457,715 50	0 —	
備 品 費	1,324,690 00			55,093 57	1,379,783 57	1,379,783 07	50	
庁用器具費	609,860 00			525,695 72	1,135,585 72	1,135,585 72	0 —	
事業用器具費	698,800 00			△ 454,602 15	244,197 85	244,197 35	50	
自動車購入費	16,000 00			△ 16,000 00	0 —	0 —	0 —	
原 材 料 費	650,000 00			△ 325,702 23	324,297 77	249,493 22	74,804 55	
セメント費	45,800 00				45,800 00	23,138 25	22,661 75	
鋼 材 費	80,000 00				80,000 00	50,696 72	29,303 28	
木 材 費	321,000 00			△ 245,009 95	75,990 05	75,990 05	0 —	
諸 資 材 費	203,200 00			△ 80,692 28	122,507 72	99,668 20	22,839 52	
施 設 費	40,000 00				40,000 00	31,950 00	8,050 00	
機械購入費	40,000 00				40,000 00	31,950 00	8,050 00	
石炭増産対策費	14,117,000 00				14,117,000 00	13,858,254 88	258,745 12	
給 料	1,312,980 00				1,312,980 00	1,135,544 42	177,435 58	
嘱 託 給	1,006,120 00			△ 4,666 66	1,001,453 34	824,017 76	177,435 58	
雇 員 給	306,860 00			4,666 66	311,526 66	311,526 66	0 —	
賃 金	4,304,600 00			△ 800,000 00	3,504,600 00	3,426,989 25	77,610 75	
人 夫 給	4,304,600 00			△ 800,000 00	3,504,600 00	3,426,989 25	77,610 75	
旅 費	4,563,450 00			350,000 00	4,913,450 00	4,911,528 50	1,921 50	
普 通 旅 費	4,563,450 00			350,000 00	4,913,450 00	4,911,528 50	1,921 50	
消 耗 品 費	1,944,357 00			200,000 00 △ 269,046 89	1,875,310 11	1,875,310 11	0 —	
文 具 費	536,220 00			90,000 00 117,461 10	743,681 10	743,681 10	0 —	
燃 料 費	30,000 00			30,000 00 △ 4,042 53	55,957 47	55,957 47	0 —	
消 耗 器 材 費	904,447 00			80,000 00 △ 3,749 96	980,697 04	980,697 04	0 —	
被 服 費	411,690 00			△ 331,695 50	79,994 50	79,994 50	0 —	
食 糧 費	62,000 00			△ 47,020 00	14,980 00	14,980 00	0 —	
役 務 費	1,691,613 00			△ 100,000 00 396,467 14	1,395,145 86	1,393,368 57	1,777 29	

款 項 目 節	予 算 額	予 算 決 定 後 増 加 額	流 用 増 減 額 △印は減	予 算 現 額	支 出 済 額	不 用 額	備 考
印刷製本費	361,843 00		△ 225,806 80	136,036 20	136,036 20	0 —	
光熱および水料	0 —		61,332 69	61,332 69	61,332 69	0 —	
通 信 費	76,100 00		△ 48,777 20	27,322 80	27,322 80	0 —	
運 搬 費	137,400 00		△ 45,794 90	61,605 10	91,605 10	0 —	
			40,000 00				
修 繕 料	251,800 00		△ 20,472 64	271,327 36	269,550 07	1,277 29	
			60,000 00				
借料および損料	818,470 00		△ 91,483 29	786,986 71	786,986 71	0 —	
筆 耕 料	46,000 00		△ 25,465 00	20,535 00	20,535 00	0 —	
備 品 費	300,000 00		150,000 00				
			665,514 03	1,115,514 03	1,115,514 03	0 —	
庁用器具費	86,160 00		100,000 00				
			351,493 65	537,653 65	537,653 65	0 —	
事業用器具費	213,840 00		50,000 00				
			314,020 38	577,860 38	577,860 38	0 —	
行政共通費							
諸 出 金							
諸 出 金	14,181,130 00			14,181,130 00	13,447,462 55	733,667 45	
手当および給支金	4,825,830 00			4,825,830 00	4,472,441 00	353,388 72	
家族手当	1,362,700 00			1,362,700 00	1,296,750 00	65,950 00	
臨時定員外職員 給 補 填 金	8,000 00			8,000 00	6,357 88	1,642 12	
退官退職手当	80,130 00			80,000 00	69,380 00	10,750 00	
超過勤務手当	295,000 00		107,568 40	402,568 40	402,568 40	0 —	
特 別 手 当	3,073,000 00		△ 119,568 40	2,953,431 60	2,678,385 00	275,046 60	
石 炭 手 当	7,000 00		12,000 00	19,000 00	19,000 00	0 —	
旅 費	581,000 00			581,000 00	420,854 40	160,145 60	
受 託 旅 費	581,000 00			581,000 00	420,854 40	160,145 60	
給与特別措置費	8,774,300 00			8,774,300 00	8,554,166 87	220,133 13	
給与特別措置費	8,774,300 00		△ 1,340,142 05	7,434,157 95	7,214,024 82	220,133 13	
勤務地手当	0 —		1,340,142 05	1,340,142 05	1,340,142 05	0 —	
官庁営繕費	1,000,000 00	388,852 00		1,388,852 00	1,388,438 65	413 35	
補 修 費	1,000,000 00	388,852 00		1,388,852 00	1,388,438 65	413 35	
役 務 費	1,000,000 00	388,852 00		1,388,852 00	1,388,438 65	413 35	
請 負 費	1,000,000 00	388,852 00		1,388,852 00	1,388,438 65	413 35	

(以上昭和22年度事業報告終り)

昭和 23 年度

I 官制及び機構

昭和 23 年 8 月 1 日、政令第 201 号により工業技術庁設置法施行され、地質調査所となる。

同第 8 條、地質調査所は川崎市にこれを置く。

2、地質調査所は、地質および地下資源の調査ならびに、これに関する研究、技術指導、その他これに附帯する業務を行う。

同第 24 條、地下資源調査所官制（昭和 15 年 勅令第 667 号）はこれを廃止する。ただし従來の機関およびその職員は、この政令に基く相当の機関およびその職員となり、同一性をもつて存続するものとする。

別表 9 地質調査所

級 別 職員の種類	2 級	3 級	計	備 考
商 工 事 務 官	1	人	1	2 級の商工技官のうち 2 人を 1 級とすることができるとする。
商 工 技 官	61	人	61	
商工事務官または商工技官		93	93	
計	62	93	155	

II 事 業

本 所 関 係

1. 地 質 調 査 (地 質 部)

i) 図 幅 調 査

1: 75,000 図幅地質調査

Sheet No.	図 幅 名	調 査 地	担 当 者	備 考
82	塩 原	栃木県 塩谷郡, 那須野	岩生周一, 今井 功	未 完
91	長 野	長野県 更級郡, 上永内郡	小林 勇, 大山 桂	〃
103	諏 訪	長野県 岡谷市, 諏訪市, 東筑摩郡	沢村孝之助, 大和栄次郎	〃
124	沼 津	山梨県 南巨摩郡 静岡県 榛原郡	沢村孝之助, 松 沢 勲	〃
143	船 津	岐阜県 吉城郡	野 沢 保, 村山正 郎 沢村孝之助, 小 出 博	〃
172	秋 葉 山	静岡県 磐田郡 愛知県 八名郡	齊 藤 正 次, 磯 見 博 上村不二雄	〃
204	松 江	島根県 松江市, 八束郡, 能義郡	中 村 颯 三, 梅 沢 邦 臣 砂 川 一 郎, 渡 辺 和 衛	〃
206	生 野	兵庫県 姫路市, 神崎郡, 養父郡 宍粟郡, 朝来郡	東 郷 文 雄, 松 原 秀 樹 村 山 正 郎	〃
230	徳 島	大阪府, 神戸市, 高知市, 香川県 大田郡, 大川郡, 徳島県 板野郡, 徳島市	平 山 健, 田 中 啓 策 松 沢 勲	完 了
231	脇 町	徳島県	平 山 健	未 完
	1: 500,000 京 都	地質図幅編纂	飯 山 敏 春, 田 中 啓 策	

ii) その他の地質調査

種 別	調 査 地	担 当 者
土 木 地 質	新潟県北蒲原郡	菊地清四郎
水 地 下 害 水	福島県岩瀬郡, 石城郡	中村久由
//	静岡県賀茂郡	小池正忠
温 泉・地 熱	静岡県熱海	小池正忠, 中村久由
//	宮城県仙台市, 柴田郡 福島県信夫郡, 鹿角郡	安藤 武
//	宮城県玉造郡鬼首 福島県耶麻郡	中村久由
//	大分県別府市	近藤信興
災 害	栃木県上都賀郡	小出 博, 河田清雄
//	群馬県山田郡, 利根郡, 勢多郡,	菊地清四郎
//	群馬県利根郡	小出 博
鉱 物	福島県安達郡	砂川一郎, 近藤信興
//	山梨県中巨摩郡	松原秀樹
//	青森県弘前 秋田県仙北郡	砂川一郎
岩 石	北海道札幌郡, 茅渚郡	河野義礼
//	岩手県上閉伊郡	小出 博
//	茨城県久慈郡	広川 治
//	茨城県結城郡, 日立市	大塚寅雄
//	千葉県安房郡	広川 治
//	静岡県志太郡, 引佐郡	松井和典
//	石川県能登郡 鳥取県西伯郡	河野義礼
//	京都府加茂郡	小出 博, 河田清雄
//	愛知県豊橋市	広川 治
//	熊本県飽託郡	太田良平
耐 火 粘 土	福島県双葉郡	平山 健
蠟 石	岡山県和泉郡 兵庫県出石郡	安藤 武, 菊地清四郎
石炭, 地質構造	福島県平, 信夫郡 岡山県津山	陶山国男, 河野義礼
石 材	福島県南会津郡 群馬県北甘楽郡	太田良平
//	宮城県石巻 岩手県上閉伊郡	広川 治
//	愛知県南設楽郡	菊地清四郎, 安藤 武
土 質	佐賀県東松浦郡, 藤津郡	近藤信興

2. 鋁床調査(鋁床部)

i) 金 属

種 別	調 査 地	担 当 者	
金 銀	福島県安達郡, 高玉鋁山	佐藤 恭	
〃	群馬県利根郡	片山信夫 他2名	受託
砂 金	岩手県九戸郡	佐藤 恭	〃
鉛・亜鉛	秋田県山本郡, 太良鋁山 新潟県岩船郡 岐阜県吉城郡, 神岡鋁山	伊藤昌介 他1名	
鉄明礬石	熊本県阿蘇, 岐阜県郡上郡 長野県下高井郡, 横手山	片山信夫 他1名	
硫化鉄	青森県 花輪・小坂・上北鋁山 秋田県	科野房三	
〃	福島県南会津郡, 田島鋁山	〃	受託
〃	静岡県磐田郡	吉田善亮	
〃	高知県土佐郡 愛媛県宇摩郡	吉田善亮, 小村幸二郎	
黒鋁・硫化鉄 硫 黄	福島県大宮鋁山 岩手県岩手郡, 松尾鋁山	科野房三	
〃	山形県南置賜郡 岩手県二戸郡	片山信夫	受託
地下資源一般	石川県能登	木村 正 他2名	〃

ii) 非 金 属

種 別	調 査 地	担 当 者	
耐火粘土	岩手県下閉伊郡	村岡 誠 他1名	
〃	新潟県岩船郡	岡野武雄 他1名	
〃	愛知県瀬戸市, 三重県阿山 岐阜県恵那郡	大江二郎 他1名	
蠟 石	山口県阿武郡 静岡県加茂郡	岩生周一 他1名	
陶石・蠟石	石川県金沢 長野県下高井郡	木村 正 他2名	
陶石・長石	新潟県 西頸城郡 北蒲原郡三光	岩生周一, 下村仁作	受託
陶 石	秋田県平鹿郡 熊本県天草郡	上野三義	
陶石・カオリン	愛媛県温泉郡中島陶石 兵庫県出石郡 天田郡夜久野陶石	〃	
カ オ リ ン	山形県最上郡 岡山県久米郡神目カオリン	〃	受託
耐火粘土 カ オ リ ン	福岡県八女郡	村岡 誠	
陶石・珪石・長石	山形県東置賜郡	上野三義	
珪 石	高知県吾川郡	安齋俊男	

種 別	調 査 地	担 当 者	
珪 石	新潟県北魚沼郡入広瀬	安齋俊男, 富田光孝	
珪 石・長 石	岐阜県深戸鉾山 滋賀県中津鉾山, 南部鉾山, 三雲鉾山	安齋俊男	
燐 鉍	石川県能登郡, 七尾郡, 鹿島郡	林 昇一郎	
黒 鉛	北海道音調津	安齋俊男	
〃	富山県上新川郡	岡野武雄	受 託
石 綿	北海道空知郡	肥田 昇	
〃	熊本県下益城	村岡 誠	
滑 石	福島県高玉郡 岩手県上閉伊郡 高知県土佐郡 岡山県上房郡 愛媛県宇摩郡	坪谷幸六	
絹 雲 母	茨城県日立市 奈良県宇陀郡	岩生周一	
蛇紋岩・橄欖岩	埼玉県入間郡 群馬県北甘楽郡	肥田 昇	

3. 燃 料 調 査 (燃 料 部)

i) 炭 田 関 係

種 別	調 査 地	担 当 者	
粘 結 炭	北海道空知郡歌志内	須貝寛二 他2名	受 託
〃	〃 〃 芦別	松井 寛 他1名	
〃	新潟県西頸城郡小瀧炭鉾	河野迪也, 河内英幸	
〃	石川県能美郡手取炭鉾	小西泰二郎, 小松 疆	
〃	長崎県北松	松本隆一 他1名	
〃	〃 江迎	沢田秀穂 他3名	
〃	〃 大島	春城清之助 他2名	
〃	〃 鹿町	安原彰一 他2名	
瀝 青 炭	北海道空知郡赤平	一杉武治 他2名	受 託
〃	〃 勇拂郡占冠	佐藤 茂 他2名	
〃	〃 空知郡砂川一ノ沢	清水 勇 他2名	
〃	〃 〃 山辺炭田	稻井信夫 他1名	受 託
〃	〃 〃 奈井江	沢田秀穂 他1名	〃
〃	〃 白糠郡	春城清之助 他1名	〃
〃	〃 空知郡南奈井江	沢田秀穂 他1名	〃
〃	〃 〃 山辺炭田	〃 他1名	〃
〃	福島県双葉郡久の浜	松井 寛 他1名	
〃	長崎県三間坂	須貝貫二 他1名	

種 別	調 査 地	担 当 者	
瀝青炭・亜炭	北海道宗谷郡浅茅野北部	青柳信義	受 託
亜 炭	山形県最上郡舟形	徳永重元	
〃	〃 北村山郡大高根	河野迪也	
〃	岐阜県養老郡多良	松本隆一	
〃	愛知県東春日井郡坂下	〃 他1名	
〃	高知県安芸郡奈判利	稻井信雄	

ii) 油 田 関 係

種 別	調 査 地	担 当 者	
油 田	北海道中川郡守平志内川流域	井島信五郎 他3名	受 託
〃	新潟県北蒲原郡中頸城郡	石和田靖章, 三梨 昂	〃
〃	新潟県南魚沼郡二日町	金原均二 他1名	〃
〃	富山県上新川郡笹津上瀧	小野 暎, 伊田一善 牧野登喜男, 安国 昇	〃
天 然 気	千葉県茂原, 二宮, 本郷, 一宮	兼子勝, 金原均二, 小野暎 本島公司 他10名	受 託
〃	静岡県清水	藤原健一 他2名	
〃	福井県坂井郡九頭龍川沿岸	本島公司	
〃	三重県, 愛知県	篠山昌市	

4. 物 理 探 鉱 調 査 (物理探鉱部)

種 別	調 査 地	担 当 者	方 法	
地 下 水	鳥取県大山西麓	金井光明, 陶山淳治, 細野武男	比抵抗法 電気探鉱	受託
銅	徳島県名西郡次郎銅山	室住正義, 本間一郎, 杉山光術	比抵抗法) 電磁気 自然電位法) 探鉱	
黒 鉱	北海道後志国国富	金子 純 他3名	〃 電気探鉱	
〃	福島県南会津郡, 大沼郡	室住正義 他2名	〃 〃	
黒 鉛	北海道十勝国音調津	佐藤光之助, 柴藤喜平 他2名	〃 電磁気探鉱	
粘 結 炭	北海道空知国石狩平野	早川正巳, 立石香夫 他5名	屈折式地震探鉱	受託
〃	〃 〃 夕張郡	早川正巳 他5名	〃	〃
瀝 青 炭	山口県宇部海底炭田	飯田汲事, 白土 忠, 市川金徳 鈴木 実, 小川健三, 広沢経夫	〃	〃
〃	福岡県小倉若松海底炭田	金子徹一, 村岡秀記, 森喜義 小尾五明, 池田 勝	〃	〃
亜 炭	岐阜県土岐郡	柴藤喜平 他2名	比抵抗法 電気探鉱	
〃	愛知県西加茂郡拳母亜炭田	金子 純 他2名	〃	
〃	岐阜県惠那郡瑞浪亜炭田	金子 純 他1名	〃	受託

種 別	調 査 地	担 当 者	方 法	
油 田	秋田県由利郡金浦町	栗原重利 他4名	反射地震探鉱	受託
〃	山形県飽海郡平田	岩崎章二, 二日市 宏 齋藤友三郎	放射能探鉱	
〃	新潟県西蒲原郡, 新潟平原	村上義朗, 片寄邦之 他3名	重力偏差計探鉱	受託
〃	静岡県清水市	藤原健一 他1名	地化学探鉱	〃
天然ガス	〃 焼津	岩崎章二 他2名	放射能探鉱	〃

5. 試 錐 (技術部)

種 別	調 査 地	担 当 者	進 渉 状 況	備 考
地 熱	大分県別府市南豆白瀧温泉	山崎満寿雄 他 3名	完 了 110.00×1孔	廻転式
硫 化	秋田県鹿角郡小坂町	山崎満寿雄 外 1名	完 了 延100.75×3	〃
蠟 石	長野県下高井郡平隠村	小池正八 他 2名	完 了 延112.30×5	〃
石 炭	山形県西田川郡豊浦村多泊	三輪勝彦	完 了 101.20×1	廻転式(請負工事)
〃	福島県石城郡渡辺村常磐炭田, 矢郷炭礦	杉本良平	完 了 412.98×1	〃 〃
〃	島根県八束郡竹矢村津田	柳原親孝 他 1名	完 了 延222.30×2	廻転式
〃	長崎県佐世保市日野町	藤本 満	完 了 300×1	〃 (請負)
〃	山形県最上郡舟形村鮭延炭礦	鳥井敏男	完 了 103.40×1	〃 (請負)
〃	愛知県東春日井郡篠岡村福寿炭礦	小島 清	完 了 181.25×1	〃 (請負)
〃	三重県員辨郡十社村東貝野十社炭礦	柳原親孝	完 了 59.00×1	廻転式
油 田	秋田県由利郡小池村地内	小池正八 他 3名	完 了 延 79.65×11	廻転式(受託)
〃	静岡県榛原郡相良町	小山秀雄	完 了 135.30×1	〃 (請負)
天然ガス	新潟県岩船郡岩船町八日市	藤倉孝次 他 2名	完 了 延257.60×2	〃
〃	静岡県清水市入江町元追分	金牧留吉	完 了 254.85×1	〃

6. 測 図 (技術部)

i) 測 量

種 別	調 査 地	担 当 者	進 渉 状 況	備 考
地 下 水	鳥取県日野郡	久保昌夫	完了	1: 3,000 電気探鉱
温 泉	宮城県玉造郡	大竹重吉	〃	1: 2,000 トランシット平板
銅	福島県南会津郡	堀本健次	〃	1: 5,000 1:1,000 電気探鉱 トランシット

種 別	調 査 地	担 当 者	進 渉 状 況	備 考
鉄	長野県下高井郡	小川 清	完了	1: 1,000 1: 500 平 板
鉛・亜鉛	徳島県名西郡	堀本健次, 井上正文	〃	1: 2,000 電気探鋇板
黒鉛	北海道広尾郡	福吉長雄	〃	1: 1,000 〃
〃	富山県上新川郡	大竹重吉	〃	1: 1,000 電気探鋇 トランシット
石灰岩	岩手県下閉伊郡	長岡東洋男	〃	1: 3,000
粘土	岐阜県恵那郡	小川 清	〃	1: 2,500 平 板
耐火粘土	新潟県岩船郡	小川 清	〃	1: 1,000 〃
陶土	熊本県天草郡	岡 重文	〃	1: 5,000 1: 2,000 平 板
粘結炭	長崎県北松浦郡	加々美時寛, 石橋嘉一 福吉長雄, 佐藤純三, 佐藤優	〃	1: 5,000
瀝青炭	北海道夕張郡	磯 己代治, 桑形久夫	〃	1: 10,000 地震探鋇 トランシット平板
〃	北海道宗谷郡	茅山芳夫, 佐藤純三, 石川和正	〃	1: 10,000
〃	北海道宗谷郡	高 木, 小泉恒男	〃	1: 5,000 平 板
〃	北海道室知郡	桂島 茂 加々美時寛, 松 田	〃	1: 3,000 1: 10,000 平 板
〃	〃	小野 寺, 立 花	〃	1: 5,000 平 板
〃	〃	小谷野長平, 磯 己代治	〃	1: 5,000 〃
〃	〃	金 子, 石原二郎	〃	1: 5,000 〃
〃	北海道留萌	窪木時雨郎, 田村喜志	〃	1: 3,000 平板トランシット
〃	北海道勇拂郡	藤本辨藏, 佐藤 優	〃	1: 10,000 平 板
〃	山形県最上郡	高田 清, 原田盛夫	〃	1: 5,000 〃
〃	新潟県西頸城郡	宮沢芳紀, 中村勳男	〃	1: 5,000 平板トランシット
〃	岡山県上川郡	清水道也	〃	1: 5,000 平 板
〃	山口県美彌郡	川野辰夫	〃	1: 5,000 〃
〃	山口県宇部市	橋本与太郎, 相原, 須藤 佐々木次男	〃	1: 10,000 地震探鋇 トランシット
〃	福岡県若林市	船倉義彦, 横江一男 小張 孝, 宇野沢 昭	〃	地震探鋇
亜 炭	山形県最上郡	宮沢芳紀, 中村勳男, 小川清	〃	1: 5,000 平 板
〃	石川県能美郡	久保昌夫	〃	1: 5,000 〃
〃	岐阜県土岐郡	細井力雄	〃	電気探鋇
〃	岐阜県	細井力雄, 村上宇吉	〃	1: 10,000 1: 1,000 平 板
〃	愛知県東春日井郡	岡 重文, 土屋近造	〃	1: 10,000
〃	島根県松江	土屋近造	〃	1: 10,000 平 板
〃	島根県八束郡	野口保夫, 川野辰夫	〃	1: 10,000 〃
石 油	北海道中川郡	西村嘉四郎, 川野辰夫	〃	1: 5,000 〃
〃	秋田県由利郡	長岡東洋男, 横江一男	〃	1: 10,000 地震探鋇 平板
〃	山形県飽海郡	石橋嘉一, 須 藤	〃	1: 5,000 ラ ン 平 板

種 別	調 査 地	担 当 者	進 渉 状 況	備 考
ガ ス	新潟県西蒲原郡	安藤高明, 西村嘉四郎	完了	1:10,000 重力探鋇板
〃	静岡県志太郡	村上宇吉	〃	放射能探鋇板
〃	静岡県志太郡	田村喜志	〃	1:15,000 地化学探鋇トランシット平板
〃	静岡県榛原郡	細井力雄	〃	1:5,000 地化学探鋇板

ii) 製 図

1:75,000 地質図幅

Sheet No.	図 名	担 当 者	進 渉 状 況
123	熱 海	小 宮 利 夫	30%
231	脇 町	萱 間 泰 雄	20%
124	沼 津	高 木 二 郎	20%

鋇床関係図 87図 小宮利夫, 萱間泰雄, 草深源三郎
高木二郎, 江田益男, 藤谷久七
小川清澄, 和田林藏, 鈴木俊郎
小林正夫, 坪井清吉, 松本静男
石附実, 鈴木英子

燃料関係図 21図 〃 〃 〃
物理探鋇関係図 14図 〃 〃 〃
特殊図 12図 〃 〃 〃

7. 分 析 (技 術 部)

i) 所内依頼分析の種類および件数

種 類	個 数	成分数	種 数	個 数	成分数
銅・鉛・亜鉛鋇	48	160	長 石	10	79
鉄 鋇	39	109	磷 鋇	42	109
マ ン ガ ン 鋇	8	17	黒	20	79
鉄 明 礬 石	186	1,096	石 灰 石	4	7
明 礬 石	5	18	苦 灰 石	2	10
硫 黄・硫 化 鋇	54	80	石 綿	5	36
粘 土	68	447	滑 石	9	51
蠟 石	3	10	石 膏	103	498
陶 石	18	130	砒 鋇	23	69
珪 石	9	50	油 母 頁 岩	6	26

種 類	個 数	成 分 数	種 類	個 数	成 分 数
鉍 水	62	236	重 炭	379	2,829
岩 石	26	238	天 然 ガ ス	19	74
鉍 物	33	122	雜	9	23
石 炭	405	3,404	計	1,595	10,007

ii) 研究および実験

珪酸塩鉍物中のカリ迅速定量法の研究

関根節郎

鉄明礬石の利用に関する研究

竹田栄藏

工業標準調査会、鉍産物分析委員会における規格制定に関する研究および実験

平塚隆治

iii) 外 業

調 査 項 目	調 査 地	担 当 者
沈 澱 銅	秋 田 県	関根節郎, 望月常一, 比留川貴
亜鉛・銅 製煉及び分析	群 馬 県, 栃 木 県	藤谷吉三, 内田芳年
石 膏 型 材	富 山 県, 岡 山 県	石田與之助
工業標準調査会	大 阪 市	平塚隆治
金・銀・銅製煉及び分析	茨 城 県	加藤甲壬

8. 資 料

i) 行 物

	No.	題 名	著 者 (調査研究者)	発行年月	備 考
地質調査所報告	126	大分県東国東郡姫島玻璃質岩石中の斑晶硬石膏	河野義礼	23. 3.30	
〃	127	新潟県西頸城郡柵口地入り調査報告	小出 博	23. 9.10	
〃	128	秋田県花岡鉍山調査報告	科野房三	23. 9.30	
地質調査所速報	50	秋田県松岡鉍山の軟質陶石調査	岩生周一	23. 4.	
〃	51	吾妻火山群北東周辺の褐鉄鉍床に伴う鉄明礬石及び黄土について	広川 治	23. 6.	
〃	52	岐阜県明方鉍山鉄鉍調査	高 島 彰	23. 5.	
〃	53	岐阜県赤坂鉍山鉄鉍調査	〃	23. 5.	
〃	54	秋田県花輪鉍山調査	科野房三	23. 5.	
〃	55	石川県服部陶石鉍床調査	上野三義	23. 7.	
〃	56	長野県南佐久郡長野陶石鉍床調査	大島敬義	23. 7.	
〃	57	北海道後志国広尾鉍山 鉛・亜鉛鉍床調査	伊藤昌介	23. 7.	
〃	58	福島県戸沢高野及び芦沢村の白珪石長石鉍床調査	安齊俊男	23. 7.	
〃	59	長崎県長浦石綿鉍山の滑石鉍床調査	浜地忠男	23. 8.	

	No.	題名	著者 (調査研究者)	発行年月	備考
地質調査所速報	60	長野県諏訪鉄山の含水燐酸鉄鉱床調査	菊地 徹	23. 8.	
"	61	北海道知床半島宇登呂鉱山附近の地質及び鉄床	伊藤昌介	23. 8.	
"	62	兵庫県青倉鉱山銅鉛亜鉛鉄床調査報告	別所文吉 福井三郎 尾崎次男	23. 8.	
"	63	福島県木戸村及び広野村の耐火粘土調査	平山 健	23.10.	
"	64	岩手県下閉伊郡大理石調査報告	小出 博	23. 9.	
"	65	長崎県対州の白土及び陶石調査報告	岩生周一	23. 9.	
"	66	岡山県奥津「カオリン」鉄床調査報告	上野三義	23.10.	
"	67	宮崎県青島附近の天然瓦斯地質調査報告	伊田一善	23.10.	
"	68	群馬県利根鉱山鉄鉱概査報告	高 島 彰	23.11.	
"	69	岡山県下の土状黒鉛鉄床概査	安齊俊男	23.11.	
"	70	秋田県南秋田郡脇本地方重力探鉄調査報告	村上義朗	23.12.	
"	71	福島県与内畑鉄山電気探鉄調査報告	飯田淑事 金井光明	23.12.	
"	72	島根県都野津鉄山砒鉄床調査報告	佐藤 恭	24. 1.	
"	73	静岡県志太郡天然ガス化学探鉄調査報告	下河原達哉	24. 2.	
"	74	山口県下の土状黒鉛鉄床概査報告	安齊俊男	24. 2.	
"	75	大分県別府地熱調査報告(第一報)	近藤信興	24. 2.	
"	76	大分県別府地熱調査報告(第二報)	"	24. 2.	
"	77	岩手粘土調査概報	村岡 誠	24. 2.	
"	78	新潟県中蒲原郡, 西蒲原郡, 新潟平地重力探鉄調査	村上義朗	24. 2.	
"	79	北海道松前陶石概査報告	安齊俊男	24. 3.	
"	80	新潟県入広瀬爐材珪石鉄床調査報告	"	24. 3.	
地質調査所 炭田速報	23	山形県最上炭田新庄地区調査速報	舟山裕士	23. 7.	
"	24	北海道中川炭田安平志内川流域地区調査報告	井島信五郎	23. 9.	
"	25	北海道天北炭田鬼志別地区調査速報	山口 定	23. 4.	
"	26	地下資源調査所炭田調査の概況 21, 22 年度		23. 7.	
"	27	山形県西田川炭田由良三瀬地区調査報告	清水 勇	23.11.	
"	28	北海道石狩炭田新登川地区調査報告	須貝貫二	23.11.	
"	29	山部炭田金山地区調査報告	稻井信雄	24. 3.	
"	30	佐賀炭田三間坂地区調査速報	"	24. 3.	
"	31	新潟県西頸城郡小瀧炭田調査速報	河野迪也	24. 3.	

再版の分	No.	題名	著者 (調査研究者)	発行年月 再版	備考
1: 75,000 地質図	Sheet No. 225号	高松地質図	佐藤源郎	10. 2. 7 23. 9. 15	
同上説明書	225号	同 地質説明書	"	11. 3. 27 23. 12. 19	

ii) 図書交換, 寄贈, 購入

国内の官庁, 大学, 学会, 博物館等の交換先から出版物の寄贈を受けたのは37箇処で, 受入図書数は次の通り

交 換 先	箇 処 数	受 入 図 書
官 庁	23	166 冊
大 学, 学 会, 博 物 館 等	14	62
計	37	228

その他の寄贈先は26箇処で, 報文, 地図等299部あつた。

寄 贈 者	箇 処 数	地 質 図	地 形 図	報 文 類
官 庁	4	—	—	8
大 学, 学 会 等	12	—	—	42
会 社	5	—	—	11
個 人	4	70	29	6
駐 在 外 国 機 関	1	—	—	132
計	26	70	29	199

外国との交換は戦前181箇処であつたが, 事変以來中絶中の処, 本年に入つて抑留中のものが解除され, 入荷したのを始め, 次々交換再開の運びとなつて21箇処から446冊の報文と地図9幅が送られてきた。

交 換 先	欧羅巴	亜細亜	阿弗利加	北亜米加	計	地質図	地形図	報文類
地 質 調 査 所	1	1	1	6	9	—	8	80
大 学, 学 会, 博 物 館, 図 書 館 等	4	1	—	7	12	1	—	366
計	5	2	1	13	21	1	8	446

国内の官庁, 大学, 図書館, 博物館, 会社等の交換先および寄贈者に, わが出版物を発送したのは次表の通りである。

23年度出版物

交 換 先	本 報 告		速 報		炭 田 速 報	
	種 類	部 数	種 類	部 数	種 類	部 数
官 庁	1	34	30	450	9	45
学 校, 図 書 館	2	22	30	270	9	45
会 社	2	56	30	90	9	18
計		112		810		108

寄 贈	本 報 告		速 報		炭 田 速 報	
	種 類	部 数	種 類	部 数	種 類	部 数
官 庁	2	172	30	2,580	9	693
学 校	2	36	30	480	9	18
会 社	—	—	30	120	9	36
個 人	2	2	30	60	9	108
計		210		3,240		855
総 計		322		4,050		963

購入書図書は書籍 175 冊，図幅 29 枚で次の通り

	書 籍	地 質 図	地 形 図
地質学および地理学に関するもの	114	24	5
物理探鉱および試錐に関するもの	12	—	—
化学およびその応用に関するもの	13	—	—
そ の 他	36	—	—
	175	24	5

iii) 標 本

鉱 物 標 本

本年度においては戦災焼残り標本と，採集および蒐集により補充しつつある標本の拙速的作成および整理を重点とし，一部の容器の準備にともない，陳列室における鉱物標本の展示を拡充した。

整理せる標本 3,331 点

内 訳	戦災焼残り標本	1,683 点
	採 蒐 集 標 本	1,610 点
	寄贈をうけたる標本	38 点

提出されたる採蒐集標本および寄贈標本の中，一部をデーナ氏鉱物分類法に基き陳列室に展示し，ほかを暫定的に産地府県別に分別収納した。戦災焼残り標本の整理は 70% 位に達した。

岩 石 標 本

岩石標本は鉱物標本に比して量的に少なく，戦災焼残り標本の整理も鉱物を主として取敢えず整理した。

本年度中に整理された岩石標本 362 点

内 訳	採集提出標本	161 点
	焼 残 り 標 本	201 点

火成岩，水成岩，変成岩の三群に大別して，一部を陳列室に展示，ほかは容器に分別保管している。

石 工 室

石工室は本年度 8 月より当室に合併され，その薄片製作業務を管掌することになった。

担当する薄片製作者数 3 名

8 月以降の製作状況	依頼数	3,558 枚
	仕上数	2,550 枚

設備充分ならざるためと人員不足せるため、負担量多く1人1日の平均仕上数5枚の高効率をあげた。

寄贈標本明細

鉦物	朝鮮全羅南道玉理山	明 礬 石	浅 田 化 学
	富山県平村祖山	パ ー ス 長 石	小 松 製 陶
	中国瀋州奉天省本溪县	タ ン タ ル 石	瀬 戸 山 三
	兵庫県朝來郡中川鉦山	輝 安 鉦	志 波 定 次 郎
	〃 〃 生野鉦山	四 面 銅 鉦 外1点	〃
	〃 〃 神子畑	銀 鉦	〃
	秋田県雄勝郡院内鉦山	〃 外2点	〃
	〃 山本郡 椿鉦山	〃	〃
	〃 仙北郡荒川鉦山	黄 銅 鉦・水 晶	〃
	朝鮮忠清南道稷山鉦山	金 鉦	〃
	北海道	辰 砂	〃
	福島県伊達郡黒森鉦山	銀 鉦	〃
	鹿兒島県伊佐郡大口鉦山	金 鉦	〃
	〃 揖宿郡河内鉦山	〃	〃
	〃 日置郡芹ヶ野鉦山	〃	〃
	長崎県東彼杵郡波佐見鉦山	辰 砂	〃
	栃木県上都賀郡足尾鉦山	斑 銅 鉦	〃
	〃	銅 鉦	〃
	石川県珠洲郡能登鉦山	硬 石 膏	〃
	新潟県北魚沼郡白坂鉦山	閃亜鉛鉦と方鉛鉦	小 林 儀 一 郎
	茨城県日立鉦山	銅 鉦	日 立 鉦 山
	カ ナ ダ	燐 灰 石	櫻 井 欽 一
	中国蒙疆チャガンダバ	白 雲 母	〃
	〃 〃 パングラス廟附近	塩	〃
	〃 台湾省基隆郡	硫 黄	〃
	茨城県日立市日立鉦山	堇 青 石	笹 原 健 一 郎
	富山県上新川郡千野谷鉦山	黒 鉛	大 井 上 義 近
	福井県三方郡若狭鉦山	赤 白 珪 石 2点	日 本 鋼 管 扇 町 工 場
	〃 〃	青 白 珪 石 2点	〃
	富山県千野谷鉦山	鱗 狀 黒 鉛	大 井 上 義 近
	中国瀋州大石橋	菱 苦 土 石	品 川 白 煉 瓦 岡 山 工 場
	ユーゴスラビヤ国	〃	〃
	岩手県岩手炭鉦	岩 手 粘 土	日 本 鋼 管 扇 町 工 場
	朝 鮮	緑 柱 石	堤 盛 一

支所関係

○ 北海道支所 (調査事業)

種 別	調 査 地	担 当 者
金 鉦	北海道広尾郡大樹	高 島 彰
〃	〃 札幌郡手稻鉦山	齋 藤 正 雄
鉄 鉦	〃 常呂郡国力訓子府鉦山	猪 木 幸 男, 根 本 忠 寛

種 類	調 査 地	担 当 者	
鉄 鋳	北海道蛇田郡俱知安鋳山	高 島 彰	
カ オ リ	〃 河東郡上士幌	根本忠寛, 伊藤 聰	
黒 鉛	〃 広尾郡広尾	小関幸治	
石 灰 石	〃 枝幸郡中頓別	〃 他1名	
〃	〃 常呂郡訓子府	齋藤正雄	
〃	〃 島牧郡西島牧	〃	
硫 黄	〃 白老郡白老鋳山	猪木幸男	
〃	〃 渡島郡精進川鋳山	〃	
珪 藻 土	〃 余市郡余市	齋藤正雄	
鉄 明 礬 石	〃 上川郡新得	小関幸治	
砒 素 鋳	〃 札幌郡定山溪	齋藤正雄	
重 晶 石	〃 檜山郡茂賀利鋳山, 勝山鋳山	高 島 彰	
瀝青炭・粘結炭	〃 空知郡歌志内鋳シヤクシナイ	須貝貫二 他2名	
瀝 青 炭	〃 白糠郡白糠	齋藤正雄	受託
〃	〃 留萌郡小平	西田彰一	
亜 炭	〃 空知郡幌加内	対馬坤六 他1名	
油 田	〃 天塩・宗谷郡兜沼油田	西田彰一, 対馬坤六 他1名	
瀝青炭・粘結炭	〃 空知郡奈井江・南奈井江	金子政利 他1名	測量
油 田	〃 天塩・宗谷郡兜沼油田	高橋二郎	〃

。 仙 台 支 所 (調 査 事 業)

種 別	調 査 地	担 当 者	
地 質 ・ 鋳 床	岩手県盛岡・紫波・稗貫・和賀・膽沢郡	早川典久, 石井清彦	
〃 〃	宮城県宮城・志田郡	齋藤邦三, 舟山裕士	
地 下 水	〃 仙北郡	早川典久, 齋藤邦三	
黒 鋳	秋田県鹿角郡	丸山修司	
石 灰 岩	岩手県気仙郡	石井清彦	
亜 炭	宮城県遠田郡	早川典久	
〃	岩手・秋田県下平鹿炭田	北村 信	
石炭採掘による 地表陥没	丸州炭田	〃	
油 田	青森県田名部郡	石井清彦	
天 然 ガ ス	山形県東村山郡	八木次男	
石 灰 岩	岩手県気仙郡	舟山裕士	
亜 炭	宮城県遠田郡	山屋政美	1: 500 平板測量
地 形	福島県大沼郡	〃	〃
		〃	1: 2,000 平板測量

。大阪支所（調査事業）

種 別	調 査 地	担 当 者
温 泉	奈良県入波郡五條温泉	原口九万, 金崎次男
金 銀	兵庫县城崎郡弘仙鉾山	原口九万, 塚脇裕次, 竹内忠雄
銅	京都府天田郡	福井三郎
〃	和歌山県伊都郡	浜野一彦
〃	〃 東牟婁郡妙法鉾山	〃 九里尙一
〃	山口県美郷郡福重鉾山	〃 別所文吉
マ ン ガ ン	岐阜県可児郡録津	別所文吉, 福井三郎, 塚脇裕次
〃	京 都 府	原口九万
重 石	島根県能義郡	塚脇裕次
耐火 粘 土	京都府相楽郡	〃
陶 石	兵庫縣出石地方	別所文吉, 浜野一彦, 塚脇裕次 繁沢和夫, 尾崎次男
珪 石・長 石	滋賀県甲賀郡大原	河合正虎, 矢崎清貫, 土屋近造
長 石	〃 大津市石山	原口九万, 矢崎清貫, 土屋近造
瀝 青 炭	福井県大野郡	別所文吉, 原口九万, 矢崎清貫
〃	和歌山県東牟婁郡熊野炭田	甲藤次郎, 尾崎次男, 松下新栄 武市敏雄
〃	島根県松江炭田, 黒田, 楽山	加藤 信, 清島信之, 土屋近造
〃	鳥取県岩美郡浦富鉾山	清島信之, 加藤 信
〃	岡山県川上郡成羽炭田	河合正虎, 福吉長雄, 清水道也
〃	〃 大賀	別所文吉
〃	山口県美郷郡大嶺	〃 川野辰雄, 浜野一彦
重 炭	福井県丹生坂井郡	原口九万, 福井三郎, 尾崎次男 別所文吉
〃	滋賀県犬上郡炭田	浜野一彦, 福井三郎, 清島信之 竹内忠雄
〃	〃 神崎郡日野	別所文吉
〃	奈良県添上郡月ヶ瀬	別所文吉, 清島信之, 松下新栄 河野恭造
〃	〃 長引	原口九万
〃	奈良県宇陀郡龍野炭鉾	福井三郎, 清島信之, 松下新栄
〃	島根県飯石郡鞆国炭鉾	原口九万, 甲藤次郎, 竹内忠雄
〃	〃 八東郡宍道	清島信之

。福岡支所（調査事業）

種 別	調 査 地	担 当 者
地 下 水	佐賀県杵島郡武雄町	和田利雄 他1名
金	大分県日田郡鯛生金山	〃

種 別	調 査 地	担 当 者	
金・銀・銅	福岡県宗像郡河東鉦山	和田利雄	受託
銅	鹿児島始良郡国分鉦山	〃 他1名	
銅・硫化鉄	宮崎県東臼杵郡	〃	
マンガン	〃 西臼杵郡	〃 他1名	
蠟石・ダイアスポア	長崎県南松浦郡五島鉦山	浜地忠男 他2名	
ドロマイト	大分県北海部郡	和田利雄 他1名	
〃	熊本県葦北郡佐敷	浜地忠男 他1名 和田利雄 他2名	
珪 藻 土	大分県玖珠郡	浜地忠男 他2名	
石 炭	長崎県佐世保市日野炭鉦	向井清人 他1名	
〃	〃 西彼杵郡松島炭鉦	浜本勝巳	
〃	佐賀県佐賀炭田杵島炭田	浜本勝巳, 須貝貫二, 岡田健二 高井保明, 原田種成	
〃	熊本県天草郡今富炭鉦	高井保明, 古川俊太郎	

。四国および名古屋駐在所関係（調査事業）

種 別	調 査 地	担 当 者	
銅・硫化鉄・亜鉛鉦	徳島県名西郡次郎銅山	菊地 徹	
〃 〃 〃	愛媛県喜多郡大久喜鉦山	〃	
珪 石	高知県吾川郡三瀬	〃	
滑 石	〃 土佐郡能地	〃	
長 珪 石	愛知県瀬戸	千藤忠昌	

III. (1) 人 事・会 計

職 員 の 種 類	一 級	二 級	三 級	そ の 他	計
商 工 事 務 官	—	1	9	—	10
商 工 技 官	2	57	75	—	134
事 務 補 佐 員	—	4	2	—	6
技 術 補 佐 員	—	3	3	—	6
渉 外 事 務 連 絡 員	—	1	—	—	1
調 査 員	—	24	59	—	83
研 究 員	—	—	—	—	—
雇 員	—	—	—	222	222
傭 人	—	—	—	16	16
計	2	90	148	238	478

職員

所長 商工技官一級 三土 知芳
 地質部長
 商工技官二級 松沢 勳
 " " 近藤 信興
 図幅課長 " " 齋藤 正次
 " " 小林 勇
 " " 平山 健
 " " 梅沢 邦臣
 " " 東郷 文雄
 " 三級 沢村孝之助
 " " 中村 顯三
 調査員 " 村山 正郎
 " " 磯見 博
 " " 野沢 保
 " " 今井 功
 基礎科学課長
 商工技官二級 河野 義礼
 調査員 三級 太田 良平
 " " 安藤 武
 " " 陶山 国男
 " " 砂川 一郎
 土木地質課長
 商工技官二級 小出 博
 " " 広川 治
 " " 小池 正忠
 " 三級 中村 久由
 " " 菊地清四郎
 調査員 " 河田 清雄
 鉦床部長
 商工技官二級 片山 信夫
 金属課長 " (兼)片山 信夫
 調査員 二級 吉田 善亮
 商工技官三級 林 昇一郎
 " " 伊藤 昌介
 " " 佐藤 恭
 調査員 三級 小村幸二郎
 非金属課長
 商工技官二級 岩生 周一
 " " 木村 正
 " " 安齋 俊男
 " " 肥田 昇
 調査員 二級 村岡 誠
 " 三級 上野 三義
 " " 岡野 武雄
 庶務係長
 商工技官三級 徳藏 勝治
 調査員 三級 下村 仁作

燃料部長
 商工技官二級 兼子 勝
 副部長調査員 " 三田 正一
 石炭課長
 商工技官 " 竹原 平一
 " " 小西泰次郎
 " " 沢田 秀徳
 " " 松井 寛
 調査員 " 小松 疆
 " " 松本 隆一
 " " 稻井 信雄
 " " 春城清之助
 " " 安原 彰一
 " 三級 青柳 信義
 " " 清原 清人
 " " 奥 海 靖
 " " 徳永 重元
 " " 河内 英幸
 " " 佐藤 茂
 " " 清水 勇
 " " 河野 迪也
 " " 一杉 武治
 " " 久保 恭輔
 " " 長浜 春夫
 技術補佐員二級 本間 右京
 " " 久松将四郎
 調査員 三級 松田 栄藏
 " " 石原 二郎
 " " 立花 栄一
 石油課長
 商工技官二級 金原 均二
 " " 小野 暎
 " 三級 石和田靖章
 調査員 三級 伊田 一善
 " " 本島 公司
 " " 品田芳二郎
 " " 牧野登喜男
 庶務係長
 商工事務官三級 伊集院弘
 物理探鉦部長
 商工技官一級(兼)三土 知芳
 副部長
 商工技官二級 飯田 汲事
 地震重力課長
 商工技官二級(兼) " 早川 正己

商工技官二級 栗原 重利
 " " 金子 徹一
 " " 村上 義朗
 " " 藤原 健一
 " 三級 立石 哲夫
 " " 小尾 中丸
 " " 小尾 五明
 " " 森 喜義
 " " 市川 金徳
 " " 柴野 二郎
 " " 小島 整志
 調査員 " 平沢 清
 " " 村岡 秀記
 " " 松田 武雄
 " " 下河原達哉
 地震整備係長
 商工技官三級 蛭川 親治
 電力整備係長
 " " 杉山 友紀
 調査員 " 片寄 邦之
 電磁気課長
 商工技官二級 佐藤光之助
 " " 加來 一郎
 " " 九里 尙一
 " " 岩崎 章二
 " 三級 室住 正義
 調査員 " 柴藤 喜平
 " " 本間 一郎
 磁気整備係長
 商工技官三級 金井 光明
 調査員 " 陶山 淳治
 電気整備係長
 商工技官 " 金子 純
 調査員 " 齋藤友三郎
 庶務係長
 商工技官 " 広沢 経夫
 調査員 " 助川 竹司
 試錐課長
 調査員二級 渡辺 武夫
 " " 尾原 信彦
 作業係長
 調査員 三級 柳原 親孝
 工事係長
 商工技官 " 小池 正八
 " " 山崎満寿雄
 器材整備係長
 " " 野口 勝
 庶務係長
 " " 鉄羅 和夫
 調査員 " 山田 隆基

測図課長
 調査員 二級 村田 近良
 補佐商工技官 " 小松 直藏
 " " " 笹原 栄雄
 測量第一係長
 商工技官三級 加々美時寛
 技術補佐員二級 村上宇吉
 商工技官三級 宮沢 芳紀
 " " 岡 重文
 " " 横江 一男
 調査員 三級 船倉 義彦
 測量第二係長
 商工技官三級 藤本 辨藏
 調査員 " 福吉 長夫
 商工技官 " 茅山 芳夫
 " " 細井 力雄
 測量第三係長
 商工技官三級 堀本 健次
 " " 磯 己代治
 " " 清水 道也
 調査員 " 西村嘉四郎
 " " 川野 辰男
 測量第四係長
 商工技官三級 窪木時雨郎
 " " 小谷野長平
 調査員 " 佐藤 優
 " " 長岡東洋男
 測量第五係長
 商工技官三級 橋本與太郎
 " " 石橋 嘉一
 調査員 " 中村 勳男
 製図第一係長
 商工技官三級 萱間 泰雄
 " " 小宮 利夫
 製図第二係長
 商工技官三級 鈴木 俊郎
 製図第三係長
 商工技官三級 草深源三郎
 製図第四係長
 商工技官三級 高木 二郎
 庶務係長
 商工技官三級 森 守之助
 " " 野口 保夫
 分析試験課長
 商工技官二級 平塚 隆治
 " " 石田興之助
 " " 竹田 栄藏
 " 三級 齋藤 正雄
 燃料分析係長
 調査員 三級 牧 眞一

非金屬鉍物分析係長
 商工技官三級 関根 節郎
 " " 金子 博祐
 金屬鉍物分析係長
 " " 加藤 甲壬
 利用試験係長
 " " 磯野 清
 庶務係長
 " " 藤谷 吉三
 総務課長
 商工技官二級 遠藤 六郎
 補佐商工事務官二級 佐藤東一
 " 三級 秋本 龍雄
 " " 正岡 直義
 庶務係長
 商工事務官 " 北岡 末旺
 事務補佐員三級 根岸 武代
 人事係長
 事務補佐員 " 美濃和義三郎
 文書係長
 商工事務官 " 石川 賢寿
 厚生係長
 事務補佐員二級 藤村 豊春
 商工事務官三級 工藤 直樹
 営繕係長
 商工事務官三級 小塚 勝弘
 技術補佐員 " 杉本 次一
 主計係長
 商工事務官 " 野神万寿雄
 予算決算係長
 事務補佐員二級 山田 勇吉
 用度係長
 商工事務官三級 杉山 新平
 標本室長
 商工技官二級 宮本 弘道
 調査員 " 大塚 寅雄
 資料室長
 商工技官二級 村 越 司
 印刷出版係長
 " 三級 安室 豊
 図書係長
 " " 松崎 美房
 資料係長
 調査員 二級 沢田 福三
 翻譯係長
 渉外事務
 連絡員 " 関口 俊太
 所長室室長
 商工技官二級 蘭部 龍一

商工技官二級 飯山 敏春
 " " 田中元之進
 庶務係長
 商工事務官三級 古川 静
 北海道支所長
 商工技官一級 坪谷 幸六
 研究室長
 " 二級 根本 忠寛
 (商工技官一級)兼 原山 準平
 地質課長
 " 二級 西田 彰一
 " " 齋藤 正雄
 " 三級 対馬 坤六
 " " 猪木 幸男
 探鉱課長
 " 二級 高 晶 彰
 " " 小関 幸治
 測図係長
 " 三級 金子 政利
 分析係長
 " " 伊藤 聡
 庶務課長
 商工技官一級(兼) 坪谷幸六
 庶務係長
 " 三級 大越 寿市
 会計係長
 商工事務官 " 秩父 武志
 仙台出張所長
 商工技官一級(兼) 八木次男
 研究室長
 調査員 二級 石井 清彦
 商工技官 " 早川 典久
 " 三級 舟山 裕士
 " " 北村 信
 " " 齋藤 邦三
 庶務会計係長
 " " 悪原 直己
 " " 菅 福久
 測図係長
 " " 山屋 政美
 大阪出張所長
 " 二級 別所 文吉
 " " 福永 三郎
 " " 浜野 一彦
 " " 河合 正虎
 " 三級 甲藤 次郎
 " " 福井 三郎
 調査員 二級 原口 九万
 " 三級 清島 信之
 " " 塚脇 裕次

庶務會計係長 事務補佐員二級 高橋 博	調査員 三級 小林猪之助	事務官	眞鍋勝郎
測図係長 商工技官三級 尾崎 次男	名古屋駐在官 商工技官二級 千藤 忠昌	商工技官	井島信五郎
福岡出張所長 商工技官二級 橋本 克己	広島駐在官 調査員 " 加藤 信	退	職
" " 和田 利雄	四国駐在官 " 三級 菊地 徹	商工技官	内藤貞夫
" 三級 浜地 忠男	宇部駐在官 " " 清原 清人	"	篠山昌市
" " 原田 種成	" " " " " " " "	"	齋藤 仁
調査員 " 高井 保明	転 勤	"	鉄羅和夫
" " 竹下 速雄	嘱 託 坊城俊厚	事務補佐員	藤井尊順
" " 岡田 健次	" " 岩間七郎	技術補佐員	畠中興作
庶務會計係長 事務補佐員二級 工藤 広忠	" " 佐藤和男	嘱 託	高木芳丸
測図係長 商工技官三級 向井 清人	" " 小田範明	"	沢田福三
	商工技官 大島敬義	"	岡田 博

(2) 会 計

款 項 目 節	予 算 額	移用及び流用増△減		予 算 現 額	支 出 済 額	不 用 額	備 考
		移 用 増△減	流 用 増△減				
産業経費							
鉦業費							
地下資源調査所	52,094,600.00		5,136,993.47 5,136,993.47	52,094,600.00	51,759,385.87	335,214.13	
官 吏 給	3,411,200.00		91,024.13 91,024.13	3,411,200.00	3,411,200.00	0	
一 級 給	74,400.00		37,382.52	111,782.52	111,782.52	0	
二 級 給	1,655,400.00		53,641.61	1,709,041.61	1,709,041.61	0	
三 級 給	1,681,400.00		91,024.13	1,590,375.87	1,590,375.87	0	
給 料	7,458,200.00		1,011,193.77 1,011,193.77	7,458,200.00	7,458,200.00	0	
臨時職員給	3,340,200.00		431,266.02	2,918,933.98	2,918,933.98	0	
雇 員 給	3,314,000.00		1,011,193.77	4,325,193.77	4,325,193.77	0	
傭 人 給	804,000.00		589,927.75	214,072.25	214,072.25	0	
手当及び給与金	5,743,170.00		0	5,743,170.00	5,743,170.00	0	
勤務地手当	5,743,170.00		0	5,743,170.00	5,743,170.00	0	
賃 金	7,680,000.00		0	7,680,000.00	7,412,156.22	267,843.78	
人 夫 給	7,680,000.00		0	7,680,000.00	7,412,156.22	267,843.78	
旅 費	9,494,000.00		0	9,494,000.00	9,473,896.80	20,103.20	
普 通 旅 費	9,494,000.00		0	9,494,000.00	9,473,896.80	20,103.20	
消 耗 品 費	5,208,830.00		2,483,357.47 308,139.93	7,384,047.54	7,384,047.54	0	
文 具 費	1,500,000.00		2,159,504.90	3,659,504.90	3,659,504.90	0	
燃 料 費	700,000.00		175,517.93	524,482.07	524,482.07	0	

款項目節	予 算 額	移用及び流用増△減		予 算 現 額	支 出 済 額	不 用 額	備 考
		移 用 増△減	流 用 増△減				
消耗器材費	2,808,830.00		323,852.57	3,132,682.57	3,132,682.57	0	
食糧費	200,000.00		132,622.00	67,378.00	67,387.00	0	
役務費	8,049,200.00		671,086.51 3,442,967.64	5,277,318.87	5,230,117.74	47,201.13	
印刷製本費	1,143,200.00		386,538.40	756,661.60	756,661.60	0	
光熱及び水道料	250,000.00		61,125.40	311,125.40	311,125.40	0	
通信費	510,000.00		146,388.27	363,611.73	363,611.73	0	
運搬費	400,000.00		65,775.56	465,775.56	465,775.56	0	
修繕費	1,000,000.00		544,185.55	1,544,185.55	1,544,185.55	0	
借料及び損料	336,000.00		11,804.00	324,196.00	324,196.00	0	
広告料	14,000.00		950.00	13,050.00	13,050.00	0	
筆耕料	96,800.00		20,415.00	76,385.00	76,385.00	0	
請負費	4,299,200.00		2,876,871.97	1,422,328.03	1,375,126.90	47,201.13	
備品費	3,800,000.00		475,635.50	4,275,635.50	4,275,635.50	0	
庁用器具費	2,000,000.00		220,738.26	2,220,738.26	2,220,738.26	0	
事業用器具費	1,800,000.00		254,897.24	2,054,897.24	2,054,897.24	0	
原材料費	900,000.00		351,585.42 283,668.00	967,917.42	967,917.42	0	
セメント費	300,000.00		283,668.00	16,332.00	16,332.00	0	
鋼材費	200,000.00		239,737.62	439,737.62	439,737.62	0	
木材費	300,000.00		13,222.52	313,222.52	313,222.51	0	
諸資材費	100,000.00		98,625.28	198,625.28	198,625.28	0	
施設費	150,000.00		53,110.67	203,110.67	203,110.67	0	
機械購入費	150,000.00		53,110.67	203,110.67	203,110.67	0	
賠償及び償還金	200,000.00		0	200,000.00	199,933.98	66.02	
遭難船賠償金	200,000.00		0	200,000.00	199,933.98	66.02	
行政共通費							
諸支出金							
諸支出金	24,011,860.00		6,421,695.22 6,421,695.22	24,011,860.00	21,819,425.31	2,192,434.69	
手当及び給与金	4,745,100.00		0	4,745,100.00	4,598,227.66	146,872.34	
家族手当	2,511,800.00		0	2,511,800.00	2,370,474.00	141,326.00	
超過勤務手当	2,155,500.00		0	2,155,500.00	2,154,826.87	673.13	
退官退職手当	53,600.00		0	53,600.00	53,626.50	337.50	
死亡手当	1,000.00		0	1,000.00	1,000.00	0	
臨時定員外 職員補填金	23,200.00		0	23,200.00	18,664.29	4,535.71	
旅費	2,950,000.00		0	2,950,000.00	2,932,020.00	17,980.00	

款項目節	予 算 額	移用及び流用増△減		予 算 現 額	支 出 済 額	不 用 額	備 考
		移 用 増△減	流用増△減				
受託調査旅費	2,950,000.00		0	2,950,000.00	2,932,020.00	17,980.00	
給与特別措置費	16,297,060.00		6,421,695.22	16,297,060.00	14,269,560.65	2,027,499.35	
給与特別措置費	16,297,060.00		6,421,695.22	9,875,364.78	7,847,865.43	2,027,499.35	
官 吏 給	0		3,503,562.90	3,503,562.90	3,503,562.90	0	
一 級 給	0		70,678.40	70,678.40	70,678.40	0	
二 級 給	0		1,791,934.38	1,791,934.38	1,791,934.38	0	
三 級 給	0		1,640,950.12	1,640,950.12	1,640,950.12	0	
給 料	0		2,623,880.17	2,623,880.17	2,623,880.17	0	
臨時職員給	0		1,073,446.40	1,073,446.40	1,073,446.40	0	
雇 員 給	0		1,448,997.67	1,448,997.67	1,448,997.67	0	
俯 人 給	0		101,436.10	101,436.10	101,436.10	0	
勤務地手当	0		294,252.15	294,252.15	294,252.15	0	
賠償及び償還金	19,700.00		0	19,700.00	19,700.00	83.00	
租税料戻入額	19,700.00		0	19,700.00	19,617.00	83.00	
価格補正等 特別補充費			1,321,155.66				
価格補正等 特別補充費	10,750,000.00		1,321,155.66	10,750,000.00	10,737,070.99	12,929.01	
旅 費	5,950,000.00		0	5,950,000.00	5,946,052.00	3,948.00	
普 通 旅 費	5,650,000.00		0	5,950,000.00	5,646,052.00	3,948.00	
受託調査旅費	300,000.00		0	300,000.00	300,000.00	0	
消 耗 品 費	2,511,000.00		171,237.54 798,865.39	1,883,372.15	1,883,372.15	0	
文 具 費	435,000.00		171,237.54	606,237.54	606,237.54	0	
燃 料 費	203,000.00		28,031.87	174,968.13	174,968.13	0	
消耗器材費	1,814,600.00		715,973.52	1,098,626.48	1,098,626.48	0	
食 糧 費	58,400.00		54,860.00	3,540.00	3,540.00	0	
役 務 費	1,148,000.00		655,894.61 109,262.90	1,694,631.71	1,694,631.71	0	
印刷製本費	168,000.00		90,556.62	258,556.62	258,556.62	0	
光熱及び水料	35,000.00		16,564.48	18,435.52	18,435.52	0	
通 信 費	70,000.00		34,591.00	35,409.00	35,409.00	0	
運 搬 費	56,000.00		32,648.50	23,351.50	23,351.50	0	
修繕費	140,000.00		118,408.80	258,408.80	258,408.80	0	
借料及び損料	28,000.00		25,458.92	2,541.08	2,541.08	0	
筆 耕 料	14,000.00		4,000.00	18,000.00	18,000.00	0	
請 負 費	637,000.00		442,929.19	1,079,929.19	1,079,929.19	0	
備 品 費	842,000.00		375,701.85 285,064.78	932,637.07	932,637.07	0	

款項目節	予算額	移用及び流用増△減		予算現額	支出済額	不用額	備考
		移用 増△減	流用増△減				
庁用器具費	180,000.00		375,701.85	555,701.85	555,701.85	0	
事業用器具費	662,000.00		285,064.28	376,935.22	376,935.22	0	
原材料費	279,000.00		101,193.60 102,571.66	280,378.06	280,378.06	0	
セメント費	93,000.00		77,634.60	15,365.40	15,365.40	0	
鋼材費	62,000.00		23,559.00	38,441.00	38,441.00	0	
木材費	93,000.00		80,764.90	173,764.90	173,764.90	0	
諸資材費	31,000.00		21,806.76	52,806.76	52,806.76	0	
施設費	20,000.00		11,018.99	8,981.01	0	8,981.01	
機械購入費	20,000.00		11,018.99	8,981.01	0	8,981.01	
総計	86,856,460.00			86,856,460.00	84,315,882.17	2,540,577.83	

昭 和 2 4 年 度

I. 官 制 及 び 機 構

昭和24年5月24日 通商産業省設置法（昭和24年法律第102号）公布。

昭和24年5月25日 工業技術庁組織規定（省令第2号）

第 69 條 地質調査所に地質部、鉦床部、燃料部、物理探鉦部、測図課、分析試験課、試錐課
総務課、北海道支所、仙台出張所、大阪出張所、および福岡出張所を置く。

第 70 條 地質部においては、下の事務をつかさどる。

1. 図幅の作成を目的とする地質の調査およびこれに関する研究等を行うこと。
2. 地質に関する基礎科学の研究等を行うこと。
3. 土木地質の調査およびこれに関する研究等を行うこと。

第 71 條 鉦床部においては下の事務をつかさどる。

1. 金属鉦床の調査およびこれに関する研究等を行うこと。
2. 非金属鉦床の調査およびこれに関する研究等を行うこと。

第 72 條 燃料部においては下の事務をつかさどる。

1. 石炭地質の調査およびこれに関する研究等を行うこと。
2. 石油地質の調査およびこれに関する研究等を行うこと。

第 73 條 物理探鉦部においては、下の事務をつかさどる。

1. 地震探鉦法および重力探鉦法による調査および、これに関する研究等を行うこと。
2. 電気探鉦法および磁気探鉦法による調査およびこれに関する研究等を行うこと。

第 74 條 測図課においては測量および製図を行う。

第 75 條 分析試験課においては、分析および利用試験を行う。

第 76 條 試錐課においては試錐を行う。

第 77 條 総務課においては、下の事務をつかさどる。

1. 所務の総合調整に関すること。
2. 所内の庶務、会計、管轄および職員の厚生に関すること。
3. 調査統計資料、報告書、図書および標本に関すること。
4. 調査用機器の整備、補修および研究試料の調査に関すること。
5. 他部課、支所および出張所の所掌に属しない事務に関すること。

第 78 條 北海道支所、仙台出張所、大阪出張所および福岡出張所においては、地質および地下資源の調査およびこれに関する研究等を分掌する。

昭和24年9月15日 工業技術庁組織規定（省令第46号）

第 65 條 地質調査所に地質部、鉦床部、燃料部、物理探鉦部、技術部、地質相談所、資料標
本課、企画課および庶務課を置く。

第 66 條 地質部においては下の業務をつかさどる。

1. 図幅の作成および図幅の作成を目的とする地質の調査、研究等に関すること。
2. 応用地質に関する調査研究等に関すること。

第 67 條 鉦床部においては、金属鉦床および非金属鉦床の調査、研究等に関する業務をつか

さどる。

第 68 條 燃料部においては、石炭地質および石油地質の調査、研究等に関する業務をつかさどる。

第 69 條 物理探鉱部においては物理探鉱による地質および鉱床の探査、研究等ならびに物理探鉱技術の研究等に関する業務をつかさどる。

第 70 條 技術部においては下の業務をつかさどる。

1. 測量および製図ならびにこれに関する研究等に関すること。
2. 試錐およびこれに関する研究等に関すること。
3. 地質および地下資源の化学的な分析試験等に関すること。
4. 地質調査用の設備および機器の整備、補修および保守に関すること。

第 71 條 地質相談所においては、地質および地下資源の調査の指導に関する業務をつかさどる。

第 72 條 資料標本課においては、調査統計資料、事業報告書、図書、標本および研究資料ならびに工業標準の調査に関する業務をつかさどる。

第 73 條 企画課においては、下の業務をつかさどる。

1. 試験研究等の調整に関すること。
2. 渉外事務に関すること。

第 74 條 庶務課においては、下の業務をつかさどる。

1. 所内の庶務、会計、管轄および職員の厚生に関すること。
2. 依頼による調査、分析、試験等の成績書等に関すること。
3. 他部課、地質相談所および支所の所掌に属しない業務に関すること。

第 75 條 地質調査所の支所においては、地質調査所の所掌業務の一部を分掌する。

2. 前項の支所の名称および位置は下の通りとする。

名	称	位	置
地質調査所	北海道支所		北海道札幌郡琴似町
地質調査所	仙台支所		仙台市
地質調査所	大阪支所		大阪市
地質調査所	福岡支所		福岡市

II. 事業

本所関係

1. 地質調査(地質部)

i) 図幅調査

1: 75,000 図幅地質調査

Sheet No.	図幅名	調査地	担当者	備考
82	塩原	栃木県塩谷郡那須郡	今井功	未完
143	船津	岐阜県吉城郡	野沢保 近藤信興	//

1: 500,000 地質図幅編纂

	図幅名	調査地	担当者	備考
	京都		図幅編纂委員会	未完
	高知		//	//
	福岡		//	//

1: 50,000 図幅地質調査

	図幅名	調査地	担当者	備考
	大迫	岩手県上閉伊郡 江刺郡	広川治	未完
	人首		//	//
	足尾	栃木県上都賀郡 //	小出博・河田清雄 大沢 稔	//
	男体山		//	//
	沼田	群馬県勢多郡・利根郡・群馬郡	太田良平	//
	長野	長野県更級郡・埴科郡・上水内郡	小林 勇	//
	諏訪	長野県諏訪郡	沢村孝之助 大和榮次郎	完了
	須坂	長野県 小県郡・埴科郡・上水内 郡・上高井郡・吾妻郡 (群馬郡)	小林勇・太田良平	未完
	秋葉山	静岡県周知郡・磐田郡	齊藤正次・磯見博	//
	生野	兵庫県 氷上郡・多可郡 朝來郡・神崎郡	東郷文雄	完了
	山崎	兵庫県 朝來郡・神崎郡 宍粟郡	//	//
	但馬竹田	兵庫県朝來郡・養父郡	神戸信和	未完
	海南	和歌山県・海南市	田中啓策	//
	動木			
	松江	島根県	中村顯三	//
	美保関	//	//	//

ii) その他の地質調査

種別	調査地	担当者	備考
温泉	宮城県刈田郡宮村	中村久由	完了
//	長野県下高井郡	//	//
災害	新潟県古志郡・東頸城郡・西頸城郡	菊地清四郎	未完
鉱物	山梨県中巨摩郡	松原秀樹	//
//	岡山県三石町	安藤 武	完了

種 別	調 査 地	担 当 者	備 考
鉍 物	山口県阿武郡奈古町	安藤 武	完 了
岩 石	群馬県勢多郡	太田良平	"
"	"	"	"
硫 化 鉍	島根県簸川郡	砂川一郎	
"	三重県南牟婁郡入鹿村	村山正郎	
"	長野県上水内郡	沢村孝之助	
"	岩手県岩手郡	河野義礼・上村不二雄	
硫 黄	北海道膽振国有珠郡	太田良平	

2. 鉍床調査 (鉍床部)

i) 金 属

種 別	調 査 地	担 当 者	備 考
金	北海道石狩国札幌郡手稻村	佐藤 恭	
"	福島県大沼郡	"	受 託
"	茨城県久慈郡	"	
"	石川県羽咋郡	"	
"	岐阜県大野郡	"	受 託
銅	石川県羽咋郡	木村 正	
鉛・亜鉛	青森県中津軽郡	伊藤昌介・服部富雄	受 託
"	宮城県栗原郡鷲沢村	伊藤昌介	
"	新潟県岩船郡	"	
"	" 北蒲原郡	"	
鉄	" 中蒲原郡	林昇一郎	
滿 俺	埼玉県入間郡	宮本弘道・林昇一郎	
"	長野県上伊那郡	宮本弘道	
"	石川県鹿島郡	林昇一郎	
硫黄・硫化鉍	山形県南置賜郡	木村 正	
"	" 南村山郡	木村 正・佐藤 恭・ 上野三義	受 託
硫化鉄鉍	栃木県塩谷郡三依村	吉田善亮	
磁硫鉄鉍	山口県玖珂郡	和田利雄・高島 清	
含銅硫化鉄	愛媛県新居角野村・別子山村	吉田善亮・小村幸二郎	
"	" 大生院村	木村正・小村幸二郎	
"	高知県土佐，長岡郡・大川村・吉野村	吉田善亮・小村幸二郎	

ii) 非 金 属

種 別	調 査 地	担 当 者	備 考
粘 土	岩手県下閉伊郡小川村	村岡 誠・種村光郎	
〃	〃 九戸郡久慈町	〃	
〃	福島県石城郡・双葉郡	〃	
〃	栃木県芳賀郡益子村	村岡 誠	
〃	福岡県八女郡	村岡 誠・種村光郎	
蠟 石	岡山県和気郡三石町	上野三義	
カオリン	福島県安達郡	〃	
〃	鹿児島県揖宿郡	村岡 誠・種村光郎	
珪 石	京都府天田郡	岩生周一・安齋俊男 岡野武雄	
〃	兵庫県多紀郡・氷上郡	〃	
〃	山口県美禰郡	岩生周一	
〃	高知県吾川郡	安齋俊男・岡野武雄	
黒 鉛	岐阜県古城郡	安齋俊男	
石 灰 岩	石川県七尾郡	肥田 昇	
苦 灰 石	大分県 <small>北海道郡 大野郡</small>	〃	
〃	福岡県門司市	〃	
滑 石	岩手県 <small>柴波郡 下閉伊郡</small>	〃	
珪 藻 土	宮城県刈田郡	林昇一郎	
〃	石川県珠洲郡正院町	林昇一郎・岡野武雄	
木節及び蛙目	岐阜県恵那郡	大江二郎	

3. 燃 料 調 査 (燃料部)

i) 炭 田 関 係

種 別	調 査 地	担 当 者	備 考
粘 結 炭	新潟県北蒲原郡赤谷村	松井 寛・井上絢夫 小松 疆	
〃	福井県大野郡北谷村	稻井信雄	
〃	長崎県西彼杵郡大島村	春城清之助	
〃	〃 北松浦郡	安原彰一・小松 疆	
瀝 青 炭	北海道勇拂郡 <small>占冠村 襷別村</small>	佐藤 茂・清原清人	
〃	〃 苫前郡 <small>苫前町 羽幌町</small>	青柳信義・一杉武治	
〃	〃 室知郡芦別町	三田正一・小島光夫	
〃	山形県西田川郡	清水 勇・鈴木泰輔	
〃	山形県北村山郡	竹原平一・徳永重元 今井 功	
〃	福島県石城郡草野村	松井 寛・佐藤 茂	

種 別	調 査 地	担 当 者	備 考
瀝 青 炭	福島県石城郡(常磐)	三田正一	
〃	〃 (未統)	〃	
〃	〃 双葉郡久の浜	松井 寛・青柳信義	
〃	石川県鳳至郡町野	長浜春夫	
亜 炭	山形県最上郡	河内英幸	
〃	〃	徳永重元	
〃	石川県鹿島郡石動山	久保恭輔	

ii) 油 田 関 係

種 別	調 査 地	担 当 者	備 考
古 生 物	山形県最上郡船形村	大山 桂	
〃	京都・和歌山県西牟婁郡	〃	
石 油	北海道苫前郡・雨龍郡古丹別川流域	島田忠夫・牧野登喜男	
〃	〃 勇拂郡苫小牧	井島信五郎	
〃	秋田県山本郡八森	兼子 勝	
〃	山形県酒田	〃	
〃	新潟県北蒲原郡・高田市	〃	
〃	富山県氷見郡	〃	
〃	新潟県柏崎市・刈羽郡・西頸城郡	金原均二	
〃	新潟県南蒲原郡東部	伊田一善・石和田靖章 品田芳二郎・三梨 昂	
天 然 ガ ス	青森県北津軽郡五所川原	兼子 勝	
〃	山形県酒田	〃	
〃	千葉県長生郡大多喜	兼子 勝・金原均二	
〃	石川県河北郡・羽咋郡	兼子 勝・小野 暎	
〃	愛知県・三重県	本島公司	
〃	熊本県飽託郡	小野 暎	

4. 物理探鉱調査(物理探鉱部)

種 別	調 査 地	担 当 者	方 法	備 考
銅	愛媛県新居郡別子銅山	片寄邦之・陶山淳治 本間一郎	電磁気探鉱	
黒 鉱	北海道岩内郡国富鉱山	九里尙一・金子純	電気探鉱	
硫 化 鉄	青森県下北郡大揚鉱山	室住正義・他1名	〃	
〃	栃木県塩谷郡越路鉱山	柴藤喜平・小谷良隆	〃	
磁 鉄 鉱	福島県相馬郡高倉鉱山	金井光明・陶山淳治 齋藤友三郎	電磁気探鉱	
硫 黄	山形県南置賜郡西吾妻鉱山	九里尙一・柴藤喜平 小谷良隆	電気探鉱	
〃	〃 南村山郡藏王鉱山	佐藤光之助・金子純	〃	

種 別	調 査 地	担 当 者	方 法	備 考
黒鉛	富山県上新川郡千野谷鉦山	加來一郎	電気探鉦	受託
石炭	長崎県西彼杵郡崎戸西方海上	早川正巳・森喜義・小島整志 平沢清・小尾五明・池田勝・ 鈴木実	地震探鉦	
〃	山口県宇部海底炭田	栗原重利・市川金徳・鈴木実 田中章介	〃	
石油	新潟県北蒲原郡水原	飯田汲事・蜷川親治・小尾中 丸・氏家明・小川健三・古谷 重政	〃	
〃	〃 三島郡別山油田	飯田汲事・村岡秀記・立石 哲夫・小尾五明・氏家明・ 池田勝	〃	
〃	〃 中頸城郡高田平地	村上義朗・松田武雄	量力探鉦	
〃	富山県富山市西富山	立石哲夫・村岡秀記	地震探鉦	
天然ガス	千葉県茂原	岩崎章二・金井光明・ 二日市宏	放射能探鉦	
〃	静岡県志太郡焼津	岩崎章二・二日市宏・堀川 義夫・村上宇吉	〃	
〃	大阪府	藤原健一・下河原達哉	地下学探鉦	

5. 試錐（技術部）

種 別	調 査 地	担 当 者	進 捗 状 況	備 考
銅 鉦	石川県羽咋郡上能野村沢口鉦山	山崎満寿雄 外 1 名	完了 ^m 孔 延 207.10×2	廻転式
硫 黄	北海道渡島国亀田郡七飯村大字大沼	小池正八 外 1 名	完了 63.86×1	〃
〃	山形県南置賜郡山上村関根	太田一 外 1 名	延 99.10×5	〃
硫化鉦	青森県下北郡河内村大揚鉦山鉦区	深沢邦武 外 1 名	完了 延 228.90×6	〃
〃	静岡県田方郡下狩野村上船原	山崎満寿雄 外 1 名	完了 55.80×1	〃
石 炭	北海道夕張市北夕炭礦	小池正八 外 1 名	完了 延 259.40×2	〃
〃	北海道空知郡芦別町油谷	油谷鉦業所(櫻井)	完了 延 351.10×2	請負23年度より継続
〃	北海道後志郡泊村茅沼炭礦	丸山磯吉	完了 400.51×1	〃 〃
〃	北海道空知郡奈井江鉦区内奈井江村 奔別鉦業所	井華鉦業所 山田 豊	完了 301.20×1	〃 〃
〃	福島県石城郡渡辺村藤原	常磐炭礦 綱代久雄	完了 351.52×1	〃 〃
〃	長崎県北松浦郡御厨町寺の尾	御厨炭礦 藤本 満	完了 302.63×1	請 負
天然ガス	大阪府大阪市内	野口勝 外 2 名	完了 延 312.00×2	廻転式
地震探鉦 爆破孔	新潟県北蒲原郡水原町附近	山崎満寿雄 外 2 名	完了 延 408.20×18	受託
〃	富山県富山市内	塚本由三 外 1 名	完了 延 50.60×2	廻転式
研究試錐	神奈川県川崎市久本町一三五 地質調査所内	小池正八 外 7 名	完了 延 232.00×2	
〃	茨城県日立市日立鉦山	小池正八 外 2 名	完了 18.17×1	23年度より継続 高速度廻転式ダイヤモンド試錐 機による試験試錐

6. 測 図 (技術部)

測 量

種 別	調 査 地	担 当 者	進 捗 状 況	備 考
温 泉	宮城県遠刈田	桑形久夫	完 了	1: 500 平板
銅・鉛	兵庫県朝來郡	藤本辨藏・井上正文	〃	1: 5,000 〃
磁 鉄 鉱	福島県相馬郡	勝目一泰	〃	1: 1,000 〃
黒 鉛	富山県上新川郡	長岡東洋男	〃	電気探鉱 1: 5,000 〃
硫化 鉄	青森県下北郡	清水道也・土屋近造	〃	1: 5,000.1 電気探鉱 1: 2,000.1: 1,000 平板
〃	新潟県北蒲原郡	西村嘉四郎	〃	1: 3,000 平板
珪 石	兵庫, 大阪, 京都	小谷野長平	〃	1: 5,000 〃
蠟 石	岡山県和気郡	原田盛夫	〃	1: 3,000 〃
硫 黄	山形県蔵王	佐藤 優	〃	電気探鉱 1: 2,000 平板
石 灰 岩	石川県鹿島郡	西村嘉四郎	〃	1: 10,000 平板
粘 結 炭	長崎県崎戸町	船倉義彦・横江一男・山本信夫 安藤高明	〃	海上地震探鉱 1: 10,000 トランシット
〃	長崎県北松浦郡	石原二郎・土屋近造	〃	1: 5,000 平板
〃	長崎県北松浦郡	橋本與太郎・佐藤優・磯山功	〃	1: 5,000 〃
瀝 青 炭	北海道空知郡	橋本與太郎・大竹重吉・宇野沢昭	〃	1: 5,000 〃
〃	北海道羽幌	加々美時寛・長岡東洋男・小張孝	〃	1: 5,000 〃
〃	山形県西田川郡	細井力雄・久保昌夫	〃	1: 10,000 〃
〃	福島県石森山	福吉長雄・佐藤純三	〃	1: 10,000 〃
〃	山口県宇部市	桂島茂・磯已代治・石橋嘉一・佐々木 次男	〃	海上地震探鉱 1: 10,000. 1: 25,000 トランシット
〃	山口県豊浦郡	西村嘉四郎・高田清	〃	1: 5,000 平板
亜 炭	山形県最上郡	宮沢芳紀・高田清・石川和正	〃	1: 10,000 〃
〃	石川県鳳至郡	中村勳男	〃	1: 10,000 〃
〃	石川県越路町	川野辰夫	〃	1: 5,000 〃
石 油	新潟県南蒲原郡	磯山功・田村喜志	〃	
〃	新潟県北蒲原郡	川野辰夫	〃	1: 10,000 地震探鉱 平板
〃	新潟県別山	畑本健次	〃	1: 10,000 地震探鉱 トランシット
〃	新潟県高田平野	窪木時雨郎・小泉恒男	〃	1: 25,000 重力探鉱 平板
天然ガス	千葉県茂原	桑形久夫	〃	1: 5,000 放射能探鉱 平板
〃	埼玉県児玉郡	小谷野長平	〃	1: 25,000 重力探鉱 平板
〃	群馬県多野郡	田村喜志・井上正文	〃	1: 25,000 平板
〃	静岡県志太郡	村上宇吉	〃	1: 5,000 放射能探鉱 平板
〃	富山県富山平野	畑本健次	〃	1: 10,000 地震探鉱 トランシット

ii) 製 図

1: 75,000 地 質 図 幅

Sheet No.	図 名	担 当 者	進 渉 状 況
123	熱 海	小 宮 利 男	85%
231	脇 町	萱 間 泰 雄	65%
124	沼 津	高 木 二 郎	70%

1: 500,000 総 合 地 質 図

Sheet No.	図 名	担 当 者	進 渉 状 況
11	京 都	草 深 源 三 郎	60%
13	四 国	和 田 林 藏	20%
	鉱床関係図 113図 燃料関係図 20図 物理探鉱関係図 8図 試錐関係図 7図 特 殊 図 39図	鈴木俊郎・小宮利夫・萱間泰雄 草深源三郎・高木二郎・小川清澄 和田林藏・藤谷久七・江田益男 武井正明・坪井清吉・松本静男 石附 実・鈴木英子 “ “ “ “ “ “ “ “ “	

7. 分 析 (技 術 部)

i) 所内依頼分析の種類および件数

種 類	個 数	成 分 数	種 類	個 数	成 分 数
銅・鉛・亜鉛鉱	16	91	滑 石	4	24
鉄 鉱	14	63	石 膏	2	20
マンガン鉱	21	97	絹 雲 母	18	87
鉄 明 礬 石	11	105	油 母 頁 岩	5	13
硫黄・硫化鉱	3	10	鉱 水	752	2,158
粘 土	67	457	岩 石	15	154
陶 石	26	173	鉱 物	14	36
珪 石	68	501	石 炭	432	3,433
長 石	8	64	亜 炭	104	781
磷 鉱	80	127	原 油	3	53
黒 鉛	48	192	天 然 ガ ス	89	388
石 灰 石	23	82	雑	15	53
苦 灰 石	43	157	計	1,881	9,321

ii) 研究及び実験

化学探鉱法に関する研究	石田与之助・関根節郎
鉄明礬石の低温焼成アンモニア処理法の中規模実験	竹田榮藏
蛇紋岩の化学的研究	〃
微量分析法の研究	関根節郎
含明礬石カオリン利用研究	磯野清
工業標準調査会銩産物委員会及び石炭試験方法専門委員会における規格制定に関する研究及び実験	平塚隆治

iii) 外 業

調査項目	調査地	担当者
耐火物	大阪府 岡山県	藤谷吉三
窯業原料	岐阜県 三重県	磯野清
蛇紋岩	千葉県	竹田榮藏・比留川貴
天然ガス	福島県	平塚隆次・牧眞一・比留川貴
〃	静岡県	牧眞一

8. 資料標本

i) 刊行物

	No.	題 名	著 者 (調査研究者)	発行年月	備 考
地質調査所報告	129	群馬銩山の鉄明礬石褐銩銩床調査報告	齋藤正次	24. 5. 31	
〃	130	日本の明礬石銩床調査報告	岩生周一	24. 12. 16	
地質調査所速報	81	福島県三方郡八村天然ガス調査報告	本島公司	24. 5	
〃	82	福島県坂井郡九頭龍川沿岸天然ガス調査報告	〃	24. 5	
〃	83	能登地方地下資源概査報告	木村外 ⁴ 名	24. 5	
〃	84	岡山県「袖目カオリン」銩床調査報告	上野三義	24. 6	
〃	85	埼玉県人間郡西武ニツケル銩業所及び越生銩山附近の蛇紋岩概査報告	肥田昇	24. 8	
〃	86	福島県九頭龍川北岸地質概査	本島公司	24. 8	
〃	87	北海道十勝川上流温泉沈澱物予察報告	小関幸治	24. 8	
〃	88	大分県別府地熱調査報告(第三報)	近藤信興	24. 8	
〃	89	山形県温海石概査報告	岩生周一	24. 9	
〃	90	秋田県相内銩山電気探銩調査報告	飯田波事 金井光明	24. 9	
〃	91	岩手粘土調査報告	村岡誠	24. 9	
〃	92	北見区中頓別村附近の介化石石灰岩層調査速報	小関幸治	24. 9	
〃	93	新潟県小瀧附近の灰曹長石岩調査報告	岩生周一	24. 9	
〃	94	福岡県河東銩山鉛亜鉛銩床調査報告	和田利雄	24. 10	
〃	95	北海道空知郡瀧川地方地震探銩調査報告	早川正巳	24. 10	

	No.	題名	著者 (調査研究者)	発行年月	備考
地質調査所速報	96	秋田県鹿角郡鉛山鉱山電気探鉱調査報告	室住正義	24.10	
〃	97	大阪市附近天然ガス地化学探鉱調査報告	下河原達哉	24.11	
〃	98	大分県大野郡及び 北海苗郡 高崎鉱業苦灰岩調査報告	高田利雄 和地忠男	24.10	
〃	99	大分県大野郡川登村安東鉱業KK苦灰岩調査報告	〃	24.10	
〃	100	宮崎県西臼杵郡椎葉鉱山含銅硫化鉄床調査報告	和田利雄	24.10	
〃	101	北海道音調津黒鉛鉄床調査報告	小関幸治	24.12	
〃	102	宮城県刈田郡円田村珪藻土鉄床調査報告	林昇一郎	24.12	
〃	103	福島県田村郡産斑礫岩質岩石の石材調査報告	広川治	24.10	
〃	104	北海道後志国余市町珪藻土調査報告	齋藤正雄	24.12	
〃	105	滋賀県大原玉石張石用白珪石鉄床調査報告	安齋俊男	24.12	
〃	106	鉄明礬石の利用に関する研究	竹田榮藏 川野昌樹	25.3	
〃	107	岡山県地下資源調査報告	河合正虎	25.3	
地質調査所速報 炭田	32	石川県手取炭田尾口地区手取炭礦調査速報	小西泰次郎	24.6	
〃	33	秋田, 岩手県平鹿炭田調査速報	北村信	24.8	
〃	34	北海道空知炭田南奈井江地区調査速報	沢田秀穂	24.8	
〃	35	山形県最上炭田大高根地区調査速報	竹原平一 河野迪也	25.3	
〃	36	山形県最上炭田舟形地区調査速報	徳永重元	25.3	
〃	37	北海道白糖炭田ラサ工地区調査速報	春城清之助	25.3	
再版の分	No.	題名	著者 (調査研究者)	発行年月 再版	備考
1: 75,000 地質図説明書	Sheet No. 80	勿來地質説明書	渡辺久吉 佐藤源郎	12.10.20 24.4.25	再版

ii) 図書交換, 寄贈, 購入

国内の官庁, 大学, 学会, 会社等から本年度出版物の寄贈を受けたものは交換先は47カ所で報文536部であつた。

交換先	個所数	受人図書
官庁	26	346
大学, 学会, 図書館等	21	170
会社	1	20
計	47	536

その他の寄贈先は34個処で報文90部である。

寄 贈 先	個 処 数	受 入 図 書
官 庁	10	19
大 学, 学 会, 図 書 館 等	19	62
会 社	5	9
計	34	90

外国の地質調査所、大学、学会、博物館等の交換先から出版物の寄贈を受けたものは41箇所、報
文722部、地図11部で内訳は次のようである。

	ヨーロッパ	アジア	アフリカ	北アメリカ	南アメリカ	計	地 質 図 報 文 類	
地質調査所	6	1	1	6	1	15	11	468
大学, 学会, 博物館等	12	1	1	10	2	26		254
計	18	2	2	16	3	41	11	722

国内の官庁、大学、学会、会社等の交換先に本所出版物を発送したのは次の通りである。

24 年 度 出 版 物

交 換 先	本 報 告		速 報		炭 田 速 報	
	種 類	部 数	種 類	部 数	種 類	部 数
官 庁	2	34	29	435	6	30
学 校, 図 書 館	2	22	29	261	6	30
会 社	2	56	29	87	6	12
計		112		783		72

寄 贈	本 報 告		速 報		炭 田 速 報	
	種 類	部 数	種 類	部 数	種 類	部 数
官 庁	2	172	29	2,494	6	462
学 校	2	36	29	464	6	12
会 社			29	116	6	24
個 人	2	2	29	58	6	72
計				3,132		570
総 計		210		3,915		642

外国の地質調査所、大学、学会、博物館等の交換先に本所出版物を発送したのは戦後最初であつてその内訳は次に示す通りである。

	ヨーロッパ	アジア	アフリカ	北アメリカ	南アメリカ	オーストラリア	計	地質調査所報告	油田区	同上説明書
地質調査所	11	3	4	9	1	7	35	140	34	34
大学、学会、博物館等	12	4	1	18	2		37	148	26	26
計	23	7	5	27	3	7	72	288	60	60

購入図書は書籍 211 冊、地図 3 巾、外国雑誌 11 種 67 部である。

	巾	書 籍	外 国 図 書	
			種	冊
地質学および地理学に関するもの	3	124	7	29
物理探鉱および試錐に関するもの		36	1	33
化学およびその応用に関するもの		36	3	5
その他		15		
計	3	211	11	67

iii) 標 本

本年度は 23 年度と同様に、採蒐集提出標本の整理を行うほか、本年度前半において大略終了した鉱物の拙速的整理に次いで、九月、本所機構の改革に基き総務課廃止に伴う資料標本課標本室となり、これより重要標本の備品登記等記帳事務ならびに標本の実験による検討、利用面から収納方法の改良等に重点を置いた。

登記をうけたる鉱物鉱石の標本は 4,425 点本年度整理せるもの 854 点、この内焼残り標本 534 点、採集、蒐集せられたるもの 311 点、内 50 点は寄贈による。

標本室開設以来重要標本として備品登記をせるもの現在 83 点、当整理に伴い、逐次数を加える。未整理の焼残り標本は鉱物、鉱石においてはなお 20~30 点ある。

整理されたる標本は陳列中のものを除き、鉱種別、一部用途別による索引カードを作成し、またできうる限り薄片を附属備付ける用意をしている。鉱石に関しては主として、鉱山別に鉱床の關係岩石をも併せて整備するよう着手している。

一般岩石の標本は約 400 点計り整備された。

化石は現世代のものが多数用意されているが、陳列容器その他の備品の準備ができぬので、未だ標本室に転管展示する事ができない。その他の標本も相当に用意されるが、未整理で展示の段階に達していない。これらは鉱物鉱石と同様索引カードによる収納法が用意され、また薄片の添加の予定である。

[薄片製作]……………本年度は薄片の品質向上に留意され、逐次改良しつつある。バルサム等材料の不良に対する処置も種々工夫されている。非金属鉱物のバルサム処理に基く変質の防除、泥質砂岩等脆質岩の薄片製作法の研究に着手、陶石粉その他非金属鉱物の一部、砂質岩等に一応試作の範囲において効果を揚げ得た。

薄片製作の担当者は目下5名となり、別記の通り実績を出したが、設備の完成を待ち、量的にも向上の途をとりつつある。

特に製作困難とされた種類の薄片には改良と工夫を加え、漸次良好な成果を揚げつつある。

薄片依頼数	3,879枚
仕上数	3,385枚（研磨も含む）
1人1日仕上数	約4枚

附表 1.

寄 贈 標 本 明 細

種 類	点 数	産 地	寄 贈 者
輝 銀 鉍	1 点	静岡県清越鉍山	中外鉍業株式会社
脆 銀 鉍	1	“ “	“
テルル金銀鉍	1	“ 河津鉍山	日本鉍業株式会社
珪 線 石	1	朝鮮白馬	日本鋼管株式会社
紅 柱 石	1	“ 漣川	“
藍 晶 石	1	インド	“
石 膏	1	島根県鶴峠中山鉍山	石飛正雄氏
黒鉛精鉍	1	インドセイロン	日本化工株式会社
“	1	“	“
マンガン鉍	1	滋賀県五百井鉍山	白水晴雄氏
“	1	長野県浜横川鉍山	中央電気工業株式会社
螢 石	1	滋賀県鮎川鉍山	益富寿之助氏
マンガン鉍	2 種	宮崎県秋元鉍山	吉村豊文教授
アルカリ長石	1 点	岩手県玉川鉍山	丸大 吉村豊文教授
マンガン鉍	7 種	“ “	土井正氏氏
放射能鉍物	ブローム ストレン デヤナイト 他12点	朝鮮, 満洲, 内地	京大 田久保教授
毛 鉍	1 点	宮城県細倉鉍山	亀井久男氏
方鉛鉍・閃亜鉛鉍	2 点	新潟県葡萄鉍山	葡萄鉍業株式会社
重 晶 石	1 点	京都府笠取鉍山	益富寿之助
金 鉍	119点 薄片説明 書付	朝鮮各山	豊田秀兼

附表 2.

鉍物標本整理表

鉍石として利用面より暫定的に大別したものであつて、主として標本を収納している容器の群の区分によつて行われたものである。

一つの鉍石にして数種の利用面を有するものは、各利用すべき用途に索引カードを備付けるべく準備中である。

1. 貴金屬鉍（金，銀，白金）
2. 銅鉍
3. 硫黃および硫酸原料鉍（硫黃，黃鉄鉍，磁硫鉄鉍，含銅硫化鉄鉍）
4. 鉄鉍
5. マンガン鉍
6. 鉛，亜鉛鉍
7. 重石，水鉛，錫，蒼鉛鉍
8. 砒，安質母尼鉍
9. 燐鉍
10. 水銀鉍
11. テタン鉍

12. クローム，ニッケル，コバルト鉍
13. 黒鉛鉍
14. アルミ，輕金属，土類金属鉍（石灰を除く）
15. 放射能鉍物（デルコニウム等）
16. 硝子製練絶縁材料鉍
17. 爐材原料
18. 断熱材
19. 研磨材
- 20～24. 陶磁器，化学工業原料
25. 肥料原料鉍

この他寶石および雜多のものがあるが暫定的に雜鉍として一応分類する。

支 所 関 係

○ 北 海 道 支 所 調 査 事 業

種 別	調 査 地	担 当 者	備 考
1: 100,000 広尾図幅	北海道幌泉郡襟似郡	猪木幸男	
1: 100,000 留萌図幅	〃 留萌郡雨龍郡	西田彰一・対馬坤六	サンケ化石動物群
古 生 物	〃 〃 小平	対馬坤六	
火 山	〃 有珠郡壯瞥	根本忠寛	
金・銀・銅	〃 札幌郡手稻鉍山	齋藤正雄	
金・銀・銅 鉛・亜鉛	〃 瀬棚郡今金鉍山	高 昌 彰	
〃 〃 〃	〃 太樺郡金ヶ沢鉍山	〃	
鉄・マンガン	〃 常呂郡	根本忠寛	
クローム鉄鉍	〃 沙流郡糠平鉍山	小関幸治	
硫 化 鉍	〃 亀田郡石崎鉍山	齋藤正雄	
〃	〃 〃 精進川鉍山	猪木幸男	
硫黃・褐鉄鉍	〃 上川郡十勝川上流	小関幸治	
鉍 明 礬 石	〃 目梨郡海別鉍山	齋藤正雄	
硫 黄	〃 白老郡白老鉍山	猪木幸男	
〃	〃 斜里郡斜里	齋藤正雄	
陶石・蠟石	〃 虻田郡洞爺鉍業所 有珠郡久保内鉍業所	根本忠寛・伊藤 聰	
カオリン	〃 河東郡上士幌	〃 〃	
黒 鉛	〃 広尾郡音満津鉍山	小関幸治	
〃	〃 檜山郡湯ノ岱鉍山	〃	

種 別	調 査 地	担 当 者	備 考
石 灰 岩	北海道上磯郡	齋藤正雄	
温 石 綿	〃 空知郡布部鉾山, 山部鉾山	小関幸治	
重 昌 石	〃 檜山郡茂賀利鉾山, 勝山鉾山	高島 彰	
明 礬 石	〃 小樽市朝里	根本忠寛	
石 炭	〃 留萌郡小平	西田彰一	
〃	〃 白糠郡白糠	齋藤正雄	
石 炭	〃 空知郡歌志内	須貝貫二・細野 実・岡 重文	
〃	〃 〃 赤平	須貝貫二・細野 実	
〃	〃 〃 夕張	戸間替市太郎	
〃	〃 〃 歌志内	須貝貫二	耐火粘土層について
〃	〃	西田彰一	

。 仙 台 支 所 調 査 事 業

種 別	調 査 地	担 当 者	備 考
地下資源一般 応用地質	岩手県盛岡	早川典久	
〃	〃 紫波郡・稗貫郡	石井清彦	
〃	〃 和賀郡・ 〃	齋藤邦三	
〃	〃 〃 胆沢郡	舟山裕士	
〃	〃 岩手郡	北村 信	
〃	宮城県仙北地方	齋藤邦三	
〃	秋田県仙北郡	〃	
地 下 水	宮城県一ノ関市山ノ目	北村 信	
銅・鉛・亜鉛	秋田県鹿角郡	石井清彦	
黒 鉛	宮城県牡鹿郡鮎川	舟山裕士	
石 灰 岩	岩手県気仙郡	早川典久・山屋政美	
大 理 石	〃 〃 矢作	齋藤邦三	
浮 石	宮城県栗原郡藤里	〃	
亜炭・窯業粘土	〃 遠田郡・桃生郡	北村 信・山屋政美	
亜 炭	岩手県和賀郡	〃	
〃	秋田県平鹿郡	〃	
〃	宮城県栗原郡	丸山修司	
油 田	青森県田名郡	八木次男	
天 然 ガ ス	山形県東村山郡	舟山裕士	
地 下 水 ・ ガ ス	宮城県仙北地方	丸山修司	
天 然 ガ ス	岩手県紫波郡燧山	舟山裕士	
地 形 測 量	福島県大沼	山屋政美	

6. 大阪支所調査事業

種 別	調 査 地	担 当 者	備 考
温 泉 ・ 地 熱	奈良県吉野郡入汲	原口九万・他 1 名	
金・銀	〃 吉野郡	別所文吉	
銅	和歌山県那智鉾山	清島信之・他 1 名	
銅 ・ 鉄	山口県美禰郡大田	原口九万・武市敏雄	
銅 ・ 亜 鉛	岡山県御津郡	塚脇祐次	
銅 ・ 鉛	〃 赤磐郡, 都窪郡	原口九万・影山邦夫	
亜 鉛 ・ 磁 硫 鉄 鉍	〃 苫田郡	浜野一彦・福井三郎	
銅 ・ 陶 土	奈良県吉野郡 入室鉾山	塚脇裕次	
銅 ・ 硫 化 鉍	〃 〃 黒石 〃	別所文吉・尾崎次男	
ア ン テ モ ニ	〃 〃 高津 〃		
蠟	岡山県和素郡三ツ石	浜野一彦	
滑	兵庫縣養父郡高柳	〃	
珪	京都府, 兵庫縣, 福井縣 丹波, 若狹地区	清島信之	
〃	岡山県御津郡加茂鉾山	塚脇祐次	
珪 石 ・ 粘 土	〃 都窪郡山手鉾山, 水別鉾山	河合正虎	
長 鉛 ・ 蠟 石	〃 御都郡鉾山, 立正鉾山,	原口九万・影山邦夫	
ベ ン ト ナ イ ト	鳥取縣氣高郡神戸	加藤 信	
亜 炭	岡山県都窪郡, 御津郡	河合正虎	

○ 福岡支所調査事業

種 別	調 査 地	担 当 者	備 考
銅	鹿児島県哈良郡国分鉾山	和田利雄	
硫 化 鉄	宮崎縣東臼杵郡速日所山	浜地忠男・井上秀雄	
硫 化 鉍	長崎縣南松浦郡奈留島	〃 〃	
〃	〃 西彼杵郡雲仙岳	和田利雄	
絹 雲 母 粘 土	長崎縣南松浦郡青方	浜地忠男	
陶 石	熊本縣天草郡高浜	和田利雄	
長 石	福岡縣糸島郡玉島鉾山	浜地忠男・井上秀雄	
苔 灰 石	熊本縣葦北郡佐敷	〃 〃	
〃	大分縣北海部郡大野郡	〃 〃	
粘 結 炭	長崎縣北松浦郡北松炭田	岡田健次・原田種成	

○ 四国駐在所関係

種 別	調 査 地	担 当 者	備 考
銅・硫化鉍	徳島県名西郡次郎銅山	菊地 徹	
硫 化 鉍	愛媛県宇摩郡別子銅山	〃	
クローム・デューナイト 鉄 鉍	〃 〃 赤石鉍山	〃	
珪 石	高知県安芸郡安芸	〃	
滑 石	〃 土佐郡白瀧鉍山	〃	

III. 人 事 ・ 会 計

(1) 人 事

昭和25年3月末日現在職員は下記の如くである。

官 吏	一 級 官	二 級 官	三 級 官	計
	2	91	160	253
雇 員				209
傭 人				16
計				478

職 員

技 官	所 長	一 級 三 土 知 芳	
〃	地質部 部 長	(事務取扱)三 土 知 芳	
〃	〃 図幅課 課 長	二 級 齋 藤 正 次	
〃	資料整備室 室 長	〃 飯 山 敏 春	三 級 菊地清四郎
〃	第一調査室 室 長	〃 梅 沢 邦 臣	
〃	第二調査室 室 長	〃 河 田 学 夫	
〃	層位古生物課 課 長	(兼 務) 齋 藤 正 次	
〃	古生代研究室 室 長	二 級 中 村 穎 三	三 級 磯 見 博
〃	中生代研究室 室 長	〃 河 合 正 虎	〃 田 中 啓 策
〃	新世代研究室 室 長	〃 小 林 勇	〃 陶 山 国 男
〃		三 級 今 井 功	
〃	岩石鉍物課 課 長	二 級 河 野 義 礼	

技官	深成岩研究室	室長	三級	大和	榮次郎
"	"	"	"	"	"
"	火山岩研究室	室長	三級	沢村	孝之助
"	變成岩研究室	室長	二級	野沢	保
"	"	"	三級	大沢	穰
"	岩石鉦物理化学 研究室	室長	二級	東郷	文雄
技官	"	"	三級	砂川	一郎
"	応用地質課	課長	二級	小出	博
"	第一調査室	室長	"	小池	正忠
"	第二調査室	室長	"	申村	久山
技官	鉦床部	部長	一級	佐藤	源郎
"	金屬課	課長	(事務取扱)	佐藤	源郎
"	鉦床研究室	室長	二級	宮本	弘道
"	"	"	三級	下村	仁作
"	第一調査室	室長	二級	木村	正
"	第二調査室	室長	"	吉田	善寛
"	"	"	三級	小村	幸二郎
"	第三調査室	室長	二級	和田	利雄
"	事務係	係長	三級	徳藏	勝治
"	非金屬課	課長	二級	岩生	周一
"	資料整備室	室長	"	近藤	信興
"	"	"	三級	菊地	徹
"	第一調査室	室長	二級	村岡	誠
"	第二調査室	室長	"	安齋	俊男
"	第三調査室	室長	"	肥田	昇
技官	燐料部	部長	二級	兼子	勝
"	"	副部長	"	三田	正一
"	石炭課	課長	"	竹原	平一
"	資料整備室	室長	"	稻井	信夫
"	"	"	"	久松	將四郎
"	"	"	三級	徳永	重元
"	燃料地質研究室	室長	"	竹原	平一
"	"	"	(兼務)	石和田	靖章
"	"	"	三級	奥海	靖
"	"	"	"	三級	大和
"	"	"	"	三級	野沢
"	"	"	"	三級	村山
"	"	"	"	三級	安藤
"	"	"	"	三級	伊藤
"	"	"	"	三級	佐藤
"	"	"	"	三級	高島
"	"	"	"	(兼務)	下村
"	"	"	"	(兼務)	肥田
"	"	"	"	三級	上野
"	"	"	"	"	岡野
"	"	"	"	"	林
"	"	"	"	二級	本間
"	"	"	"	(兼務)	伊田
"	"	"	"	二級	小西
"	"	"	"	(兼務)	小野
"	"	"	"	"	大山

技官	炭田第一調査室 室長	二級	(兼務) 清水 勇 品田 芳二郎	松田 榮藏
技官	炭田第二調査室 室長	三級	沢田 秀穂 佐藤 茂	(兼務) 青柳 信義 一杉 武治
技官	炭田第三調査室 室長	二級	松井 寛 春城 清之助	清水 勇 (兼務) 奥海 靖
技官	炭田第四調査室 室長	三級	長沢 春夫	
技官	炭質調査室 室長	二級	安原 彰一 徳永 重元	(兼務) 小西 泰次郎 河野 迪也
技官	炭礦調査室 室長	三級	松本 隆一 久保 恩輔	青柳 信義 一杉 武治
事務官	事務係 係長	二級	小松 疆 河内 英幸	立花 栄一 松田 栄三
技官	石油課 課長	三級	伊集院 弘 金原 均二	
技官	油田第一調査室 室長	二級	大山 桂 島田 忠夫	三級 石和田 靖章 品田 芳二郎
技官	油田第二調査室 室長	二級	牧野 登喜男 小野 暎	三級 本島 公司
技官	油田第三調査室 室長	(兼務) 三級	金原 均二 伊田 一善	二級 井島 信五郎
技官	物理探鉱部 部長	二級	飯田 汲事 佐藤 光之助	
技官	操査課 課長	三級	加來 一郎 佐藤 光之助	三級 室住 正義 金子 純
技官	資料整備室 室長	(兼務) 三級	(兼務) 柴藤 喜平 齋藤 友三郎	三級 陶山 淳治
技官	第一調査室 室長	二級	栗原 重利	三級 立石 哲夫
技官	第二調査室 室長	三級	小尾 中丸	平沢 清
技官	第三調査室 室長	二級	村上 義朗 村岡 秀記	松田 武雄 片寄 邦之
技官	事務係 係長	三級	広沢 経夫	小尾 五明
技官	試験研究課 課長	二級	早川 正己	
技官	地震重力研究室 室長	三級	金子 徹一 (兼務) 立石 哲夫	三級 小島 整志

技 官

電気磁気研究室 室長

二 級 九 里 尙 一

(兼 務) 室 住 正 義

〃

地化学研究室 室長

三 級 柴 藤 喜 平

三 級 下 河 原 達 哉

〃

地球物理研究室 室長

二 級 藤 原 健 一

(兼 務) 陶 山 淳 治

〃

試験第一係 係長

三 級 岩 崎 章 二

(兼 務) 助 川 竹 司

〃

試験第二係 係長

〃 本 間 一 郎

〃 〃 本 間 一 郎

〃

試験第三係 係長

〃 杉 山 友 紀

三 級 氏 家 明

〃

試験第四係 係長

〃 金 井 光 明

〃 〃 氏 家 明

〃

試験第四係 係長

兼 務 小 尾 五 明

〃 〃 氏 家 明

〃

試験第四係 係長

三 級 蟻 川 親 治

三 級 市 川 金 徳

技 官

技 術 部 部 長

二 級 園 部 龍 一

〃

測 図 課 課 長

〃 村 田 近 良

〃

課長補佐

〃 小 松 直 藏

〃

課長補佐

〃 笹 原 栄 雄

〃

測量第一係

〃 村 上 宇 吉

〃

係長

三 級 加 美 時 寛

三 級 宮 沢 芳 記

〃

測量第二係 係長

〃 船 倉 義 彦

三 級 福 吉 長 雄

〃

測量第三係 係長

〃 藤 本 辨 藏

三 級 西 村 嘉 四 郎

〃

測量第四係 係長

〃 細 井 力 雄

〃 〃 清 水 道 也

〃

測量第五係 係長

〃 堀 本 健 次

〃 〃 佐 藤 優

〃

測量第六係 係長

〃 磯 己 代 次

〃 〃 小 谷 野 長 平

〃

測量第七係 係長

〃 窪 木 時 雨 郎

〃 〃 中 村 勳 男

〃

測量第八係 係長

〃 長 岡 東 洋 男

〃 〃 中 村 勳 男

〃

測量第九係 係長

〃 橋 本 与 太 郎

〃 〃 中 村 勳 男

〃

測量第十係 係長

〃 石 橋 嘉 一

三 級 川 野 辰 夫

〃

測量第十一係 係長

〃 石 原 二 郎

〃 〃 小 宮 利 夫

〃

製図第一係 係長

〃 横 江 一 男

〃 〃 小 宮 利 夫

〃

製図第二係 係長

〃 萱 間 泰 雄

〃 〃 小 宮 利 夫

〃

製図第三係 係長

〃 草 深 源 三 郎

〃 〃 小 宮 利 夫

〃

製図第四係 係長

〃 鈴 木 俊 郎

〃 〃 小 宮 利 夫

事務官

事 務 係 係 長

二 級 工 藤 広 忠

技 官

〃

(兼 務) 藤 谷 吉 三

(兼 務) 柳 原 親 孝

技官	試錐課課長	二級渡辺武夫	
"	試錐技術研究室室長	" 尾原信彦	(兼務) 小池正八
"	"		(兼務) 山田隆基
"	整備係係長	三級柳原親孝	三級深沢邦武
"	第一工事係係長	" 野口勝	" 山田隆基
"	第二工事係係長	" 小池正八	" 山崎満寿雄
"	化学課	二級平塚隆治	
"	課長分析技術研究室室長	(兼務) 平塚隆治	(兼務) 石田与之助
"	"	二級竹田栄藏	三級磯野清
"	貴金属係係長	三級藤谷吉三	
"	金属係係長	二級石田与之助	三級加藤甲壬
"	非金属係係長	三級関根節郎	" 金子博祐
"	燃料係係長	" 牧真一	
"	工作室室長	(兼務) 齒部龍一	(兼務) 蛭川親治
"	"	" 山田隆基	" 小尾中丸
"	"	" 氏家明	
技官	地質相談所 所長	二級橋本克巳	
事務官	弘報係係長	三級秋本龍雄	
技官	"	(兼務) 大塚寅雄	
"	相談室室長	二級田中元之進	(兼務) 春城清之助
"	"	(兼務) 高島清	
技官	資料標本課 課長	二級村越司	
"	印刷出版係係長	三級安室豊	
事務官	資料調査係係長	二級関口俊太	
技官	図書室室長	三級松崎美房	
"	標本室室長	二級大塚寅雄	
技官	企画課課長	二級遠藤六郎	
"	企画係係長	三級野口保夫	
"	連絡係係長	(兼務) 藤原健一	
事務官	庶務課課長	二級高柳郷司	
"	課長補佐	" 佐藤東一	
"	庶務長係長	三級石川賢寿	三級古川静

事務官			三 級	北岡末旺	三 級	正岡直義
"	人事係	係長	"	美濃和義三郎		
"	厚生係	係長	"	藤村豊春		
技官			"	杉本次一	三 級	助川竹司
事務官	認證係	係長	二 級	山田勇吉	"	野神万寿雄
"	給与係	係長	三 級	小塚勝弘		
"	予算決算係	係長	"	杉山新平		
"	用度係	係長	"	根岸武代	三 級	工藤直樹
技官	北海道支所	所長	二 級	根本忠寛		
文部教官	"		一 級	原田準平		
技官	地質課	課長	二 級	西田彰一	三 級	猪木幸男
"	地質調査室	室長	三 級	対馬伸六		
"	分析標本室	室長	"	伊藤聰		
"	探鉱課	課長	二 級	高畠彰		
"	第一調査室	室長	"	小関幸二		
"	第二調査室	室長	"	齋藤正雄		
"	燃料課	課長	"	須貝貫二		
"	燃料調査室	室長	(兼務)	須貝貫二	三 級	細野実
"	資料室	室長	三 級	大越寿一	三 級	島田忠夫
"	測図係	係長	"	金子政利	"	芳山芳夫
"	"		"	岡重文		
事務官	庶務係	係長	"	秩父武志		
技官	仙台支所	所長	一 級	八木次男		
"	開発調査室	室長	(事務取扱)	八木次男	三 級	舟山裕士
"	"		三 級	北村信	"	齋藤邦三
"	"		"	丸山修司		
"	測図係	係長	"	山屋政夫	(兼務)	悪原直巳
"	庶務係	係長	"	悪原直巳	三 級	菅福久
技官	大阪支所	所長	二 級	別所文吉		
事務官	"		三 級	高橋博		
技官	開発調査室	室長	二 級	原口九万	二 級	福永三郎
"	"		"	浜野一彦	(兼務)	福井三郎
"	"		三 級	塚脇祐次	三 級	清原清人

技官	〃	三級	清島信之		
〃	測図係 係長	〃	尾崎次男		
〃	庶務係 係長	〃	福井三郎		
技官	福岡支所 所長	二級	片山勝		
〃	開発調査室 室長	(事務取扱)二級	片山勝	三級	原田種成
〃	〃	三級	高井保明	〃	岡田健次
〃	測図係 係長	〃	向井清人	二級	浜本勝巳
〃	〃	〃	小林猪之助	三級	竹下健雄
〃	庶務係 係名	〃	浜地忠雄		
技官	名古屋駐在所	二級	千藤忠昌		
技官	四国駐在所	二級	稻井信雄	三級	石川公夫

転 勤

嘱託	石井清彦	技官	坪谷幸六	技官	片山信夫
技官	早川典久	〃	柴野二郎	〃	松沢勲
〃	甲藤次郎	〃	大江二郎	〃	田中元之進
〃	小池正忠	〃	渡辺正	〃	梅沢邦臣
事務官	正岡直義				飯山敏春

退 職

技官	虎岩達夫	技官	浜本勝巳	技官	加藤信
----	------	----	------	----	-----

2) 会 計

款 項 目 節	予 算 額	移用及流用増△減		予 算 現 額	支 出 済 盡	不 用 額
		移 用 増△減	流 用 増△減			
産業經濟費						
欽業費						
地算調査所	98,048,000.00	18,796,200.00	8,481,958.67	116,844,200.00	166,550,914.41	293,285.59
職員俸給	26,473,320.00	160,000.00	5,755,383.50	29,972,320.00	29,967,768.99	4,551.01
官吏俸給	7,977,180.00	0	2,416,383.50	12,391,180.00	12,390,509.88	670.12

款 項 目 節	予 算 額	移 用 及 流 用 増 (△ 減)		予 算 現 額	支 出 済 額	不 用 額
		移 用 増 (△ 減)	流 用 増 (△ 減)			
臨時職員俸給	5,179,980.00	160,000.00	1,341,383.50	6,681,365.50	6,681,363.50	0
職 員 俸 給	12,436,800.00	0	2,260,425.50	10,176,374.50	10,172,493.61	3,880.89
備 員 俸 給	879,360.00	0	155,958.00 1,198,200.00	723,402.00	723,402.00	0
職 員 手 当	13,907,851.00	1,748,200.00	9,200.00	16,854,051.00	16,760,828.12	84,222.83
勤 務 地 手 当	9,179,040.00	0	469,200.00	9,648,240.00	9,646,553.12	1,686.88
扶 養 手 当	4,123,459.00	0	729,000.00	4,852,459.00	4,850,600.00	1,859.00
超 過 勤 務 手 当	605,352.00	105,200.00	0	770,552.00	770,552.00	0
臨 時 年 未 手 当	0	1,583,000.00	9,200.00	1,573,800.00	1,493,123.00	80,677.00
諸 手 当 及 び 給 与 金	120,000.00	0	0	120,000.00	120,000.00	0
委 員 手 当	120,000.00	0	0	120,000.00	120,000.00	0
賃 金	12,200,000.00	0	1,180,000.00	11,020,000.00	10,940,865.18	79,134.82
賃 金	12,200,000.00	0	1,180,000.00	11,020,000.00	10,940,865.18	79,134.32
旅 費	18,390,000.00	660,000.00	660,000.00	18,390,000.00	18,387,816.22	2,183.78
職 員 旅 費	16,390,000.00	660,000.00	660,000.00	16,390,000.00	61,388,082.22	1,917.78
調 査 旅 費	16,190,000.00	660,000.00	567,100.98	16,282,899.22	16,282,899.22	0
赴 任 旅 費	200,000.00	0	92,899.22	107,100.78	105,183.00	1,917.78
受 託 調 査 旅 費	2,000,000.00	0	0 227,606.09	2,000,000.00	1,999,734.00	266.00
消 耗 品 費	12,232,280.00	840,000.00	1,450,606.09	11,849,280.00	11,775,400.67	73,879.33
文 具 費	4,287,380.00	0	227,606.09	4,514,986.09	4,514,986.09	0
燃 料 費	1,734,100.00	200,000.00	710,027.82	1,224,027.82	1,164,513.26	59,514.56
消 耗 器 材 費	5,645,300.00	640,000.00	740,533.91	5,544,766.09	5,544,766.09	0
被 服 費	9,600.00	0	0	9,600.00	9,159.13	440.87
食 糧 費	555,900.00	0	0	555,900.00	541,976.10	13,923.90
役 務 費	10,052,680.00	715,000.00	1,094,318.26 2,009,318.26	9,852,680.00	9,814,669.14	38,010.86
印 刷 製 本 費	1,811,700.00	180,000.00	512,496.37	2,504,196.37	2,504,196.37	0
光 熱 及 び 水 料	1,000,000.00	0	193,960.47	806,039.53	809,039.53	0
通 信 費	1,029,380.00	0	449,491.17	579,888.83	579,888.83	0
運 搬 費	1,022,300.00	100,000.00	272,837.22	849,462.38	849,462.38	0
修 繕 費	1,055,800.00	0	421,967.39	1,477,767.39	1,477,767.39	0
手 数 料	100,000.00	50,000.00	133,747.50	16,252.50	16,252.50	0
借 料 及 び 損 料	3,911,200.00	380,000.00	959,281.50	3,331,918.50	3,293,907.64	38,010.86
筆 耕 料	100,000.00	0	78,723.00	178,723.00	178,723.00	0
雜 役 務 費	22,300.00	5,000.00	81,131.50 173,444.12	108,431.50	108,431.50	0
備 品 費	3,376,869.00	380,000.00	558,444.12	3,376,869.00	3,373,947.26	2,921.74

款 項 目 款	予 算 額	移 用 及 流 用 増 (△ 減)		予 算 現 額	支 出 済 額	不 用 額
		移 用 増 (△ 減)	流 用 増 (△ 減)			
所用器具費	1,076,869.00	155,000.00	173,444.12	1,405,313.12	1,405,313.12	0
事業用器具費	2,300,000.00	230,000.00	558,444.12	1,971,555.88	1,968,634.14	2,921.74
原 材 料 費	745,000.00	0	33,006.70 198,006.70	580,000.00	572,298.83	7,701.17
セメント費	200,000.00	0	127,507.40	72,492.60	72,492.60	0
鋼 材 費	200,000.00	0	37,880.35	162,119.65	162,119.65	0
木 材 費	200,000.00	0	33,006.70	233,006.70	233,006.70	0
諸 資 材 費	145,000.00	0	32,618.95	112,381.05	104,679.88	7,701.17
施 設 費	350,000.00	14,288,000.00	0	14,638,000.00	14,637,320.00	680.10
機械購入費	350,000.00	14,288,000.00	0	14,638,000.00	14,637,320.00	680.00
賠償及び償還金	200,000.00	0	0	200,000.00	200,000.00	0
賠 償 金	200,000.00	0	0	200,000.00	200,000.00	0

地質部成果年次報告 (昭和22~24年度)

事業概要

地質部長 遠藤 六郎

I) 昭和22年度

昭和22年度に至つて7万5千分の1地質図幅調査は計画的事業としての復活の軌道に乗り始めた。しかしながら食料の不足、物価の高騰等の世情の不安定は図幅調査のような長期に亘る野外調査に多大の不便を与え、従つて調査図幅の選定がかなり制限され、また野外作業の能率も低下し勝ちであつた。昭和22年度中に次の5図幅の調査と、2図幅の内業を行つた。

図幅作成を目的とする地質調査以外の地質調査事務は第1部第2課で担当した。本部門についてはその事業内容があまり多岐であつたため、業務遂行責任者の方において最もその指導方針に困難を感じた部門であつた。しかしながら鉱床関係燃料関係、以外の応用地質方面すなわち土木地質的ともいふべき方向への地質調査と図幅調査以外の純研究的な調査へと自然的に向つたことは次の表に現われている。

表に見るように応用地質関係では地熱関係の調査が8件におよび、その中別府のものは後に試験が行われ、また発電試験に成功した。

その他新潟県下の地温り調査2件および西富士水理調査の件があるが既にそれぞれ地質速報第9号、地質報告第127号および地質速報36号に発表せられている。

また鉱産誌編集のための補足的調査を目的としたもので硯石・抗火石(軽石)およびセメント代用土の調査があり、何れも近々発表される予定である。その外研究を目的とするものに玻璃質岩石の研究2件、大谷石の調査研究2件、阿蘇山爆裂調査等があるが、何れも地質報告第134号、126号、地質速報第43号、および地質速報第42号に発表されている。

大谷岩の研究では岩石空洞中に存在するいわゆる「ミソ」なるものは粘土鉱物の一種モンモリロナイトなる事が明らかにされた。

研究題目	担当者	場所	期間	目的	成果
秋葉山図幅	齋藤技官	愛知県南設楽郡、八名郡下 静岡県引佐郡下	60	図幅地質調査	継続中図幅の1/5 野外調査完了
脇町図幅	平山技官	香川県大川郡、木田郡、香川郡、徳島県阿波郡、板野郡下	60	同上	野外調査完了内業継続中
長野図幅	小林技官	長野県長野市、更級郡、下高井郡	—	同上	内業ノミ
生野図幅	東郷技官	兵庫県神崎郡宍粟郡下	90	同上	継続中図幅1/5の野外調査完了
沼津図幅	沢村技官	静岡県駿東郡、富士郡下	60	同上	野外調査完了内業継続中
鬼首図幅	梅沢技官	宮城県玉造郡	—	同上	内業ノミ
熱海図幅	久野嘱託	静岡県田方郡熱海、宇佐美	25	同上	野外調査完了内業継続中
大分県別府地熱調査	近藤技官	大分県別府市白瀧温泉地区	8日	火山はあつても地熱が応用しうるかどうか地熱地帯の規模および地理状況を調査するため、	各方面の状況から見て別府温泉地の地熱が最も良好なことが判明し別府を徹底的に調査することになつた 研究報告 地質調査所速報第76号 地学雑誌 58巻 4~5号 その他地熱開発技術委員会に報告済みのもの
箱根大山の地熱の研究	同	神奈川県箱根大涌谷小涌谷	2日		
箱根地熱調査	小池技官	神奈川県箱根大涌谷湯ノ花沢	12日		
恐山地熱調査	同	青森県下北郡恐山	30日		
草津白根 志賀高原地熱調査	同	群馬県吾妻郡白根山 長野県下高井県志賀高原	7日		

研究題目	担当者	場 所	期 間	目 的	成 果
沼尻山鬼首地熱調査	中村(久)技官	福島県沼尻山 宮城県鬼首村	7日		工業技術月報2巻8号
大分県別府地熱調査	同	大分県別府市南立石	8日		
高原那須地熱調査	広川技官	栃木県高原山, 那須山	5日		
西富士農耕地地区水 理調査	近藤技官 小池技官	静岡県西富士	4日	農耕開拓地の水 源調査	地質調査所速報第9号 地質報第127号 地質速報第36号
新潟県西頸城柵口 地じり	小出技官	新潟県西頸城郡柵口	14日		
新潟県東頸城地じ り	同	新潟県東頸城郡下	7日	セメント不足を 補うための原料 調査	日本鉱産誌資料 (未発刊)
セメント代用土の 調査研究	近藤技官	神奈川県熱海市	4日		
セメント代用土の 調査研究	広川技官	神奈川県下	8日		
セメント代用土の 調査研究	大塚技官	神奈川県下	4日	耐火度高い粘土 を確保するため	日本鉱産誌資料 (未発刊)
耐火粘土の調査研 究	平山技官	福島県石城郡, 双葉郡地方	7日		
硯石の調査研究	河田囑託	山口県豊浦郡下	5日	硯材の生産状況 を調査するため	日本鉱産誌資料 (未発刊)
抗火石(軽石)調査	河野技官	静岡県伊豆天城火山	5日	抗火石の生産過 程及び鉱量調査	日本鉱産誌資料 (未発刊)
大谷石調査	中村(久) 技官	栃木県河内郡大谷	4日	大谷石の層序学 的研究	地質学雑誌(総会号) 地質速報第43号
大谷石調査	広川技官 安藤囑託 河田囑託	栃木県河内郡大谷	4日	大谷石の岩石学 的研究	学振第76小委員会報告
玻璃質岩石の研究	河野技官	佐賀県有田地方, 熊本県阿 蘇地方, 長野県和田峠	25日	玻璃岩の成因た らびに利用価値 の調査	地質報第134号 地質報第126号
晶硬質岩石中の斑 玻璃石膏の研究	同	大分県東国東郡姫島	14日		
阿蘇山爆裂調査	沢村技官	熊本県阿蘇山	7日	爆裂状況および 被害調査	地質速報 42号
花崗岩変成岩調査	小出技官 河田囑託	岡山県御津郡, 鳥取県八頭郡下	14日	岩石学的研究	

II) 昭和23年度

昭和23年8月, 第一部は, 地質部と改称され, その構成は従来第一課として地質図幅の作製業務を担当していたのが, そのまゝ図幅課となり, 第二課を基礎科学課と応用地質課に二分して, その業務の分担を明らかにした。

1. 図 幅 課

終戦直後の世情は地質図幅作製のような基幹的恒久的地質調査事業に幾多の困難をもたらしていた。しかしながら本年度においては, 世情も漸く安定し, 図幅調査事業もやゝ軌道に乗り, 前年度より継続するもの7, 新たに着手したもの3を加えて, 10図幅を調査した。その内本年度までに野外調査を完了し図幅および説明書作製中のものは3図幅である。

昭和23年度地質図幅調査実績表

図幅名	調査者	場所	期間	収めた成果
秋葉山	齋藤正次	静岡, 愛知県	90	継続 調査中(約 $\frac{1}{4}$ を終了)
	磯見博		90	
○ 長野 脇町 生野	小林勇	長野県 徳島県 兵庫県	90	〃 〃 (約 $\frac{1}{2}$ 〃)
	平山健		30	〃 調査終了
	東郷文雄		90	〃 調査中(約 $\frac{1}{2}$ 〃)
	村山正郎		25	
松諫	中村颯三	島根県 長野県	40	新着手 〃 (約 $\frac{1}{5}$ 〃)
	沢村孝之助		15	〃 〃 (約 $\frac{1}{4}$ 〃)
	大和栄次郎		40	
船津	近藤信興	岐阜県	40	継続 〃 (約 $\frac{1}{5}$ 〃)
	野沢保		40	
○ 沼塩	沢村孝之助	静岡県 栃木県		継続 調査終了
	岩生周一		15	継続 調査中(約 $\frac{1}{5}$ 〃)
	今井功		30	
徳島	平山健	徳島県	40	新着手 〃 (約 $\frac{1}{2}$ 〃)
○ 熱海	田中啓策 久野久	静岡県	—	継続 調査終了

○ 印 野外調査を完了し図幅および説明書作製中のもの

2. 基礎科学課

地質部の研究部門が予算を伴つて基礎科学課として独立した。本年度は室内研究設備を整備しつつ研究を始めた状態で、研究題目の選定も、その目標が確立しなかつた憾みがあり、純基礎的なもの、応用または資源を対象としたもの、あるいは両者の中間に行くものなど、種々あつたが、研究方法論的に新しい試みのものがあり、その成果も徐々にあがりつつある。

純基礎的研究としては

- (1) 赤城火山の基礎的研究
- (2) 赤城火山の球状安山岩
- (3) 大山火山帯の角閃安山岩の研究
- (4) 超塩基性岩の研究
- (5) 接触変成岩の研究

等の諸研究があり、その中(2)および(5)は、既に学会において発表され、地質調査所報告書として印刷されまた印刷中である。また(1)および(4)も近く発表の予定であり、(3)は都合により中止したが、その造岩角閃石については近々発表されることになっている。

応用または利用を目的とした研究では

- (6) 蛭石の研究
- (7) 耐火物原料鉱物の調査研究
- (8) 瑪瑙の調査研究

等があり、(6)については、その一部は既に地学雑誌に発表され、福島県小野新町、奈良県南葛城郡等において、多量の鉱物が確認されている。(7)については近く発表の予定であるが、主として

化学分析により葉蠟石, カオリン, 明礬石等の鉍化の関係を明らかにした。(8)は都合により中止。

純研究と応用研究との中間を行くものに

- (9) 玻璃質岩石の研究
- (10) 方解石の晶相変化の研究
- (11) 三角式黄銅鉍の成因的研究
- (12) 花崗岩およびペグマタイトの研究

等がある。この中(9)については本調査所報告第134号に発表されている如く、黒曜岩と松脂岩の区別、成因等を明らかにし、それ等の工業的用途および利用しうるものの産地、品質、鉍量等を確認した。(10)および(11)は鉍物品癖の研究を応用して探鉍の方針としようとするもので、わが国としては、方法論的に全く新しい試みで、その成果も着々挙りつつあり、近く調査所報告および月報を通じ発表の運びになつている。(12)については、ペグマタイト中の共存鉍物を手掛りとし、花崗岩の特性を知り、その区分をしようとする試みるもので、興味ある結果を得つつある。なおそれらの実績表を示せば次表の如くである。

研究題目	担当者	場 所	期間	目 的	成 果
大山火山帯の角閃安山岩の研究	河野義礼		20	本邦火山帯の岩石区の研究のため	野外調査の結果角閃安山岩に2型式の存在する事が明らかとなつた
蛭石の研究	〃	石川県小野新町, 石川町等	7	建築材料と利用のため	数十万匁の鉍量を確認した
玻璃質岩石の研究	〃	北海道白瀧, 岩手県土畑鉍山, 隠岐島	30	特種火山岩の岩石学的研究および工業的利用目的のため	黒曜岩, 松脂岩の岩石学的区別, 化学成分, 成因等を明らかにしそれ等の工業的用途および利用しうる産地, 品質, 鉍量等を確認した
赤城火山の基礎研究	太田良平	群馬県勢多郡, 利根郡等	30	岩石学的研究	本研究は24年度に継続する
耐火物原料鉍物調査	安藤 武	岡山県, 兵庫県, 山口県	30	熱水鉍化作用および鉍石の研究のため	中国地方の蠟石鉍床の鉍化作用の関係を明らかにした
石炭の成因論的研究	陶山国男	茨城県常磐炭田	20		
方解石の晶相変化の研究(I)	砂川一郎	福島県柞山	10	晶相を地質温度計として用うるため	柞山方解石の測角等完了
三角式黄銅鉍の成因的研究	〃	青森県船村, 秋田県荒川, 福井県尾小屋	40	三角式黄銅鉍と普通黄銅鉍との晶出過程の差異を解明するため	形態的研究, 分光分析の略半を完了
超塩基性岩および塩基性岩の研究	広川 治	岩手県	40	岩石学的研究	滑石の成因その他の変成現象の一部が明らかになつた
赤城火山の球状安山岩	小出 博	群馬県	5	〃	26年3月出版の予定
瑪瑙調査	菊池清四郎	新潟県東蒲原郡三河村	10		
接触変成岩の研究	河田清雄	京都府大文字山, 櫻天神	20	堇青石ホルンフェルスの研究のため	25年度地質学会にて発表
花崗岩およびペグマタイトの研究	松原秀樹	山梨県宮本村金峯山, 山口県柳井町山井	17	本邦酸性深成岩のミネライザーによる岩漿的区分の考察	一系統(中央系花崗岩と假称)の概略の分布, 特質, 機構が判明した。又金峯山の花崗岩は外帯に属する事が明らかとなつた

地学雑誌掲載
地調報告掲載

3. 土木地質課

終戦後の食料事情ならびに電力事情の急迫の下において開拓関係と電源開発関係の調査の必要が強調されていた。それらの要望に応えるべく従来の第1部第2課の一部が本年度8月より独立し、土木地質課としてそれら関係調査業務を担当することとなつたのである。

開拓関係の調査としては、農林省の要望ならびに各県の要望をにらみ合せて、本年度はそのサンプル・フィールドとして静岡県西富士地方の地下水を対称とした地質調査を行い、これには試錐も併せて行つた。しかしその結果は、西富士地方では、実用に供しうる地下水の発見はできなかつた。また大阪出張所を中心として鳥取県の要望に応じ、大山山麓における地下水探査を目的として地質調査を行い、これは既に公表されている。その他伊豆地方、三重県下等においても調査を行つたがこれらはみな県当局の特別の要望によるものであつた。

電源開発は、現在のように各河川を中心とした国土総合開発の立場における電源開発調査には触れず、当時本省に設置された地熱開発技術会の勧告に基き、地熱発電の基礎地質調査を行つた。すなわち北は青森県から南は九州の鹿児島までの間、地熱利用の対称となりうる希望の箇所の概査を行い最も適当と思われる箇所として別府温泉を選定し、先ず地質調査を行い、ついで試錐も実施しその結果 150°C を上廻る高温ガスの採取に成功し、一応地質調査所として分担した地熱発電の基礎調査の責任は果たしたわけである。そしてこの調査研究には、本所の経費の一部も勿論あてたが、大部分は学術振興会の援助によつて行われた。

他方前年の昭和22年9月、カスリン颱風に関東地方がおそわれたが、これによる赤城火山を中心とした災害地の調査研究を始める必要もあつたので、赤城火山および渡良瀬川を対称とし利根川治水の立場から調査研究を開始した。この事業は調査の進捗に応じ、その都度発表している。これらの調査実績表を示せば次の如くである。

研究題目	担当者	場 所	期間	目 的	収 め た 成 果	
地熱調査	近藤信興	大分県別府市	14	資源としての地熱の 仙値を決定するため	噴出する蒸気は温度 128°, 圧 力 3気圧, 蒸気量 2.000kg/hn.	地調速報掲載 地質雑掲載
地下水調査	〃	静岡県西富士 地方	14	農地開発用地下水の 存否を見るため		地調速報掲載
地熱調査	中村久由	宮城県玉造郡 鬼首村	14	地熱開発のため	希望する区域は地下温度低く 不適當	
温泉ならび に温泉作用	〃	宮城県刈田郡 遠刈田温泉	10	湧出機構と地質構造 との関係を明らかに するため	地質調査および温泉水主成分 の検出	
群馬県下の 水害対策	菊池清四郎	群 馬 県	7	赤城火山崩壊地の土 石流の調査のため	現地調査によつて観察し得た 崩壊地の特異性土石流の分類	
洪水、山崩、 地割りに関 する基礎地 質学的研究	河田清雄	栃木県上都賀 郡足尾町	40			

III) 昭和24年度

昭和24年9月の再度の本所機構改革に伴い、地質部においては、基礎科学課を廃し、新に岩石鉱物課と層位古生物課の2課を置き、土木地質課は応用地質課と改まり、従來の図幅と共に地質部は4課となつた。本年度の業務の主なもの挙げれば次の如くである。

1. 図 幅 課

従來の7万5千分の1図幅の作製を、本年度の中途から5万分の1図幅の作製に切り換えることとした。従來の7万5千分の1図幅は世上一般で利用する際に縮尺の関係上不便があり、また一図幅の面積が広いこと、精度のより高い地質図を要望される現状においては、迅速に調査結果を挙げ得ない点があり、これ等の欠陥を除去するために5万分の1図幅に切り換えたのである。

これによつて継続中の図幅も、特に従來通り7万5千分の1図幅として完成するのが容易であるものを除いて、5万分の1図幅に切り換えることにした。

さらに本年度よりは、新に 50 万分の 1 日本総合地質図の編纂および刊行を正式に本所の事業の一部として採用した。

この 50 万分の 1 地質図は大正年代の初期に本所から出版されて、現在絶版となつている 40 万分の 1 地質図の改訂を意図するものであるが、今回新に凡ゆる新資料を蒐集し、一部は実地調査を以て補つて根本的に編纂をやり直すものである。日本全国を 16 図幅に区分し、逐次編纂の上出版の予定である。

昭和 24 年度図幅調査事業の進捗状況は次表の如くである。

図幅名	調査者	場所	期間	収めた成果	備考
○ 秋葉山 船津 塩原 徳島	齋藤正次	静岡, 愛知県	55	継続 調査中(約 $\frac{4}{5}$ を終了)	1: 75,000
	磯見博		70		
	近藤信興	岐阜県	50	// // (約 $\frac{1}{2}$ //)	
			70		
	岩生周一	栃木県	10	// // (約 $\frac{9}{10}$ //)	
			70		
	平山健	徳島県	70	// 調査終了	
			70		
○ 長野; 須坂 生野; 山崎 松江 諏訪 人首; 大迫 足尾; 男体山. 沼田 伊万里 但馬竹田	小林 勇	長野県	78	切換 調査中(約 $\frac{3}{5}$ を終了)	1: 50,000
	東郷文雄	兵庫県	70	// 調査終了	
	中村 穎三	島根県	70	// 調査中($\frac{2}{3}$ を終了)	
	沢村孝之助	長野県	10	// 調査終了	
			70		
	大和栄次郎		70		
	広川 治	岩手県	50	新着手 調査中($\frac{3}{5}$ //)	
			25		
	小出 博	栃木, 群馬県	70		
			40		
	河田清雄		70		
	大沢 穠		40		
	太田良平	群馬県	10	// // ($\frac{4}{5}$ //)	
	沢村孝之助	佐賀県	46	// // ($\frac{1}{3}$ //)	
陶山国男		76			
広川 治	兵庫県	20	// // ($\frac{1}{4}$ //)		
		40			
京 都	50 万分 1 日本総合地質図幅編纂委員会			編纂完了	1: 500,000
高 知			//		
福 岡	//			編纂中	

○ 印 野外調査を完了し図幅および説明書作製中のもの

2. 岩石鉱物課及び層位古生物課

岩層両課はそれぞれの専門分野に応じて図幅課の主担する 7 万 5 千分の 1 および 5 万分の 1 地質図幅作製に従事した外純基礎的部門の研究としては

- (1) 赤城火山熔岩の特性
- (2) 赤城火山鈴ヶ岳熔岩の晶洞鉱物
- (3) 神岡鉱山母岩の岩石学的研究

の三つがあり、何れも既に学会に発表されている。

資源ならびに応用を目的とした研究には

- (4) 粘土鉱物の化学的研究
- (5) 紀州鉱山地質調査
- (6) 北海道幌別硫黄鉱山調査
- (7) 成羽炭田の調査
- (8) 蛭石調査

等があり、この中(6)、(8)については既に発表され、(4)、(5)、(7)等も近く発表の運びになつている。

この中間を行きかつ前年度継続のものは

- (9) 鉱床中における鉱物の晶相変化に関する研究
- (10) ペグマタイトの研究
- (11) 大阪市附近天然ガス田の構造の研究

があり成果をあげつつある。これらの実績表をあげれば次の如くである。

研究題目	担当者	場 所	期 間	目 的	成 果	
赤城火山鈴ヶ岳 熔岩の晶洞鉱物	太田良平	群 馬 県	—	岩石学的研究	種類、光学性および成因を解明す	地質雑誌 掲載
赤城火山熔岩の 特性	〃	〃	—	〃	赤城火山熔岩は基盤岩の古生層礫 土質岩石を多量に熔融同化した事 実を岩石学的に証明した	図幅を作 製しつつ 研究せる もので研 究費を伴 わない
神岡鉱山母岩の 岩石学的研究	野 沢 保	岐阜県神岡鉱 山	—	本鉱山母岩の 閃長質岩の成 因的研究のため	神岡鉱山母岩が花崗岩化作用で生 成された事を確めた	
蛭 石 調 査	菊池清四郎	奈良県大正村 愛知県南設楽 郡東郷村 山梨県初鹿野	10	埋蔵量調査の ため	埋蔵量数百万吨を確認した	
粘土鉱物の化学 的研究	安 藤 武	兵庫県、広島 県	35	熱水鉱化作用 の研究	華蠟石、カオリン質蠟石および明 礬石鉱床の変質帯中の共存関係成 因上の関係、中国型明礬石鉱床の 原岩と成因等を明らかにした	
北海道幌別硫黄 鉱山調査	太田良平		60	鉱 床 調 査	同鉱山の地質および鉱床を解明し た	
成羽炭田の調査	河合正虎	岡山県川上郡	15	成羽層群の地 質構造と大質 造山運動の機 構解明のため	左記目的に対し相当の成果が上つ た	
紀州鉱山地質精 査	村山正郎	三重県、和歌 山県	88	重要鉱床地帯	調査区域の約50%終了、本精査に より新宮図幅調査による宮井統の 総合的調査の必要が認められた鉱 脈生成発達に関する研究を続行中	
ペグマタイトの 研究	松原秀樹	山口県、長野 県、山梨県	45	ミネラライザ ーによる深成 岩特に花崗岩 の岩的時代的 区分	従来日本における花崗岩の地質学 的考察の域を脱してミネラライザ ー上より研究時代的に3—4に区 別し得られた。その一つの中央系 花崗岩(假称)についてその分布お よび特徴を解明中	
鉱床中における 鉱物の晶相変化 に関する研究	砂川一郎	島根県、栃木 県	36	晶相変化を基 準とする探鉱 方法の研究の ため	晶相の変化の原因特に各鉱物に伴 う変化系列について知る事ができ 本研究を利用して鉱床探鉱の方針 を立てつつある	
大阪市附近天然 ガス田の構造の 研究	中河田今井 村合中 正啓 三虎 策功	大阪市近郊		大阪ガス田に 対する基盤調 査	大阪層群の地質構造を詳細に解明 し、平野地下の地質構造の推定に 役立つた	

3. 応用地質課

昭和24年度は前年度よりの継続調査として、地熱発電の可能な箇所について全国的に調査した。

地熱発電に刺戟されて、温泉の調査研究の要望が起り、特に漸く観光資源としての温泉が大きく浮び上る形勢にあつたので、温泉の調査が積極的に取上げられるようになった。しかしながら温泉というものは、地質の方では今まで特別な専門家がなく、従来僅かに無機化学の系統の人々が、化学的、あるいは地球化学的立場から研究していたにすぎなかつた。しかし地質の立場からも、地熱発電、観光資源その他にいろいろの意味で、もつとはつきりさせる必要が起つたので、温泉そのものの実態をつかむための、研究的な調査を開始したのである。

また昭和 23 年から 24 年にかけて、岩手県の大石が輸出される希望が大きくなり、それに伴つて石材の問題も浮び上つてきた。日本にはなかなか優秀な大理石が諸所で産出するので、丁度第一次大戦後の伊太利の経済危機を大理石の輸出によつて切り抜けたと同じことが、日本でもいえるという声が起り、大理石を中心にした石材一般の調査を行つた。その一部は既に公表されているし、その結果を近い将来に公表されることとなつている。

治山、治水関係調査としては、前年度からの継続として、赤城火山、渡良瀬川を利根川水系の立場における災害を対称として、基礎地質調査を行う一方、日本の国土保全上いまま一つ大きな社会問題となつている地亡りの調査研究を開始した。これは今日なお引きつづき調査を進めている。そして研究結果は逐次公表しつつある。

これらの調査実績を示せば次表の如くである。

研究題目	担当者	場所	期間	目的	収めた成果
宮城県遠刈田温泉調査	中村久由	宮城県遠刈田温泉	10	将来の開発の為、湧出機構解明の為	潜存湧出線が推定されたがさらにこれを確認するために物理探鉱を行う予定
地熱に関する研究	近藤信興	丸重山、阿蘇山、雲仙岳	14	資源として地熱の仙値を決めるため	工業技術月報掲載済
長野県平穏温泉群の調査	中村久由	長野県	10	温泉群の地質調査	温泉群は大きく二系統に分たれ各々地質構造に関係がある
山崩れと地亡り	菊池清四郎	新潟県	20		
石材調査	広川治	福島県田村郡	—		

鑛床部 成果年次報告 (昭和22~24年度)

鑛床部長 佐藤 源 郎

事 業 概 要

(1) 緒 言

太平洋戦争中の非常増産・乱掘に続いて、戦後の虚脱困迷、業界の不振に悩まされて、金属鉍山は荒廃したまま復興の速度は遅々として進まなかつた。従つて鉍山会社自体による金属鉍床の調査は戦時中無視されたため、極度におくれていた探鉍作業の最も重要な要素としての必要性・緊急性が寧ろ戦後から認められて来たにも不拘、結局は不況のため容易に活潑化するに至らなかつた。併しこれも24年度に入り、鉍床探査審議会(MIMEAC)が発足した頃から著しい発展を見せてきた。地質調査所の金属鉍床調査事業はかゝる情勢・環境の中に在つてその影響から免れることができず従つて22、23両年度には積極的な業績を挙げるに至らなかつた。

これに反して非金属鉍床部門は、平和産業の復興に伴い、窯業界の急激な復興に刺戟されて立直り早く、これに加えるに原料の輸入難と相俟つて、国家的の立場から国内原料鉍物の実地調査が要望されること甚だ急なものがあり、このため本所鉍床部の調査事業は勢い非金属鉍床調査に重点が置かれることになつたが、24年度に入つてからは、金属鉍業界の立直り、伸展に応じて相当の調整を加えるに至つた。

(2) 金属鑛床調査事業

I) 昭和22年~23年度

鉍種別調査一覽表に挙げたように、22、23両年度には各鉍種に亘り、本所として注目すべき重要鉍床の調査を実施したが、平和再来と共に金山再開の遠くないことを予察して金鉍調査にかなりの重点を置いた。

また終戦後の最も痛切な課題であつた食糧自給対策の一環として、かの Dr. Bateman の指摘のように、硫安等化学肥料の不可欠原料である硫化鉄鉍の増産に資するための鉍床調査に鋭意努力すべきは日本の地質専門家の国家的義務ともいうべきものであつた。本所としてはこの線に沿ひ積極的調査に着手し、鉍床地質は調査の外に必要なに応じて物理探鉍法、次いで試錐を併用し総合的な成果を挙げた。この外鉛・亜鉛の重要鉍床調査を継続事業として開始し、先ず脈状鉍床の型に属する鉍床から着手した。23年度からは製紙、人絹等化学工業の復興とこれに伴う需給逼迫に応じて、未知の硫黄鉍床の調査に着手した。

調査方法 金属鉍床の調査方法は近來、特に終戦後高度の精密さが要求され、調査によつて鉍山現場における探鉍作業に直接的・實際的な効果を挙げる様に進歩しつつある。本所においてもこの線に沿ひ、地表・坑内とも予算・人員の許す限り精密化すべく努力したが、23年度迄は充分な実績が見られなかつた。

物理探鉍部との協力は秋田県花岡鉍山で行われ、地震探鉍および電気探鉍を併用した。

成 果 硫化鉄鉍床の調査は順調に進捗し、銅を伴う鉍床例えば含銅硫化鉄鉍床(Kieslager)あるいは銅をほとんど全く伴わない素硫化鉄鉍床などにつき夫々の成果が挙げたが、特に秋田県花岡鉍山に対しては鉍床調査に物理探鉍調査(地震探鉍及電気探鉍)が協力した結果、新鉍床発見の緒を握り、会社側の試錐作業に的確な指示を提供することができた。(その後の試錐作業により現

実に新鉱床を発見している) なお和歌山県妙法鉱山では大阪支所の鉱床調査と物理探鉱部との協力により、優秀な新鉱床発見の成果を挙げている。鉛・亜鉛鉱の重要鉱床調査は先ず脈状型鉱床を対照として着手したが、逐次成果を挙げ、探鉱上有益な助言が与えられる見込である。

II) 昭和24年度

前年度からの継続事業の中、鉛・亜鉛鉱床に関しては、脈状鉱床の調査が一段落するに至つた。金・銅・硫化鉄・硫黄の各鉱床については、高まりつゝある外部からの要望に応じて、積極的な調査特に精密調査の実施に努力したが、予算・人員の関係上遺憾乍ら満足すべき結果はえられなかつた。

調査方法 本年度から調査方法の精密化が次第に実施され、坑外地質調査は千分台、坑内地質調査は $\frac{1}{1,000} \sim \frac{1}{100}$ の縮尺による精査が開始された。別子山鉱の坑内調査はこの好例である。なお従来通り坑外・坑内の概査程度のもも継続的に実施したが、硫黄鉱床調査には電気探鉱を併用した。

成果 鉛・亜鉛の脈状鉱床の調査が一段落し、地質構造と鉱脈生成との関係究明に注目すべき結論が編み出された。硫黄鉱床調査は前年度から継続したが、その数例に就ては電気探鉱の協力が行われ、その結果を総合して得た結論から、鉱山側に対し探鉱上有益な指示を与え、来年度には試錐を施行するに至る迄の成果を挙げた。銅硫化鉄の調査は数年継続の計画をもつて実施中のものであるが、愛媛県別子・白瀧を中心とする含銅硫化鉄鉱床調査は物理探鉱部の協力を得てかなりの成果を挙げたが、特に別子の大型鉱床の一部に精密な坑内地質調査を実施し、実際の探鉱作業に直接効果をもたらすべき近代鉱山地質調査技術のモデルを示したことが注目される。

今後の方針 最近の金属鉱山の復興と、政府の探鉱奨励策・鉱床探査審議会の発足等に影響されて、本所に対する外部からの活動要望が漸次増加しつゝあるが、来年度は積極的に活動し要望に添い度いと考える。

具体的には本年度同様、硫黄・硫化鉄・銅・鉛・亜鉛等当面の国家的重要資源の調査に力を注ぎその資料を整備すると共に、漸次再開復興の進みつゝある金山の鉱床調査もさらに一段と積極化し度いと考える。さらに重工業の復興に伴い、需給逼迫しつゝある鉄鋼原料鉱物の調査は戦時中全国的に概査が行われたが、その中国家的不足資源である鉄・マンガンは特に緊迫の度を加えているので、今後は小鉱床・貧鉱床の調査にも留意を怠らず、またタングステン・モリブデン、高品位クローム鉄等特殊鋼原料鉱物増産のための鉱床探査を促進したい。

なお調査方針としては精査は一層精密度を高めると共に、物理探鉱および地化学探鉱を併せ行い、調査事業の定盤を期したい。

22年度					23年度					24年度				
鉱種	件数	人員	延日数	中受託の件数	鉱種	件数	人員	延日数	中受託の件数	鉱種	件数	人員	延日数	中受託の件数
金、銀	4	8	59	1	金、銀	3	6	35	2	金、銀	4	6	49	1
銅硫化鉄	3	5	34	2	銅硫化鉄	6	9	103	1	銅硫化鉄	6	16	186	1
鉛、亜鉛	2	2	58	0	鉛、亜鉛	3	4	73	0	鉛、亜鉛	5	9	117	0
黒鉛	1	1	34	0	鉄	3	4	22	0	鉄	2	4	22	0
鉄	5	5	73	0	硫黄	3	6	62	1	滿俺	2	2	10	0
水銀	2	2	30	0	地下資源	1	3	45	1	硫黄	1	2	30	0
燐	1	1	10	0										
砒	2	2	33	0										

(3) 非金属鉱床調査事業

I) 昭和22年度

終戦後の混乱から立直りかけた産業界において要望されたものの中に、食糧増産用のカリ肥料と、見返り輸出用の陶磁器がかなり大きな部門を占めていた。カリ肥料に関しては戦時中より研究されていたが特にカリ源としての鉄明礬石が注目されるに至り、学術研究会議と協同し、また陶磁器原料も良品質と多鉱量のもが必要となり、窯業原料研究特別委員会と協力して次の鉱種について調査を実施した。鉄明礬石、木節・蛙目粘土、陶石・カオリン・カリ石英粗面岩・滑石・珪石・長石・黒鉛・石膏・橄欖岩

各鉱種別に所要事項を表記すれば次の通りである。

	件 数	延 日 数	調査人員
鉄 明 礬 石	1	114	2
橄 欖 岩	1	15	1
滑 石	3	42	2
カ リ 石 英 粗 面 岩	1	25	1
珪 石 及 長 石	2	19	1
黒 鉛	1	15	1
石 膏	1	6	1
陶 石 ・ カ オ リ ン	4	73	2
木 節 ・ 蛙 目 粘 土	2	36	2

特に調査の重点を置いたのは前述の如く、カリ原としての鉄明礬石、陶磁器原料としての陶石・カオリン・木節・粘土・蛙目粘土、DDT等の粉材用（一部陶磁器として）滑石の諸鉱床である。

調査方法 地表調査が大部分であるが、鉄明礬石の一および木節・蛙目粘土調査では試錐を行った。鉄明礬石鉱床調査は大体一段落したので、更に工業化試験を行う準備として、群馬鉄山に焙焼爐を設け、鉱石中の K_2O を K_2SO_4 とする試験を行った。

主な成果と今後の問題 鉄明礬石鉱床は就ては地質的予想が適中して十勝岳・群馬・諏訪および阿蘇等に次々と新鉱床が発見され、更に鉱山では焙焼試験を行い、国産加里原料として最も安価な処理である事を明かにすると共に副産物として紅柄が得られる事が実験的に判明した。

四国の滑石鉱床に就ては鉱量は相当にあるが、 Fe_2O_3 を概ね 3% 以上含有し粉材としては適当であるが耐火磁器用としては適当でなく、結論的には本邦では鉄分の少い滑石は多量には期待出来ないことを知った。

マグネシヤ質耐火原鉱としての橄欖岩は僅かな量ではあるが、鉄分が多く適当な成分を有するものを採鉱とする必要がある。

カリ石英粗面岩については陶磁原料として全般的結論をうるに至っていないものもあるが、カリ原鉱としては利用出来るものがあり、特に同種鉱床を発見する可能性が大である。

福島県下のペグマタイトに於ける珪石と長石の累帯配列の規別およびペグマタイトの地域的配列を明らかにし、今後の採鉱および鉱床の将来性に関し、新しい探論的根拠を与えた。

黒鉛鉱床は北海道を除いては品質鉱量共に良好なものがなく、電気採鉱による採鉱を行わなければ多くの成果を期し難い。

石膏鉱山として福島・石川・山形の各県下 6 鉱山の精査を行い、品位別に鉱量と賦存状態を明らかにした。

今後の問題としては、陶石およびカオリンには品質優良のものが少く、今後優良品質のものを探査して開発する必要がある。

又木節蛙目に就いては、推積当時の状況に関する全般的概念把握の為に、今後は広範囲にわたる地質調査を必要とする。

昭和23年度

終戦後、窯業界の急激な復活と原料輸入難と相俟つて国内原料の探査開発が強く要望され、他方国内の窯業原料其の他の非金属資源の実態は地質学的にも殆んど不明なものが70%以上も未調査の儘残されていた。これらの事情に鑑み、昭和22年度から発足していた学術研究会々議窯業原料研究特別委員会と協力して、次の鉱種について調査を実施した。

カオリン・木節粘土・蛙目粘土および耐火粘土・陶石・ボーキサイト・絹雲母・蠟石・爐材珪石・白珪石・正長石・曹達長石・石綿・滑石・蛇紋岩・黒鉛・燐鉍・鉄明礬石、
各鉱種別に所要事項を表記すると次の通りである（物理探査および試錐を除く）

	件数	延日数	調査人員
カオリン	1	9	1
木節粘土	4	68	2
耐火粘土	5	92	1
陶石	1	16	1
ボーキサイト	3	53	1
絹雲母	2	52	3
蠟石	2	34	1
爐材珪石	1	} 20	1
白珪石	1		
正長石	1	7	1
曹達長石	2	58	2
石綿	4	60	2
滑石	2	13	1
蛇紋岩	2	30	1
黒鉛	1	10	1
燐鉍	1	8	1
鉄明礬石			

特に調査の重点を置いたのは粘土質陶器および耐火原料の鉱床および黒鉛の鉱床であつて、粉材としての滑石の調査も前年度から引続き全国的に行つた。

石灰石及びドロマイト鉱床の調査は必要なるに拘らず、経費の不足により実現出来なかつた。

調査方法 岩手粘土等の一部を除いては地表調査が大部分を占めたが、木節、蛙目粘土の一部には試錐を併用し、黒鉛の一部、ボーキサイト質粘土鉱床にはハンドボーリングを、又北海道音調津黒鉛鉱床には電気探鉍を夫々併用した。

主な成果 特筆すべき成果は天草陶石鉱床の詳細な産状と鉱量とが明かにされたこと、福岡県八女郡に於てギブス石・ハロイ石等を含有するボーキサイト質水成粘土が多量に確認され、新しい型の耐火粘土の潜在資源を増加したこと、音調津黒鉛鉱床の塩基性岩中に於ける特異な産状と多量の推定並びに予想鉱量が明かにされ、加うるに電気探鉱の結果、自然電位及び比抵抗曲線共に予想外に顕著に現われ鉱床の将来性を非常に有望なものとしたこと、世界でその産出が唯3ヶ所と言われる翡翠の産状が新潟県小瀧村に於て明かにされ、更にこれに伴う曹長石岩の産状と鉱量とが明かにされたこと等である。因に曹長石岩と翡翠との共生は世界共通であり、又曹長石岩はこれによる低アルカリガラス製造研究及びホーロー釉薬への利用等が近時我国で行われて来ている。

珪石・絹雲母・滑石・蛇紋岩・爐材珪石・木節・蛙目等に関しても、産状・品質・鉱量等について相当新しいデータを加えたが、なお全国的に見ると、調査の進捗程度は低い、石膏の調査に例外的に前年度迄に略々完成している。

III) 昭和24年度

前年度に比し、耐火粘土・爐材珪石・苦灰石等、耐火原料の調査に重点を漸次移行したこと、並びに一件当りの調査日数が増加し、調査の精密度が加つた結果として、鉱床の詳細な実態が把握され、従つて探査開発に大きな貢献をなし得る様努力したこと等が注目される。

窯業原料協議会との協力は前年度同様継続された。又業界に耐火煉瓦技術会が新たに発足し、これに側面的に協力することゝなつた。

調査鉱種は耐火粘土・カオリン・木節蛙目粘土・雑粘土・蠟石・滑石・石膏・爐材珪石・白珪石・苦灰石・石灰石・黒鉛・珪藻土・燐等であるが、この中、石灰石・燐・石膏は他県からの受託調査であつて、本所計画に予定されていたものではない。

石灰石は前年同様予算の不足により調査を割愛した。

鉱種別必要項目は次表の通りである。

	件数	延日数	調査人員
カ オ リ ン	1	27	1
耐 火 粘 土	3	96	2
木 節 粘 土	1	29	1
雑 粘 土	1	18	2
蠟 石	1	32	1
滑 石	2	13	1
石 膏	1	9	1
爐 材 珪 石	3	56	3
白 珪 石	1	3	1
苦 灰 石	2	20	1
石 灰 石	1	14	1
黒 鉛	1	20	1
珪 藻 土	2	21	1
燐	2	7	1

調査方法 地表調査が大部分であるが、耐火粘土の一部、爐材珪石の一部・黒鉛・石膏・カオリン等では概略的、或は詳細な坑内調査が実施された。特に爐材珪石の坑内精査は多くの成果を挙げた。ハンドボーリングを八女粘土調査の継続に使用したゞけで、試錐は調査地の關係上これを利用しなかつた。電気探鉱が黒鉛鉍床に於て一ヶ所実施された。

主な成果と今後の問題 耐火粘土の地質が序々に明かにされ、かつ SK33+ 以上の高品位鉍の賦存が一般に非常に少量に限られ、従來のようにこれを安易に期待できないことが明かにされた。蠟石鉍床に於ける母岩の変質の狀況と範囲が僅かの例ではあるが初めて明らかにされ、鉍床の探査と成因の解釈に寄与するところが大となつて來た。爐材珪石の産狀とその探査の方針については從來全く明かでなかつたが、丹波地区珪石の精査によつて初めてこれ等の点が明かにされ、又他の地区の概括的調査と相俟つて、爐材珪石の全国的の品質別鉍量の概観と今後の調査方針の樹立とが可能となつた。滑石および黒鉛に就ては極めて概括的乍ら一応国内資源の産狀と規模の程度を明かにするに至つた。しかし高品位鉍の探査は問題を今後に残した。

木節蛙目粘土に就て前年度以來最も明かにされたことの一つは粘土層の厚さと「上土」の厚さとに關連した鉍量であるが、その範囲は岐阜、愛知の広い發達範囲に較べると局部的であり、且つ品質別産狀と鉍量に就ては問題を將來に残した。カオリンに關してはこの年度までに数多くの調査が行われたが、何れも殘存鉍量に乏しく、特に新しい鉍床の發見に努めねばならぬこととなつた。黒鉛鉍床は前年度調査の北海道音調津を除いては、大部分が小鉍床群からなり、且つ露出狀況が悪いもので、地質的に新しい特徴を把握するか、又は電気探鉱によらねば多くの成果は期し難いことが明かとなつた。物理探鉱部に於ては千野谷鉍山に於て半ば試験的に電探を試み、音調津鉍山に於けると同様非常に有効であることの結論に到達した。石灰石・酸性白土・ペントナイト等の調査は挙げて今後のこととなつた。

日本鉍産誌の編纂 予て企画されていた日本鉍産誌全 8 卷の中「主として窯業原料となる鉍石」第 III 分冊が完成出版された。編纂が手間取つた為に、その内容が既に幾分古くなり若干改訂を要するところもあるが、大正 7 年以來、この種鉍産に關する唯一の纏つた文献として斯界に貢献するところは大きいと期待される。

引続き「主として化学工業原料となる鉍石」を編纂中である。

金屬鑛床調査研究一覽

昭和 22 年度 (20 件)

1. 岩手県和賀仙人鑛山赤鉄鑛々床調査

調査者 高島 彰

期 間 20 日

目 的 開發、探鉱に対する指導

地 質 附近の地質は川尻凝灰岩 (第三系) の基盤をなす古生層と、その中に進入する花崗閃緑岩および石英閃緑岩からなり、第三紀の石英粗面岩は主として古層中を貫ぬく。

鉍床は古生代石灰岩と進入岩との境に發達するスカム帯中に胚胎する石英脈を伴ふ雲母鉍の鉍染乃至交代鉍床で球狀レンズ狀および筒狀をなす。

鉍石鉍物は雲母鉍の外に黃鉄鉍黃銅鉍を少

量含むことがあり脈石鉍物としては石英綠泥石を主とし灰鉄輝石綠礫石石榴石等を伴う。

成 果 遠示鉍床においては露天掘鑛体の下部の探鉱のこと

三角大泡鉍床においては上二番坑々口以北の地域に対して接觸面に沿うて探鉱すること
金肌不動兩鉍床においては進入岩との境に沿うて探鉱坑道を掘進すること等が必要である。
又物理探鉱を行う必要がある。

2. 大分県尾平鑛山砒鑛床調査

調査者 佐藤 恭

期 間 28 日

目 的 尾平鉍山鉍床における銅砒脈中の硫砒鉍調

査

概要 地質は中世層とこれを貫く花崗岩とから成る。鉱床は延長 350m 深さ 200m 程度の二條の含金銀硫砒鉄鉱石英脈で硫化物として他に黄鉄鉱および少量の磁硫鉄鉱を伴う。

成果 鉱脈の東方延長方向に数ヶ所露頭があり将来この方向の探鉱を必要とする。西方延長及び下部には大きな期待はかけられない。鉱床量として As 10~15% のもの 1 万数千屯程度が見込まれる。

3. 長野県諏訪鎮山嶺床調査 (地質調査所速報第 60 号)

調査者 菊地 徹

期間 10 日

目的 諏訪鎮山石遊場^{イシヤスバ}鉱床の嶺床の賦存状況調査

概要 鉱床地帯は兩輝石安山岩および角礫凝灰岩より成る

鉱床は安山岩上に横わる褐鉄鉱々床でその中に鉄明礬石及び含水磷酸鉄鉱を含む薄層が夾有されて居る。

鉱床全体の大きさは南北 110m 東西 360m 厚さ 10m である。

成果 嶺床石として取扱ひ得るものは

1) 褐鉄鉱の空隙に含水磷酸鉄の沈澱したもの (2 層あり) P_2O_5 9~13%

2) 含水酸形鉄鉱物をも成分とする薄層 (2 層あり) P_2O_5 18~26%

他の部分 (主として褐鉄鉱と鉄明礬石) の P_2O_5 は 1~3% である。

含水磷酸鉄鉱物は *Cacoxenite* が主で時に *Strengite* である。

4. 北海道イトムカ鎮山水銀床調査 (地質調査所速報第 35 号)

調査者 堀 純郎

期間 15 日

概要 当鉱山は辰砂および自然水銀を産する上拓がり状鉱床から成つており、その規模の大なる事は本邦唯一である。又自然水銀に特に富むことを特徴とする。

成果 鉱石は約 10% の硫化鉄鉱を含んでおり、浮選精鉱の主成分は硫化鉄鉱からなっている。固つて優先浮選によつて硫化鉄鉱と水銀鉱とを分離すれば、硫化鉄増産の一助となり又水銀産出費の低減も可能である。自然水銀の取扱には更に検討を要する。

現在開発されている倭鉱床以外は殆んど未知であるから、今後の探鉱に俟つて大である。

5. 北海道置戸鎮山水銀床調査 (地質調査所速報第 34 号)

調査者 堀 純郎

期間 15 日

概要 当鉱山は広大な面積を占める横巨人扁平状水銀床である。

企業の対照となる富鉄体は約千箇である。

成果 探鉱及び製錬実収率の向上に努むべきである。既に相当の注意が拂われているが特に富鉄及び自然水銀の採取運搬に際しての鉱石の損失と、製錬における水銀微滴の逸失との防止に就てさらに検討が必要である。

6. 新潟県大倉鎮山銅床調査

調査者 片山信夫, 富田光孝

期間 9 日

目的 受託調査 (探鉱方針指導)

概要 古生層に属する千枚岩, 粘板岩及び珪岩を基盤として之を覆うて第三紀層が分布しこれ等を貫く石英粗面岩, 安山岩等が分布する。又蛇紋岩が古生層を貫いて噴出している。

鉱床は常に蛇紋岩に伴つて同岩と周辺岩石の間附近に胚胎し、脈状レンズ等をなす主として磁硫鉄鉱, 黄銅鉱, 黄鉄鉱等より成る。

鉱床の露頭部は酸化作用を受け多量の褐鉄鉱を生じている。

成果 現在酸化帯の褐鉄鉱を採掘しているが将来磁硫鉄鉱及び黄銅鉱を対称として採掘を行うべきものと考える。

従つてこれ等の探鉱を急速に行う必要がある。一部に Ni の含有量多き部分があるので Ni 探鉱を行う必要がある。

7. 秋田県花輪鎮山銅硫化鉄床調査 (地質調査所速報第 54 号)

調査者 科野房三

期間 16 日

目的 本邦硫化鉄鉱調査

概要 緑色凝灰岩, 頁岩及び石英粗面岩を母岩とする黒鉄型塊状交代鉱床で鉱床は直径 100m, 厚さ 75m 以上の石膏体中に硫化鉄鉱床と銅鉱床を包んでいる。

硫化鉄鉱々床は黄鉄鉱と粘土鉱物とからなり銅鉱床は黄銅鉱, 斑銅鉱および重晶

石と少量の閃亜鉛鉱とからなる。

石膏鉱床も高品位の部分は SO_3 38% 以上あり、選鉱方法と用運とに依つては稼行の対照となりうものと思われる。

品位 S 40%

- 成果 1. 硫化鉄の出鉱量は鉄量に較べて余り少なく、本鉄床としては少くとも月産 2,000t の出鉱は可能である。
2. 今後は外山坑方面の探鉱に力を注ぐべきである。

8. 青森県上北鉄山銅、鉛、亜鉛鉄床調査、主として奥の沢鉄床の二次富化作用について

調査者 科野房三

期間 17日

目的 黒鉄の二次富化作用の究明

概要 地質は中新統と推定される坪川層、同時代の奥ノ沢層、上ノ川頁岩層、石英安山岩及び第四紀層よりなる。

鉄床には銅鉄脈と塊状交代鉄床とがあつて前者は坪川層の緑色岩とし、石英、黄鉄鉱、黄銅鉱、閃亜鉛鉱よりなる。銅品位は低い。後者は黒鉄式塊状交代鉄床で銅鉄、硫化鉄よりなり、斜長石英粗面岩および同質凝灰岩を母岩とし現在迄に4鉄床が発見されている。就中、奥ノ沢鉄床には代表的二次硫化富化鉄が発達し輝銅鉄、銅藍等の二次的生成による銅鉄に富む。

成果 奥の沢鉄床には極めて高品位の銅鉄二次硫化鉄富化帯が発達しており、従来日本では具体的実例に乏しかつた二次富化作用について新しいデータを提供し殊に黒鉄の二次的变化に関しては明瞭な説明を与えることが出来た。

9. 新潟県大湯鉄山銅鉄床調査

調査者 片山信夫、徳藏勝治

期間 9日

目的 受託調査

概要 本地域の地質は古生層と推定される粘板岩層、それを貫く花崗岩と細粒斑糖岩質、閃緑岩、時代不明の千枚岩層とそれを貫く蛇紋岩、同じく時代未詳の石英粗面岩質凝灰岩と安山岩及びその凝灰岩、第三系と推定される凝灰岩質礫岩及び現世の氷とからなっている。

銅鉄床は緩傾斜の鉄脈を主とする眞山鉄床群と蛇紋岩中の塊状交代鉄床からなる瀧ノ沢鉄床群、凝灰銅質角礫凝灰岩を母岩とする中央

鉄床等からなっている。その鉄石は何れも黄銅鉄、磁硫鉄を主とし、若干の石英を伴っている。

成果 本地域としては眞山地区に予想される銅鉄が最も重要であつて開発の重点もここに置くべきである。開発の順序としては先づ一号鉄床7番坑および8番坑の銅鉄探鉱を進めるべきである。

10. 北海道広尾鉄山鉛亜鉛、鉄床調査（地質調査所速報第57号）

調査者 伊藤昌介

期間 41日

目的 日本における鉛亜鉛鉄床の構造的調査研究

概要 当鉄床は海岸段丘の緑色凝灰岩中であつて構造線に対し直角に走る鉛、亜鉛、石英脈である。主脈は本鍾、東北鍾の2脈で、東北鍾は本鍾の拔枝である。

鉛 4%、亜鉛 8%

- 成果 1. 今後の探鉱には段丘堆積が薄いから物理探鉱が有利と思われる。
2. 当鉄床は訓縫層中に限られて存在するから訓縫層中の調査に主力を注ぐべきである。
3. 組織的な探鉱を望む。

11. 岐阜県赤坂鉄山赤鉄鉄々床調査（地質調査所速報第53号）

調査者 高島 彰

期間 10日

目的 開発方針指導の爲の調査

概要 赤坂鉄山の鉄床は石灰角礫岩を被覆する赤色粘土中に赤鉄塊を混じえたもので、平均見込品位は Fe 48% 位である。

一部に雑色土状高品位褐鉄や赤鉄の大鉄塊のみが集合して特に上鉄をなすものがあるがその量は少ない。

- 成果 1. 今後の探鉱としては鉄床の平面的な拡がりを探ることが最も必要である。
2. 昭和19年に行われた試錐の結果より想像すれば表土は西方に進むに従い厚くなり、経済的に稼行し得るものは西方延長では100m 以上を望むことは無理である。
3. 若し鉄区内に限らず石灰岩台地上に新鉄床の発見を望むならば石灰角礫岩よりなる山岐中の鞍部等は一応吟味すべきであろう。

12. 岐阜県明方鉱山鉄鉛床調査 (地質調査所速報第 52号)

調査者 高島 彰

期 間 10日

目的 開発方針指導の為の調査

概要 花崗岩との境に近い古生代粘板にスルガン帯が小規模に発達し、その中の硫化鉛物を含む鉛体が、二次的に変生し褐鉄鉛床を形成したもので、さらにこれを買いて後期の磁鉄鉛、赤鉄鉛を含む石英脈が発達している。

成果 褐鉄鉛の見込品位 45% 以下のもの多し
鉛床の大部をなす褐鉄鉛は見込品位 45% 以下のものが多く運搬不便な本鉛山としては稼行価値が少ない。

含鉄石英脈は品位が 45% 以上で採掘の対称となしうるものであるが休山後坑内及び地表の荒蕪が著しいためその復旧作業乃至新坑道開鑿によつて採掘を再開するにはその鉛量が少ない。

13. 秋田県花岡鉱山黒鉛床調査 (地質調査所報告第 128号)

調査者 科野房三

期 間 34日

目的 稼行現況調査

概要 当鉛山では東西 1.2km, 南北 2.0km の地域内に大小 12 の黒鉛床が散在する。鉛床は黒鉛型の塊状交代鉛床で母岩は緑色凝灰岩を主とする。玄武岩質安山岩は鉛床のキヤップロックと考えられる。鉛床は黒鉛、黄鉛、珪鉛より成り周縁に石膏帯を伴う事が多い。鉛石は黄銅鉛、黄鉄鉛、方鉛鉛、閃亜鉛鉛、斑銅鉛、輝銅鉛、銅藍等の鉛石鉛物と重晶石、石英、カオリンその他の粘土鉛物等の脈石鉛物より成る緻密細粒の集合体で、現在は銅鉛及び硫化鉄鉛として採掘されているが、鉛、亜鉛鉛として稼行出来るものもある。又重晶石、石膏も利用出来る。

成果 典型的な黒鉛型試成交代鉛床で今後なお新鉛床の発見される可能性がある。

鉛床地帯は大部分第四紀層に覆われているが物理探鉛を併用して有望な徴候を把握することが出来た。

石膏は比較的多量に存在するが一般に硫化鉄鉛を含み、この儘ではセメント用以外には不適当なものが多い。

14. 長崎県対州鉛山鉛、亜鉛鉛床調査

調査者 伊藤昌介, 岡 重文

期 間 19日

目的 地質構造と鉛床の関係について

概要 附近一帯は中生層に考えられている粘板岩とこれを買く石英粗面岩及び珪岩類から成る。鉛床は粘板岩中に発達した中熱水性鉛床で磁硫鉛鉛方鉛鉛、閃亜鉛鉛、黄鉄鉛黄銅鉛等を伴う。

成果 1. 鉛脈は層理に平行した層状をなすものと層理と斜交するものがある。即交代作用が層理及び劈開に沿うて行われた。
2. 富鉛部は粘板岩の層面と壁開面の二方向で規定されている。
3. 鉛石の粒度その他選鉛技術上の欠点を多数有している。

15. 埼玉県秩父鉛山鉄鉛床調査

調査者 高島 彰

期 間 22日

目的 鉛床と地質構造との関係

概要 当地帯の地質は石灰岩、珪岩、粘板岩及び硬砂岩等からなる秩父古生層と之等に岩脈状に貫入する石英閃緑岩とからなる。鉛床は石英閃緑岩と石灰岩との間のスカルン中に近く然も後者中に胚胎しているものが多い。鉛石は閃亜鉛鉛、方鉛鉛の外に黄鉄鉛を伴い一部には比較的磁鉄鉛に富む部分があり鉄鉛として採掘され得る部分がある。

成果 1. 鉛化作用に二つの時期がありスカルン、及び磁鉄鉛は前期の鉛化作用に属し方亜鉛鉛、閃亜鉛鉛は主に後期の鉛化作用による産物である。
2. 鉛化作用と地質構造との間に関連性のあることが分つた。

16. 島根県都野津鉛山砒鉛床調査 (地質調査所速報第 72号)

調査者 佐藤 恭

期 間 5日

目的 都野鉛床開発方針に対する調査

概要 当鉛山の鉛床は黄銅鉛、硫砒鉛、黄鉄鉛、閃亜鉛鉛、方鉛鉛等を伴う石英脈で硫砒鉛が比較的多く稼行の対照となつている。一般に鉛脈は粘土質で極めて脆弱な為水洗に依つて粘土質物を除き精鉛とする。(品位 As 8%)

成果 銅に伴う事、交通が便利なこと、採掘費が比

較的安いこと等の條件が揃っているので一応の稼行価値は認められるが稼行出来る主脈(本)でも走向方向、および上部へ期待出来る鉱量は僅かであり、また下部は直ちに海水面準以下になる為湧水が多くなる見込であり、今後に大きな期待はかけられない。

17. 福島県高ノ倉、上岡鉱山鉄鉱床調査

調査者 高島 彰

期間 11日

概要 花崗岩及び花崗閃緑岩と石灰岩の接触部に沿って発達したスカルン帯中に胚胎する接触交代鉱床で磁鉄鉱の外黄銅黄鉄鉱を含む。

18. 静岡県土肥鉱山金鉱床調査

調査者 堀 純郎, 横江一男

期間 27日

目的 主任者転出のため詳細不明

19. 山梨県尾白川鉱山金鉱床調査

調査者 堀 純郎, 佐藤 恭

期間 7日

目的 主任者転出のため詳細不明

20. 群馬県吾妻郡坂上村金鉱床調査

調査者 高島 彰, 徳藏勝治

期間 6日

目的 受託調査 主任者転出のため詳細不明

昭和 23 年度 (19件)

1. 秋田県小坂鉱山銅鉱床調査 (地質調査所月報第 1 巻第 3 号報文)

調査者 科野房三

期間 19日

目的 沈澱銅生成に関する鉱床学的調査

概要 主要鉱体をなす元山銅鉱床は角礫岩石, 石英粗面岩等を母岩とする黒鉄式交代鉱床である。鉱床南側周縁部の珪鉄帯においては珪化帯中に不規則な網状乃至鉄染状の珪鉄富鉄体が発達している。沈澱銅採取の対照となつているものは残柱として残つているCu1.0%以上の残鉄と1.0%以下の貧珪鉄とである。主として石英, 黄鉄鉱よりなる輝銅鉄, タンベン, 重晶石, 斑銅鉄コペリン, 閃亜鉛鉄等を伴う。

成果 1. 銅鉄物が主として輝銅鉄, タンベンであることは沈澱銅採集に好都合である。
2. 注水の際鉄床の頂部に粘土をかぶらない部分は, 地表より注水し, 粘土を被つた部分は坑内より注水すること。
3. 坑内破壊は上部より下部に向い順次行ふこと。
4. 坑内破壊の際は粘土は出来るだけ坑外に搬出すること。

2. 山形県西吾妻鉱山鉄明礬石, 硫黄鉄床調査

調査者 片山信夫, 種村光郎

期間 11日

目的 硫黄鉄床およびこれに伴う鉄明礬石鉄床予察調査

概要 黒雲母花崗岩を基盤とし, その上に第三紀末又は第四紀の噴出にかかる両輝石安山岩流,

および集塊岩, 凝灰岩から成る累積中に生成された硫黄鉄床で, 凝灰岩中には厚さ2~3m南に緩斜する頁岩層が夾まりこの下部の凝灰岩中に富鉄部を形成する。

成果 山元の1/1000坑内図を使用して調査の結果鉄床と地質構造との間に一つの関連性があることが分つた。

今後1/500程度の坑内図及び坑外地形図作製の上精密調査を行う必要がある。又坑内のBoringの必要性を痛感した。

鉄明礬石は本鉄床に産出しないことが分つた。

3. 愛媛県別子鉱山含銅硫化鉄鉄床調査 (後津鉄床余慶鉄床, 別子鉄床下部, (地質調査所速報第 109 号))

調査者 吉田善亮, 小村幸二郎

期間 33日

目的 別子型層状含銅硫化鉄鉄床の落しの方向と母岩の線状構造との関係および鉄床の深部に於ける構造に関する調査。

概要 三波川結晶片岩中に胚胎する含銅硫化鉄鉄床で鉄床の落しは母岩の線状構造と一致する。

別子鉄床は走向N60°W, 上部では傾斜40°NE下部になると次第に急傾斜になり, 18番坑では75°の単斜構造で東に45°内外の落し角を有する。

14番坑以下では, 鉄体の各坑道における走向延長が急激に短縮する。

成果 後津鉄床 走向逆断層と水平断層とが錯綜し逆断層の為に鉄脈の一部は南に逆転している今後の開発は10番坑以下であるが, その最大

の鉍厚(塊状鉍)は0.4m内外であり、13番坑以下では0.3m内外であろう。

余蘆鉍床 筏津鉍床の下盤側約245mに胚胎し断層、彎曲は殆んど見られない単斜構造である。下部未開發鉍体は略々三角形の頂点を下に向けた様な形である。

別子鉍床 10番坑よりの試鉍孔に出た1~3個の鉍体は同一鉍体が逆断層のため重複したものである。一般には鉍床の落としと母岩の線状構造は一致するか14番坑の東端尖滅線と線状構造とは全く正反対方向であり、この尖滅線の方向が別子の下部鉍量を支配するか否かは大きい問題であり、鉍床の賦存状況および構造の精密な調査が必要である。

4. 新潟県蒲島鉍山鉛、亜鉛鉍床調査(地質調査所月報第1巻第1号報文)

調査者 伊藤昌介, 富田光孝

期間 24日

目的 本邦鉛、亜鉛鉍床における、地質構造と鉍床との関係について。

概要 鉍床はその産状に依つて本坑鉍床と中小層鉍床とに大別され、何れも浅熱水性裂隙充填鉍脈である。前者は花崗岩質岩中に胚胎し、一般に脈砂なく、鉍石鉍物は閃亜鉛鉛、方鉛鉍を主とし、後者は目下旧坑取明中で変朽安山岩および其の角礫岩中に胚胎し、糜岩および附近の鉍からいわゆる雜鉍脈に属するものと考え。尙現在探鉍中の巻の沢鉍床は斜長石英粗面岩中に存在するが、鉍石の性質は本坑鉍床と同一である。

成果 現在の確定鉍量は少ないが、本坑鉍床だけでも裂隙の生成機構よりなお相当の鉍量の存在が予想され現在行われつつある巻の沢および中尾坑の探鉍もこの附近の鉛、亜鉛晶出帯の位置から相当期待出来るものがある。鉛、亜鉛晶出帯の深さは約160mであり、少なくとも1cm以上の脈幅を有する鉍脈は錘押探鉍の必要があるものと思われ、現在主脈と考えられるもの他にも同様に優勢な鉍脈の存在が予想される。

5. 静岡県久根鉍山含銅硫化鉄鉍床調査

調査者 吉田善亮

期間 7日

目的 地質予察

概要 鉍床附近の質鉍床の予察

成果 合名、天白附近の地質鉍床の精査を要する。

6. 福島県田島鉍山硫化鉄鉍床調査

調査者 科野房三, 徳藏勝治

期間 7日

目的 受託調査

概要 鉍床は石英粗面岩中の黄鉄鉍、石英、綠泥石脈で軽井沢、小花沢兩坑の鉍脈は連続した鉍化帯中に胚胎しているものと考えられる。鉍脈の走向は略北で、西に傾斜し、少くとも100m余の延長を持ち、最大数10cmの鉍巾で膨縮する。

成果 小花沢坑の鉍石はまとまつていて品位がよいこと、鉍石の搬出に便利であること等の点より考え軽井沢より小花沢に向つて探鉍することが望ましい。なお現在の鉍床の深さを確認することも緊要である。

7. 石川県能登地下資源一般調査(地質調査所連報第83号)

調査者 木村 正, 林昇一郎, 岡野武雄

期間 45日

目的 受託調査

概要 能登地方(石川県に属する)における地下資源一般につき調査を行い、与えられた期間内に調査を完了すべく基礎的な地質鉍床調査は他の機会に譲つて鉍産地および鉍物産地を鉍業登録および開込等に依つて求めさらに地質学的資料から推定されるものを加えて調査実施個所とした。各鉍床についての詳細な記載は省略し結論の概略を下に記す。

成果 銅は沢口鉍について今後試錐掘鑿と探鉍坑道掘進に依る探鉍を行つてその富鉍部を確かめると共に、これに依つて推定鉍床量の増大を図り、今後の開發を促進すべきである。満庵は規模の大きな鉍床を期待出来ないが瀬嵐、黒崎、兩鉍山をさらに精査すると共に成因的特性を利用して更に新鉍床の発見に努力する要がある。金は望遠山附近に旧加賀藩時代の探掘箇所を今後確認した上でさらにその附近を精査すべきである。

8. 群馬県茂倉鉍山金、銀鉍床調査

調査者 片山信夫, 徳藏勝治, 岡野武雄

期間 5月

目的 受託調査

概要 附近一帯はいわゆる御坂層の綠色凝灰岩類からなり、鉍床の附近にはこれを貫く石英粗面

岩が見られる。鉱床の露頭は南北 300m 東西 100 ~ 200 m の範囲に、大きなものだけでも 10 数ヶ所見出される。何れも殆んど石英のみからなり、一部に少量の重晶石を伴う。

成果 本鉱床は金鉱床としての稼働価値は認められない。唯本鉱床の下部に黒鉄式交代鉱床の潜在する可能性が考えられるので、その探鉱を試みる価値はあるが積極的な手がかりはないからまづ電気探鉱によりその手がかりを求めべきである。

9. 岩手県松尾鉱山硫黄鉄床調査

調査者 科野房三、富田光孝

期間 38 日

目的 硫黄、硫化鉄鉱床調査

概要 安山岩を基盤としその上に集塊岩、凝灰岩、安山岩の互層がありこれを覆つて茶白嶽熔岩がある。鉱床は安山岩、集塊岩、凝灰岩を母岩とし二鉱体からなり一方は形が判明しているが他はボーリングによる。一部では兩鉱床は連続しているもの様である。

鉱物は自然硫黄、黄鉄鉱、白鉄鉱、蛋白石、明礬石、カオリンが主である。

筆者が採取した鉱石中には stibnite 及び bismuthinite らしき針状鉱物を発見した。

成果 鉱石の性質上坑内火災の予防と可探等の向上並に排水にも努力すべきであらう。

鉱床の形は扁平な板状で直径 1.000m 厚さ 70 ~ 100m に達することがわかつた。鉱床の内外面では母岩はカオリン化及びオパール化していることが多い。

鉱床の南東部は自然硫黄の多い黄白色の鉱石が多く、北西部は硫化鉄に富む黒色又は岩色の堅い鉱石が多い傾向がある。

10. 高知県白滝鉱山（下川鉱床）含銅硫化鉄鉱床調査（地質調査所速報第 110 号）

調査者 吉田善亮、小村幸二郎

期間 25 日

目的 別子型含銅硫化鉄鉱床の落としと母岩の線状構造との関係

概要 1. 下川鉱床はいわゆる三波川級泥石片岩中に片理に略々平行に胚胎する層状含銅硫化鉄鉱床である。
2. 同鉱床は幾つかの小富鉱体（単位富鉱体）が平行に数帯に配列し、互に貧鉱又は細脈で連絡された一つの大鉱床である。

3. 単位富鉱体の落しの方向は勿論、その集合体としての下川鉱床全体の落しの方向は母岩の線状構造と完全に一致する。

成果 下川鉱床は落とし延長約 1,800m 幅員約 400m で多数の単位富鉱体が鉱染鉱体又は細脈で連絡された鉱床で、その長径の新向が落しの方向であり線状構造と一致する。

西坑新鉱床は第二鉱帯に属する単位富鉱体でありその長径 150 ~ 180m、短径 60m、平均岩厚 0.3m の葉片状乃至槽円形体である。

西坑地域椋塚旧坑地区の単位富鉱体は 4 ~ 5 個からなる。

なお物理探鉱を併用して良好な徴候を認めた。

11. 福島県高玉鉱山金鉱床調査

調査者 佐藤 恭

期間 21 日

目的 母岩変質作用と脈との関係を明かにすること
概要 鉱床附近の地質は第三紀中新世の白方層に属する石英粗面岩質凝灰岩、同角礫凝灰岩、頁岩及び砂岩の互層より成る。

鉱床附近ではこれ等の岩石は珪化作用、絹雲母作用が著しい。

鉱床は含金銀石英英水長石脈で大小約 200 條の鉱脈が知られており何れも自然金を伴い黄鉄鉱の外銀銀鉱、濃紅銀鉱、角銀粒等の銀鉱物を伴う。

成果 1. 金粒は上部において下部より比較的大粒である。
2. 珪化帯、軟質頁岩、および粘土化帯と鉱脈特に富鉱部との関係が明かになった。

12. 岩手県安比鉱山硫黄鉄床調査

調査者 片山信夫、徳藏勝治

期間 13 日

目的 受託調査

概要 鉱区内の地質は主として安山岩及びその凝灰岩、凝灰角礫岩からなる。その大部分は粘土化作用を受け、硫鉄を含んだ銅青色の粘土となつていることが多い。

鉱床は上部に珪化帯を伴い、その下に輪鉱を主とする部分が発達する。

輪鉱には鉱石となるものは殆んどない。

成果 珪化帯および輪鉱帯の発達が相当広範囲に互つている点から推察すると鉱化作用は相当強いものであつたと思われる。この珪化帯、輪鉱帯は日本の硫黄の交代鉱床の周縁に特徴的

に発達するものである。従つて本鉱区内でも硫黄鉱床の潜在している可能性は大きい。分後探鉱を行うとすれば、安比川の水準面以下に対してボーリングを行うべきであろう。

13. 秋田県太長鉱山鉛、亜鉛鉱床調査（地質調査所月報第1巻第4号報文）

調査 伊藤昌介
期間 35日
目的 日本における鉛、亜鉛鉱床の構造的調査研究
概要 地質は主として少量の頁岩層を挟むいわゆる第三紀緑色凝灰岩層からなる。断層裂罅については次の通り大別出来る。(1) 層面切り：本鉱山で顕著に見られる現象であつて何れも緩傾斜である。(2) 走向断層：何れも急傾斜である。(3) その他断層：顕著なものはN50°N 80°W との走向を示す。(4) 裂罅：N 80°～90°W のものが多く直立に近く切りを全く伴っていない。鉱脈は浅熱水成で二つの型に大別される。一つは平行性の裂罅充填鉱脈で他は層面切りに鉱脈が侵入沈澱した断層脈である。鉱石は殆んど閃亜鉛鉱方鉛鉱より成り他に少量の黄銅鉱、黄鉄鉱を伴う。
成果 探鉱された鉱脈も 20 枚あり今後さらに発見される可能性があるから裂罅、断層等の成因的特性に基く急進な探鉱が必要である。

14. 群馬県利根鉱山鉄鉱床調査（地質調査所速報第69号）

調査者 高島 彰
期間 7日
目的 探鉱方針の決定
概要 鉱床は古生層と花崗岩類との接触部に胚胎する接触交代型鉄鉱床で板状をなす。床石は主として磁鉄鉱からなり、脈石として柘榴石、綠帘石、透輝石、橄欖石、石英、方解石等を産する。
成果 北半の新盛鉱床と大盛鉱床は一つの鉱化帯中のものと見ると此の鉱化帯は南半地域の東側鉱化帯の北方延長が断層に依つて多少変化

されたものと思われる。

今後の探鉱は北半地域の兩匠知鉱床の西方山地において之と平行な他の鉱化帯を探査することが最も効果的であろう。

15. 岩手県九戸郡広野附近の砂金鉱床調査

調査者 佐藤 恭、藤倉孝次
期間 9日
目的 企業化調査
概要 地質は海成層である広野層下部の砂層及び砂礫層よりなり、砂金は探掘跡附近の一部においてこれ等の砂層、砂礫層中に含まれているが他の部分には全く認められなかつた。
成果 本砂金鉱床は金粒の存在が極めて僅少な小部分のみで稼行の価値はないものと思われる。

16. 福島県大宮鉱山硫化鉄床調査

調査者 科野房三
期間 12日
概要 第三紀層（凝灰岩斜長石英粗面岩、安山岩、玄武岩）及び第四紀層石英安山岩よりなる。鉱床は凝灰岩中の黒鉄式塊状交代鉄床である。

17. 岐阜県明方鉱山磁鉄鉱々床調査

調査者 片山信夫、徳藏勝治
期間 7日
概要 花崗岩との境に近い古生代粘板岩中にスカレン鉱物帯が小規模に発達しその中の硫化鉄物を含む鉱体が二次的に褐鉄鉱床を形成したもので、さらにこれを貫いて後期の鉱化作用に依る磁鉄鉱、赤鉄鉱を含む石英脈が発達している。

18. 岐阜県神岡鉱山鉛、亜鉛鉱床調査

調査者 伊藤昌介
期間 14日
目的 鉱床と地質構造との関係に関する予察調査
概要 主任者転出のため詳細不明

19. 岩手県釜石鉱山鉄鉱床調査

調査者 高島 彰
期間 8日
主任者転勤のため詳細不明

昭和24年度（19件）

1. 秋田県畑鉱山鉛、亜鉛鉱床調査

調査者 伊藤昌介、服部富雄
期間 25日
目的 鉛亜鉛鉱床と地質構造との関係
概要 地質は第三紀層（砂岩、頁岩互層、礫質凝灰

岩、集塊質凝灰岩等より成りまたこれを貫く石英粗面岩とからなる。

鉱床は上部においては含金石英脈であるが下部に進むに従つて鉛、亜鉛を主とする石英脈に移過する。

鉍石鉍物は閃亜鉛鉍，方鉛鉍，黃銅鉍，黃鉄鉍，石英及び重晶石等がその主要なものである。

- 成果
1. 上部においては含金石英脈であるが下部に進むに従い硫化鉍物特に方鉛鉍，閃亜鉛鉍等が増加する傾向がある。
 2. 鉛，亜鉛晶出帯が認められる。
 3. 母岩の構造との関係が認められる。

2. 埼玉県秩父鉍山鉛，亜鉛鉍床調査

調査者 伊藤昌介

期間 25日

目的 本邦における鉛，亜鉛鉍床と地質構造との関係

概要 当地帯の地質は石灰岩，珪岩，粘板岩及び硬砂岩等から成る，秩父古生層これ等に岩脈状に貫入する石英閃緑岩とからなる。鉍床は石英閃緑岩と石灰岩の間のスカルン中に近く然も後者中に胚胎しているものが多い。

鉍石は閃亜鉛鉍，方鉛鉍の外に黄鉄鉍を伴い時に磁硫鉍，磁鉄鉍に富む。

- 成果
- 母岩中に NS 系の fissure 及び fissure group がよく発達しており閃亜鉛鉍に富む部分は特にこの SN 系の方向性を有する fissure 及び fissure group と関係を有する。
- 今後探鉍にはこれ等の母岩の構造を研究する必要がある。

3. 新潟県飯豊鉍山鉛，亜鉛鉍床調査

調査者 伊藤昌介，富田光孝

期間 24日

目的 日本における鉛，亜鉛鉍床の構造的調査研究

概要 附近の地質は古生層（石灰岩，粘板岩，珪岩等），及びこれを貫く花崗岩および石英粗面岩，輝緑岩等よりなり鉍床は石灰岩と他の岩石の境に胚胎している。

小岐坑：銅鉍（緑泥石脈中黄銅鉍，黄鉄鉍を伴う）

飯豊坑：鉛亜鉛鉍（閃亜鉛鉍，方鉛鉍，黄銅鉍等を伴う石英脈）

- 成果
- 石灰岩の続きに沿う北部と，飯豊坑一番坑蟹籠間レベルの探鉍が有望である。

4. 新潟県葡萄鉍山鉛，亜鉛鉍床調査（地質調査所月報第1巻第1号報文）

調査者 伊藤昌介，富田光孝

期間 23日

目的 日本における鉛，亜鉛鉍床の構造的調査研究

概要 附近の地質は花崗鉍，斜長石石英粗面岩，変朽安山岩，同角礫岩及び第三紀層からなる。鉍床は浅熱水性裂隙充填鉍脈で，鉍石は閃亜鉛鉍，方鉛鉍及び少量の黄鉄鉍，黄銅鉍より成り，脈石は苦灰石，方解石，時に重晶石，石膏等である。鉍脈は巻ノ沢層（N30°W，50SW）生成後の生成にかかりこれに直角な裂隙に進入した鉍脈である。

- 成果
1. 鉍脈は網状をなし，現在の主脈と同様な優勢脈の存在が予想される。
 2. 鉛，亜鉛晶出帯は深さ約160cmである。
 - (1) 1cm以上の幅の鉍脈は錘押を行う必要がある。
 - (2) 開発された各鉍脈の間はさらに探鉍する必要がある。

5. 山形県西吾妻鉍山硫黄鉍床調査

調査者 木村 正

期間 30日

目的 23年度における概査の結果に基づく本鉍床の精査

概要 時代未詳の黒雲母花崗岩を基盤としその上に第三紀末又は第四紀の噴出にかかる南に緩傾斜する兩輝石安山岩熔岩流，集塊岩，凝灰岩から成る累層中に生成された硫黄鉍床である。凝灰岩中には厚さ2～3m南に緩斜する頁岩層が夾まり，この下部の凝灰岩中に富鉍部を形成する。

Total S. 平均 30%（調査は1/500坑内図と1/2000地形図を作成し精密調査を行った。）

- 成果
- 本調査の現鉍床の延長部の探鉍方針を決定し併せて行った坑内試錐によつて推定鉍量の増加を見た，尙新鉍床の発見のため本鉍床の西側上部の変質帯に電気探鉍を行ったところ有力な兆候が見られ試錐探鉍の位置を選定し得るに至つた。

6. 新潟県三協鉍山鉄鉍床調査

調査者 林昇一郎，物部長進

期間 11日

目的 鉍床の賦存地帯の決定

概要 附近一帯は古生層の粘板岩，輝緑凝灰岩，石灰岩，珪岩等と，これを貫く花崗岩類及び古生層を被う新第三紀の凝灰岩類から成る。鉍床は粘板岩中の裂隙および層理面に進入し

たものおよび石灰岩を交代して生成されたいわゆる雲母鉄鉱を主とする塊状の鉱床で大小約20個の鉱体が知られている。

- 成果
1. 鉱床は略々古生層の走向に平行して配列した大略二つの帯状をなして発達していること。
 2. 従つてこの帯状の地帯の露頭探査および電気探鉱を行う事が最も効果的であること。
 3. この二つの帯状の地帯の北延を決定すること。
 4. この帯状地帯の一部に物探を行つた結果二三の徴候を認めた。

7. 長野県伊那横川（浜横川）鉱山満俺鉱床調査 （地質調査所月報第1巻第4号速報）

調査者 宮本弘道

期間 5日

目的 マンガン鉱床に関する資料蒐集

概要 古生層中の粘板岩、チャートを母岩とする熱水性の交代鉱床、母岩は珪質度高くかつ炭酸化するを受け粘板岩は絹雲母化粘土化作用を受けている。

主な鉱床は5個在り。

鉱石はテフロ石、菱マンガン鉱、バラ輝石、軟マンガン鉱、硬マンガン鉱、ベンウイス石、ブラウン鉱等、より成川脈石として石英、黄鉄鉱を伴う。

- 成果
- 中央坑左押西引立て着鉱した鉱床及び大岩二号の西引立ては西方延長と兩者の中間に探鉱の要を認め、今後本地域内の鉱産発展に寄与することが大である。之に次いで中押沢の鉱床も東引立の延長方向に探鉱が必要である。日向坑、瀬戸の兩鉱床は新たな発展は期待出来ぬ。本地域内では輝綠凝灰岩の分布が探鉱上大切な示唆を与えるものと思われる。

8. 長野県上伊那鉱山満俺鉱床調査（地質調査所月報第1巻第4号速報）

調査者 宮本弘道

期間 5日

目的 本邦マンガン鉱床に関する資料蒐集

概要 右生層の粘板岩、及びチャートを母岩とする熱水性の交代鉱床で母岩は珪化、絹雲母化および珪土化作用と微弱な緑泥石化作用も受けている。

本鉱床は雁行状に配列する小鉱体群よりなり二條の断層の間に胚胎している鉱石はテフロ石、菱マンガン鉱、バラ輝石、軟マンガン鉱、硬マンガン鉱、ブラウン鉱、ベンウイス石等の鉱物より成川脈石として方解石、黄鉄鉱、石英等を伴う。

- 成果
- 南の断層（N10°Wの走向のもの）も西側に於ける鉱体の賦存状態を明らかにする必要があるが、地表に露出のないのが欠点である。大生坑第一中段において南押せを行うことが望ましい。

9. 茨城県久慈鉱山金、銀鉱床調査

調査者 佐藤 恭

10日

目的 探鉱方針の指導

概要 第三紀礫岩及び古生代角閃岩片岩中の石英脈で、方鉛鉱、閃亜鉛鉱、黄鉄鉱、黄銅鉱及び自然金等を伴っている。

現在稼行している鉱脈は角閃岩の角礫化した部分に発達する鉱架状石英脈である。

- 成果
- 下部の探鉱、露頭の探査、富鉄部と絹雲母化作用の関係等につき今後精密な調査を必要とする。

10. 愛媛県愛媛鉱山含銅硫化鉄鉱床調査

調査者 本村 正、小村幸二郎

期間 21日

目的 鉱床の構造的調査及び母岩の線状構造調査、（第一、第二、第三鉱体の関係その他の解釈）

概要 附近の地質は緑色片岩、石墨片岩紅簾片岩等から成り鉱床は別子式層含銅硫化鉄鉱々床で東より第一、第二、第三の3鉱体よりなる。鉱石は、黄銅鉱を僅かに伴う黄鉄鉱の微粒からなる緻密塊状鉱である。

- 成果
1. 第一、第二、第三の各鉱体は同一鉱体が断層のため転位したものであつて、もともと別箇のものではない。
 2. いわゆる大断層と呼ばれている断層は正断層である。
- 1/300 坑内図を用いて坑内スケッチを行い、鉱床の落としと母岩の線状構造との関係をも検討した。

11. 愛媛県別子鉱山含銅硫化鉄鉱床調査

調査 堀越養一、吉田善亮、和田利雄、菊池 徹、高島 清、服部富雄、物部長進

期間 74日

目的 精密鉍床図作製 (一部)

概要 鉍床はいわゆる層状含銅硫化鉄鉍床の典型的なもので三波川結晶片岩中に胚胎する鉍物の主なものは黄鉄鉍, 黄銅鉍等てその他金, 銀, 閃亜鉛鉍等を含む。

成果 1/100 の各調査坑道の地床図を作製し, 母岩の線状構造と鉍床の落しとの関係, 及び鉍床の賦存状態を明にした。

なお本調査は現在盛んに行われている精密鉍床調査法の一つの model を示したのとして重要な意味を有するものと考ええる。

12. 高知県白滝鉍山含銅硫化鉄鉍床調査 (地質調査所速報第 110 号)

調査者 吉田善亮, 小村幸二郎

期間 1 月

目的 母岩の線状構造と鉍床の落しとの関係

概要 鉍床はいわゆる層状含銅硫化鉄鉍床で三波川結晶片岩中に胚胎し, 褶曲に富む鉍床である。主要鉍物は黄鉄鉍, 黄銅鉍, 斑銅鉍等てこの他に滑石の鉍床がある。

成果 坑内外において母岩の線状構造と, 鉍床の落しとの関係を追求し, その一致することを認めた。

13. 栃木県越路鉍山銅, 硫化鉄鉍々床調査

調査者 吉田善亮

期間 5 日

目的 受託調査 (物理探鉍, 及び試錐個所の選定)

概要 鉍床附近は第三紀層およびこれを貫く石英粗面岩からなり, 鉍床は粘土化帯中の黒鉍式硫化鉄鉍々床で, 鉍石は黄鉄鉍, 閃亜鉛鉍, 方鉛鉍等を主とする。

成果 地質鉍床調査に基づいて物理探鉍を行い新鉍床の存在地を想定し昭和 年同地にボーリングを行い鉍床を発見した。

14. 山口県河山鉍山磁硫鉄鉍々床調査

調査者 和田利雄, 高島 清

期間 5 日

目的 河山鉍山の鉍床と地質構造との関係

概要 本鉍山附近はいわゆる三郡変成岩と称せられる古期岩類 (秩父古生層) からなる。鉍床は粘板岩中に, 断層による破碎帯 (Sheared zone) に沿って生成された高温交代鉍床である。

鉍石は主として磁硫鉄鉍から成り少量の黄銅鉍, 黄鉄鉍, 閃亜鉛鉍等を混える。

1. 鉍床は高温交代鉍床に属し従来考えられていたいわゆるスラガーとは別型式のものであること。

2. 母岩が鉍床の南端部において向斜構造を示しこの褶曲軸と鉍床の曲軸とは平行しているが約 350m の距りを有している。

15. 鳥取県黒沢鉍山磁硫鉄鉍々床調査

調査者 和田利雄, 高島 清

期間 5 日

目的 鉍床価値判定

概要 附近一帯は花崗閃緑岩及び古生層の粘板岩等より成り, 鉍床は粘板岩の層理および裂隙に侵入した高温交代鉍床で現在判明した鉍脈は四條あり中二條は露頭部に褐鉄鉍が二次的に生成されておりこれを探中である。

鉍石鉍物は磁硫鉄鉍, 閃亜鉛鉍, 方鉛鉍, 黄鉄鉍, 黄銅鉍, 磁鉄鉍, 赤鉄鉍等より成る。

成果 現在何れも露頭部のみ判明しており鉍脈の性状は明らかでないのでさらに精密な調査を行うと共に錐探鉍を急速に行う必要がある。

16. 青森県舟打鉍山鉛亜鉛鉍床調査

調査者 伊藤昌介, 服部富雄

期間 20 日

目的 鉛, 亜鉛鉍床と地構造との関係

概要 附近一帯の地質は中新世に属する砂質凝灰岩, 緑色凝灰岩, 凝灰質岩, 同砂岩, 及び集塊岩等から成り安山岩及び玄武岩々脈がこれ等を貫いて噴出している。

鉍床は浅熱水性裂隙填充鉍脈で鉍石は閃亜鉛鉍, 方鉛鉍等と少量の黄鉄鉍, 黄銅鉍等を伴う。

成果 方鉛鉍, 閃亜鉛鉍の晶出帯が認められ, その深さは大概 160m 前後と考えられる。

17. 新潟県中蒲原郡鉄鉍床調査

調査者 林 昇一郎, 物部長進

期間 29 日

目的 三協鉄山を調査し隣接の粟ヶ岳鉍区の地質鉍床概略を知る

概要 地質は古生層の粘板岩と輝緑凝灰岩よりなる。

鉍床はいわゆる接触で, 鉍体はレンズ状又は塊状で, 母岩の層理に整合又は節理性裂隙に延長する。

鉍石は雲母赤鉄鉍と少量の磁鉄鉍, 黄鉄鉍を

伴い、スカルン鉱物としてヘデンベルク輝石、珪灰石、柘榴石がある。

品位 Fe 50%，一鉱体の鉱量は数百t-数千t位のものが多い。

1. 三協鉄山鉱区内の鉱床は大半採掘済みであるが、さらに奥地には同種の鉱床が、輝緑凝灰岩、石灰岩及びスカルン鉱物の発達した附近に発見されよう。

2. 1 鉱体の規模は数千t程度のものが不規則に分布している。

2. 内地でも搬出状件の相当悪い方であるか

らその改善、維持には努力すべきである。

18. 岐阜県天生鉱山金、銀鉱床調査

調査者 佐藤 恭、物部長進

期 間 35日

主任者転出のため詳細不明

19. 福島県大沼郡金、銀鉱床調査

調査者 佐藤 恭

期 間 4日

主任者転出のため詳細不明

非 金 属 鑛 床 調 査 研 究 一 覧

昭 和 22 年 度

1. 完了した研究

1. 鉄明礬石の調査並びにその処理利用に関する研究

研究者 片山信夫、齋藤正次、他

年月日 22.4.5~22.7.27

目 的 新資源の発見とその開発利用

概 要 火山性褐鉄鉱と鉄明礬石との随伴関係に着目し、北海道より本州を径て九州に至る間の火山地帯の褐鉄鉱鉱床の再調査を実施し、発見された新鉱床から試料を採取して群馬鉄山その他で焙焼試験を行つた。

得られた成果 地質的予想が適中し、下記の如く次々と新鉱床が発見された。

主 な 産 地	埋 藏 量	品位 K ₂ O%
十 勝 岳 (北海道空知郡)	十数万ton	6
群 馬 (群馬県吾妻郡)	確定 3.6×10 ⁶ ton 推定 1.9×10 ⁶ ton	6
諏 訪 (長野県諏訪郡)	推定 3×10 ⁶ ton	7
三井阿蘇 (熊本県阿蘇郡)	確定 1.1×10 ⁸ ton 推定 4.9×10 ⁴ ton 予想 3~4×10 ⁶ ton	
その他 約10カ所		

この中、群馬鉄山については齋藤正次がボーリングによる精査を行いその結果鉱床は谷を埋めた温泉沈澱物で褐鉄鉱に較べて下部に多く、かつ湧口から見て鉄鉱よりも方に多いことが明らかとなつた。

片山信夫は現地(群馬鉄山)に試験焙焼爐を設け焙焼試験を行い比較的低温で鉱石中の K₂O K₂SO₄ を可溶性とし、副産物として紅

柄を得ることに成功し、国産カリ原鉱としては最も廉価に処理できるものであることを明らかにした。

備 考 鉱石の処理法についてはその後ロータリキルンその他による試験が執行されている。

2. 長野県宮川鉱山橄欖岩の調査

研究者 肥田 昇

年月日 22.4.14~4.28

目 的 マグネシヤ質耐火原鉱としての調査

概 要 現地調査並びに鉱石の化学分析により産状、鉱量、品位等を明らかにした。

成 果 千枚岩中の橄欖岩

品質良好であるが、少々多い (Fe₂O₃ 8~13% くらい) 欠点を有する。

鉱量は相当量ある。

鉱床の周辺部は蛇紋岩化している。

3. 四国各県下の主な滑石鉱床の調査

研究者 坪谷幸六

年月日 22.4.6~22.11.24 間に3回

目 的 耐火磁器原料および粉材用としての産状、埋藏量、品質の調査

概 要 現地の坑内外鉱床の調査、化学分析を主とする。

成 果 鉱床は塊状をなして三波川系結晶片岩の層理に平行に賦存するものが多く、全体としての鉱量は相当多量であるし、中には大鉱床(例白瀧)もあるが、品質悪く (Fe₂O₃ 概ね4%以上)、粉材としては適當であるが耐火磁器

用として適当しない。

産地	銩量	品質 FeO%
船木 (愛媛県新居郡)	推定 数万ton	3.87%
白瀧 (高知県土佐郡)	推定 9.8×10^4 ton	4.5~5.1%
下川 (高知県長岡郡)	推定 1.2×10^4 ton	5.26%
能知 (高知県土佐郡)	見込 $2 \sim 3 \times 10^4$ ton	

なお他にも発見の可能性は多い。又一部銩床の成因に関し、それが比較的高温の産物であることを示す事実が明らかにされた。

4. 秋田県および福島県下のカリ石英粗面岩の調査

研究者 岩生周一

年月日 22.7.15~22.8.8

目的 カリ原銩および陶磁器原料としての調査

概要 秋田県雄勝郡大倉山および福島県大沼郡瀧谷のカリ石英粗面岩につき現地調査、銩物組成、化学成分の決定、埋蔵量の推定等

成果 大倉のものは陶磁器原料としても充分これを使用しうることが明らかとされたが、問題は開発着手に要する経費である。瀧谷のものはカリ原銩としては充分開発に適するが、陶磁器原料としては全般的結論をうに至っていないが、 K_2O 含有量は概ね 10% 内外でカリ原料として極めて着目される。

それぞれの埋蔵量は次の通りである。

大倉	瀧谷
1 級品 4.5万ton	200万ton以上
2 級品 11.0 "	
3 級品 21.5 "	

なお兩者共第三紀緑色凝灰岩層の一部を構成し、今後の広範に亘る地質調査によつて同種資源発見の可能性がある。

5. 福島県下珪石および長石の調査

研究者 安齋俊男

年月日 22.4.20~22.11.12 の間 22 回

目的 福島県花崗岩地帯のペグマタイト質珪石および長石の産状、現況、銩量等を明らかにし将来の見透しを立てる。

概要 白珪岩石山を中心とし、主要銩床を調査し、地質的産状、銩床の規模の概略を明らかにする。

成果 この地域ペグマタイトにおける珪石と長石との帯配列の規則性 (周辺の母岩から中央に向つてペグマタイト帯→石英長石→雲母帯→

長石帯→石英長石帯→石英帯) およびペグマタイトの地域的配列(南北方向)状態を明らかにし、今後の探銩及び銩床の将来性に対する見通しに理論的根據の一部を与えた。また、新たな銩床は交通不便で差当りの開発困難な所にだけ残されていることが分つた。品質は珪石、長石共に平均して全国随一であるが、それぞれ個々の銩量は勢々数百 ton 乃至 1 万 ton 以下である。

6. 山口県、岡山県下の黒鉛銩床の調査

研究者 安齋俊男

年月日 22.2.16~23.3.2

目的 現況、銩床形状の概略、銩量等の調査

概要 現地概査、銩石の化学分析、銩量算出

成果 古生層中の炭層が変質し黒鉛化したもので、不規則脈状またはレンズ状をなすいわゆる土状黒鉛に属する。従つて浮選不可能。銩量は必ずしも少くないが、品質は概してよくない。C = 10 ~ 30 % がもつとも多く、銩量は数千 ton 程度のものが多い。

7. 本邦石膏銩床の調査研究

研究者 木村正他

年月日 22.10.27~22.11.1

目的 本邦石膏資源の産状、品質、銩量を明らかにしセメント用および焼石膏用原料に対する全国的見通しを明らかにする。

概要 全国的調査の最後に残された主要銩山として福島県奥内畑、旭、会津若松銩山、新潟県御所銩山、山形県吉野銩山、石川県能登、若山銩山等の精査を実施、品質別銩量と賦存状況とを明らかにする。

成果 次表の通り。

銩山名	銩量	品位
奥内畑 (福島県)	5×10^5 ton	セメント用
	2×10^5 ton	洗滌用
会津若松 (")	予想 2×10^6 ton	SO_3 25%
吉野 (山形県)	不詳	
能登 (石川県)	1×10^6 ton	セメント用 SO_3 33~35% 焼石膏用 SO_3 40%
若山 (")	$3 \times 10_5$ ton	SO_3 20% 以上

なお石銩膏中には無水石膏を混入するから、品位を表わすには SO_3 % だけでなく、 H_2O 、 SO_3 兩者の % で表わす可きことを新たに提唱した。

2. 継続中の研究 (昭和22年度)

1. 陶石およびカリオン鉱山の調査研究

(岡山・石川・岐阜・長崎県下のカリオンおよび陶石)

研究者 岩生周一, 上野三義

年月日 22.7.12 ~ 23.3.19 の間に4回

目的 主として陶磁器原料としての陶石・カリオン鉱床の埋蔵量, 産状, 品質の調査と全国的の両鉱種に対する資源の見直し。

概要 岡山県, 長崎, 石川, 岐阜県下における主産地につき現地調査, 鉱物組成, 化学成分等の決定, 埋蔵量の推定

成果 次表に示すことが判明。

産地	鉱量	品質
奥津カリオン (岡山県)	5.9×10^4 ton	
神目カリオン (")	3.7×10^4 ton (1級約30%)	長石の残晶が多く, 斑がある。
北濃陶石 (岐阜県)	約 5.5×10^6 ton	
服部陶石 (石川県)	4.9×10^6 ton	1級45% 磨石15% 鉱床さらに拡がり極めて有望

対州カリオン・陶石 (長崎県対馬嶺原)	白土	
	原土合計約 40万ton	精製 { 水ヒ物 3万ton 切羽選 5万ton
	陶石 { 推定約 22万ton 予想約 10万ton	

カリオンは2カ所に良質残鉱を相当認めうるが, 全体として残鉱がないあるに拘らず水簸歩当り余り高くないであろう。陶石は量的にも質的にも有望。

進捗状況: 20 ~ 30 %

2. 岐阜・愛知・三重地区木節・蛙目粘土鉱床調査

研究者 大江二郎 他

年月日 22.12.15 ~ 23.3.2 の間に2回

目的 粘土層の有望未開発区域の探査, 鉱量および排土量の推定

概要 部分的ボーリングを伴う精査, 鉱量, 排土比の算定。地質平面図および各所柱状図の作製。

成果 愛知県大畑, 八草地区に関し次の結果を得た。

	木 節 Clay			蛙 砂		
	層厚	排土比	鉱量	層厚	排土比	鉱量
豊徳砂山	5~6m	1:5	3.89×10^4 ton	5m 2枚		1.1×10^6 ton
" 大原	3	1:4	3.1×10^4 ton	5m 2枚		1.1×10^6 ton
四方砂山	3	殆排土余地なし	0.3×10^4 ton		排土余地なし	
" 大原	2	1:4	1.7×10^4 ton	5m		0.5×10^6 ton
東海大原	4	1:5	7.7×10^4 ton	10m		2.1×10^6 ton
共立向田	3~4	1:5	7.4×10^4 ton	10m		3.4×10^6 ton
" 油擢	3	1:5	8.3×10^4 ton	10m		3.0×10^6 ton
豊徳油擢	1~2	1:5	5.3×10^4 ton	10m		3.9×10^6 ton
計			37.5×10^4 ton			1.5×10^8 ton

排土比(粘土層の厚さ:被覆排土の厚さ)は概ね1:5が限度で, これを超えると採掘不可能で鉱量の対象とならない。

愛知県瀬戸市附近の山口地区においてはボーリングによる調査の結果, 蛙目粘土の主要部分はほと

んど残存していないことが判明した。

進捗状況：15～20% 粘土層堆積当時の状況に関する全般的の概念把握のための広域地調査を必要とする。

昭和23年度

1. 完了したもの

1. 山口県名振鉾山の蠟石鉍床調査

研究者 岩生周一 他1名
年月日 23.11.15～23.4.28
目的 鉍床の賦存状況と鉍量を明らかにする。
概要 地形実測図を用いて鉍床の精査、後ボーリングを行いその資料を加える。
成果 1. 鉍床存在可能範囲の決定
2. 鉍量：確定約1万ton、推定+予想約2万ton
3. 高品位蠟石鉍→珪化帯→Ti-赤鉍鉍帯の累帯配列の発見、これは探鉍に非常な便宜を与えた。
4. 若干の成因的考察の資料を得た。特にTiとFeの問題は注意された。

2. 長野県下高井郡金倉鉾山蠟石鉍床の調査

調査者 大島敬義 他2名
年月日 23.5.21～23.6.20
目的 鉍量の調査(受託)
概要 ハンドボーリング、コアボーリング、地形測量を伴う鉍床の精査と鉍量の推定
成果 1. 鉍床の形状は概ね判明(主要鉍体の形は筒状)
2. 品質及び鉍量(推定および予想)はSK32以上70万ton以上。
3. 探鉍方針を確立する十分な成果はまだ得られなかつた。

3. 群馬県北甘楽郡青倉村檜檜岩及び蛇紋岩の調査

調査者 肥田 昇
年月日 23.5.18～23.5.22
目的 塩性耐火物原料としての賦存状況、品質の調査
概要 野外の概査および鉍石の化学分析
成果 緑色片岩を貫く檜檜岩中に蛇紋岩化した部分混入し褐色角閃石を多量に含む。
MgO 38%以下、Fe₂O₃ 10～13%で品質は余り良好でない。鉍量も多くない。

4. 北海道十勝国音調津黒鉍床調査

調査者 安齋俊男
年月日 23.6.1～23.6.21
目的 鉍床の賦存状況、鉍量、鉍物組成、鉍石品位に関する調査、すなわち当時本邦唯一の鉍床として、新たに相当な規模で開発され、浮遊選鉍を行う予定であつたので、この基礎的資料をうるのが主目的。
概要 電気探鉍と協力、地形測量を伴う鉍床の調査、鉍石の化学分析と検鏡。
成果 鉍床は塩基性深成岩(ノーライト)の岩漿分化に関係ある特異なものであるらしく、その末期的岩相であるペグマタイト質部分あるいは珪化帯の分布と鉍床の賦存カ所との間にある関係があること、鉍石中に相当量の磁硫鉄鉍を含有することおよび鉍石の粒度が極めて細かいこと等が判明。
推定および予想鉍量と品位は次の通りで規模は非常に大きい。
C = 20～30%
鉍量総計約10数万ton

5. 岩手県下の滑石鉍床調査

調査者 坪谷幸六 他1名
年月日 23.6.10～23.6.24
目的 産状、品質、鉍量の調査
概要 主産地の調査、鉍石の化学分析
成果 陶磁器用に適するものは極めて少く、多くは粉材に使用できる程度のものである。大部分はFeO 4～5%で品質良好でないが、岩手県夏目のものだけはFeO 1.5%で品質甚だ良好である。

6. 奈良県宇陀郡神戸鉍山絹雲母調査

岩生周一
年月日 23.6.10～23.6.28
目的 耐火煉瓦バインダー用および粉材用としての鉍床の形状、規模、品位の調査
概要 地形測量を伴う精査、鉍石のK₂O%測定

成果 1. 稼行中の主要鉍床の鉍量および品位次の通り。

K_2O 5%±, 20万 ton 程度。

花崗閃緑岩中の深さの方向に延びている鉍床。

2. 附近に絹雲母露頭極めて多いが、その規模は稼行中のものにおよばない。

7. 茨城県日立鉍山の綿雲母鉍床の調査

調査者 岩生周一

年月日 23.8.7~23.8.12

目的 耐火煉瓦バインダー用および粉材用等として、鉍床の賦存状況、品質、規模の概略の調査

概要 鉍山側資料を充分利用して坑内外の主要調査、鉍石の化学分析絹雲母の性質決定。

成果 1. このいわゆる“絹雲母”は寧ろ muscovite に近く、粒度の粗いのが特徴。
2. 硫化鉄鉍床の賦存ヶ所と若干の関係がある。
3. 概ねの規模と品位雲母%は次表の通り。

8. 熊本、長崎、島根県下の石綿鉍床の調査

調査者 肥田 昇

年月日 23.9.26~23.10.23

目的 同地域の石綿鉍床の概略の把握および今後の探鉍開発上の見通しをうる。

概要 鉍床の概査と部分的精査

成果 八代附近 { 角閃石々絹 量多し 少々有望
クリツタイル 極少し 品位不良
山鹿附近 角閃石石綿 品位不良
長崎県榮上晃明 角閃石石綿としてつとも規模大。

鉍床は蛇紋岩体の延びの方向と一致する鉍脈、富鉍帯延長 1 Km, 幅 60 ~ 30m, 時に滑石を伴う。

9. 岐阜県、滋賀県下長石・珪石の調査

調査者 安齋俊男

年月日 23.10.5~23.10.23

目的 鉍床の賦存状況、規模、鉍石の品質、將來性
の見通しに対する概念をうる。

概要 鉍床の概査、一部精査

成果 1. 苗木“長石”アプライトの風化変質物で一部カオリン化、品質優良なるも量少い。
2. 釜戸“長石”アプライト岩脈、鉍量莫大採掘方法を改良し、利用研究すれば優良

な潜在資源。

3. 大津市附近“長石”アプライトの多少変質したもの、鉍量は全体としてそれ程少くないが品質は平津以外は最良ではない。
4. 三雲附近“長石”アプライトの多少変質したもの、鉍量だも多く ($1 \times 10^6 \text{ton} + \alpha$)、品質より。將來開発地として有望。
5. 大原珪石 領家変成岩の一種、この種のもの領家変成岩地帯にまだ発見の可能性多い。

10. 富山県千谷鉍山黒鉛鉍床調査

調査者 岡野武雄

年月日 23.9.5~23.9.13

目的 電探の結果を確認するための鉍床概査を伴う
ハンドボーリング。

概要 同上

成果 主鉍脈上方 SP negative center に顕著な露頭を確認。

11. 新潟県西頸城郡小滝村ソーダ長石およびヒスイ調査研究

調査研究者 岩生周一

年月日 23.10.24~23.10.30

目的 低アルカリガラスまたはグレス用長質原料として、賦存状況、品位分布、鉍量等の調査、鉍物組成の研究。

概要 簡易測量を伴う現地調査、鉍石の化学分析および検鏡

成果 1. ソーダ長石は蛇紋岩中に leucocrate として塊状に産し、しばしば洗出されて原地軽石鉍床も形作る。
2. 鉍量は約 10万 ton 程度でその中 7 万 ton は略々カ所に纏っている。
3. ヒスイの産状が初めて明らかにされた。これはソーダ長石岩に相伴う。

備考 ヒスイの産地は世界に 3カ所知られており、その一つが小滝村である。

12. 本邦陶石及びカオリン鉍床の調査

調査者 木村 正

年月日 23.12.2~23.12.6

目的 石川県庁の受託調査

概要 鉍床の概査

成果 第三紀石英粗面岩の一部の陶石化したもので

銹量は想当多いことを予想されたが、調査日時不足のため詳細を知ることができなかつた。

13. 石川県珠洲郡の珪藻土の調査

調査者 本村 正

年月日 23.10.15~23.11.24

目的 石川県庁受託調査、全般的概査により珪藻土

2. 継続中のもの (昭和23年)

1. 本邦炉材珪石銹床の調査研究 (入広瀬)

研究者 岩生周一, 安齋俊男, 岡野武雄

年月日 23.5.10 より着手

目的 本邦炉材珪石銹床の産状, 規模, 品質, 埋蔵量等を調査, これ等の個々の集計として全国的の把握を行い, かつ銹石の銹物的性質と品質との関係を明らかにする。

概要 第一着手として新潟県北魚沼郡入瀬村赤白珪石銹床の調査を実施。

成果 産状と品質の分布判明, 銹量は次の通り。生成過程と探銹方針に関する示唆はまだ充分得られず。

進捗状況 全計画に対し5%

2. 本邦炉材珪石銹床の調査研究 (丹波地区)

研究者 岩生周一, 岡野武雄, 安齋俊男

年月日 継続, 24.7.14~24.8.20

目的 前掲

概要 継続調査の一部として赤白珪石の代表的な産地たる丹波地区の銹床の精査を行い,

1. 銹床の性状を研究し
2. 今後この地方および未開発地区の調査に役立たしめ, 探銹方針樹立に新しい資料を加え,
3. この地方の既探掘量および残銹量を明らかにする。

成果 酒梨, 市島, 畑地区の精査, その他の概査により, 次の事実判明。

1. 銹床は古生層中緩傾斜断層面, チャート, 輝緑凝灰岩と位置的にまたは構造的關係が深い。銹床はこの断層面に沿つて生じた一種の角礫を充して形成された角礫充填交代(珪化)銹床であつて芋状形を呈する。
2. 深さと品質との関係は未だ明らかでない。
3. 赤白と青白とは Fe^{III} と Fe^{II} との比に

全般を見, 次期精査地区を決定する。

概要 地質銹床の概査

- 成果
1. 珪藻土産出の地質的の層位略々明らかとなる。
 2. 次回には正院町附近を精査するのを適当と認める。

よるところが大きい。

4. 大半の銹床は露天掘りから坑道掘りへと移行しつつある。
5. 一銹体の大きさ概ね1万 ton 以下
6. 既探掘量 85万 ton
残存銹量 50万 ton

進捗状況 全計画に対し50%

2' 本邦陶石及びカオリン銹床の調査研究 (肘折カオリン)

研究者 上野三義

年月日 継続, 23.7.19~23.7.29

目的 22年度と同様

概要 継続調査研究の一部として山形県最上郡肘折カオリン銹床の精査, 銹量の推定, 銹物組成の研究。

- 成果
1. 銹床は非常に浅い温泉作用で生成されたものらしく, ほとんど地表に近く浅く広く発達している。若干特異なものがある。
 2. 品質に斑と癖があり, 無条件では陶磁器に用いられぬが, 利用研究に寄与する。
 3. 銹石は明礬石の含有で特徴付けられ SO_3 に富む。
 4. 銹量(推定) 次の通り
75,000 ton この中 SO_3 5% 以下の利用しうる部分 約22,000 ton,

進捗状況 30~35%

3. 本邦陶石及びカオリン銹床の調査研究 (天草陶石)

研究者 上野三義

年月日 継続, 23.97~23.11.4

目的 22年度と同様

概要 継続事業の一部として, 熊本県天草島の陶石銹床地帯のほとんど全域に亘り, 地形測量, 銹床精査, 銹石の銹物組成研究, 化学分析等を

行う。

- 成果
1. 鉱床の詳しい形状が初めて判明。
 2. 鉱床は概ね50m前後の深さで硫化鉄に富むに至る。これは稼行可能の一応の下限を示す。
 3. 全体として序々露天掘りの限度に達しつつある。
 4. 全体の鉱量は約数千万 ton に達し漠大であるが、最高級品はその一割以下である。
 5. 鉱石の原炭は第三紀層を貫く石英斑岩岩脈で、長石を残しているところがある。盤岩はしばしば珪化されている。

進捗状況 40%

4. 本邦耐火粘土の調査研究（八女粘土）

研究者 村岡 誠 他

年月日 23.7.25 より着手

目的 岐阜・愛知等の木節、蛙目粘土鉱床を除く本邦の頁岩質、Ball clay 質水成耐火粘土鉱床の全国的調査を実施し、特にSK 34～33以上の賦存状況と鉱量を明らかにする。また鉱物組成と品質との関係を究明する。

概要 第一として福岡県八女郡地方の粘土鉱床の調査を行った。バンドオーガー、簡易地形測量、地質調査、鉱物組成決定等を実施。

- 成果
1. 地表近く三層粘土からなり、最上層は gibbsite を含有しボーキサイト質粘土であつて、地質的にも非常に注目に値する。
 2. 最下部の白粘土はhalloysite ~ endellite を多量に含み、水液によりSK 34~35となしうる。
 3. この種ボーキサイト質粘土は他にも発見の可能性があると推定されるに至つた。
 4. 鉱量次の通り。

ボーキサイト質粘土	3.1×10^9 ton	}	確定
白粘土	5.1×10^9 ton		
木節式粘土	2.1×10^9 ton		

進捗状況 10%

5. 岐阜・愛知・三重地区木節・蛙目粘土鉱床調査（原町附近）

研究者 大江二郎 他

年月日 22.8.1~22.8.12

目的 前年度の継続

概要 前年度と同様であるがボーリングを伴わない。

成果 岐阜県原町附近蛙目・木節粘土鉱床調査の結果次のことを明らかにした。

鉱床量 蛙目粘土 250万t, 木節粘土 30万t, 推定鉱量 蛙目粘土 120万t, 木節粘土 10万t, (可採)

以上約 36 地区毎の鉱量の集計（面積、厚さ 蛙目 1.5m 以上, 木節 0.5m 以上）より算出せるもの。

進捗状況 25%

6. 本邦陶石及びカオリン鉱床の調査研究（温海および三光）

研究者 岩生周一

年月日 継続, 23.10.31~23.11.13

目的 前掲

概要 継続調査研究の一部として、山形県温海陶石および新潟県三光陶石の現地調査、鉱石の化学成分鉱石の検鏡依頼焼成試験等を行う

- 成果
1. 海温陶石は第三紀頁岩中の粗粒玄武岩が侵入し、その境界に沿つてその頁岩が脱色作用とアルカリの addition を受けて生じたもので、わが国では初めての産状を示す。
品質は良好な部分もあり、一部グレース用として利用されている。
鉱量は多いけれども実収率は現在稼行中の部分で、10~20%、裏山に少々良質のものが発達している。
 2. 三光陶石は古生層および第三紀角礫凝灰岩をいた石英粗面岩の陶石化したもので、加里長石、蛋白、クリストバル石で特徴付けられている。陶磁器原料をして若干の癖があるが使用可能である。
鉱量総計約 38 万 ton, 中一級約 20~30%

進捗状況 43% (継続分として)

7. 本邦陶石及びカオリン鉱床の調査研究（大森陶石および大久保砂利土）

研究者 上野三義

年月日 継続, 23.11.16~23.11.27

目的 前掲

概要 継続調査の一部として秋田県大森陶石および福島県大久保砂利土等を調査した。

成果 1. 大森陶石は女川頁岩層の緑色凝灰岩の陶

石化したもので、珪質部分クリストバル石、ガラスの含有量の高いのが特徴である。

鈹床は変化に富み一般に収縮率大であるが、低火度で磁器化する部分もあることが判明、鈹量珪質部共 10 万 ton。

2. 大久得砂利土は石英粗面岩の一部が角礫化され、これに沿って珪化および陶石化が行われたものなること判明。

鈹量約 2 万 ton。

進捗状況 継続分として約 45 %

昭和 24 年度

1. 完了したもの

1. 岩手県上閉伊郡門馬村門馬および紫波郡築川村砂子沢滑石鈹床調査

調査者 肥田 昇

年月日 24.5.13~34.5.26

目的 依頼調査、品鈹量の算定

概要 鈹床の現地調査

成果 蛇紋岩中の滑石脈数條以上、中に品質のよい部分(砂子沢)もある。鈹量その他省略。

2. 岡山県和気郡三石鈹床山蠟石鈹床の調査研究

調査研究者 上野三義

年月日 24.5.25~24.7.1

目的 鈹床の形状、鈹床中の品質の異帯構造、残鈹量、附近有望地帯の有無等の調査

概要 地形測量を伴う鈹床精査および周辺地区の地質、特に変質地分布の調査

成果 1. 鈹床は相交る二つの変質帯の交点に当り、石英粗面岩は古生層の頁岩を交代して生じた塊状、筒状の鈹床。珪化帯、硫化帯を伴うこと判明。

2. アルミナ分または珪酸分に富む部分等の斑は鈹床生成時における化学成分の移動等で説明可能であり、原岩の性質に影響された論據はない。

3. 鈹物組成決定、鈹量算出未定。

3. 三重県鳥ヶ原附近木節・蛙目鈹床の調査

調査者 大江二郎

継続中のもの (昭和 24 年度)

1. 本邦耐火粘土の調査研究 (久慈粘土)

研究者 村岡 誠 他

年月日 継続, 24.5.17~24.6.15

目的 昭和 23 年度と同様

概要 継続事業の一つとして岩手県久慈町久慈粘土の調査を行った。簡易測量、鈹床精査、鈹石

年月日 24.2 月 中約 15 日間

目的 当地域は厚い礫層に覆われて直接下部の粘土の状況を見得ない部分が多い。そこで、地質構造を広く調査して、下部の状況を察知し、ボーリング探鈹に適する範囲を知る。

概要 五万分一地形図とスケッチ等による広範囲の調査

成果 地域の中央部を東西に走る花出木断層を境として北は侵蝕が進み基底に近い部分が露出し、断層の南側は礫層その他の上層に覆われているが木節の粘土の存在が予想される。この範囲が有望であつてボーリング探鈹に適している。地層は Plio-Pliocene 沈降谷を埋めて発達したものと推定される。

蛙目粘土は断層の北側の地区に多い。

4. 栃木県芳賀郡益子町益子粘土鈹床の調査

調査者 村岡 誠

年月日 24.10.25~24.11.13

目的 益子焼原料の主要残存位置と残存鈹量の見通し依頼調査。

概要 簡易測量を伴う鈹床調査、鈹量算定等。

成果 中生層または第三紀頁岩を被覆して分散して分布する二次堆積粘土、SK 26 くらい、層厚最大 10 m、平均 3 m、鈹量合計約 320 万 ton、可採率約 20 %。

の化学分析、耐火度測定 (依頼)、等を行った。

成果 1. 古第三紀層 (野田層群) 中の粘土 10 数層 この中港層群中のものだけ稼行可能。粘土の厚さ平均約 1.3 m、延長 3 km、鈹石は特に粘り強し。

2. 鉍量

	SK 32 +	SK 32~30	SK 30
推定鉍量	12,950 t	111,500 t	485,500 t
予想鉍量		675,000 t	1350,000 t

久慈町南側三釜久慈は薄層、品質もそれ程よくない。

3. 鉍物組成 窯業原料協議会と協同で研究中。

進捗状況 継続として15%

2. 本邦カオリンおよび陶石鉍床の調査研究 (高玉カオリン)

研究者 上野三義

年月日 24.11.11~24.12.8

目的 昭和23年度と同様

概要 継続調査の一つとして、福島県安達郡熱海町高玉カオリン坑内調査を実施

- 成果
1. 高玉鉍床の珪化帯の下方の部分に多く存在。
 2. 何れも規模、膨縮に富むレンズ状。
 3. aduralia を原石とするものと母岩 (石英粗面岩および凝灰岩を) 母岩とするものがある。
 4. 品質は非常によいも大量出鉍は現在のところ望めない。

3. 本邦耐火粘土研究 (常磐粘土)

研究者 村岡 誠

年月日 継続, 24.12.10~24.12.25

目的 前年度と同じ

概要 いわゆる常磐地域の一部の耐火粘土の精査に基き、耐火別鉍量算出、賦存状況の究明。

成果 花崗岩を基盤とする幾つかの小さい盆地に炭層、礫層、砂層と互層して沈積、下部の夾炭層の基底の耐火粘土だけが稼行価値がある。粘土層の厚さ10~60cm, 30cm土のものもつとも多い。SK 34のものは極めて少い。各地区別、品位鉍量は次表の通り。

	推定予想鉍量 t	可採率
赤井地区(南方)	耐火粘土 { SK >34 1×10 ⁴ SK 34~32 2.5×10 ⁵ SK 32~30 6.1×10 ⁵ SK 30< 8.3×10 ⁵ }	平均10%
	17.9×10 ⁵	
木戸広野地区	蛙目粘土 { SK 34~32 3. ×10 ⁴ SK 32~30 1.8×10 ⁵ SK <30 2.3×10 ⁵ }	平均35%
	4.4×10 ⁵	
有界地区 { 赤井南方 相馬中村地区	耐火粘土 { SK >34 4×10 ⁴ SK 34~32 1.7×10 ⁵ SK 32~30 3.1×10 ⁵ SK <30 4.3×10 ⁵ }	平均30%
	9.5×10 ⁵	

燃料部成果年次報告 (昭和23~24年度)

事業概要

燃料部長 兼 子 勝

同副部長 三 田 正 一

(i) 油田調査の概要

今次の大戦を契機として油田調査の姿貌は著しい。すなわち戦前本邦においては石油鉱業のうちにしめる油田調査の役割は單に新しい背斜構造の発見にあるにすぎず、試掘井の位置選定後は油田の開発は専ら鑿井技術者に委ねられていた状態であつた。したがつて本邦の如き狭小の含油地帯内で既に概ねの背斜構造の探査がすんでいた大戦前の時期にあつては、油田調査は石油鉱業の限られた一部分とのみにしかつながりを持たない観があつた。大戦の勃発とともに南方方面に活動分野を持つた国内大部の石油地質技師は、石油地質技術が油田開発の根幹であり、石油鉱業において、その地位がいかに重きを占めていたかを、英米蘭諸国のとつておつた組織を通じ、彼等外人地質技師の作業の内容を通じて強く自ら認識した。ことに地質技師自らが認識した以外に、石油鉱業に関心をもつた人たち、あるいはこれに従事した各方面の人たちが、このことを知つたことは特に意義深いものと認めざるをえない。何となれば單に石油ばかりでなく鉱業の正しい「あり方」として地質の調査が基礎であるという観念をあるいは無意識的に、あるいは意識的にいだいたということは結果として本邦において石油の探査開発を科学的に上昇せしめたことになつたし、ひいては一般鉱業に地質業務の地位を認識せしむるに至つたからである。

大戦末期に、石油の外地依存が絶望となるや石油確得の方策が急抛反転し内地依存となり国産原油の増産に拍車をかけるに至つた。この時期には既に南方油田地において石油生産に従事していた関係者は内地に引揚げつつあつたので、人員は逐次充足されつつあつた。しかも石油資源の開発と地質調査作業とは、軍官民よりなる有機的な結びつきの下に行われた。油田調査作業がこのように石油鉱業の基礎として重要視され、かつ大規模に実際に施策の一面として具現したことは、明治35年地質調査の油田調査開始以來の本邦においての油田調査としては空前のことであつた。このときには南方で修得した調査方法をも既に採用し、従來試験的に実施していた物理探査法も、油田構造探査を主題として行われ、微生物化石の油田開発への応用はいよいよ重視され、さらに石油の回収能率の向上を目途とする合理的開発、すなわち地下管理を主作業とする“開発業務”までも取りあげらるるに到つた。終戦後進駐軍の指示によつて商工省鉱山局に石油開発促進委員会が作られ、権威ある技術者・学者を委員として、その企画のもとに既存の油田に対する検討や、新しい地域の地質調査や試掘が行われ石油鉱業に科学性をもたらしめる努力が続けられたことはこの新しい氣運を定常的なものとしつつある。

最近における地質調査所の油田調査は石油開発促進委員会によつて樹立せられた計画にしたがつて、年度計画区域の一部を担当している。石炭調査作業の如く特に機構の拡充せらるることはないが、その調査の内容課題の取りあげ方については格段の進歩を示している。すなわち戦前の調査が層序構造の解明表現に意を盡していたが、現在では過去の地史、沈積環境の考慮を對象として調査を行わんとしている。このことは、わが国のように大部分の背斜構造が既に開発せられておる現状で

は新油田の発見のためには、Stratigraphic Trap の如き調査困難の対象が浮び上り、試掘井の位置・深度を決定するにも貯油層たりうる砂の発達、母層と考えられる泥層の発達・構造と古地理の発達史等を考慮すべき必然性になつている。特記すべきは堆積環境究明の手段として採用している底質調査の実施である。すなわち精密な地質調査、坑井資料により得られた化石や岩相に対応する現世海底の現象把握にそなえるため、海底地形・流速・水系等の海洋学的環境と底質およびその中に含まれる生物群との相互間の連関を考究し、これをもつて過去の環境推定因子の主要なものの一つとして取扱わんとしている。このうち特に化石については遺骸群集に関する調査に意を用いんとしている。これは動的環境の干渉が群集におよぼす効果を現在の海底に求めそれと比較して過去の堆積物に含まれる化石群集の形成した環境を推定し、それを同時面と結びつけて化石を出土した地方の地史を編纂し結論を得んとするものである。要するに石油鉱床の探査に手段としての地質調査に堆積環境、地史の究明が重点性を帯び來つたのである。

(ii) 天然ガス調査の概要

天然ガス（油田ガス、炭田ガスを除く）の調査は戦時中より行われたが、ほとんど情報蒐集の域を出なかつた。終戦後国内燃料資源の不足は、天然ガス賦存地域においては家庭燃料として炊事用に、工場燃料として硝子製造用に、製糸製紙用に使用せられてきた。特にガソリン不足の状況に対処するためこれを圧縮して自動車燃料として使用せらるるに至つたことは、天然ガス資源開発の重要性が強く一部に認識せしめらるるに至り、必然的に調査の要望せらるることとなつた。一方地質調査所としてもこれに先行的に、国内ガス資源の賦存性を調査によつて明らかならしめんとした。すなわち従來の資料によつて鉱床の型の分類を試みるとともに国内天然ガスの賦存状況を総括し、これの由來を地質学的に解釈して資源について外廓的解明の骨子としてその後の調査結果にそなえた。調査は第一段階として既開発区域より行われた。即ち千葉県・静岡県のカス利用地より始まり青森県・大阪平野の新地域の探査にいたり、さらに進んで、石川・新潟・山形・島根・宮崎等の各地域におよぼしてゐる。特記すべきは天然ガス調査の一新方法として地化学探鉱法の採用せられたことである。すなわち土壤中の粒子間隙に存在する微量ガスを新たに考案した測定器によつて測定して地下の賦存状況考察の一助とすることや、また水中溶存メタンをまた別な新機械によつて測定して有力な資料とすること、さらに進んでガスの附隨水の化学成分の分析結果とガス鉱床との関係を求めんとしていることである。各地に亘つて調査の施行せらるるとともに調査方法の進歩は一段と著しくなりつつあり方法的には確立に近ずきつつあり、ガス質の良否地域、河川伏流による鉱床散逸の程度、鉱床の平面的、ならびに垂直的の分布等を表現する資料は、従來ほとんど非科学的であつたために発展し得なかつたガス開発事業に確立性を齎らしたのものとしてその成果はいよいよ大となりつつある。

(iii) 炭田調査の概要

今次大戦中わが国の石炭業は軍民の大巾な需用に應ずるため、ほとんどその可能限界を超える程度にまで増産を強行したが、敗戦と共に月産数十万噸程度にまで転落したことは今日なお国民の記憶に新しい惨めな事実である。この窮況は直ちに、新日本再建の鍵として諸工業の基礎物資としての石炭資源の重要性が再認識され、いわゆる石炭増産にたいする傾斜生産の方式が採用されることによつて救われた。これらの施策の一環として政府は炭鉱諸施設の復旧と同時に新炭鉱または新鉱の開発促進を意図し昭和 21、22 年にわたり石炭庁において炭田開発事業を興し石炭の増産に寄与せしめようとした。本事業において企業に直接必要な試錐、探炭坑道の掘さくおよび新坑開発のた

めの地質調査は石炭庁が主として取りあつかい地質調査所では、全国炭田地質調査およびこれに伴う物理探鉱および試錐を担当することになり所内に臨時炭田調査会を組織し多くの国外よりの引揚技術者を吸収して調査を実施した。これらの調査は石炭増産第一主義の傾向にしたがつて主要炭田の炭層と賦存状況の把握に重点をおき、炭種の如何をとわず調査地を全国に亘つて選択し兩年度中の地質調査96箇所(内亜炭54箇所)、物理探鉱4箇所、試錐32点(内亜炭24点)を実施した。なお N. R. S. の勧告にしたがい兩事業の技術的諮問機関として昭和22年発足した炭田探査審議会は官民学界の権威者を集めわが国の炭田の探査に多くの貢献をなしたが、現在まで引きつぎ資源庁内におかれ資源庁および地質調査所の炭田事業に有力な勧告を与えている。本所においては昭和23年8月以降燃料部石炭課および各支所に石炭調査担当者をおき引きつぎ炭田調査を担当せしめているが、北海道石狩炭田芦別地区・歌志内地区・最上炭田・常磐炭田・大嶺炭田等は連続的に調査範囲が拡大され広域的な炭田地質図が作製されつつある。とくに各支所においては管轄地域内における中小炭砒の技術指導に重点をおいている。燃料部石炭課の業務においても昭和23, 24兩年度は石炭増産に関連する業界および行政面の要求によつて短期計画型の炭層賦存状況を明かにする応急調査、現況調査が多く含まれ、なお本所としての自主的な課題を多く採用する余地がなかつたが、今後炭業界の安定に伴い漸次長期計画型の調査とくに未開発区域の継続的地質調査および調査上緊要な基礎研究業務に重点を置きかえることが予想される。

またわが国に極めて少ない強粘結炭の探求は昭和25年以降において本所として担当すべき大きな課題であつて、既に昭和24年度後半期においては不十分ながら、北松浦(佐世保)炭田、その他本州中生界強粘結炭の調査にとりかかっている。

將來本所の炭田調査業務が合理的増産手段の一翼として採りあぐべき重要課題は未調査および未開発区域の調査、たとえば主要炭田の周縁部・平原あるいは新期層に覆蔽された埋藏可能区域の精査、海底炭田の探求等が挙げられるが、これらは單なる地質調査のみでは不可能であつて物理探鉱試錐との一貫作業が必要であり、これには幸い本所の組織が持つ機能を最高度に發揮することによつてその責任の一端を果し得るものと信ずる。

燃料資源調査一覽(昭和23, 24年度)

この一覽表は、本所における石炭・石油・試錐課員の燃料資源についての調査だけを掲載し、各支所出張所における調査は資料整備未了のため含まれていない。なお物理探鉱による調査についても同様掲載されていない。各項目は調査開始時期の順に配列した。

石炭・亜炭(23年度)

1948—1. 長崎県北松浦炭田鹿町地区調査

炭種	粘結炭	面積	: 12.5 km ²	精度	: 精査
期間	昭和23年2月20日~3月31日(40日間)				
場所	長崎県北松浦郡鹿町字加勢, 本ヶ浦				
調査者	地質	安原彰一	長浜春夫	逆瀬川清丸	
測量	加美時寛	佐藤純三	佐藤優	福吉長雄	大竹重吉 石橋嘉一 石原二郎 立花榮一
目的	製鉄用原料炭の産地である北松浦炭田綜合調査の一部をなすもので、炭質調査、探鉱調査と併行して加勢地区の地質調査を行い、粘結炭の賦存状況を明らかにすると共に粘結炭の成因に関する地史的考察の基礎資料を探究す。				
成果	5,000分の地形図によつて地質調査を行い、層序ならびに構造を研究して地質図、断面図、柱状図、地下等深線図、炭量計算区画図等を作成し、炭層の賦存状況を明らかにした。				
備考	CEAC および石炭地質研究会で発表(昭和24年9月)				

1948—2. 島根県松江炭田矢田地区山陰炭礦調査

炭種 亜炭・瀝青炭 面積：11 km² 精度：精査
 期間 昭和23年4月10日～5月10日(40日間)
 場所 島根県八東郡竹矢村
 調査者 地質 松井寛 井上絢夫 測量 野口保夫 川野辰男
 目的 従来不明であつた夾炭層と玄武岩との地質関係を明らかにし、炭層の賦存状況を確かめ埋蔵量を決定して採鉱計画に資する。
 成果 玄武岩は夾炭層を平行不整合に被覆溢流したもので、実施中の R-No3 試錐が深度 36m で玄武岩に着き当つたもので、さらに掘進させたところ 78m で着炭した。この結果この試錐は山陰炭礦の二つの希望を解決した。
 一つは玄武岩を貫いて同岩下の探炭をしたこと、ほかの一つは本炭層には膨縮性があるため、場所によつては尖滅するが、この試錐の着炭の結果、傾斜の方向にも完全に炭量を見込むことができる。西津田地区の炭層は厚さ 20cm の亜炭露頭があるが、試錐によつてその賦存状況を明確にすることは必要である。
 備考 23年5月10日報告会にて発表。

1948—3. 愛知県愛知炭田高蔵寺地区亜炭調査

炭種 亜炭 面積：30 km² 精度：1/10,000
 期間 昭和23年6月17日～7月20日(34日間)
 場所 愛知県東春日井郡高蔵寺町
 調査者 地質 松本隆一 採鉱 小松暹 測量 岡重文 土屋近造
 目的 高座山北方近傍の亜炭層の賦存状況およびその埋蔵量を明らかにする。
 成果 炭層は小丘陵の中腹に鉢巻状に賦存し、二層の所もあるが、上部の層は削剝されて普通は一枚である。企業家はさらに下部に新炭層を期待し試錐も試みているが、基盤の露出している所もあるので夾炭層はあまり厚くなく、新炭層の期待はできない。採掘可能埋蔵炭量は34万トン
 備考 報告は石炭局へ提出。

1948—4. 北海道勇払郡山部炭田・勇払地区、占冠区及び石狩炭田夕張地区、穂別区調査

炭種 瀝青炭 面積：占冠地区 70 km²、穂別地区 9 km² 精度：概査並びに精査
 期間 昭和23年7月10日～10月7日(70日間)
 場所 北海道勇拂郡占冠村
 // // 穂別村
 調査者 地質 佐藤茂 清原清人 鈴木泰輔 測量 藤本辨藏 佐藤優
 目的 炭層の賦存状況、夾炭層の規模・分布状態の究明・採炭中の地域に対し 1/10,000 にて炭量を算定し企業計画の資とする。夾炭層の時代決定。
 成果

	占冠地区	穂別地区
夾炭層の規模	西部以外は分布小	分布大
炭層	炭質厚さ共に不安定にて連続性に乏しく、褶曲著し。	同左。炭層の発達不良。
企業価値	家庭用炭として小規模な採掘は考えられるが大規模の企業化は不可能。	同左。
時代	下部川端統と考えるのが妥当。	下部川端統。

備考 25年1月26日報告会にて発表(占冠地区のみ)。

1948—5. 北海道宗谷郡天北炭田東部地区・浅茅野区・北部調査

炭種 瀝青炭 面積：13 km² 精度：精査
期間 昭和23年7月23日～9月10日(50日間)
場所 北海道宗谷郡猿拂村字上猿拂
調査者 地質 青柳信義 測量 茅山芳夫 佐藤純三 分析 燃料研究所
目的 炭層の賦存状況ならびに地質精査
成果 本地区は白堊紀層、宗谷夾炭層、鬼志別層からなる。第三紀層は北方に沈下する向斜構造の南端軸をなし、最上位の増幌層は北西部の軸心部にわずかにみられるのみ。白堊紀層は東南部は広く発達し、第三紀層とは断層によつて境されるものと考えられる。宗谷夾炭層は上記向斜の東翼においてさらに小なる一背斜一向斜構造を伴う。なお本層は隣接の北方地区へも連続して発達するものと考えられる。移行可能の炭層は西翼において5層、東翼において3層である。

露頭から採取した試料の分析結果は

水分	灰分	揮発分	固定炭素	発熱量
11.16～15.64%	11.63～12.44%	35.25～36.65%	36.67～40.17%	4,600～5,539 cal

備考 未発表

1948—6. 北海道空知郡石狩炭田空知地区・歌志内区新歌志内鉱地域地質調査

炭種 瀝青炭 面積：6 km² 精度：精査
期間 昭和23年7月6日～8月31日(57日間)
場所 北海道空知郡歌志内町字新歌志内
調査者 地質 須貝貫二 細野定 久保泰輔 測量 小谷野長平 磯山功
目的 白堊紀層中の稼行可能炭層の有無。非華鋳業稼行鉱区を中心とする地質層序の究明およびそれに伴う新炭層の有無。
成果 白堊紀層中には炭層は賦存せず。非華鋳業会社炭鋳は老朽炭鋳なるも調査の結果最下部夾炭層は充分稼行しうる。なお当社の稼行炭層の走向および傾斜の延長が隣接北海道炭礦汽船会社礦区に延びているのでその合理的開発が望ましい。
備考 未発表

1948—7. 石川県手取炭田尾口地区調査

炭種 粘結炭 面積：6 km² 精度：1/5,000
期間 昭和23年7月7日～9月17日(65日間)
場所 石川県能美郡尾口村
調査者 地質 小西泰次郎 採鋳 小松暹 測量 久保昌夫
目的 炭層の賦存状況ならびに炭量の調査
成果 賦存状況が解り炭量は20万トン。炭質は粘結性。今後は北側の延長を採掘すべきである。油母頁岩がある。
備考 速報32号にて発表。

1948—8. 北海道空知郡石狩炭田空知地区砂川区奈井江地域地質調査

炭種 瀝青炭、粘結炭 面積：20 km² 精度：精査、概査
期間 昭和23年7月10日～11月6日(100日間)
場所 北海道空知郡奈井江町
調査者 地質 沢田秀穂 井上絢夫 測量 金子政利 石原二郎
目的 詳細な地形および地質図を作り開発に対する見通しの確立。
成果 地形および地質図を作り地質構造を明らかにした。爾波山断層以東の地区は大規模採炭には

不適であつて、奈井江向斜西翼南部の方が開発計画の対象となる。南奈井江炭礦にて稼行中の炭層はいわゆる羊齒砂岩層に属する。排水準下 300 m までの推定埋藏炭量は 2800 万 t 以上である。

備考 24年7月7日報告会にて発表

1948—9. 新潟県西頸城郡小瀧炭田小瀧炭礦地区調査

炭種 粘結炭 面積 : 10 km² 精度 : 1/5,000

期間 昭和 23 年 7 月 10 日～8 月 8 日 (30 日間)

場所 新潟県西頸城郡小瀧村字赤赤

調査者 地質 河野迪也 採鉱 河内英幸 測量 宮沢芳紀 中村勲男

目的 小瀧炭田の赤赤山を中心とした地区の炭層賦存状況および埋藏炭量を明らかにする

成果 夾炭層は古生層を不整合に覆い、第三系礫岩に不整合に覆われた中生層で、本地区近傍には広く発達する。なお、夾炭層に直接火成岩の影響はみられないが、断層褶曲の複雑な地質構造を呈する。小瀧炭礦地区で確定鉱量 71 万トン、推定定量 133 万トン、予想炭量 124 万トン計 234 万トンなるも、炭層の膨縮および小断層等の複雑性を考慮するとき、探炭坑道、試錐等によつて、確定炭量を増加させてから企業化するのが妥当と考えられる。本地区近傍には小瀧川支流ホドノ沢、大所川支流ヨグラ沢等に炭層露頭があり將來この方面の精査を行えば小瀧炭田の炭量を増加させることができる。

備考 炭田速報 31 号および 24 年 2 月 12 日報告会にて発表

1948—10. 北海道空知郡石狩炭田歌志内区大谷沢赤間沢調査

炭種 瀝青炭 面積 : 20 km² 精度 : 精査

期間 昭和 23 年 7 月 18 日～11 月 25 日 (131 日間)

場所 北海道空知郡赤平村

調査者 地質 松井寛 一杉武治 逆瀬川清丸 測量 小野寺公児 立花栄一

目的 本区域における美唄夾炭層の分布深度、地質構造および稼行の対象となるる否かを明らかにし、同時に下部しじみ層、羊齒砂岩層中に稼行価値ある炭層の有無を決定する。

成果 美唄夾炭層の最上部までの深度は推定 600m の下部しじみ層・羊齒砂岩層の炭丈は 40cm で稼行の対象としては薄い。瀧川層は下部しじみ層・羊齒砂岩層を不整合に被覆し、本調査区域外に処々窓があるので、窓の大きさ場所を確認すれば美唄夾炭層の構造・深度の判定に寄与するところが大きい。

備考 24 年 3 月 7 日報告会にて発表

1948—11. 北海道白糠郡釧路炭田釧路地区白糠区ラサ工業鉱区調査

炭種 瀝青炭 面積 : 9 km² 精度 : 精査

期間 昭和 23 年 8 月 16 日～10 月 22 日 (68 日間)

場所 北海道白糠郡茶路村

調査者 地質 春城清之助 奥海靖 測量 青島清弋 原徳光

目的 釧路炭田白糠地区の一部ラサ工業株式会社の所有にかゝる鉱区を調査し、特に春採層中の春採本層の賦存状況を精査して同鉱区の開発価値を判定する。

成果 夾炭層は第三系浦幌統の春採層、天寧層、雄別層および尺別層中に存在し、浦幌統はオサツベ断層の南東側に、南または東に 20°～30° 傾斜の単斜構造をなしている。春採層は賦存状態が安定していて炭丈平均 90cm で夾みも少なく主要可採炭層である。天寧層中にも炭丈平均 71cm の稼行価値があるものがある。雄別層 (炭丈 80 cm) は、かつて稼行されたことあるが前述 2 炭層共に開発に値する尺別層中にも一応稼行対象となる炭層は 4 層あるが夾み多く、また断層等によつて擾乱されているので、現在としては稼行性条件が悪い。炭質は亜瀝青炭、不粘

結性で一般用炭に適する。鉱区内の炭量は各層合計約1,455万トン。春採、天寧、雄別の3層のみで埋蔵炭量約935万トン(海水準下600mまで)。炭量、採掘条件からみて充分開発の価値がある。

備考 未発表

1948—12. 北海道空知郡石狩炭田空知地区西部芦別区調査

炭種 瀝青炭, 粘結炭 面積 : 60 km² 精度 : 1/50,000
期間 昭和23年7月18日~8月1日, 昭和23年10月10日~10月23日 (28日間)
場所 北海道空知郡芦別町
調査者 地質 三田正一 小島光夫
目的 芦別夾炭層の層位学的分類および地質構造を明らかにし, 将来の精査に備える。
成果 本地域は空知炭田大背斜構造の東翼がその周縁部において地殻運動により幾多の小地塊に分割, 転位されモザイク状の地層分布を示しているが, 大観して北西方向の一大向斜構造に支配され芦別町附近がその中心に担当するものと考えられる。芦別夾炭層は20余層の炭層を挟む優位性沿岸堆積層で全層厚730m+であつて岩相上からは下部砂岩層, 下部夾炭層, 中部砂岩層, 上部夾炭層, 上部砂岩層の5層からなる。

備考 未発表

1948—13. 北海道空知郡石狩炭田空知地区歌志内区一ノ沢地域調査

炭種 粘結炭 面積 : 23 km² 精度 1/10,000 及び 1/3,000
期間 昭和23年7月10日~10月7日 (90日間)
場所 北海道空知郡砂川町, 赤平町一ノ沢
調査者 地質 清水勇
目的 砂川一ノ沢地区において瀧川層と不整合関係をなす石狩統の構造をしらべ, 向斜構造の西翼にこの夾炭層が賦存する可能性を予察する
成果 瀧川層の厚さは向斜部で厚く背斜部で薄い。なお造山運動の影響にて瀧川層と石狩統とは同一の地質構造を示す。空知太附近の浅所には美唄層を期待しえない。高振夾炭層中には稼行しうる炭層はない。

備考 未発表

1948—14. 山形県最上炭田舟形地区調査

炭種 亜炭 面積 : 51.5 km² 精度 : 1/10,000
期間 昭和23年8月5日~10月18日 (75日間)
場所 山形県最上郡舟形村
調査者 地質 徳永重元 測量 原田盛夫 高田清
目的 最上炭田総合調査の一部として, 最も模式的に発達する舟形地区の地質調査をなし, 炭層の全般的分布状況をつかむ。木友炭鉱附近の炭層の対比および炭量を明らかにし開発に資する。
成果 舟形村附近各炭鉱の炭層の対比を明らかにした。地質構造上, 舟形村北方柴山附近の開発が有望。新庄市周辺は北方へ沈下する背斜構造上開発は無理。炭層の分布状況は舟形附近が最も厚く, 北および南, 東西にわたり薄くなる。炭質は木友7尺炭層が最良。炭量は概算587万屯
備考 昭和24年12月報告会にて発表

1948—15. 北海道空知郡石狩炭田空知地区歌志内区シヤクシナイ沢地域地質調査

炭種 瀝青炭 面積 : 5.5 km² 精度 : 精査
期間 昭和23年9月1日~11月20日 (81日間)
場所 北海道空知郡赤平町字住吉

調査者 地質 須貝貫二 細野実 久保泰輔 測図 小谷野長平 磯山功

目的 歌志内礦に隣接する 25 号鉱区の序層および炭層の賦存状況を明らかにし、企業化の基礎資料とする。

成果 本地域の東方において北西に走る歌志内断層があつて、この断層の西側には赤平含化石層、東側には夕張夾炭層の一部およびその上位の若鍋頁岩層までが分布する。稼行の対象としては東地域の南隅にわずかに露出する美唄夾炭層の調査が必要である。

備考 未発表

1948—16. 北海道宗谷郡天北炭田東部地区オンネナイ地域調査

炭種 瀝青炭 面積：15 km² 精度：概査

期間 昭和 23 年 9 月 11 日～9 月 20 日 (10 日間)

場所 北海道宗谷郡猿拂村上猿拂

調査者 地質 青柳信義

目的 九州鉱山所有鉱区内の地質調査ならびに炭層の確認

成果 白堊紀層は本地域の東南部において広く発達し、鬼志別層、宗谷夾炭層は北西部に発達する宗谷夾炭層は茂茅野北部地区に見られる向斜構造の東翼の一部であつて、4 炭層あり、走向 N 10°～45° E、傾斜 W 62°～82° を示す。4 炭層中の最下位の炭層は更に一背斜一向斜によつて繰返し露出し、この向斜の兩翼でそれぞれ 45° 内外東方あるいは西方へ傾斜する。4 炭層中稼行可能なものは 3 層であつて露頭から採取した試料の分析結果は

灰分 8.52% 水分 15.63% 揮発分 33.22%

固定炭素 42.63% 硫黄 0.24% 発熱量 4,900 cal

備考 未発表

1948—17. 岐阜県西濃炭田多良地区

炭種 亜炭 面積：14 km² 精度：1/10,000

期間 昭和 53 年 9 月 11 日～10 月 19 日 (39 日間)

場所 岐阜県養老郡多良村

調査者 地質 松本隆一

目的 亜炭の賦存状況および埋蔵量を明らかにする。

成果 現在稼行中の炭層は夾炭層の最下部小倉谷層中のものであつて、小さな谷状地形に堆積したと思われる所は弧で中央部は肥大 (3～4m) しているが局部的でほとんど稼行し盡くされている。今後は枚田川沖積地下部の炭層を目標にしなければならぬが、露頭はなく大西炭鉱が堂木谷と枚田川合流付近に堅坑を開鑿し、地表から 23m にて炭丈 1.1m の炭層に着炭した。本調査地区の炭量は 12 万屯である。

備考 未発表

1948—18. 山形県最上炭田大高根地区調査

炭種 亜炭 面積：18 km² 精度：1/5,000

期間 昭和 23 年 9 月 20 日～11 月 19 日 (61 日間)

場所 山形県北村山郡大高根村字大石、富並

調査者 地質 竹原平一 河野迪也 測量 宮沢茂紀 中村勳男 小川清

目的 本調査は最上炭田総合地質査の一環をなすもので、併わせて大高根山南方地区の層賦存状況および稼行可能炭層を明らかにする

成果 新第三系に属する夾炭層は所謂「綠色凝灰岩層」を不整合に覆つて東西に分布し、西部では火山岩層が第三系を被覆し北部では安山岩がその中に屹立して露出する。なお綠色凝灰岩層は南部に広く分布する。粗鬆砂岩層基底および綠色凝灰岩層の上には顕著な凝灰質砂礫岩が

角礫岩の鍵層があり、最上炭田の地質構造の解明に役立つものである。調査地区は最上炭田堆積盆地の周縁部のため炭質は悪い。炭層は山ノ内近傍で最も発達し、有望な稼行区域をなす。西部泥又川流域には松橋四尺炭の延長が露出するも炭質悪く企業化は困難と思われる。本地域の炭質、炭量、炭丈については大規模な稼行に耐えるものは見当たらないが、山ノ内地区の炭層は小規模稼行には有望と考えられる。

備考 未発表

1948—19. 北海道枝幸郡歌登村天北炭田東部地区保留選別地域調査

種目 亜炭および石灰岩 面積：10 km² 精度：概査
期間 昭和23年9月21日～9月30日（10日間）
場所 北海道枝幸郡歌登村字保留選別
調査者 地質 青柳信義
目的 拓北石灰株式会社は本地区岩屋沢に露出する石灰岩を同地方の酸性土壌の土質改良へ利用することを企画し、石灰岩の埋蔵量調査と併わせて本地区内各所に露頭のある亜炭の賦存状況を明らかにする。
成果 従来川端層と考えられた地層が広く発達し、日高系と思われる古い地層が本地域のほぼ中央岩屋沢附近にわずかにみられる。石灰岩は岩屋沢、岩屋附近に露出し東西約250m、南北約350mにわたって発達し地並上約490万屯を見込むことができる。亜炭は前記川端層中に賦存し、露頭は10余ヶ所にあるが薄層で膨縮多く稼行には耐えない。

備考 未発表

1948—20. 長崎県北松浦炭田南部地質調査

炭種 粘結炭 面積：140 km² 精度：概査
期間 昭和24年2月20日～3月31日（40日間）
場所 長崎県北松浦郡江迎、鹿町、小佐々、佐々、吉井、佐世保町
調査者 地質 沢田秀穂 佐藤茂 一杉武治 井上純夫
目的 北松浦炭田南部の概査を行い今後の精査の計画樹立の資とする
成果 1/25,000 地質図を作製。今後精査を行う場合には、北松浦炭田全般にわたる堆積状況を明らかにし特に本地区中央部佐々川断層附近の構造、層序および未開発部の多い相浦層より下位の炭層状況を調査する必要がある。
備考 昭和24年19月20日報告会にて発表。CEAC, 東京石炭地質研究会, 日本地質学会東京支部にて発表

1948—21. 高知県奈半利炭田調査

炭種 亜炭 面積：30 km² 精度：概査
期間 昭和24年2月27日～3月28日（30日間）
場所 高知県安芸郡奈半利町
調査者 地質 稻井信雄 河野迪也 本野義人
目的 安芸一奈半利一室戸にわたる海岸線を構成する中生層上に扇形状に分布する鮮新層中に賦存する亜炭の分布範囲、構造、炭質、炭量等を明らかにする
成果 本調査地域の鮮新層は西方から穴内、伊尾木、唐浜、北張、千福、奈半利および登の各地区に分かれて点在するが、亜炭層は鮮新層の比較的下部に存在し、穴内、奈半利、登の3地区にのみ発達している。奈半利地区には亜炭層が3層あるが、その中稼行に耐えるものは1層だけで、その上半分は木質亜炭、下半分は炭質亜炭であつて厚さは1.4m、挟みも少ない。走向北10°東、傾斜20°西、他地区には見るべき炭層はない。

備考 未発表

1948—22. 三重県十社炭礦試錐

炭種 亜炭 深度 : 59.00 m
期間 昭和 23 年 2 月 24 日 ~ 4 月 29 日 (66 日間)
場所 三重県員辨郡十社村字東貝野十社炭礦
調査者 柳原親孝 塚本由三
目的 亜炭鉦床調査
成果 現在探掘中の炭層の深部状況を明らかにした。炭層は極めて薄く 57.00m にて基盤に達した。

1948—23. 愛知県福壽地区亜炭鉦床試錐

炭種 亜炭 深度 : 1 号 60.50m 2 号 61.20m 3 号 60.00m
期間 昭和 23 年 7 月 9 日 ~ 10 月 3 日 (88 日間)
場所 愛知県東春日井郡篠岡村, 愛知県猪高村
調査地 地質およびコア鑑定 田中元之進 試錐 小島清
目的 亜炭鉦床調査
成果 第 1 号深度 60.50m 掘進するも亜炭層なし
第 2 号深度 51.00m ~ 51.70m に厚さ 70cm の亜炭層に着炭す
第 3 号深度 58.00m ~ 58.70m にて亜炭層に着炭

1948—24. 福島県常磐炭田矢郷炭鉦試錐

炭種 瀝青炭 深度 : 423.30m
期間 昭和 23 年 7 月 10 日 ~ 12 月 18 日 (162 日間)
場所 福島県石城郡渡辺村
調査者 杉本良平
目的 石炭鉦床調査
成果 深度 0m ~ 294.00m 砂岩, 頁岩互層
294.00m ~ 318.00m 砂岩, 礫岩
318.00m ~ 423.30m 砂岩, 頁岩互層
コアは現地にて保存

1948—25. 山形県鮭延炭鉦試錐

炭種 亜炭 深度 : 103.40m
期間 昭和 23 年 7 月 10 日 ~ 9 月 19 日 (72 日間)
場所 山形県最上郡舟形
調査者 鳥井敏男
目的 亜炭鉦床調査
成果 炭層に着炭せず。地質およびコア鑑定は仙台支所船山技官

1948—26. 島根県山陰炭鉦試錐

炭種 瀝青炭 深度 : 1 号 140.00m 2 号 82.30m
期間 昭和 23 年 8 月 20 日 ~ 11 月 15 日 (88 日間)
場所 島根県八東郡竹矢村字津田
調査者 小林竹雄 塚本由三 井田太治
目的 瀝青炭鉦床調査
成果 第 1 号深度 94.00m ~ 94.40m の間にて着炭
第 2 号深度 26.00m ~ 26.30, 38.50m ~ 39.20m の間にて着炭
地質およびコアの鑑定は石炭課松井寛技官

1948—27. 長崎県佐世保市日野 (3号) 試錐

炭種 粘結炭 深度 : 300m
期間 昭和23年9月10日～昭和24年1月25日 (138日間)
場所 長崎県佐世保市日野町
調査者 藤本満
目的 粘結炭鉱床調査
成果 深度3.50m～13.00mの間にて新田40尺層 (松浦群) に着炭
278.30m～279.70mの間にて新田5尺層 (松浦層群) に着炭
地質およびコア鑑定は福岡支所

1948—28. 山形県西田川郡由良試錐

炭種 瀝青炭 深度 : 101.20m
期間 昭和23年10月10日～12月4日 (56日間)
場所 山形県西田川郡豊浦村字多泊
調査者 三輪勝彦
目的 瀝青炭鉱床調査
成果 着炭せず。地質およびコア鑑定石炭課清水技官

1948—29. 北海道油谷芦別炭鉱試錐

炭種 瀝青炭 深度 1号 300.00m (24年度継続試錐) 2号 150.20m
期間 昭和23年11月9日～昭和24年2月4日 (88日間)
場所 北海道空知郡
調査者 炭鉱務課 櫻井
目的 地質調査 瀝青炭鉱床調査
成果 第1号 深度300mに至るも着炭せず。コア鑑定 技官 三田正一 須貝貫二
第2号 深度150.20m
49.80m～50.90m (1.10m)
115.10m～116.20m (1.10m)
118.00m～118.70m (0.70m) 着炭

1948—30. 福島県石城郡常盤試錐

炭種 瀝青炭 深度 : 351.52m
期間 昭和23年11月15日～昭和24年5月11日 (178日間)
場所 福島県石城郡渡辺村字藤原
調査者 綱代久雄
目的 瀝青炭鉱床調査
成果 着炭せず。地質およびコア鑑定 松井寛技官

1948—31. 長崎県西彼杵炭田大島地区南半部調査

炭種 粘結炭 面積 : 8km² 精度 : 精査 1/5,000
期間 昭和24年自2月20日至3月31日 (40日間)
場所 長崎県西彼杵郡大島町
調査者 地質 春城清之助 奥海靖 測量 浜本勝己 竹下速雄
目的 主として馬込断層以南の区域の地質構造を明らかにし深部炭層の賦存状況の調査
成果 断層が確認せられ地質構造が一層明らかとなり、特に塩田附近および中戸、野田附近の構造に修正が加えられた。坑内外の関係が明瞭となった。地質に関しては燃調=ユース26号を参照されたい。

石炭・亜炭（24年度）

1949—1 長崎県北松浦炭田炭質調査

炭種 粘結炭
期間 昭和24年4月2日～5月12日（40日間）
場所 長崎県北松浦郡鹿町
調査者 地質 松本隆一 久保恭輔
目的 北松浦炭田の石炭化度の水平的変化を調査するための試料採集をなし、同時に炭層の堆積状況を知るため上盤、下盤、および挟みの状態を明らかにする。
成果 石炭化度は鹿町附近を中心として放射状に外側へ向うほど低くなる。上盤は泥岩、砂岩の互層の部分と砂岩の部分とがあるので、その砂岩の分布を調査した結果、レンズ状に東北に長く延び、肥大部は西に片寄つていることが明らかとなつた。泥岩の部分はその間に帯状をなして、ほぼ同じ幅で東西に延び丁度三角洲と川の分布状態との関係を思わせる。砂岩を硫化水素で分解して粒度分析をした結果は、沖の三角洲型を示している。
備考 継続研究中

1949—2. 山形県最上炭田松橋・亀井田地区調査

炭種 亜炭 面積：48 km² 精度：1/10,000
期間 昭和24年6月22日～8月25日（65日間）
場所 山形県北村山郡亀井田村、最上郡堀内村
調査者 地質 徳永重元 河野迪也 採鋳 河内英幸 測量 宮沢芳紀 高田清 石川和正
目的 最上炭田総合調査の一部
大石田油田地区中の炭層の再調査。下部夾炭層の実態の把握
最上郡堀内村松橋附近炭層の分布状況の解明
成果 黒瀧断層および南北性の断層は非対称褶曲構造として解決できた。松橋地区には約2mの炭層が賦存する。各炭鋳の対比、特に大石田西方の炭鋳における層準を決定した。今後開発すべき地域は、最上郡松橋附近より東方である。
備考 未発表

1949—3. 福井県勝山炭田調査

炭種 粘結炭 面積：24 km² 精度：概査
期間 昭和24年6月22日～7月4日（13日間）……第一期
// 8月8日～8月24日（17日間）……第二期
場所 福井県大野郡北谷村
調査者 地質 稻井信雄
目的 北谷村附近に分布する上部ジュラ紀層に粘結炭の存在することは前から知られていたが、その炭質および賦存状況が不明であつたので全地質調査を行い今後の開発の指針とする
成果 当地区のジュラ紀層は砂岩、頁岩であるが、大日・取立・高倉山等に安山岩流に被覆され、わずかに瀧波川の本支流に沿う谷間に露出しているにすぎないが、このジュラ紀層が東地域の夾炭層で手取夾炭層に対比される。炭層は六呂師、木根橋に露頭を有しているものが稼行しうらと思われるが、ほかは薄層で稼行しうるかどうかは疑わしい。六呂師、木根橋間の埋蔵炭量は89万屯で、炭質は灰分が多いが粘結性があるために注目すべきである。
備考 未発表

1949—4. 山形県西田川炭田小波渡地区調査

炭種 瀝青炭 面積：16 km² 精度：精査

期 間 昭和 24 年 8 月 1 日～9 月 19 日 (50 日間)
場 所 山形県西田川郡豊浦村字小波渡
調査者 地質 清水勇 鈴木泰輔 測量 細井力雄 久保昌夫
目 的 西田川炭田において、泊と五十川の中間地域が複雑な地質構造である上、またその精密な調査を欠くため、油戸一泊間に分布する炭層とさらに南の温海町五十川附近で稼行している炭層とが同層位かどうか疑義があつたので、この間の地域を精査して炭層の分布を明らかにする
成 果 五十川の炭層は断層で切られながらも小波渡まで延びているが、小波渡附近では炭層が薄くて稼行に耐えない。油戸一泊間の炭層は豊浦村から山戸村に延びて分布し、五十川の炭層よりも下の層位であることが明らかとなつた。豊浦以南では炭層が薄くて稼行に耐えない。
備 考 未発表

1949—5. 北海道空知郡石狩炭田空知地区芦別町中の沢地域調査

炭 種 粘結炭 面積 : 12 km² 精度 : 1/5,000
期 間 昭和 24 年 8 月 15 日～11 月 20 日 (80 日間)
場 所 北海道空知郡芦別町字旭, 金剛
調査者 地質 三田正一 小島光夫 測量 橋本与太郎 大竹重吉 宇野沢昭
目 的 当地区は明治鋳業の現稼行区域の延長部に当るので、本地区の炭層の実態を把握すると共に附近一帯の地質構造を調べて、同区域の企業価値の判定をし、あわせて油谷地区 (昭和 22 年度精査) の隣接地等は「ふけ」先に該当するので、層序ならびに地質構造の概要を明らかにする。
成 果 本地区の中央に、辺湊川に沿う NW—EW 性の構造線 (芦別逆断層) があつて、その北側は油谷炭鋳を中心にほぼ南北の細長いドームの南半部に当り、下部石狩統と考えられる石炭沢夾炭層 (油谷炭鋳主要夾炭層) から辺美含化石層までが南へ 10° 内外のゆるい傾斜で累重する。芦別逆断層の北側地塊は崩れ沢夾炭層 (美明夾炭層に当る) 以下の夾炭層が比較的浅く存在する。(崩れ沢夾炭層の最上部まで推定平均 400m, 最深部で 650m)。本地区の辺美含化石層中には稼行可能な炭層はない。芦別逆断層の南側は可採炭層として芦別夾炭層上部に 4～5 層、幌内層基底部に相当する層準に 2～3 層あるが、複雑なるモザイク状に才断され、明治鋳業の延長先附近では大規模探炭に適さない。
備 考 未発表

1949—6. 石川県能登炭田町野地区調査

炭 種 亜炭 面積 : 1.0km² 精度 : 精査 1/10,000
期 間 昭和 24 年 9 月 14 日～10 月 23 日 (40 日間)
場 所 石川県鳳至郡町野町
調査者 地質 加藤信 長浜春夫
目 的 本地区の亜炭層の実態を把握すると共に附近一帯の地質構造を明らかにするため
成 果 1 亜炭層は東印内砂岩礫岩層の下部に近い 2—6 米の礫岩層の上部にあつて岩丈 0—6 米のレンズ状であること。
2 金山層が塚田泥岩に等比されることがわかつた。徒來走向東西南傾斜の単斜構造と考えられておつたが調査の結果、南翼 30～50°, 北翼 5～12° に傾斜せる略々東西の走向を示す背斜構造であることが判明した。
3 亜炭層は極めて浅く探炭しやすいが、運搬費 (町村—輪島駅まで 6 里半) 高く現情採算見込なし
備 考 未発表

1949-7. 新潟県赤谷炭鉱調査

炭種 瀝青炭 面積：18 km² 精度：1/5,000
期間 昭和24年8月15日～10月20日(67日間)
場所 新潟県北蒲原郡赤谷村
調査者 地質 松井寛 井上絢夫 採鉱 小松謙 測量 立花栄一
目的 赤谷炭礦は約100年前から小規模の採掘が行われていたが、炭層の賦存状況が判然としなかつたため将来性や採掘計画に不明確な点が多かつたのでこれらの諸点を明らかにする
成果 赤谷夾炭層は基盤岩(花崗岩)直上に、不規則な旧地形に沿うて厚さ50～120mの砂岩を主とする湖沼堆積物と思われるもので、調査地域の西部のみにみられ1～5枚の炭層を夾有する。本層の時代および対比については不明のため研究中である。採掘は往年より現在に至る間に170m(排水準)までは採掘されており80mまで賦存が予想されるので170～80mの各地区合計予想炭量は55万屯と概算される。深部炭層状態の実体を明らかにするため採掘と関連した坑内外の試錐位置数ヶ所を決定した。
備考 燃料調査=ユース第7号にて発表

1949-8. 北海道苫前炭田苫前地区羽幌区調査

炭種 瀝青炭 面積：15 km² 精査：1/5,000
期間 昭和24年8月15日～11月9日(87日間)
場所 北海道苫前郡苫前町、羽幌町
調査者 地質 青柳信義 一杉武治 測量 加々美時寛 長岡東洋男 小張孝
目的 いわゆる羽幌背斜の西翼に当る苫前地区における炭層の賦存状況ならびに地質調査
成果 本地域内に発達する地層は、中新世の古丹別層、策別層、羽幌夾炭層、原、沢層および白堊紀層であつて、各層は概して西方～20°内外傾斜する単斜構造を示し、いわゆる羽幌背斜の西翼をなすが、炭山沢の南方、旧坑ノ沢附近にも小背斜構造がある。炭山沢以北の炭層は1層で、山丈約1.2m、炭丈約0.8mあり、炭田方向へ約1.5kmは追跡可能である。旧坑ノ沢における小背斜構造附近では炭丈各0.8mの2層が認められる。
備考 未発表

1949-9. 長崎県北松浦炭田矢岳地区調査

炭種 粘結炭 面積：15 km² 精度：1/5,000
期間 昭和24年10月26日～12月24日(60日間)
場所 長崎県北松浦郡小佐々村字矢岳
調査者 地質 安原彰一 小西泰次郎 逆瀬川清丸 測量 石原二郎 土屋近造
目的 製鉄原料炭の産地である北松炭の総合調査の一環をなすもので、既調査の加勢地区に引続き南接する矢岳地区の調査を行い、粘結炭の賦存状況を明らかにすると共に粘結炭の成因に関する地史的考察のための基礎資料の探究。
成果 1/5,000地形図によつて地質調査を行い層序構造を研究して地質図、断面図、柱状図、地下等深線図炭量計算区画図、その他を作成し炭層の賦存状況を明らかにした。
備考 未発表

1949-10. 石川県能登半島石動山附近の亜炭調査

炭種 亜炭 面積：64km² 精度：準精査、概査
期間 昭和24年11月1日～11月27日(28日間)
場所 石川県能登郡越路町字石動山
調査者 地質 久保恭輔 鈴木泰輔 測図 河野辰男 分析 牧眞一
目的 能登総合開発委員会の地下資源調査の一環として当地区の亜炭の実態を明らかにする

成果 当地方に分布する亜炭は能登半島の主要亜炭田である三明および鈍打地区のものと同時代である。稼行中の富山県氷見郡八代村八代炭鉱が亜炭以外は小さなポケットで期待できないが地質条件から推察して稼行の対象となりうる炭層が伏在する可能性がある。将来 Prospecting method として比抵抗法による夾炭層下の基盤の状況を探るのが有効である。炭質は樹木の材を主とする輝炭に富み良好で灰分の少ない所は粘結性をもつていて、コーライト用炭として適している。

備考 25年度日本地質学会総会にて発表

1949-11. 長崎県西彼杵炭田大島地区北半部調査

炭種 粘結性 面積：15km² 精度：精査
期間 昭和24年11月7日～25年1月25日(71日間)
場所 長崎県西彼杵郡大島町
調査者 地質 春城清之助 奥海靖 測量 23年福岡支所
目的 当地区は松島炭鉱によって地質調査がなされていたが要塞地帯であつた関係上、十分な成果が期し得なかつたので、24年春の同地区南半部の地質調査に引続き未開発の北半部の調査をなす。
成果 調査の結果特に区域の北半部に幾明修正すべき事実が判明した。すなわち炭田の基盤は花崗岩でこれを不整合に赤崎層さらに漸移的に寺島層群が覆う。寺島層群中には炭層が存在するが稼行に耐えない。松島層群(上部は夾炭層)および西彼杵層群は明瞭な傾斜不整合をもつて累重し、概して北北東-南南西の走向をもち西方に13°~16°の傾斜をもつた単斜構造をなす黒瀨層群は午ヶ首断層の北側にわずかに露出し、玄武岩がこれを貫いて噴出しいる。断層はほぼ東西ないし北西-南東に走り一般に北落ちてあつて、その落差は東に大で西に向つて小となる特徴がある。稼行炭層は崎戸夾炭層中に3層あつて、炭量は約6,500万吨(海水準下600mまで)。炭質は粘結性瀝青炭であるが、硫黄分の多い欠点がある。本地区の炭層は炭質、炭量からみて開発は未だ初期のものであるから前途は有望である。
備考 燃料調査=ニュース 26号にて発表

1949-12. 福島県常磐炭田石森山地区調査

炭種 瀝青炭 面積：32km² 精度 1/10,000
期間 昭和25年3月12日～3月31日(20日間)
場所 福島県双葉郡
調査者 地質 松井寛 佐藤茂 測量 佐藤純三 福吉長雄
目的 1/10,000 図幅調査
成果 常磐炭田は単斜構造とされていたのに反し向斜構造をなしているのので、今まで全然注目しなかつた。平原下200mに夾炭層が分布し、これが開発されれば月産1000トン前後の炭鉱となりうる。石森山集塊岩の噴出は、従来の定説と異つて亀の尾頁岩層に整合である。

1949-13. 長崎県北松浦炭田白ノ浦地区調査

炭種 粘結炭 面積：7.5km² 精度：1/5,000
期間 昭和24年2月20日～3月31日(40日間)
場所 長崎県北松浦郡小佐々村
調査者 地質 松本隆一 沢田秀穂 久保恭輔 長浜春夫 岡田健次 測量 橋本与太郎 佐藤優 磯山功
目的 北松浦炭田の地質構造および層序を明らかにする
成果 いわゆる「モエズ」層以下200m+の層序を連続する露頭によつて明らかにした。佐々川断層の南西延長は白ノ浦の海灣中を南北に走ることが確実となつた。下櫻木島-高崎山-トノ

コ島を結ぶ三角地帯と黒石新田附近には、九大松下教授の「杵島層群」に対比せられると考
えられる地層の露出がある。

備考 未発表

1949-14. 福岡県筑豊炭田忠隅鉱業所地震探査予定地予察調査

炭種 瀝青炭 面積 15km²
期間 昭和25年3月11日～3月31日(21日間)
場所 福岡県嘉穂郡徳波村
調査者 地質 春城清之助
目的 物理探鉱(地震)施行のための予察的地質調査
成果 忠隅炭鉱には鉱層のフケ先に大断層があつて基盤の花崗岩に接するため、それより先には夾
炭層が賦存しないと考えられる。位置は隣接の飯塚炭坑内函等から推して、小断層の位置
であつて前述の大断層はさらに東方へ走るものと推定され、兩断層間にはさまれた区域には
200万屯の可採炭量が計上される。予定地の大部分は沖積平原であつて、附近の地形、地質
および坑内状況から考えると、物理施行の処置は妥当適切である。

備考 未発表

1949-15. 熊本県天草炭田調査

炭種 無煙炭 面積: 100Km² 精度: 概査
期間 昭和25年3月12日～3月31日(20日間)
場所 熊本県天草郡牛深町, 志岐, 都呂々, 坂瀬川, 町田, 魚貫村
調査者 地質 奥海靖 探鉱 小松謙
目的 コークスの製造には粘結炭の配合炭としてカロリーの高い無煙炭を必要とし、鴻基炭の輸入
なき今日、天草炭田の無煙炭(綺羅炭)が重要視されてきたので、地質調査所としては25年
度から本炭田開発の前提として地質調査を実施するに当りその調査地選定を目的としての概
査を実施した。
成果 1/5,000 地質図の作製
綺羅炭、瓦炭の成因および試料分析によつて各地区の炭質の比較を明らかにした。なお各
地区の開発に当つては次のことについて考慮すべきである。
志岐地区……地質構造の究明
魚貫、茂串地区……現稼行炭鉱の主要炭層の対比
坂瀬川、大岳地区及び和久登、涼松地区……地質構造の究明
牛深地区……海底稼行に備えて海底物理探鉱の施行

備考 未発表

1949-16. 山口県大嶺炭田調査

炭種 無煙炭 面積: 30Km² 精度: 概査
期間 昭和25年3月12日～3月31日(20日間)
場所 山口県豊浦郡西市町, 豊田前, 豊東村
調査者 地質 河野迪也(井上, 小島)
目的 本地区には露出していない大嶺主要夾炭層のフケ先および既稼行炭鉱の炭層賦存状況を明ら
かにする
成果 美禰統は西方への単斜構造を示し当地区には最上部の麻生層のみが露出し、主要夾炭層(排
ノ木層)は地下少なくとも500m以下にあるため稼行に困難である。麻生層中の稼行炭層は
炭丈薄く、連続性にも欠けるので経済的価値は少ないと考える。

備考 未発表

1949—17. 北海道空知郡奈井江試錐

炭種 瀝青炭 深度：1号 100.50m 2号 200.70m (等別礦業所請負)
 期間 昭和24年9月21日～10月19日 (29日間)
 場所 北海道空知郡奈井江村, 等別礦業所奈井江礦区内
 調査者 山田豊
 目的 瀝青炭鉦床調査
 成果 第1号 深度 56.00m～64.00m, 66.00m～69.00m の間にて着炭
 地質およびコア鑑定は齋藤林次および沢田秀穂兩技官
 第2号 深度 36.00m～39.00m間にて着炭す

1949—18. 長崎県北松浦郡新厨試錐

炭種 粘結炭 深度：302.63m
 期間 昭和24年8月1日～11月29日 (20日間)
 場所 長崎県北松浦郡新厨町字寺の尾
 調査者 藤本満
 目的 地質および粘結炭鉦床調査
 成果 北松浦層群の福井1枚層を掘進し 212.15m～214.90m の間に炭丈30cmのもの2層に着炭。
 237.00m～276.00m の間に石炭薄層4層あるも厚さ20cm程度にて稼行価値は少ない。
 コア鑑定は福岡支所

1949—19. 北海道油谷芦別炭鉦一号試錐

炭種 瀝青炭
 期間 昭和23年11月9日～昭和24年2月4日 (88日間)
 場所 北海道空知郡芦別町油谷地区鏡沢
 調査者 地質 三田正一 小島光夫 ヤマトボーリング
 目的 当地域は極めて緩傾斜で、しかも各々異つた夾炭層の発達した断層地塊であるため、これら相互の関係を明らかにし特に油谷芦別炭鉦の現稼行炭層より下位の夾炭層 (夕張, 登川夾炭層に相当する) の確認および当地域の地質構造 (石狩盆地地東縁部の堆積状態) 等の解析の資料をうるため。
 成果 油谷炭鉦の主要稼行炭層 (石炭沢夾炭層に含まれる) は石狩統の若鍋夾炭層と夕張夾炭層の一部に該当し、夕張夾炭層に当る鏡沢夾炭層には稼行炭層、炭層は認められない。幌加別頁岩と登川夾炭層に相当する地層はそれぞれ約50m位で、当地域においては可採可能炭層とは思われない。なお深度約220mで基磐層 (函淵砂岩約50mと考えられる) に逢着し以下上部菊石層に当る地層が発達している。
 備考 未発表

1949—20. 北海道古宇郡茅沼試錐

炭種 粘結炭 深度：400.50m
 期間 昭和24年4月20日～10月10日 (174日間)
 場所 北海道古宇郡泊村
 調査者 丸山磯吉
 目的 粘結炭鉦床調査
 成果 深度 1 m～305.50m……礫岩
 305.50m～370.00m……頁岩
 370.00m～400.00m……砂岩, 頁岩互層 }にて着炭せず。
 地質およびコア鑑定 齋藤林次

石油・天然ガス(23年度)

1948-1. 富山県上新川郡笹津地区地質調査

種目 石油 面積：60km² 精度：概査
(經常費 PEAC)
期間 昭和23年6月25日～8月31日(68日間)
場所 富山県上新川郡大沢野町字笹津
調査者 地質 小野映 牧野登喜男
目的 富山第三系の層序並びに構造調査
成果 当地区内には石油胚胎の見込は薄い。なお調査は富山県総合地質調査の一環となす。
備考 未発表

1948-2. 富山県上滝地区地質調査

種目 石油 面積：60 km² 精度：概査
期間 昭和23年
場所 富山県中新川郡常願寺川北岸
調査者 地質 伊田一善 安国昇
目的 富山第三系の層序ならびに構造調査
成果 当地区内には石油胚胎の見込は薄い。なお本調査は富山県総合地質調査の一環をなす
備考 未発表

1948-3. 三重県木曾崎村の天然ガス並びに岐阜県下多度ガス調査

種目 天然ガス 面積：25 km² 精度：準概査
期間 昭和23年7月
場所 三重県桑名郡木曾崎村 岐阜県養老下多度村
調査者 地質 篠山昌市
目的 天然ガス鉱床存在の有無
成果 木曾崎村 ガス層と称される砂礫層は木曾川三角洲の堆積をなし、ガスは第四紀のもので木曾川、揖斐川の伏流に確認されるがガス鉱床としては望めない
下多度(東海メタン)第四紀のガスで80m³/dayであるが、坑井仕上、埋藏量の点で企業価値は薄いと考えられる
備考 未発表

1948-4. 北海道天塩國中川油田北部地質調査

種目 石油 面積：80 km² 精度：1/5,000 及び 1/50,000
期間 昭和23年7月3日～9月3日(62日間)
場所 北海道天塩國中川郡中川村佐久附近
調査者 地質 折島信五郎 品田芳二郎 測量 河野 西村
目的 北海道北部における白堊紀層の標準柱状図を作り、この附近の石油ならびに川口油田の深堀りの可能性を調査する
成果 本地域は極めて構造複雑にして柱状図作製には困難をきたしたが、一部の欠除をのぞいて1/5,000柱状図を作り得た。本地区は油微地もあるが、地層さく乱のため大きな油田としては望めない。川口油田は深堀りをしてみる必要がある
備考 24年3月 報告会にて発表

1948—5. 福井県九頭龍川北岸地質概査

“ “ 沿岸天然ガス調査

種目 天然ガス 面積：280 km² 精度：概査
期間 昭和23年10月3日～10月10日（8日間）
場所 福井県坂井郡金津町
調査者 地質 本島公司
目的 天然ガス鉞床調査
成果 第四紀ガスを面積の割合にガス量が大きい。推定可採埋藏量 62 万m³
備考 速報 86号（九頭龍川北岸地質）にて発表。速報 82号（九頭龍川沿岸ガス）にて発表

1948—6. 福井県三方郡八村天然ガス調査

種目 天然ガス 面積：20 km² 精度：概査
期間 昭和23年10月11日～10月15日（5日間）
場所 福井県三方郡八村
調査者 地質 本島公司
目的 天然ガス鉞床調査
成果 第四紀のガスを推定可採埋藏量 100 万 m³。鳥浜附近へ試錐すべきである
備考 速報 81号にて発表

1948—7. 千葉県茂原町附近の天然ガス

種目 天然ガス 面積：200 km² 精度：精査
期間 昭和23年10月から40日間
場所 千葉県長生郡茂原町から夷隅郡夷隅川に至る地域
調査者 地質 金原均二 大山桂 小野暎 伊田一善 本島公司 石和田靖章 品田芳二郎
牧野登喜男 三梨昂 安国昇 測量 加々美時寛 外 14名
目的 天然ガス鉞床の多角的実地調査
成果 調査の結果（イ）ガス賦存と岩相との関係、（ロ）断層と地塊の状態ならびにガス徴とその分布との相互関係、（ハ）岩相と小型大型化石による堆積環境の関係、（ニ）ガス徴と坑井産ガス状況の関係、（ホ）ガス産量と水量との関係、（ヘ）埋藏量等について広大な本ガス田の全貌を明らかにし、今後のガス田開発の指針を与えた結果ガス産量が上昇した。なお本調査は日本の天然ガス鉞床の重要な一基礎資料となつた。
備考 石油技術協会誌 第14巻6号に発表

1948—8. 静岡県清水附近天然ガス地化学探鉞調査

種目 天然ガス
期間 昭和23年11月10日～12月24日（45日間）
場所 静岡県志太郡高部、飯田町
調査者 藤原健一 下河原達哉 高田康秀
目的 天然ガス鉞床の所在を探知しこの鉞床の主ガス層たる田代冲上帯を追跡する
成果 衝上帯の延長方向を明らかにし、ガス徴分布図を作製して開発の指針とした
備考 報告会にて発表（24年）

1948—9. 新潟県中頸城郡寺野村附近の地質

種目 石油 面積：45 km² 精度：概査
期間 昭和23年9月初旬～10月中旬
場所 新潟県中頸城郡寺野村
調査者 地質 石和田靖章 三梨昂

目的 牧油田と富倉油田との間の空白を埋め油田の層序および地質構造上の関係を明らかにする
成果 牧油田から本地域を経て富倉油田に至るまでの各地層の堆積環境には本質的な変化があると
は考えられない。富倉複背斜は余りに複雑なる構造のため貯油には不適当かもしれないが、
西方のゆるい構造は将来物探、試錐等を試みる価値がある。
備考 未発表

1948—10. 新潟県北蒲原郡東南部周縁の地質調査

種目 石油 面積：90 km² 精度：概査
期間 昭和 23 年 7 月初旬～8 月下旬
場所 新潟県北蒲原郡笹岡村
調査者 地質 石和田靖章 三梨昂
目的 新発田・加治油田南部隣接地周縁の地質を明らかにする
成果 集田構造としての背斜はない
備考 未発表

1948—11. 新潟県塩沢町附近の地質

種目 石油 面積：80 km² 精度：概査
期間 昭和 23 年 7 月 16 日～9 月 13 日 (60 日間)
場所 新潟県南魚沼郡五日町村
調査者 地質 金原均二 (大山桂)
目的 油田第三系下部の層序並びに構造を明らかにする
成果 石油胚胎の見込は少ない。魚野川に沿う構造線を知る
備考 未発表

1948—12. 八石油田の古生物学的研究

種目 石油 精度：概査
期間 昭和 23 年 9 月 25 日～10 月 20 日 (26 日間)
場所 新潟県三島郡
調査者 地質 金原均二 大山桂
目的 帝国石油の小型古生物研究と並行して大型古生物の層序学的研究
成果 有孔虫化石分帯との関係を明らかにし、将来野外調査の場合の基礎資料を得た
備考 学会にて発表

1948—13. 静岡県志太郡天然ガス他化学探鉱調査

種目 天然ガス
期間 昭和 23 年 5 月 5 日～5 月 24 日 (20 日間)
場所 静岡県志太郡東益津村
調査者 地質 下河原達哉 測量 田村喜志
目的 天然ガス鉱床の探知
成果 断層に由来すると思われるガス微分布および地下法探査の将来性を認めることができた
備考 速報 73 号にて発表、報告会 (23 年) に発表

1948—14. 長野図幅 (1/75,000) の古生物調査

種目 古生物
期間 昭和 23 年 9 月 24 日～10 月 3 日 (10 日間)
場所 長野県長野市附近
調査者 大山桂 (小林勇)

目的 1/75,000 長野図幅の古生物調査
成果 長野市の西方および西南方では大体中～強内湾性の化石群集をみることができ、一地点は弱内湾性であった。戸懸炭坑附近には概して弱～中外洋性及び中～強内湾性が見られる。
詳細は研究中
備考 未発表

1948—15. 新潟県岩船郡岩船試錐

種目 天然ガス 深度：1号 118.10m 2号 139.50m
期間 昭和23年5月25日～9月4日(103日間)
場所 新潟県岩船郡岩船町字八日市
調査者 藤倉孝次 後藤進 岡田博
目的 天然ガス鉱床調査, 地質調査
成果 第1号地質調査用 第2号 ガス採取および地質調査用
ガス層 深度 91.00m～98.00m, 116.00～124.00 の2層あり
1日 500 立方メートルのガス湧出あり
備考 未発表

石油・天然ガス(24年度)

1949—1. 静岡県榛原郡勝間田村附近石油地化学探査

種目
期間 昭和24年2月1日～3月29日(57日間)
場所 静岡県榛原郡勝間田村
調査者 地質 藤原健一 本島公司 下河原達哉 高田康秀 測量 細井力雄 分析 島田信雄
目的 本地域における出油の可能性の有無を明らかにする
成果 出油の可能性は薄きも未だ明確なる結論に達せず
備考 未発表

1949—2. 大阪市附近天然ガス地化学探査

種目 天然ガス
期間 昭和24年5月～6月(40日間)
場所 大阪市
調査者 下河原達哉 高田康秀
目的 大阪出張所と協力し携帯用天然ガス探鉱器によるガス鉱床の所在探知
成果 天然ガス産出可能地域を識別し得た
備考 24年告会および速報97号にて発表

1949—3. 新潟県南蒲原東部地質構造

種目 石油 精度：精査
期間 昭和24年5月23日～7月31日(70日間)
場所 新潟県南蒲原郡森町村, 鹿崎村
調査者 地質 伊田一善 石和田靖章 品田芳二郎 三梨島
目的 越後第三系の標式的露出地附近において層序を確立する
成果 本調査地内においては特に石油開発を期待できる地域はないが、いわゆる七谷層の性格が明らかとなり含油第三系の東方延長の——特にその下部の層序を解明し、また幾つかの特殊褶曲構造の存在を認めた。
備考 未発表

1949—4. 新潟県西山油田古生物調査

種目 石油 精度：概査
期間 昭和 24 年 5 月 23 日～6 月 30 日 (39 日間)
場所 新潟県三島郡
調査者 地質 金原均二 大山桂 小野暎 石和田靖章 安国昇
目的 主として灰爪——和南洋層中の化石“帯”の調査
成果 西山層と灰爪層との海底浸蝕不整合を確認し、いわゆる“夏川”の化石群帯の性質を究明した。この化石群に対し Pecten-Brachyopoda 化石群の名を与え、これが特殊の海洋条件下のものとして推定する。
備考 大形化石の生物群については石油技術協会誌 15 卷, 1, 2 号 金原均二 “新潟油田の地質”にて発表

1949—5. 北海道天塩国古丹別川流域の白堊系岩相調査

種目 石油 面積：60 km² 精度：準精査
期間 昭和 24 年 7 月 5 日～9 月 22 日 (80 日間)
場所 北海道苫前郡, 雨龍郡
調査者 地質 島田忠夫 牧野登喜男
目的 油徴調査に併わせて白堊紀の岩相調査をなし将来試錐実施の資とする。
成果 1/10,000 地質図及び 1/5,000 の柱状岩相図を作製
備考 24 年 12 月 PEAC にて中間報告済

1949—6. 三重県木曾川下流の天然ガス

種目 天然ガス 精度：概査
期間 昭和 25 年 9 月 29 日～10 月 8 日 (10 日間)
場所 三重県桑名郡伊曾島村, 愛知県海部 蟹江町, 岐阜県養老郡下多度村
調査者 地質 本島公司 石山尙珍
目的 名古屋市附近に存在する天然ガス鉱床の規模調査
成果 三重・愛知県地区 (名古屋市, 桑名市間の地区) 木曾川・長良川の三角地帯で、ガスは灌漑用井戸から湧出し第四紀のものである。平均一坑から 30 m³/d のガスを産り、深度 120～150m 前後の礫層が最も多くのガスを含む。当地区には天然ガスは存在するのであるが、飲料水井と灌漑用井の水位の低下、地盤沈下、排水等の問題があるため現在早急の開発は困難である。
岐阜県地区 (桑名市の北北西約 20 km の地区) 沖積層中のガスであつて、上総掘にて 2 吋, 130m の竹管を降ろしたもので、0.17m³/d のガスと 0.2m³/d の水とを自噴する。かつての東海メタン会社が企業していたが、廃業した原因は大口径井におけるガスリストの実施をしなかつたことと、排水の困難さからである。
備考 燃料 = ニュース 3 号にて発表

1949—7. 石川県下の天然ガス

種目 天然ガス 面積：100km² 精度：概査
期間 昭和 24 年 10 月 3 日～11 月 7 日 (40 日間)
場所 石川県河北郡河北潟周辺, 羽咋郡邑知潟周辺, 鹿島郡南大谷村
調査者 地質 小野暎 安国昇
目的 石川県下のガス鉱床の実体調査
成果 河北潟の天然ガスは企業の対象とすることができると見られる。なお気水、内湾性鉱床の調査には、水の地化学探鉱を応用すべき有用性を認めた

備考 石油技術協会誌 15 卷 1 号にて発表。石川県庁から調査報告書を発行

1949—8. 新潟県西頸城郡能生谷村石油徴候地調査

種目 石油 精度：概査
期間 昭和 24 年 11 月 18 日～11 月 23 日 (6 日間)
場所 新潟県西頸城郡能生谷村
調査者 地質 金原均二 石和田靖章
目的 当地域の石油徴候を調査し、探鉱または企業化の価値の有無を判定する
成果 “Igneous Trap” に属する集油・集ガス構造のように考えられ、大規模の開発・調査には
値しないが、小規模の採油事業なら可能であろう。
備考 石油技術協会誌 15 卷 2 号にて発表

1949—9. 島根県下の天然ガス

種目 天然ガス 精度：精査
期間 昭和 25 年 3 月 1 日～3 月 28 日 (28 日間)
場所 島根県簸川郡平田村、久木村、島根県出雲市
調査者 地質 本島公司 品田芳二郎 物探 下河原達哉 島田信位
目的 簸川平野の天然ガスについて、その賦存状況および開発の適否を明らかにするための地化学
探鉱実施
成果 ガス鉱床は沖積層中であつて、試錐による探鉱は排水容易な尖道湖畔の調査結果を待つて、
久木——出東、灘分村出来洲附近に対して行うのが望ましい。出雲地区は 70 m 以深のガス
層を稼行対象として調査すべきである。久木——出東地区の深度 40～70 m に対する予定飽
和埋蔵量は面積 5.5 km² 内に約 1,000 万 m³ が算出される。
備考 未発表

1949—10. 静岡天然ガス試錐

種目 天然ガス 深度：254.85m
期間 昭和 24 年 1 月 25 日～3 月 11 日 (42 日間)
場所 静岡県清水市入江町字追分
調査者 金牧留吉
目的 天然ガス鉱床および地質調査
成果 有望なるガス層なし。地質およびコア鑑定 石油課 本島技官
備考 未発表

1949—11. 大阪天然ガス試錐

種目 天然ガス 深度：1 号 108.00 m 2 号 204.00 m
期間 昭和 24 年 5 月 23 日～10 月 21 日 (152 日間)
場所 大阪市境町
調査者 野口勝 小林竹雄 井田太治
目的 天然ガス鉱床および地質調査
成果 第 1 号 深度 33m～40m, 51m～57.50m, 68m～70.50m, 88m～91.50m の砂礫層から
ガスの湧出あり
第 2 号 深度 41m～43.50m, 48m～57m, 93m～100m の三層からガスの湧出あり
125m～135m および 163m～172m にも砂礫層あり
地質およびコア鑑定は大阪支所
備考 未発表

物理探鉱部 成果年次報告

事業概要 (昭和21年～24年度)

物理探鉱部長 飯田 波 事

物理探鉱部はその事業として、電気・磁気・重力・地震・放射能・地温および地化学の各種探鉱法により金属および非金属・石炭・石油および天然ガス等の各種の鉱床調査ならびに地下水・土木工学関係の地質調査を実施するとともに各種探鉱器の整備・改良・研究ならびに各種探鉱法に関する理論的実験的研究と技術指導を行い幾多の成果を挙げてきた。

終戦後より昭和24年度までの物理探鉱事業の概要を一括して以下に述べようと思うが、まず物理探鉱部の機構の変遷についてその概略を述べておきたい。すなわち当部は昭和15年以來地質調査所第四部として活動してきたが、昭和21年6月機構の改正により第3部第1課となり、第2課として試錐業務が分離設置されるに至つた。昭和23年8月機構の改正とともに試錐課が分離独立し、第3部の主体が物理探鉱部となり、地震重力課と電磁気課が設置され、続いて昭和24年8月機構の改正が行われ、部内が探査課と試験研究課との2課となり現在に至つている。このような機構のもとにおいて実施した終戦後の調査事業の概要は一括して年度毎に別表に示したが、これらの調査成果の詳細は本所刊行物に逐次発表されつつあるので一々の結果はここには述べない。また研究については本所の報告書として逐次刊行される予定であるが、一部は既に学界等において公表されたものもある。また調査地は附図に示したが、記号により別表と対照して示してある。

調査の箇所数・対象・方法等を年度別に示すと第1表および第2表のようになる。

第1表 調査箇所数

種 別	昭和21年	昭和22年	昭和23年	昭和24年	計
金属及び非金属鉱床	—	11	7	10	28
油	—	4	4	5	13
ガス	—	1	3	5	9
炭	2	5	8	3	18
地下水	—	1	1	—	2
その他	—	—	—	1	1
計	2	22	23	24	71

第2表 対象別による各種探鉱方法の年度件数表

種 別	探鉱法	21年度	22年度	23年度	24年度	計	種 別	探鉱法	21年度	22年度	23年度	24年度	計
金属	電気		11	7	9	27	金属および非金属	重力					
および	磁気			3	2	5		放射能				1	1
非金属	地震		1		1	2		地化学					

種 別	探鉱法	21年度	22年度	23年度	24年度	計	種 別	探鉱法	21年度	22年度	23年度	24年度	計	
石 油 及び天 然ガス	電 気						そ の 他	電 気		1	1		2	
	磁 気							磁 気						
	地 震		1	1	3	5		地 震						
	重 力		2	1	2	5		重 力				1		1
	放射能			2	2	4		放射能						
	地化学		2	3	3	8	地化学							
石 炭 及 び 亜 炭	電 気		2	3		5	計	電 気		14	11	9	34	
	磁 気							磁 気			3	2	5	
	地 震	2	3	5	3	13		地 震	2	5	6	7	20	
	重 力							重 力		2	1	3	6	
	放射能							放射能				2	3	5
	地化学						地化学		2	3	3	8		
							総 計		2	23	26	27	78	

終戦直後は戦災を蒙つた探鉱器の補修、各地に分散せる探鉱器、調査資料の集蒐、整備等に多くの日時を要し、調査研究の実施はほとんど不能の状態にあつた。しかしながら産業界の復旧の気運が増大するにつれて逐次調査の要望も多くなり、殊に石炭の増産に対応する調査、石油資源の開発促進に資する調査、新鉱床開発の調査等各方面にわたり、わが国産業経済の回復発展に資する調査の実施が年々多くなつてきている。

金属および非金属鉱床の物理探鉱調査は電気・磁気・地震または放射能探鉱により実施して著しい幾多の成果を収めてきた。特に音調津鉱山・千野谷鉱山等の黒鉛鉱床・妙法鉱山・花岡鉱山・相内鉱山・大揚鉱山・越路鉱山等の銅・硫化鉄、または黒鉄鉱床・蔵王鉱山の硫黄鉱床等の調査において新鉱体を発見し、鉱床の開発に大いに寄与し得たほか、他鉱山においても鉱床賦存可能の幾多の示徴を得て今後の開発の指針とすることができた。因みに昭和 24 年度の調査においては調査後試錐または探鉱坑道により新鉱体を確認し得たものは調査件数の 60 パーセント余に達し、しかも今後の探鉱によりこの比率はさらに増大する可能性がある。

炭田の調査は主として地震探鉱により行われたが、亜炭田の調査には電気探鉱が若干行われた。陸上においては反射地震探鉱器による調査を始めて実施し、炭田構造の究明に大いに役立て、その方面の利用範囲を拡大した。海上においては海上地震探鉱法の研究と相俟つて大いにその成果を發揮し、海底炭田開発の有力な指針となし得た。海上地震探鉱法の研究は専ら調査能率と調査精度との向上に注がれ、浮游移動法の採用により調査能率を倍加させ、また水中音波測定器の併用を実施して調査の精度を十分に高め得た。電気探鉱を亜炭田の構造調査に活用したほか、坑井内における調査をも実施してその適応性を明らかにした。なお炭田物理探鉱調査に関する総括的研究により、物理探鉱の利用の範囲・調査方法の適応性等を明らかにした。

油田においては主として重力および地震探鉱調査を実施し、ガス田においては放射能および地化学探鉱調査を実施して、それぞれ開発促進上大いに役立て得た。重力および地震探鉱は輸入器械の

導入により著しく調査能率を挙げ、かつ調査成果を増大して、地下構造を明らかにし、試掘井の選定に有効ならしめ得た。なお油田およびガス田の調査にラドン計およびガイガー計数管による放射能探鉱法を実施してその利用性を明らかにしたほか、ガス田坑井内における電気および地温の物理探鉱法を研究してガス層の補足究明に有効ならしめた。

油田およびガス田における地化学探鉱法の研究は大いに発展し、油田においては探鉱調査の能率を従来の2倍に増加させ得たし、ガス田においては地下水中に溶存しているガスの分布を考究する地下水法を新に考察してその有効性を明らかにするとともに、水中メタン量を現場で迅速簡単に定量しうる携帯用小型の器械を案出試作し、地下水ガス調査法を直接地層水に應用してガス鉱床の考察に大いに役立て得た。なおこの地下水法にガスおよび水質分析を多く加味して有効な調査結果をも得ている。

地下水の調査には電気探鉱法を活用してその適応性を明らかにし、また災害地地質調査の一環として今市地震後の重力測定を実施し、重力変化を確認したが、地震による重力測定はわが国始めて実施されたもので、地球物理学・地震学上にも大いに貢献し得た。

室内における試験研究として実施した幾多の成果は既に公表してきたが、まず戦後は実験室の修復より始まり、電気・磁気・地震・重力・放射能・地化学等各種の物理探鉱施設の整備拡充、探鉱器の改良、各種探鉱法に関する研究を実施してきた。地震探鉱器のうち海上調査用のものは海上という特殊性を考慮して特に設計して製作されたし、また従来の6成分電気式屈折用地震計が8成分に改良され記録の精度を向上した。一方探鉱器の小型化や反射式地震探鉱器の研究等を行いつつある。電気探鉱器は地質調査所型を完成し、自然電位法、比抵抗法を同一装置で切換により測定できるよう改良製作し実用化している。磁力計の研究を新に行つており、その製作の実現化を急ぎつつある。また地温探鉱では電氣的測温計を完備したし、放射能探鉱器はラドン計、ガイガーミューラー計数管、およびローリツツエン型、IM型等の泉効計など各種を整備し、それらの探鉱への利用性に関する研究を行つている。地化学探鉱器は従来のものが一段と改良されたほか、前述のような携帯用小型器械が考案され実用化している。

昭和24年には最新型でしかも高性能の地震および重力探鉱器が各1式ずつアメリカより輸入された。地震探鉱器はサイスモグラフ・サービス会社製のS.S.C型12成分反射式探鉱用地震計であり、重力探鉱器はノースアメリカン物理探鉱会社製の直読式のバネ式静的重力計で感度は0.01mg/lである。これらの器械の輸入により探鉱能力を著しく増大したが、さらにまたわが国の物理探鉱の進歩発展にも大いに寄与し得ている。

実験室用試験計器は戦災によりその大部分を失つた結果、実験室の設備は不足し試験研究に支障を來している現状にかんがみ、極力その補充に力めつつあるが、未だに戦前の域には達しない状態である。このような乏しい計器の状態ながら岩石の磁性、弾性等の物理性に関する研究や各種探鉱法に関する基礎的研究を進めている。すなわち放射能探鉱の適応性に関する研究や石油およびガス鉱床の地化学探鉱法の研究、地震探鉱および電気・磁気・探鉱法等に関する理論的、実験的研究を行い、またこれらを实地に應用して各種鉱床の探査法の確立に向つて努力している。

(1946年度)

種 別	調 査 地	担 当 者	方 法	備 考
石 炭	福島県石城郡小名浜町附近(石城炭田)	栗原 重利 他5名	地 震	
〃	〃 上遠野村附近(石城炭田)	金子 徹一 他4名	〃	

(1947年度)

種 別	調 査 地	担 当 者	方 法	備 考
金・重石・鉛	岩手県気仙郡矢作村(太子鉱山)	佐藤光之助 金子 純 他2名	電 気	
黒 鉛	〃 和賀郡湯田村(土畑鉱山)	室住 正義 金井 光明 〃	〃	
黒 鉛	〃 気仙郡世田米町(天風鉱山)	佐藤光之助 金子 純 〃	〃	
〃	〃 〃 〃 (竹ノ原鉱山)	〃 〃 〃	〃	
含金石英脈	〃 〃 立根村(日向鉱山)	〃 〃 〃	〃	
黒 鉛	秋田県鹿角郡七瀧村(鉛山鉱山)	室住 正義 金井 光明 〃	〃	
銅	和歌山県東牟婁郡色川村(妙法鉱山)	九里 尙一 他1名	〃	
黒 鉛	北海道後志国岩内郡小沢村(国富鉱山)	加來 一郎 〃	〃	
〃	秋田県鹿角郡小坂町(相内鉱山)	飯田 波事 金井 光明 他2名	〃	
〃	〃 北秋田郡花岡町(花岡鉱山)	佐藤光之助 金子 純 〃	電 気・ 地 震	
〃	福島県耶麻郡加納村(与内畑鉱山)	飯田 波事 金井 光明 〃	電 気	
地 下 水	宮城県仙台市川内区域	佐藤光之助 金子 純 〃	〃	
石 炭	福岡県大牟田市沖(三池炭田)	早川 正巳 立石 哲夫 他5名	地 震	受 託
〃	京都府舞鶴市吉坂(松尾寺炭礦)	九里 尙一 中林 一孝 他1名	電 気	
〃	福岡県小倉市北方海上(小倉炭田)	金子 徹一 他4名	地 震	
〃	山口県宇部市南方海上(宇部炭田)	飯田 波事 白土 忠 他3名	〃	
重 炭	群馬県多野郡美土里村	岩崎 章二 室住 正義 他2名	電 気	
石 油	新潟県 ^中 蒲原郡	村上 義朗 片寄 邦之 他1名	重 力	
〃	秋田県由利郡金浦町附近	栗原 重利 他5名	地 震	
〃	山形県飽海郡南平田村橋橋附近	下河原達哉	地 化学	
〃	秋田県南秋田郡脇本村および拂戸村	村上 義朗 片寄 邦之 他1名	電 力	
ガ ス	神奈川県川崎市	藤原 健一 下河原達哉	地 化学	

(1948年度)

種 別	調 査 地	担 当 者	方 法	備 考
銅・磁鉄鉱	山口県美禰郡於福村(福重鉱山)	岩崎 章二 他2名	電 気・ 磁 気	
黒 鉛	北海道十勝国広尾郡広尾町字音調津 (音調津鉱山)	佐藤光之助 柴藤 喜平 〃	〃	
含銅硫化鉄	徳島県名西郡神領村(次郎銅山)	室住 正義 〃	〃	
黒 鉛	富山県上新川郡大山村(千野谷鉱山)	加來 一郎 〃	電 気	
黒 鉛	北海道後志国岩内郡小沢村(国富鉱山)	金子 純 柴藤 喜平 他2名	〃	
〃	福島県大沼郡横田村(横田鉱山)	室住 正義 〃	〃	

種 別	調 査 地	担 当 者	方 法	備 考
黒 鉛	福島県南会津郡伊北村(黒沢鉦山) 朝日村	室住 正義 他2名	電 氣	
地 下 水	鳥取県日野郡溝口町榊水原	佐藤光之助, 金井光明, 陶山淳治 他1名	〃	
石 炭	山口県宇部市南西海面(宇部炭田)	飯田 汲事 他4名	地 震	
〃	福岡県小倉市北方海面	白土 忠 〃	〃	
亜 炭	愛知県西加茂郡挙母町附近 (愛知炭田挙母地区)	金子 徹一 〃	電 氣	
〃	岐阜県惠那郡落合村(落合炭礦)	佐藤光之助 他2名	〃	
石 炭	北海道夕張市南方沼ノ沢一清水沢間	金子 純 他1名	〃	受 託
〃	福岡県遠賀郡芦屋沖北方海面	早川 正巳 他3名	地 震	
〃	北海道宮地郡瀧川町(石狩炭田)	立石 哲夫 他4名	〃	
〃	北海道宮地郡瀧川町(石狩炭田)	金子 徹一 他4名	〃	
亜 炭	岐阜県土岐郡瑞浪炭礦附近 (土岐炭田瑞浪地区)	早川 正巳 他3名	電 氣	
天然ガス	静岡県志太郡東益津村	柴藤 喜平 他2名	地 化学	
石 油	山形県飽海郡東平田村	下河原達哉	放射能	受 託
〃	新潟県西蒲原郡内野地方町村	岩崎 章二 他2名	重 力	〃
〃	秋田県由利郡小出村 他2村	村上 義朗 他3名	地 震	〃
天然ガス	静岡県清水市庵原, 飯田, 高部, 有度, 有度 村	飯田 汲事 他4名	地 化学	〃
石 油	〃 榛原郡勝間田村	藤原 健一 他1名	〃	〃
天然ガス	〃 志太郡焼津町	下河原達哉 〃 〃 他1名	放射能	〃
		岩崎 章二 他2名		

(1949年度)

種 別	調 査 地	担 当 者	方 法	備 考
黒 鉛	富山県上新川郡大山村(千野谷鉦山)	加來 一郎	電 氣	受 託
硫 化 鉄	青森県下北郡川内町(大揚鉦山)	室住 正義 他2名	〃	
銅・磁鉄鉦	福島県相馬郡石神村(高ノ倉鉦山) 飯曾村	佐藤光之助, 陶山淳治, 金井光明 他1名	電 氣・ 電 磁	
硫 黄	山形県南置賜郡南原村(西吾妻鉦山)	九里 尙一 他1名	電 氣	
〃	〃 南村山郡中川村(藏王鉦山)	柴藤 喜平 〃	〃	
硫 化 鉄	栃木県塩谷郡三依村(越路鉦山)	佐藤光之助 〃	〃	
含銅硫化鉄	愛媛県宇摩郡別子山村附近(別子鉦山)	金子 純 〃	電 氣・ 電 磁	
〃	三重県南牟婁郡入鹿村(紀州鉦山)	片寄 邦之 〃	〃	
〃	和歌山県東牟婁郡色川村(妙法鉦山)	陶山 淳治 〃	〃	
稀元素鉦物	山口県玖河郡柳井町	九里 尙一 他3名	〃	
石 炭	長崎県西彼杵郡崎戸町西方海上 (崎戸炭礦)	金子 徹一 他2名	電 氣	
〃	山口県宇部市南方海上(宇部炭田)	九里 尙一 他1名	放射能	
		岩崎 章二 他5名	地 震	
		早川 正巳 他4名	〃	
		森 喜義 他4名		
		栗原 重利 他4名		

種 別	調 査 地	担 当 者	方 法	備 考
石 炭	福岡県嘉穂郡穂波村(忠隈炭礦)	栗原 重利 他 5 名	地 震	受 託
天然ガス	大阪市附近	藤原 健一 下河原達哉	地 化 学	
〃	静岡県志太郡焼津町	岩崎 章二 他 2 名	放 射 能	受 託
石 油	新潟県北蒲原郡長浦村, 神山村, 笹岡村	飯田 汲事 他 4 名 蛸川 親治	地 震	〃
〃	〃 三島郡西越村	飯田汲事, 早川正巳 村岡 秀記 他 4 名	〃	〃
〃	〃 高田市外および 中野城郡津有村外 11 カ町村	村上 義朗 松田 武雄 他 2 名	重 力	〃
天然ガス	千葉県長生郡茂原町	岩崎 章二 〃	放 射 能	〃
石 油	富山県富山市寺町附近	立石 哲夫 他 5 名	地 震	
天然ガス	熊本県飽託郡奥古閑他数カ村	下河原達哉	地 化 学	
石 油	埼玉県児玉郡 群馬県多ノ郡	村上 義朗 片寄 邦之 他 7 名	重 力	
天然ガス	島根県簸川郡 直江, 伊波野, 久木 出東, 川跡村 栃木県今市町および日光町	下河原達哉 飯田汲事, 早川正巳 片寄邦之	地 化 学 重 力	

昭和 21 年度 物 理 探 鉱 調 査 概 要

調査地 福島県石城郡小名浜町附近 (Cs. 46.01)
 鉱山名
 種 別 石炭
 方 法 地震
 担当者 栗原重利 他 5 名
 期 間 22 年 3 月～5 月
 成果概要 主要層は泉村泉町の西方と泉村瀧尻の東方において最も隆起し、小名浜町附近において最も沈降していることを探知した。

調査地 福島県石城郡上遠野村附近 (Cs. 46.02)
 鉱山名
 種 別 石炭
 方 法 地震
 担当者 金子徹一 他 4 名
 期 間 22 年 2 月～3 月
 成果概要 夾炭層をなす第三紀層とその下部をなす先第三紀層(角閃岩)との境界を追跡して炭層の深さを決定した。

昭和 22 年度 物 理 探 鉱 調 査 概 要

調査地 岩手県気仙郡矢作村 (Me. 47.01)
 鉱山名 太子鉱山
 種 別 金, 重石, 黒鉛
 方 法 電気
 担当者 佐藤光之助 金子純 他 2 名
 期 間 22 年 7 月
 成果概要 新鉱床および露頭に続く鉱床潜在部を探知した。

担当者 室住正義 金井光明 他 2 名
 期 間 22 年 7 月～8 月
 成果概要 余り顕著な結果は得られなかつたが、白土鉱床の南の鉱体の南東方約 90m, 120m 附近に潜在鉱床を推定しうる示徴を得て試験地点を選定した。

調査地 岩手県和賀郡湯田村 (Me. 47.02)
 鉱山名 土畑鉱山
 種 別 黒鉛
 方 法 電気

調査地 岩手県気仙郡世田米町 (Me. 47.03)
 鉱山名 天風鉱山
 種 別 黒鉛
 方 法 電気
 担当者 佐藤光之助 金子純 他 2 名
 期 間 22 年 8 月

成果概要 新鉱床および露頭に続く鉱床潜在部を探知した。

調査地 岩手県気仙郡世田米町 (Me. 47. 04)

鉱山名 竹ノ原鉱山

種別 黒鉛

方法 電気

担当者 佐藤光之助 金子純 他2名

期間 22年8月

成果概要 新鉱床および露頭に続く鉱床潜在部を探知した。

調査地 岩手県気仙郡立根村 (Me. 47. 05)

鉱山名 日向鉱山

種別 含金石英脈

方法 電気

担当者 佐藤光之助 金子純 他2名

期間 22年8月～9月

成果概要 含金石英脈を探知した。

調査地 秋田県鹿角郡七瀬村 (Me. 47. 06)

鉱山名 鉛山鉱山

種別 黒鉛

方法 電気

担当者 室住正義 金井光明 他2名

期間 22年8月～9月

成果概要 東亜坑の鉱床によるものと考えられる示徴および第2号坑の北東方鑑先約200m附近浅所に異常物質の存在を推定した。これらに対して探鉱のため適当な地点を選定した。

調査地 和歌山県東牟婁郡色川村 (Me. 47. 07)

鉱山名 妙法鉱山

種別 銅

方法 電気

担当者 九里尙一 他1名

期間 22年8月

成果概要 自然電位は既知鉱床上においては -50mV 程度である。南方に延長した探査地区において -350mV の負中心を得た。試錐および探鉱坑道を掘り進め地下30m～60mに銅品位10%以上、脈巾2m以上の新鉱床(相吉錐)を発見した。小坂地区においては著しい示徴を認めない。和加地区、坂足地区においては自然電位の示徴は著しい鉱床の

潜在を認知した、低抵抗地帯と負電位地帯とは対応する。

調査地 北海道岩内郡小沢村 (Me. 47. 08)

鉱山名 国富鉱山

種別 黒鉛

方法 電気

担当者 加来一郎 他1名

期間 22年9月

成果概要 葡萄ヶ丘において新鉱床賦存を推定した。

調査地 秋田県鹿角郡小坂町 (Me. 47. 09)

鉱山名 相内鉱山

種別 黒鉛

方法 電気

担当者 飯田汲事 金井光明 他2名

期間 22年9月～10月

成果概要 湯ノ沢地区において自法電位法により著しい負中心の存在を認めたので、さらに比抵抗法を実施して鉱床潜在の可能な区域を推定した。

調査地 秋田県北秋田郡花岡町 (Me. s. 47. 10)

鉱山名 花岡鉱山

種別 黒鉛

方法 地震、電気

担当者 佐藤光之助 金子純 他2名

期間 22年10月～12月

成果概要 電気探鉱法により姥沢地区に鉱床潜在を推定した。地震探鉱法により地下構造を明らかにしかつ波動伝播異常区域を推定した。

調査地 福島県耶麻郡加納村 (Me. 47. 11)

鉱山名 与内畑鉱山

種別 黒鉛

方法 電気

担当者 飯田汲事 金井光明 他2名

期間 22年10月～11月

成果概要 調査の結果、電位、比抵抗の変化は何れも小さく、また鉱床の潜在を推定する資料も充分ではないが、第1、第2、第4区域においてはそれぞれ若干小異常も認められるので、鉱体の潜在を確認するためにはさらに精査して探鉱することが必要である。

調査地 宮城県仙台市川内区域 (Ee. 47.01)
鉱山名
種別 地下水
方法 電気
担当者 佐藤光之助 金子純 他2名
期間 22年7月~8月
成果概要 第三紀層中の帯水層の構造は略々水平に分布し、浅所のものとしては地表下40~50m附近に存在する。

調査地 福岡県大牟田市 (Cs. 47.01)
鉱山名 三池炭田
種別 石炭
方法 地震
担当者 早川正巳 立石哲夫 他5名
期間 22年5月~9月
成果概要 海底下に潜在している夾炭層(第三紀層)の賦存状態を明らかにした。特に夾炭層は北東区域にて浅く西南に移るに従って深くなる傾向を有し、その間に断層、隆起構造をも伴うことを推定した。一部は既にボーリングによりその真なることが認められた。

調査地 京都府舞鶴市宇吉坂 (Ce. 47.02)
鉱山名 松尾寺炭礦
種別 石炭
方法 電気
担当者 九里尙一 中林一孝 他1名
期間 22年6月~7月
成果概要 地質は三疊紀に属する砂岩、頁岩の互層よりなり、炭質は灰分多くほとんど粉炭であり、半瀝青炭に属する。自然電流法の結果は電位変化は極めて微少であり、最大電位差も60mVに過ぎないが、炭層露頭部および断層破碎帯に僅少なながら低電位帯を認めうる。なお各種の比抵抗同深法および抵抗傾度法は何れも略々同一の結果を示し、高抵抗部に挟まれた低抵抗部が炭層の位置を示し、これを追跡することにより炭層の水平的分布状況の概要を察知することができた。

調査地 福岡県小倉市北方海面 (Cs. 47.03)
鉱山名
種別 石炭
方法 地震

担当者 金子徹一 他4名
期間 22年7月~10月
成果概要 小倉市北方海底下に地質学的に推定された炭田の存在を明らかにし、その構造の概略を決定した。

調査地 山口県宇部市南方海上 (Cs. 47.04)
鉱山名 宇部炭田
種別 石炭
方法 地震
担当者 飯田汲事 白土忠 他3名
期間 22年10月~12月
成果概要 本炭田の基盤である古生層の形態、深度を決定することができ、第三紀夾炭層の賦存状態を推定した。基盤の深度は二百数十m乃至300mで、その上に各百数十m内外の第四紀層と第三紀層との存在を確認した。なお大きな断層の位置およびその附近に低速度地帯の存在を発見した。

調査地 群馬県多野郡美土里村 (Ce. 47.05)
鉱山名
種別 亜炭
方法 電気
担当者 岩崎章二 室住正義 他2名
期間 22年3月
成果概要 第三紀層迄の深さが40~60mなることおよび第三紀層はN50°Eの方向には北に20°内外の傾斜を有ち、西方八幡村山地におけると略々同様な地質構造であると推定した。夾炭層の構造に関しては試錐実施の上判定することが必要であることを認め、試錐地点を選定した。

調査地 新潟県中蒲原郡および西蒲原郡(Pg. 47.01)
鉱山名
種別 石油
方法 重力
担当者 村上義朗 片寄邦之 他2名
期間 22年7月~11月
成果概要 新潟平地の等重力線を作製して地下異常構造箇所1カ所を認めた。

調査地 秋田県由利郡金浦町附近 (Ps. 47.02)

鉱山名
 種別 石油
 方法 地震
 担当者 栗原重利 他5名
 期間 22年8月～11月
 成果概要 金浦町前川と象潟町キサギ森を連ねる地域に背斜状構造が存在し、その背斜状構造は大構造とし前川部落北方に浮昇していることを認めた。

調査地 山形県飽海郡南平田村橋橋附近 (Pc.47.03)

鉱山名
 種別 石油
 方法 地化学
 担当者 下河原達哉
 期間 22年9月
 成果概要 ワックス分布図を得、地下水溶存、メタン分布図を得た。

調査地 秋田県南秋田郡脇本村および拂戸村 (Pg.47.04)

鉱山名
 種別 石油
 方法 重力
 担当者 村上義朗 片寄邦之 他1名
 期間 22年11月～12月
 成果概要 調査は充分になし得られなかつたが、調査地西部に1つの異常構造の如きものを認めた。

調査地 神奈川県川崎市 (Pc.47.05)

鉱山名
 種別 ガス
 方法 地化学
 担当者 藤原健一 下阿原達哉
 期間 22年11月～12月
 成果概要 ガス田の存在を推定した。

昭和23年度 物理探鉱調査概要

調査地 山口県美禰郡於福村 (Me.m. 48.01)
 鉱山名 福重鉱山
 種別 銅・磁鉄鉱
 方法 電気・磁気
 担当者 岩崎章二 他2名
 期間 23年4月
 成果概要 調査の結果2つの区域において著しい異常が認められた。第1の区域は現坑道附近で第2の異常はその北方約90m附近の区域である。

調査地 北海道十勝国広尾郡広尾町字音調津 (Me.m.48.02)
 鉱山名 音調津鉱山
 種別 黒鉛
 方法 電気・磁気
 担当者 佐藤光之助 柴藤喜平 他2名
 期間 23年7月～8月
 成果概要 自然電位法あるいは比抵抗法によつて3カ所の調査を行つたが、いずれも極めて明瞭な異常を認めその2カ所は坑道あるいは露天掘にて確認した。他の1カ所は未探鉱のままである。磁気探鉱法では黒鉛と共存す

る磁硫鉄鉱の分布を探鉱したが略々同一の異常区域を認めた。

調査地 徳島県名西郡神領村 (Me.m. 48.03)
 鉱山名 次郎銅山
 種別 含銅硫化鉄
 方法 電気・磁気
 担当者 室住正義 他2名
 期間 23年7月～9月
 成果概要 電気探鉱法により次郎鍾の賦存によると思われる示徴を得、今後本鍾は一坑水準あるいはその上部をさらに西方へ探鉱するの要あるを認めた。また一坑坑口の北方約70m附近で次郎鍾に略々平行な微徴を得今後探鉱の必要を認めた。磁気探鉱法では次郎鍾によると思われる明確な徴候を得た。

調査地 富山県上新川郡大山村 (Me.48.04)
 鉱山名 千野谷鉱山
 種別 黒鉛
 方法 電気
 担当者 加来一郎

期 間 23年8月～9月
成果概要 I地区において S.P. およびR法を行つた。S.P.法にて3個の負中心を求めた。その1は既知鉦床の直上に、他の2のうちの1についてR法を行い、負中心が比抵抗低き部分に該当していた。これに対して簡易試錐を行つて黒鉛鉦床の潜在を確めた。さらに鉦山側ではこの負中心に対して横坑探鉦を行い鉦床に達着した。

調査地 北海道後志国岩内郡小沢村 (Me. 48.05)
鉦山名 国富鉦山
種別 黒鉦
方法 電気
担当者 金子純 柴藤喜平 他2名
期間 23年9月～10月
成果概要 辰五郎沢、粕谷、嶋付内の3区域において自然電位法あるいは比抵抗法により調査したが、いずれも地下鉦体を推定しうる明確なる異常を認めなかつた。

調査地 福島県大沼郡横田村 (Me. 48.06)
鉦山名 横田鉦山
種別 黒鉦
方法 電気
担当者 室住正義 他2名
期間 23年9月～10月
成果概要 四十九院鉦床が北方に延びていることが推定された。また本鉦床の西北方約70m附近、浜子坑坑口の南々東約80m附近および同坑口の南西方約200m附近に鉦床賦存を推定しうる徴候を得た。その他四十九院附近では新鉦床を推定しうるまでに至らなかつたがさらに調査を行う必要があるのを認めた。

調査地 福島県南会津郡伊北村、朝日村 (Me. 48.07)
鉦山名 黒沢鉦山
種別 黒鉦
方法 電気
担当者 室住正義 他2名
期間 23年10月～11月
成果概要 自然電位法により只見郵便局附近より略々西方田ノ口沢にかけて自然電位異常帯の存在を、さらに比抵抗法によりこの地帯中に

特に低比抵抗を示す地点を認めた。これらに対して潜在鉦床が推定されるので探鉦のために試錐地点を指示した。

調査地 鳥取県日野郡溝口町榎水原 (Ee. 48.01)
鉦山名
種別 地下水
方法 電気(比抵抗法)
担当者 佐藤光之助 金井光明 陶山淳治 他1名
期間 23年10月～11月
成果概要 比抵抗の分布と地形との間に閉鎖性が見られた。これは本地域の成因からももつとものように思われるのでこれらの結果から地域一帯の地質構造を推定しこれに基づき特に低比抵抗の分布する地域の中より採水条件等の良好と考えられる地域を推定した。

調査地 山口県宇部市西南海面 (Cs. 48.01)
鉦山名 宇部炭田
種別 石炭
方法 地震
担当者 飯田汲事 白土忠 他4名
期間 23年4月～8月
成果概要 1. 本地域の夾炭層の基盤の形態および深度を推定し、その上に存在する2層(第三紀層および第四紀層)を確認し、その潜在状態ならびに各層の厚さを推定した。
2. ほぼ南北方向に走る構造線の位置およびいわゆる津布田断層帯に属する断層の位置および範囲等を推定した。
3. 以上の推定は若干の試錐結果と比較して相当よく一致していることがわかり、炭層の賦存状態を大略推定し得た。

調査地 福岡県小倉市北方海面 (Cs. 48.02)
鉦山名
種別 石炭
方法 地震
担当者 金子徹一 他4名
期間 22年7月～10月、23年6月～7月
成果概要 小倉市北方海面下は周囲の陸地の地質調査により広大なる炭層が推定された。この調査では、この地域の地質構造を明らかにすることを目的とした。この結果地層は5つの地震波速度層の群に分れ、構造は大きく

南より北に向つてゆるく傾斜している。

調査地 愛知県西加茂郡挙母町附近 (Ce. 48. 03)
鉦山名 愛知炭田挙母地区
種別 亜炭
方法 電気
担当者 佐藤光之助 金子純 他2名
期間 23年6月
成果概要 本区域の地質構造は非常に変化に富むものと推定され、挙母町宮口、本地新田等において現在稼行亜炭層が、さらに南東方に分布賦存するか否かについては明らかでなかつた。

調査地 岐阜県恵那郡落合村 (Ce. 48. 04)
鉦山名 落合炭礦
種別 亜炭
方法 電気
担当者 金子純 他1名
期間 23年7月
成果概要 現在落合炭礦、第1号坑附近に見られる夾層炭はその南西方向においては稍々上昇する傾向にあることが推定された。

調査地 北海道夕張市南方 沼ノ沢一清水沢間 (Cs. 48. 05)
鉦山名
種別 石炭
方法 地震
担当者 早川正己 立石哲夫 他3名
期間 23年7月~10月
成果概要 1. 調査区域内において全体として 2.0--2.2, 2.9, 3.5--3.8 km/sec の3速度層があることがわかつた。
2. 地質の層序にこれらに対比させれば、2.0--2.2, 2.9 km/sec は幌内頁岩層に、3.5--3.8 km/sec 層は羊齒砂岩層に対応するものと考えられる。
3. 全体の構造(上層、下層の境界面)は北に浅く、南に深くなつている。走向は大體南北である。
4. 断層状構造の存在を確認した。

調査地 福岡県遠賀郡芦屋沖北方海面 (Cs. 48. 06)
鉦山名

種別 石炭
方法 地震
担当者 金子徹一 他4名
期間 23年8月
成果概要 福岡県遠賀郡芦屋沖北方海面の海底は河口地域の地質調査により炭層の存在が推定されている。本調査は河口海上長さ 4.4km の測線をとつた。測定の結果地震波速度は 1.6, 2.54, 2.7, 3.0 km/sec でその差異は小さく、地層の層序学的分類と速度による分類との対比はむずかしかつた。

調査地 北海道空知郡瀧川町 (Cs. 48. 07)
鉦山名 石狩炭田
種別 石炭
方法 地震
担当者 早川正己 立石哲夫 他4名
期間 23年11月
成果概要 1. 調査区域内において全体として浅部より深部に向い 1.7, 2.5, 3.5 km/sec の3層あることがわかつた。
2. 地質の層序にこれらに対比させれば
1.7km/sec ……第四紀層 } に相当する
2.5 // ……瀧川層 } ものと思わ
3.5 // ……石狩層 } れる。
3. 幌倉、空知大橋間略々中央に向斜らしきものが認められた。

調査地 岐阜県土岐郡瑞浪炭礦附近 (Ce. 48. 08)
鉦山名 土岐炭田瑞浪地区
種別 亜炭
方法 電気
担当者 柴藤喜平 他2名
期間 24年1月~2月
成果概要 北東より南西に走る断層の所在を推定し、断層の北西方向区域における亜炭層賦存状態を推定した。

調査地 静岡県志太郡東益津村 (Pc. 48. 01)
鉦山名
種別 天然ガス
方法 地化学
担当者 下河原達哉
期間 23年5月
成果概要 断層線と考えられる場所に線状の露頭を得

た。他にも露頭があるがその原因は不明である。地下水法が実用可能であることがわかった。

調査地 山形県飽海郡東平田村 (Pr. 48. 02)
鉱山名
種別 石油
方法 放射能
担当者 岩崎章二 他2名
期間 23年8月~10月
成果概要 断層探知により石油鉱床調査を目的として放射能探鉱を実施した結果地域東部に北西-南東方向に一連の放射能大なる地帯が認められたが、これは恐らく断層を示すものではないかと思われる。なおその西方にも放射能大なる部分が存在するがその連続状態が明瞭でなく確言はできない。

調査地 新潟県西蒲原郡内野地方町村 (Pg. 48. 03)
鉱山名
種別 石油
方法 重力
担当者 村上義朗 片寄邦之 他3名
期間 23年8月~11月
成果概要 等重力線図の傾向を明らかにした。昨年度の結果と合して考えると新潟平地の中ノ口川の稍々西附近が重力値が最低になり、それより東および西に向い重力値を増加する。2, 3 稍々重力異常の如きものを感じるが、これを云々するには少し測点数が不充份で油田鉱床に関係あるか、単なる構造線なるかを明らかにし得られない。

調査地 秋田県由利郡小出村他2村 (Ps. 48. 04)
鉱山名 仁賀保油田
種別 石油
方法 地震
担当者 飯田波事 栗原重利 他4名

期間 23年8月~12月
成果概要 1. 本域の地下構造には地域の中央部を最低部としている大きな盆地状の構造がある。
2. 本地域の西部の地下構造は西に向い次第に浮昇している。
3. 中央部よと南西の方向に向い一つの背斜的の構造がある。

調査地 静岡県清水市^{庵原、飯田、高部}_{有度、有度、村}
(Pc. 48. 05)

鉱山名
種別 天然ガス
方法 地化学探鉱
担当者 藤原健一 下河原達哉
期間 23年11月~12月
成果概要 断層の延長と考えられる地域に優勢なガス徴が続いていてその開発有望範囲を推定できた。

調査地 静岡県榛原郡勝間田村 (Pc. 48. 06)

鉱山名
種別 石油
方法 地化学
担当者 藤原健一 下河原達哉 他1名
期間 24年2月~3月
成果概要 顕著な徴ガス露頭は見付からなかつた。一応の徴々露頭の分布図および地質図が得られた。

調査地 静岡県志太郡焼津町 (Pr. 48. 07)

鉱山名
種別 天然ガス
方法 放射能
担当者 岩崎章二 他2名
期間 24年2月~3月
成果概要 朝比奈川に沿つて大なる異常地帯が認められ、断層の存在が想像されるが、なおさらに調査の必要が認められる。

昭和24年度 物理探鉱調査概要

調査地 富山県上新川郡大山村 (Me. 49. 01)
鉱山名 千野谷鉱山
種別 黒鉛
方法 電気

担当者 加來一郎
期間 24年4月~5月
成果概要 II, III 地区において自然電位法により数個の負中心を求めた。これらの負中心は比抵

抗の結果比抵抗低き部分に該当していた。前年度の事例に鑑み黒鉛鉱床の潜在を予想した。今回求めたⅢ地区の 2, 3 の負中心について鉱山では溝掘探鉱を行い鉱床の潜在を確めた。

調査地 青森県下北郡川内町 (Me. 49. 02)
鉱山名 大揚鉱山
種別 硫化鉄
方法 電気
担当者 室住正義 他 2 名
期間 24 年 5, 6 月および 11 月
成果概要 自然電位法により築紫森山頂部に -1, 200 mV に達する負中心を見出した。その等電位線は地形の等高線と極めて似ている。この部に鉱体を期待しうるや否やはさらに検討を要する。自然電位法と比抵抗法との併用により築紫森鉱床の北方約 100m 附近に潜在鉱床を推定し、その後坑道探鉱により着鉱した。また試錐も行われたが新鉱床を発見するに至らなかつた。その他数カ所に微な徴候を得た。

調査地 福島県相馬郡石神村および飯曾村 (Me. m. 49. 03)
鉱山名 高ノ倉鉱山
種別 銅, 磁鉄鉱
方法 電気, 磁気
担当者 佐藤光之助 陶山淳治 金井光明 他 1 名
期間 24 年 5, 6 月および 25 年 3 月
成果概要 磁気探鉱調査の結果一つの比較的規模の大きい異常の外, 数個の小規模な異常を見出した。これらは直ちに探掘が行われたが, 第 2 回目の調査では後者の異常は消滅し。前者のみしか認められなかつた。これは探掘により変化したものと考えている。探掘によりほとんど影響を受けていない比較的規模の大きい異常についてさらに電気探鉱により鉱床賦存の状態を明らかにした。

調査地 山形県南置賜郡南原村 (Me. 49. 04)
鉱山名 西吾妻鉱山
種別 硫黄
方法 電気
担当者 九里尙一 柴藤喜平 他 1 名

期間 24 年 8 月~9 月
成果概要 既知鉱床の分布に一致して負中心地帯および高比抵抗地帯の分布を得た。負中心の最大 350mV に達する顕著な示徴は未知鉱体によるものと思われ, 目下試錐中である。また坑内および坑井を利用する測定を行い, 鉱床との関連性を考究した。坑内水は強硫酸酸性にて p. H. 1. 4~2 である。

調査地 山形県南村山郡中川村 (Me. 49. 05)
鉱山名 藏王鉱山
種別 硫黄
方法 電気
担当者 佐藤光之助 金子純 他 1 名
期間 24 年 9 月~10 月
成果概要 現在稼行中の鉱床からさらに藏王川上流において鉱床賦存可能な個所を推定し, また元探鉱事務所裏手附近においても鉱床潜在の未徴を認め, これらを試錐候補地とした。

調査地 栃木県塩谷郡三依村 (Me. 49. 06)
鉱山名 越路鉱山
種別 硫化鉄
方法 電気
担当者 柴藤喜平 他 1 名
期間 24 年 10 月
成果概要 負異常の現われた珪鉄体全域の中, 特に比抵抗法によつて高比抵抗を示す珪鉄体の分布に注意し, 鉱体に起因すると考えられる異常区域を見出し, その区域に試錐地点を指示したが, 実施の結果いずれも着鉱した。

調査地 愛媛県宇摩郡別子山村附近 (Me. m. 49. 07)
鉱山名 別子鉱山
種別 含銅硫化鉄
方法 電気・磁気
担当者 片寄邦之 陶山淳治 他 1 名
期間 24 年 11 月
成果概要 東延, 筏津, 積善の 3 地区を自然電位法, 比抵抗法および磁気探鉱法によつて調査した。東延, 筏津の 2 地区では自然電位法で -600mV に達する負電位の分布する地帯を見出した。これらの負電位分布および比抵抗法の結果と鉱床あるいは地質構造との関連性については現段階では結論し得な

い。磁気探鉱法では潜在鉄床賦存を予想しうるような結果は得られなかつた。これらは昭和 25 年度においてさらに調査を進めている。積善地区では各法とも注目すべき結果を得られなかつた。

調査地 三重県南牟婁郡入鹿村 (Me. s. 49.08)
鉱山名 紀州鉱山
種別 含銅硫化鉄
方法 電気、地震
担当者 九里尙一 金子徹一 他 3 名
期間 25 年 3 月
成果概要 石英粗面岩の噴出形態を決定するため、三浦坑附近において地震探鉱の予備調査を実施して各層の速度を求めた。また電気比抵抗法を実施して石英粗面岩の深さを推定した。

調査地 和歌山県東牟婁郡色川村 (Me. 49.09)
鉱山名 妙法鉱山
種別 含銅硫化鉄
方法 電気
担当者 九里尙一 他 2 名
期間 25 年 3 月
成果概要 昭和 22 年負中心を発見し、これにより新らしく開発された椋寺坑内において測定を行つた。また最近発見された負中心の地点において比抵抗法を実施し、石英粗面岩の厚さを推定し、地質調査の結果と比較検討し地質構造を明らかにした。

調査地 山口県玖珂郡柳井町 (Mr. 49.10)
鉱山名
種別 稀元素鉱物
方法 ガイガー、ミューラー計数管による放射能探鉱法
担当者 岩崎章二 他 1 名
期間 25 年 3 月
成果概要 強放射能鉱物 (ウラン鉱物) 露頭上において約 5N (N は自然計数約 40/分) ベグマタイト上にて約 2N、黒雲母花崗岩にて約 N の値を得た。なお実験室にて鉱石標本についての測定によれば同一計数管を用いてコルンブ石約 200/分、河辺石 (京都産) 約 80/分、対しこの地の鉱石は約 50/分の値を示した。

調査地 長崎県西彼杵郡崎戸町西方海上 (Cs. 49.01)
鉱山名 崎戸炭礦
種別 石炭
方法 地震
担当者 早川正己 森喜義 他 5 名
期間 24 年 4 月~7 月
成果概要 1. 走時曲線解析の結果この地域は 1.65, 2.7~3.2, 4.3~5.3km/sec 層のあることを知つた。
2. かつこれらを地質層序に対応させる時はそれぞれ第四紀層、第三紀層、および基盤 (花崗岩) に当ることが分つた。
3. 花崗岩と第三紀層の境界は北西一東南方向になつており、第三紀層の部分は北程深くなつている。

調査地 山口県宇部市南方海上 (Cs. 49.02)
鉱山名 宇部炭田
種別 石炭
方法 地震
担当者 栗原重利 他 4 名
期間 24 年 6 月~9 月
成果概要 1. 調査海域では平均 300m の深さに基盤がある。炭層はこの基盤の上部 60m 以上の処にある。
2. 宇部港の南西 6.5km の地点が基盤の最も深い夾炭層の比較的厚い地域である。
3. 基盤は北と東の方向に行く程浅い。
4. 宇部港の南 5km の処を東西に走る津布田断層群がある。

調査地 福岡県嘉穂郡徳波村 (Cs. 49.03)
鉱山名 忠隈炭礦
種別 石炭
方法 地震
担当者 栗原重利 他 5 名
期間 25 年 3 月
成果概要 1. 調査地域の東部の漆生線に沿ひ花崗岩と第三系の大きな断層が存在した。
2. この断層の南半の西側には、さらに階段状の基盤の構造が認められた。
3. これにより、この地域にもこの階段状の上部に、西半の地域と同様に大焼層以上の各炭層が存在することが推定された。

調査地 大阪市附近 (Pc. 49. 01)
鉱山名
種別 天然ガス
方法 地化学
担当者 下河原達哉
期間 24年5月~6月
成果概要 鉱床として有望な地域を推定することができた。なおこの調査には新しい器械と方法を用いた。すなわち水中溶存メタン量を現場で迅速簡便に定量できる携帯用の小型器械を案出試作して用い、地下水法ガス調査法を直接地層水に応用した。かつ地質構造や地層水の化学分析値をも考察してガス鉱床の構成を概念的に推察した。

調査地 静岡県志太郡焼津町 (Pr. 49. 02)
鉱山名
種別 天然ガス
方法 放射能 (アンブロン, ラドン計)
担当者 岩崎章二 他2名
期間 24年6月~8月
成果概要 ラドン濃度異常より高草山西辺を通り、朝比奈川と略々平行な断層と、これに交わり瀬戸川に沿う断層ならびに高草山東辺を過る北東一南西の断層が推定された。

調査地 新潟県北蒲原郡長浦村, 神山村, 笹岡村 (Ps. 49. 03)
鉱山名
種別 石油
方法 地震
担当者 飯田汲事 蛭川親治 他4名
期間 24年7月~8月
成果概要 弾性上4種の地層を確認し、水原地方冲積平原下における油田地下構造を明らかにした。すなわち主要含油層である推谷層, 寺泊層等を包含する地層は一般に東方より西方に向つて10~20度の傾斜をなして下降しているが測線の途中において若干の高まりが見られるに至つた。これらの高まりはあるいは油田の背斜または潜丘的構造と関係があるかどうかは不明であるが今後の調査によつて確める必要があると考えられる。

調査地 新潟県三島郡西越村 (Ps. 49. 04)

鉱山名 別山油田
種別 石油
方法 地震
担当者 飯田汲事 早川正己 村岡秀記 他4名
期間 24年8月~9月
成果概要 常楽寺部落附近の断層(地質学的に分つている)の地下における傾斜, 小木部落附近の浅部における地層の状態等を明らかにし別山地域における油田の地下構造の推定を行つた。ただし小木部落の深(千数百m以深)の構造あるいは稻川西方地域の地下地層状態をより明らかにするためにはさらに測線の延長, 増加等を要するものの如く, 今後の調査に俟つところが多い。因みに当地域においては輸入器械により明瞭な反射記録を得今後の探査方針の樹立に役立つた。

調査地 新潟県高田市外および中頸城郡津有村外11町村 (Pg. 49. 05)
鉱山名
種別 石油
方法 重力
担当者 村上義朗 松田武雄 他2名
期間 24年10月~12月
成果概要 1,170点の重力測定を行い、三郷村西松野木附近に著しい正の重力異常を発見した。なお本区域の北部に当る新道村, 富田附近にも重力異常が認められている。

調査地 千葉県長生郡茂原町 (Pr. 49. 06)
鉱山名
種別 天然ガス
方法 アンブロン, ラドン計およびIM泉効計による放射能探鉱
担当者 岩崎章二 他2名
期間 24年10月~12月
成果概要 ラドン濃度異常分布を追跡して天然ガス開発上重要な役割を果たす二つの既知断層の延長と覚しき地域を推定した。

調査地 富山県富山市寺町附近 (Ps. 49. 07)
鉱山名
種別 石油
方法 地震
担当者 立石哲夫 他5名

期 間 24年11月～12月
成果概要 1. 地層の走向が略々北西—南東に走るものと推定された。
2. 地下約200m附近に台地状の構造が推定された。

調査地 熊本県飽託郡奥古閑他数カ村 (Pc. 49. 08)
鉱山名
種 別 天然ガス
方 法 地化学
担当者 下河原達哉
期 間 24年12月
成果概要 詳細な地化学探鉱結果図が得られた。それらによつて大体の鉱床の位置、規模等がわかつたが規模が甚だ小さく大半は既に伏流水で破壊されガス質も劣悪であつた。

調査地 埼玉県児玉郡, 群馬県多野郡 (Pg. 49. 09)
鉱山名
種 別 石油
方 法 重力
担当者 村上義朗 片寄邦之 他1名
期 間 25年2月～3月
成果概要 1. 重力の分布状況を概略知り得た。

2. ある假定に基づき計算すると生野山南方に1小潜丘が存在するようである。

調査地 島根県簸川郡直江, 伊波野, 久木, 出東, 川跡村 (Pc. 49. 10)

鉱山名
種 別 天然ガス
方 法 地化学
担当者 下河原達哉
期 間 25年3月
成果概要 詳細な地化学探査の結果図が得られた。それらによつて大体の鉱床の位置や規模が推定できるが, あまり規模が大きくなりなくガス質も悪い。

調査地 栃木県今市町および日光町 (Gg. 49. 01)
鉱山名
種 別
方 法 重力計法
担当者 飯田波事 早川正己 片寄邦之
期 間 24年12月, 25年3月
成果概要 地震後3ヵ月間に今市, 日光間の重力差が約0.2mg/l 変化したことがわかつた。

The Geological Survey of Japan has published in the past several kinds of reports such as the Memoirs, the Bulletin, and the Reports of the Geological Survey.

Hereafter all reports will be published exclusively in the Reports of the Geological Survey of Japan. The currently published Report will be consecutive with the numbers of the Report of the Imperial Geological Survey of Japan hitherto published. As a general rule each issue of the Report will have one number, and for convenience's sake, the following classification according to the field of interest will be indicated on each Report.

- A. Geology & allied sciences
 - a. Geology.
 - b. Petrology and Mineralogy.
 - c. Palaeontology.
 - d. Volcanology and Hotspring.
 - e. Geophysics.
 - f. Geochemistry.
- B. Applied geology
 - a. Ore deposits.
 - b. Coal.
 - c. Petroleum and Natural Gas.
 - d. Underground water.
 - e. Agricultural geology.
Engineering geology.
 - f. Physical prospecting.
Chemical prospecting & Boring.
- C. Miscellaneous
- D. Annual Report of Progress

Note: Besides the regularly printed Reports, the Geological Survey is newly going to circulate "Bulletin of the Geological Survey of Japan." which will be published monthly commencing in July 1950

本所刊行の報文類の種目には従来地質要報 地質調査所報告等があつたが今後はすべて刊行する報文は地質調査所報告に改めることとし、その番號は従来地質調査所報告を追つて附けることにする、そして報告は一報文につき報告1冊を原則とし、その分類の便宜の爲に次の如くアルファベットによる略號を附けることにする。

- A 地質及びその基礎科學に關するもの
 - a. 地質
 - b. 岩石、鉱物
 - c. 古生物
 - d. 火山、温泉
 - e. 地球物理
 - f. 地球化學
- B 應用地質に關するもの
 - a. 鉱床
 - b. 石炭
 - c. 石油、天然瓦斯
 - d. 地下水
 - e. 農林地質、土木地質
 - f. 物理探礦、化學探鉱及び試錐
- C その他
- D 事業報告

なお刊行する報文以外に當分の間報文を謄寫して配布したものに地下資源調査所速報があつたが今後は地質調査所月報として第1号より刊行する。

昭和 26 年 12 月 20 日印刷

昭和 26 年 12 月 25 日発行

著作権所有

工業技術廳
地質調査所

印刷者 田 中 春 美

印刷所 田中幸和堂印刷所
東京都台東区東黒門町三番地

REPORT No. 144

GEOLOGICAL SURVEY OF JAPAN

Tomofusa Mitsuchi, Director

ANNUAL REPORT OF PROGRESS

(1947 — 1949)

GEOLOGICAL SURVEY OF JAPAN

Hisamoto-cho, Kawasaki-shi, Japan

1 9 5 1